労働政策研究報告書　2004
Ｎｏ.６

移行の危機にある若者の実像

― 無業・フリーターの若者へのインタビュー調査（中間報告）―

独立行政法人　労働政策研究・研修機構
The Japan Institute for Labour Policy and Training

は　じ　め　に

若者たちを失業させることなく、学校から職業生活へスムーズに移行させることは、労働政策の上でも主要な課題の一つといえる。我が国はこれまで、若者のスムーズな移行を支えるシステムを持つ国として国際的にも評価されてきたが、近年では、若年失業率は他の先進諸国並に上昇し、若年者の雇用対策が緊急の課題となってきている。

多くの欧米諸国では、これまで様々な若年者雇用対策を試みてきた。日本労働研究機構(現・労働政策研究・研修機構)では2002年から「若者政策比較研究会」を設け、イギリス、スウェーデン、ドイツ、およびアメリカにおける若者就業支援政策について検討し、わが国の今後の政策への示唆をさぐってきた。

有効な対応策をとるためには、一方で、わが国の若者の現状についての実態分析が不可欠である。「フリーター」については、当研究所でも1999年から別途研究会を立ち上げて実態調査をしてきた。しかし、近年では、就業への意欲が低い層の増加も指摘されおり、「フリーター」だけでなく、広く若者の職業への移行プロセスの問題を捉える必要が出てきいている。

そこで、「若者政策比較研究会」では、国際比較調査から得られた知見、すなわち、労働市場や学校との関係ばかりでなく、家庭や社会との関係まで含めて、ホリステックに移行問題を捉えるという視点から、現在のわが国で、職業生活への移行の困難に直面している若者の実態を明らかするために、個人ヒアリング調査に取り組むことにした。調査はいまだ途中段階であるが、2003年度の調査・分析の結果として、本報告書を取りまとめた。

本報告書が、若年者の就業問題に関心をお持ちの方々のご参考となれば幸いである。

また、ヒアリング調査に応じてくださった若い方々と、さらに、調査チームと彼らを引き合わすためにご尽力いただいた多くの方々に、この場を借りて御礼申し上げたい。

なお、本報告書の取りまとめは、小杉礼子(人材育成研究担当・副統括研究員)、堀有喜衣(人材育成研究担当・研究員)があたった。

2004 年 5 月

独立行政法人労働政策研究・研修機構
理事長　　小　　野　　旭

執筆担当者(執筆順)

小杉　礼子（こすぎ　れいこ）	労働政策研究・研修機構副統括研究員	序章　第１章　終章
堀　有喜衣（ほり　ゆきえ）	労働政策研究・研修機構研究員	第２章
長須　正明（ながす　まさあき）	川崎市立看護短期大学教授	第３章
宮本みち子（みやもとみちこ）	千葉大学教授	第４章
沖田　敏恵（おきた　としえ）	同志社大学非常勤講師	第５章

「若者政策比較研究会」委員一覧　(五十音順)

Hugh Whittaker	同志社大学教授
沖田　敏恵	同志社大学非常勤講師
小杉　礼子	労働政策研究・研修機構副統括研究員
長須　正明	川崎市立看護短期大学教授
堀　有喜衣	労働政策研究・研修機構研究員
宮本みち子	千葉大学教授

(所属は2004年3月)

目　次

はじめに

序章　調査研究の概要 …… 1
１．問題の所在 …… 1
２．調査の概要 …… 3
３．結果の概要と見えてきたこと―政策的インプリケーション …… 4

第１章　職業生活への移行プロセスと障害 …… 11
１．はじめに …… 11
２．学校斡旋・新卒採用プロセスからの逸脱 …… 11
2.1　高校非進学 …… 11
2.2　高校中途退学 …… 13
2.3　高等教育段階での中途退学 …… 16
2.4　就職活動をしない …… 20
2.5　小括 …… 25
３．学卒時の斡旋不成立 …… 26
3.1　就職できなかった高校生 …… 26
3.2　就職できなかった高等教育卒業者 …… 29
3.3　小括 …… 34
４．早期離職 …… 35
4.1　高校卒業者の早期離職 …… 35
4.2　高等教育卒業者の早期離職 …… 40
4.3　小括 …… 44
５．離学後、離職後の労働市場と意識 …… 44
5.1　正社員の就業機会の限定 …… 44
5.2　アルバイト・非正社員の利点 …… 46
5.3　将来のキャリア、他の活動とアルバイト …… 49
5.4　正社員への意識と意欲 …… 51
5.5　小括 …… 53
６．まとめ …… 53

第２章 学校という包括的移行支援機関 …… 58
１．はじめに …… 58
２．高校卒業者・高校中退者にとっての学校 …… 59
2.1 関西地区 …… 60
2.2 東北地区 …… 67
2.3 首都圏 …… 70
2.4 小括 …… 72
３．大学進学者にとっての移行支援機関としての学校 …… 73
3.1 小括 …… 80
４．学校は移行支援機能を強化できるのか …… 81

第３章 彼ら・彼女らにとって学校とは何だったのか …… 83
１．はじめに …… 83
２．学校的価値の受容と学校からの離脱 …… 83
2.1 学校に行きたかったか？（中学校からの高校選択） …… 84
2.2 学業 …… 92
2.3 学校生活 …… 96
2.4 先生 …… 102
2.5 部活動など …… 104
2.6 友だち …… 110
2.7 校外での生活（友だちとのあそび） …… 112
2.8 アルバイト経験 …… 115
2.9 進路選択（就職活動など） …… 121
2.10 働くことに関する意識 …… 128
2.11 職業観・フリーター観 …… 133
2.12 学生時代の将来展望 …… 137
2.13 学校に関して思っていること …… 139
３．まとめと提言 …… 140

第４章 家族・親族状況からみた移行 …… 144
１．はじめに …… 144
２．家族史と現在の家族構成 …… 145
2.1 親の離婚・再婚・死別 …… 145
2.2 親役割の代替と多様な家族形態 …… 146
2.3 家族周期上の困難 …… 147

2.4　小括 …… 148
3．親の職業とライフスタイル …… 148
3.1　親の職業は雑多な不安定就労 …… 148
3.2　減収・倒産・解雇 …… 150
3.3　きょうだいの職業 …… 150
3.4　夫妻共働き・一家総働き …… 151
3.5　再就職型 …… 152
3.6　小括 …… 153
4．家計状況と親子の経済関係 …… 153
4.1　逼迫した家計状況 …… 153
4.2　こづかいとまかない費 …… 155
4.3　家計事情から進学を断念 …… 159
4.4　小括 …… 161
5．親のしつけ・養育態度・子供への期待 …… 162
5.1　学業に関する親の態度 …… 162
5.2　就職に関する親の態度 …… 165
5.3　日常生活における親の態度 …… 170
5.4　小括 …… 171
6．親子の会話・行動・情緒的絆 …… 171
6.1　親子の会話・食事・同伴行動 …… 172
6.2　親子の対立・葛藤 …… 173
6.3　親との同居と離家 …… 175
6.4　親に対する感情 …… 176
6.5　早すぎる妊娠・出産 …… 177
6.6　小括 …… 178
7．今後の予定と将来イメージ …… 178
7.1　これからの予定 …… 178
7.2　将来のイメージ …… 179
7.3　結婚に対するイメージ …… 180
7.4　小括 …… 183
8．まとめ …… 183
8.1　中・高卒フリーター層の家族・親族状況の特徴 …… 183
8.2　高学歴フリーター層の家族・親族状況の特徴 …… 184
8.3　おわりに …… 185

第５章　ソーシャル・ネットワークと移行 …… 186
１．移行期を中心としてみるソーシャル・ネットワーク …… 186
1.1　縮小していくネットワーク …… 187
1.2　閉じたソーシャル・ネットワーク …… 192
1.3　拡張を求めるソーシャル・ネットワーク …… 199
２．「もう一つの選択」のためのソーシャル・ネットワークの必要性 …… 202
３．実際のサポートを提供する地域のソーシャル・ネットワーク …… 206
４．まとめ …… 210

終章　職業への移行が困難な若者の背景を考える …… 212
１．はじめに …… 212
２．移行困難な若者の事情の整理 …… 212
３．移行が困難な若者の状況のパターン化 …… 215
４．有効な支援策を考える …… 216

参考：対象者の概要 …… 221

序章　調査研究の概要

１．問題の所在

若者が大人になり、社会を構成する一人前のメンバーとなることは、社会にとっても個人にとっても重要な課題である。大人になることには、親の家計から離れ、自分の家庭を営み経済的に自立すること、あるいは、政治参加や納税の義務を果たすなど、様々な局面があると考えられるが、その中でも、職業を持ち、親の家計から自立をすることは重要な部分を占めるといえる。親の家計に依存して学校に通う状況から、こうした自立にいたるプロセスが「学校から職業生活への移行」である（OECD 2000）。

若者たちを失業させることなく、学校から職業生活へスムーズに移行させることは、労働政策の上でも主要な課題の一つといえる。我が国はこれまで、若者のスムーズな移行を支えるシステムを持つ国として国際的にも評価されてきたが（Ryan 1996、OECD 2000など）、近年では、若年失業率は他の先進諸国並に上昇し、若年者の雇用対策が緊急の課題となってきている。こうした中で、2003年には、政府は「若者自立･挑戦プラン」を発表し、我が国における若年労働政策は新しい局面に至ったといえるだろう。

多くの欧米諸国は、1970年代後半から80年代にかけて、若者の失業増加を経験し、これまで様々な対策を試みてきた。日本労働研究機構(現・労働政策研究・研修機構)では2002年から「若者政策比較研究会」を設け、イギリス、スウェーデン、ドイツ、およびアメリカにおける若者就業支援政策について検討してきた（日本労働研究機構 2003、労働政策研究・研修機構 2004）。この検討から、近年の各国における若者就業支援施策の特徴として次の５点を指摘している。①地域レベルで政策を決定する仕組み。すなわち、地域によって異なる労働市場や若者の状況を反映した対策を取れるように地域に政策決定の権限を与える。②個々の若者に合わせた支援プログラムとすること。すなわち、アドバイザーなどの支援機関のスタッフが対象者との面談を通して個別のプログラムを作成するといった支援が展開されている。③ホリスティックな支援。若者の就業問題は就業問題への対応だけで解決できないことが多々ある。大人への移行の一環としての就業問題という認識の下に、若者が直面するすべての問題への対応が可能な仕組みが目指されている。④「働く」前段階への支援を含むこと。基本的な生活習慣や労働に対する構えを身につけさせるプログラムなどが実施されている。⑤政策評価については評価方法や活用に問題を残している。

一方、こうした若者就業支援施策の背景には、若者の置かれた状況についての各国の認識がある。若年失業問題が以前から課題であった各国では、若者の失業や就業上の問題について多くの調査研究が蓄積されてきた[1]。追跡的研究での移行の実態把握、あるいは、最も失業の危機にさらされる層の問題背景、また、そうした層に絞った対策が実は対象者にはスティ

[1] たとえば、G.ジョーンズ・C.ウォーレス（1996）のレビュー参照。

グマとなり利用されない事実などが実証的研究から明らかにされてきた。先の政策の特徴は、こうした研究の成果と結びついたものといえる。

日本における若年者就業支援施策についてみれば、それは今、新たな段階に入ったばかりである。若者の置かれた状況についてはどれほどの現状把握がされているのだろうか。「フリーター」については、日本労働研究機構では1999年から研究会を立ち上げて実態調査をしてきたが、これ以前には、実証的な研究はごく限られたものであったといえる。今、大きな政策課題と認識されるようになった若者就業問題であるが、日本の若者が置かれている実態についての実証的な研究は、いまだその入り口に過ぎないのではないか。職業生活にスムーズに移行していない若者について、その背景や属性、課題別に理解することが、これから採られていく対応策の効果を高めるために、まず必要ではないかと考える。

職業生活への移行に困難を抱える若者は、現在我が国にどれだけいるのだろうか。まず、失業している若者がいる。若者の失業率は、15歳～24歳層においては、2003年平均で10.1%（68万人）という高い水準になっている。また、国際的には問題把握の数字として重視されている「仕事をしていないし、学校にもいっていない若者」は、この失業者数に在学していない非労働力である69万人を加えた137万人（ただし、非労働力から「主に家事」である41万人を除くなら96万人）で、同年齢人口の9.2%となる[2]。統計上失業者とされるには、求職をしていることが条件になるので、求職をしていない無業状況の若者が少なからずいることが考えられる。こうした失業・無業の若者がまず、職業生活への移行に課題を抱える層であり、就業への移行を支援すべき第一の対象といえよう。

また、我が国のこれまでの学校から職業生活への移行は、新規学卒者の一斉・一括の採用・就職という慣行により、卒業と同時に正社員になる形で行われてきた。このことを考えると、アルバイト・パートをはじめとする非典型雇用に就く若者も、職業生活への移行において危機をはらんだ存在だといえる。すなわち、わが国の若年者が就いている非典型雇用は、正社員という典型雇用と比べると、労働条件に格差があり、また、非典型雇用から典型雇用への経路は見えにくい。こうした非典型雇用に就く若者も急増し、15～24歳層では159万人（在学中を除く。雇用者の32.5%）に達している（「労働力調査」2003年7-9月）。彼らもまた、無業・失業とは異なる意味で、移行の危機にさらされているといえよう。なお、ここでは24歳までの統計を用いたが、移行期間は長期化する傾向にあり、政策対象としては、30代前半層まで含めて考える必要があるだろう。

さて、本調査の目的は、こうした職業生活への移行の困難に直面している若者の実態を、実証的に把握することであるが、今後の政策立案への貢献を考えれば、こうした若者の中でも移行の困難度が特に高い者についての実態把握が重要だろう。すなわち、今後、経済状況

---

[2] うち、15-19 歳は 4.4%、20-24 歳は 13.3%となる。Ryan(2001)では、1997 時点で、フランス、ドイツ、オランダ、スウェーデン、英国、米国と比較し日本が低いことを指摘しているが、日本における現在の水準は当時の各国水準に匹敵する。

が回復することによって、新規学卒者への求人も一定範囲で回復することが考えられるが、その後にも就業への移行に課題を残す層ということである。実際、我が国より早くから若年失業問題を経験してきた各国の状況を見ると、良好な経済状況のもとでも若者の失業率がなかなか下がらないという事態が起こっている。

では、特に移行が困難なのはどういう層だろうか。小杉・堀（2003）は、官民の若者就業支援組織へのヒアリング調査から、こうした組織の提供するサービスが「意欲のある」若者によく利用されていることを指摘している。つまり、こうした既存のサービスは自ら仕事を探そうとする、積極的な意欲のある層には効果的なサービスを提供しているが、自ら積極的に求職に出てこない層には届いていない。今、就業への移行に困難を抱えている若者の実態を明らかにすることを試みるなら、第一のターゲットは意欲を持って求職活動をしていない若者たちだろう。

２．調査の概要

調査の方法としては、研究蓄積の少ない現段階においては、探索的な方法をとることが適当だと判断した。さらに、各国がホリスティックな対策という方向を示しているように、就業という局面に限定することなく、若者の大人への移行を幅広く捉え、その中の就業という視点で捉えることが必要だと思われる。そうした意図から、本調査では、半構造化した質問紙を用いた面接調査法を用いることとした。

移行に問題を抱える若者を対象にした面接調査としては、すでに日本労働研究機構（2000a）があるが、この調査の対象者は若者情報誌や求人情報誌へのモニター募集に応じた若者たちが中心であった。この手法では、本調査の課題である、移行の困難度の高い若者の把握は十分とはいえない。

そこで、本調査では、高校教師をはじめ、移行困難な若者にさまざまな支援活動を行っている機関・個人に協力を依頼し、調査に協力してくれる若者を探すことにした。また、調査にあたって、場合によっては、対象者と信頼関係をすでに持っている仲介者に同席をしてもらったり、一部の面接を実施していただいたりした。また、別途、それらの方から本人のおかれている環境等について、情報提供をいただいた。

現在までに、首都圏で23ケース、関西で21ケース、東北地方で７ケース、分析できるデータを収集した。なお、現在も、東北地方などを中心に調査は続行中である。本報告書は、現在までに分析が進んでいる51ケースを対象にしたもので、中間段階のまとめである。なお、分析サンプルの諸属性については、表序－１に示した。

また、面接調査の内容は、できるかぎりホリスティックに対象者の状況を把握し支援策を考察するという意図から、次の４つのディメンジョンを設定し、それぞれについて、さかのぼって変遷を尋ねることとした。

表序－１　分析サンプルの諸属性

人

		計	男性	女性
	計	51	28	23
最終学歴	中学卒業	2	2	0
	高校中退	4	2	2
	高校卒業	25	11	14
	短大･専門中退	2	1	1
	短大･専門卒業	5	2	3
	大学中退	4	3	1
	大学卒業	9	7	2
年齢	19歳以下	16	5	11
	20―22歳	12	7	5
	23―25歳	14	9	5
	26歳以上	9	7	2
現状	無業	17	8	9
	アルバイト･パート	31	17	14
	その他	3	3	0

第１が就労の次元である。就業歴、紹介・斡旋経路、職場・現職への認識、就業観・職業観・キャリア設計、労働市場状況についての認識、職業能力開発への認識などからなる。

第２が学校である。小学校高学年ごろから振り返って、学校歴、学業成績・学校への適応状況、進路希望の形成状況、進路選択・決定に影響を与えたと認識されているもの、最終学歴からの就職時の状況などで構成される。

第３が家庭である。家族構成・家族の変遷、家族との同別居・生活費等の金銭の授受、本人の収入の使い道・自由に使える金額、両親の職業・学歴・ライフスタイル、家計全体の収入・生活水準、親の本人への期待／関心からなる。

第４がソーシャル・ネットワーク等で、仕事と家庭以外の生活と友達等の人間関係についてである。友人・恋人・交友範囲、生き方のモデル、尊敬する人・生き方、価値を置く活動、趣味、やりたいこと、生活への評価、将来設計・展望、家庭生活への展望、生活範囲などについて尋ねている。

なお、調査は2003年度当初から始め、2004年３月の現時点でも続行中であるが、本報告書で用いる範囲のケースについては、2004年２月までに調査が終了した者である。

３．結果の概要と見えてきたこと ―政策的インプリケーション

調査結果の分析にあたっては、先にあげた４つの次元からアプローチした。

まず、第１章では、学校から職業への移行プロセスのどの段階でどのような障壁があって正社員での就業から離れていくのかを整理し、就労の次元を中心に移行の障害を考察した。若者たちは、高校非進学、学校中退、卒業時に就職活動をしない、就職できない、早期離職、離職・離学後のアルバイト選択など、いくつかの段階で、正社員就業への経路から離れてい

った。この正社員就業の経路からの離脱の段階ごとに本人の進路選択理由や背景に意識されていたもの、離脱の後の就業状況等を見ていった。ここから、中等教育で中退した者や卒業の見込みが立たなかった者では基本的なレベルの就業準備ができていないという問題があること、地方の高卒者では就労準備が出来ている者でも求人が決定的に少ないため就職できないでいること、また、高等教育進学者では進路選択の失敗や不適応から中途退学していたり、自由応募の市場で応募先選択の基本的な方向付けに迷っていたために、一斉に進む新卒就職のプロセスに乗りそこなっていたこと、進学浪人や留年期間が長くなった者では、新卒就職のプロセスに乗ることそのものをあきらめる傾向があることなどが明らかになった。

職業へのスムーズな移行を支援してきたのはまず学校である。学校の次元では、まず第２章でそれが持っていた包括的移行支援機関としての役割に注目した。移行がうまく進んでいないということはそうした支援が有効に機能していないということであるが、移行に困難をかかえる若者たちのなかでも、高校選択に真剣に取り組んだ者は高校を離れるときの進路選択にも真剣に取り組む姿勢があり、さらに、こうしたケースでは移行の危機にある現状においても将来への希望や展望を持っている傾向がみいだされた。大学進学時の選択姿勢とその後の就職活動、将来展望の間にも同様な関係がみられ、「就職」という形に結びつかなくとも、進路選択にまじめに取り組む姿勢は移行の危機が重大なものになるのを防ぐという意味で、有効であることが指摘される。学校の移行支援機関としての役割は改めて評価されなければならない。

他方、選択という課題に真剣に向きあっていないケースも多い。第３章はむしろこうしたケースを中心に高校が果たす役割を検討した。ここで明らかになったのは、学校に行く理由もないがやめる理由もない、友達と過ごすことで時間をつぶすという消極的な「居場所」としての学校であった。かつて学校が持っていた社会化機能はすでに大きく低下している。そこで、アルバイトなどの就労場所や公共職業訓練機関などの学校以外の機関での訓練や体験によって学校の機能を補完する必要が指摘される。

さて、高等教育進学者と高卒以下の学歴の者では移行の実態が大きく異なっていた。高等教育への進学を規定するのはまず親の家計であり、また、家族・階層は就労への意識や態度を規定する大きな要因である。第４章では家族の影響を分析した。都市部の高卒以下の学歴者では、フリーターでも収入の一部を親に渡していた。親はお金さえ入れれば就業形態は何でも良いとみており、子供に対する態度は無関心と放任で、子どもは特にやりたいことはないがそのことを悩んでもいない。これに対して高等教育卒業者では親は子どもの進路に関心が高く、教育成果に強い期待を持っていた。このプレッシャーに耐えられずに挫折するのがこの層のひとつの典型である。また、「やりたいこと重視」の子育てが、結果として、子供の全能感を高め夢と現実のキャップを拡大してなかなか仕事に就く決心のできない若者を生み出す面もあった。さらに地方では、地域経済の衰退が家計を直撃し、就職できない場合に進学の選択をすることもできない状況があった。若者は職歴、経験をつむべき年代に、社会的

文化的に貧困な環境に閉じ込められる危機に瀕していた。

最後の第５章では、友人関係や周囲の大人や支援組織など社会的なネットワークと移行との関係をとりあげた。ソーシャル・ネットワークは若者に具体的なサポートを提供すると同時に、判断や決定を行う際の準拠枠を提供する。学校を離れてどこにも所属しない状態になると、このソーシャル・ネットワークは縮小する。この縮小化は、社会的発達の機会を減少させ、自信を失わせたり現在の状況に対するやる気を失わせ、不活性化へと結びつく。これは求職活動をさらに困難にする要素となっていた。早く学校を離れる層では、閉じたソーシャル・ネットワークの中で求職活動と短期就労を繰り返す傾向があった。こうした層では、早い段階で学校からの離脱ではないもう一つの選択ができる準拠枠を提示することが必要である。

表序－２は暫定的なものであるが、現段階での移行困難な状況を大きく５つに分けてみたものである。それぞれの状況ごとにどのような背景要因が各ディメンジョンにあるかを整理した。

まず、最下段の「機会を待つ」タイプは、労働力需要が著しく落ち込んでいる地域状況が生んだ移行困難者だといえる。この調査では地方の高卒者たちに多い。フリーターを３類型(やむを得ず型、モラトリアム型、夢追い型)に分ける議論に副えば、＜やむを得ず型＞に当たるもので、景気回復がみられ地域経済の改善がすすめば、解消される可能性が高い。

このほかの類型は、先の３類型で言えば、ほとんど＜モラトリアム型＞にあたるものだろう。学校を離れる時点で、先の見通しを持たない、選択の先送りをしているというのが、＜モラトリアム型＞の特徴であるが、ここには多様な若者たちが含まれており、移行支援の対応策を考えるうえでは、さらにその実態を整理する必要がある。

「刹那を生きる」タイプは、都市の高卒者で多く見られた。表に示すように、学校を消極的な居場所とし、学業不振や遅刻・欠席の多い学校生活をしてきた。家庭背景も厳しいものをもち、欧米社会で言われてきた社会的排除層と共通の側面をもつ。こうした層では、欧米での若年失業問題と同じように、景気回復により求人が増えたとしても、就業への移行に困難を抱え続けることが考えられる。

我が国の特徴としては、高等教育卒業者で多くみられた「立ちすくむ」若者の問題が大きいのではないかと思われる。わが国の産業界の要請する職業能力と大学の専門教育の関係は、これまで、非常に緩やかなものだった。それだけに、大卒者のキャリアが多様化し選択の幅が広がる中で、大きくなっている問題だと思われる。キャリア教育の側面を強めると共に、職業能力と教育との関係を改めて捉えなおしていくことが必要になっている。

表序－２　移行が困難な若者のパターン化（暫定）

困難状況のキーワード	労働市場	学校	家庭	社会等
刹那を生きる	高校への求人が少ない／友達の誘いでアルバイト・アルバイトはお金のため／労働力需要に対して低いエンプロイアビリティ	学校は消極的な居場所／高校中退／遅刻欠席・学業不振／学校の就職斡旋に乗れない	厳しい家計状況／親の子どもへの関心が低い／朝起きれない、基本的生活習慣の未確立	地域の友達との関係が密だが閉じている。他の地域にはでていかない／やりたいことは特にない／友達もみな同じような進路／遊ぶ金のためにアルバイト
つながりを失う	学卒就職のプロセスに乗れない／正社員就業の経験がなく履歴書が書きにくい／就労への希望はあるが、社会的関係の構築に課題	友人関係など、人間関係の形成に失敗／学校の就職斡旋に乗れない	親の転勤が多い家庭であったケースも	学校契機の友人関係は殆どない／就職後に何らかのトラブルで離職して、そのまま社会との関係が縮小してしまうケースも／人と話さない生活がさらに対人能力を低下させ就職できない悪循環も
立ちすくむ	大卒時点で就職活動はするものの、キャリアの方向付けができず限定的な活動／志望の絞り込みすぎ	キャリア志向なく高等教育に進学／専門教育の職業的レリバンスなし／大学の就職支援活用も限定的	大学が当然という家計／親は教育達成に関心**が強**い／自己実現志向にも理解を持つことが多い	皆がするから就職活動というのでなく、自分の課題として取り組んだ。／親には申し訳ないという気持ちが強い
自信を失う	就職するが要求される水準の仕事がこなせず早期離職／迷惑をかけないために短期のアルバイト／２浪２留などで年齢が高いため就職をあきらめるケースも	専門教育の職業的レリバンスなし／大学の就職支援を活用	大学が当然という家計／親は教育達成に関心**が強**い	心身ともに疲れた状態、次の仕事はゆっくり探したい
機会を待つ	高校への求人が少ない／地域経済の衰退		就職のため親元を離れることは希望しない	地元志向が強い

「つながりを失う」タイプは就業以前の社会関係の構築から支援を要する。支援の体系化が必要なタイプだろう。

「自信を失う」タイプは、心身ともに疲れた状態であった。時間の経過と共に、意欲も高まる傾向があり、当初は短時間の就業を望んだりしているが、徐々にフルタイムの就業への意欲も回復してくると考えられる。

以上の検討から、若者就業支援策として、次のような対策が有効ではないかと考えられる。

第１に、地域主導のワンストップ、またはネットワーク型のシステムにより、多様なニーズに合わせた幅広い就業支援サービスを体系的に提供できる体制を作ることである。

安定的な雇用を得て、継続的に就業することは、若者が大人になり社会の一人前の社会の構成員になる過程の一つである。大人になるための他の課題（親の家計からの独立や自分の家庭をもつこと、納税や社会保険への加入、社会参加、政治参加など）と密接に絡んでいる。特に移行が困難な若者の場合は、学校を中途退学していたり、引きこもりの経験をもっていたり、所属集団がないことから孤立し不安を抱えている場合もある。「つながりを失った」タイプでは、就業の前段階で学校への復学や社会参加をサポートすることからはじめることが必要な場合もある。時には、医療機関との連携が必要なこともあろう。

これらの問題から就業の問題だけを取り出して対応することは有効ではないし、また、サービスを利用する側にとってみればひとつながりの問題である。社会知識も経験も少ない若者にとって、サービス機関を使い分けることは難しく、また、わかりにくい。利用する側のニーズに立てば、ひとつの組織で広く対応できるか、あるいは、連携して問題解決にあたる対応が必要である。

これは同時に、幅広い対象へのサービスの提供ということでもある。すなわち、特に就業への移行が困難な者に対象を絞ると、対象者にとってはスティグマに感じられるかもしれない。多様な層に多様なサービスを一つながりで提供することの効果はこの面でも期待できる。

また、労働と教育、家庭、社会にかかわる問題を解くには、その連携をとりやすい地域行政が主導的役割を果たすことが望ましい。

そこで若者に対して提供するサービスとしては、就職斡旋や教育訓練機会への接続、さらに、キャリア形成をサポートするガイダンス・カウンセリング、情報提供や就業体験等の機会の提供が考えられるが、このほか、ソーシャル・ネットワークを拡大する契機を提供するために、職業・労働の範囲を超えた文化活動などの経験と交流の機会を提供するプログラムや、雇用機会の限定された地域では、雇用に代わるオールタナティブとしての社会参加のプログラムも考えられる。その際には、若者のイニシアティブを重視する施策が有効だろう。

第２に、学校教育の充実と同時に学校以外の社会化装置による補完的支援の提供である。

本調査から、初期の学校への適応の失敗（不登校、逸脱、中途退学）が、あとあとまで個人のキャリア展開の障壁となっていることが明らかになった。また、学校の社会化機能は低下し、他方、早く学校から離脱する層では、家庭環境の面でも、親自体も不安定就労で、お金さえ入れれば子供の就労形態や仕事内容に関心はなく、子供への態度は無関心と放任という、子どもに職業への準備をさせる条件を備えていないことも少なくなかった。こうした「刹那を生きる」タイプの家庭環境は欧米諸国で指摘されている最も社会的排除に陥りやすい典型と一致するところがある。その家庭の機能を補完し、同時に、低下した学校の機能をどう回復するかは、難しく、また、大きな課題である。

学校の機能の強化は、現在進められている日本版デュアルシステムのような産業界との連

携の下で、職業訓練の要素を強めることで図られる部分があると考えられる。学校的価値になじまない生徒もアルバイトに熱心なのは、お金がほしいという動機だけでなく、産業界の教育力の賜物という面もあろう。学校教育に産業社会の教育力を取り入れる様々な工夫が期待される。

また、学校以外の組織が、学校生活への適応をサポートしたり、ソーシャル・ネットワークを広げる機会を提供して、逸脱を引き止め、職業準備をすすめる援助したりすることは、有効だろう。その際、アウトリーチ的なアプローチを取り入れることが有効性を増すための課題となるだろう。

第３には、高等教育におけるキャリア教育と職業的な専門教育の展開である。高等教育での中途退学や低調な就職活動の結果、無業・フリーターになる若者は多い。この背景に、中等教育段階でのキャリア教育が不十分であることもあるが、高等教育機関自体としての問題もあろう。「立ちすくむ」タイプの高等教育卒業者への対応のためには、高等教育と職業の関係のあり方（レリバンス）を改めて検討する必要があるし、キャリア形成支援（インターンシップなどのキャリア教育のほか、転科・転部・転学等のキャリア形成のための進路変更の支援を含む）のための体制を整備することも重要だろう。

最後に、本報告書は、調査としてもいまだ中途段階での取りまとめであり、対象サンプルの構成についても偏りがあることは否めない。今後、地方部を中心にサンプル増やして考察を深める必要があろう。また、日本の本格的な若年者就業支援策が動き出す前夜での調査であるため、今後の施策展開をフォローしつつ、若者の実態と実施段階に移された施策との対応を考えていく必要があるのではないかと思われる。

引用・参考文献

OECD (2000), *From Initial Education to Working Life: Making transitions work*, Paris: OECD.

Ryan,Paul, and Christoph F. Büchtemann. (1996), "The School-to-Work Transition", Günther Schmid, Jacqueline O'Reilly, and Klaus Schömann, eds. *International Handbook of Labour Market Policy and Policy Evaluation*, Edward Elger.

G.ジョーンズ・C.ウォーレス／宮本みち子・徳本登訳（1996）『若者はなぜ大人になれないのか―家庭・国家・シティズンシップ』新評論

工藤　啓（2004）『若年就労支援現場レポート No.2 (unpublished report)』東京: NPO 育て上げネット

小杉礼子編著（2002）『自由の代償／フリーター―現代若者の就業意識と行動』日本労働研究機構

小杉礼子・堀有喜衣（2003）『学校から職業への移行を支援する諸機関へのヒアリング調査結果－日本における NEET 問題の所在と対応－』JIL ディスカッションペーパー

総務省(2004)『労働力調査』

日本労働研究機構編（2000a）『フリーターの意識と実態―97 人へのヒアリング調査結果より』調査研究報告書 No.136 日本労働研究機構

―（2000b)『進路決定をめぐる高校生の意識と行動―高卒「フリーター」増加の実態と背景』調査研究報告書 No.138 日本労働研究機構

―（2001）『大都市の若者の就業行動と意識―広がるフリーター経験と共感』調査研究報告書 No.146 日本労働研究機構

―（2003）『諸外国の若者就業支援政策の展開―イギリスとスウェーデンを中心に』資料シリーズ No.131 日本労働研究機構

労働政策研究・研修機構（2004）『諸外国の若者就業支援政策の展開―ドイツとアメリカを中心に』労働政策研究報告書 No.1 労働政策研究・研修機構.

若者自立・挑戦戦略会議（2003）『若者自立･挑戦プラン』
http://www.keizai-shimon.go.jp/2003/0612/0612item3-2.pdf

第１章　職業生活への移行プロセスと障害

１．はじめに

本章では、学校から職業生活への移行のプロセスにどのような障害があって、スムーズな移行が果たされていないのか、本調査の対象者の状況から考察する。

ここで「スムーズな移行」とは、学校卒業と同時に新規学卒正社員として就職し、安定的な就業状況に至ることを指すこととする。すなわち、日本型の長期雇用と連動した新規学卒就職・採用システムに乗る経路である。序章に示した「親の家計に依存して学校に通う状況から､職業を持ち経済的に自立する｣プロセスとする移行の定義に比べてかなり限定的だが、国際的に評価されてきた日本の移行システムとは新規学卒就職・採用のシステムに他ならない。さらに、現状の我が国では、正社員とそれ以外の雇用形態とのあいだの格差が大きく、非正社員から正社員への経路は非常に見えにくい。こうしたことから､「職業を持ち経済的に自立する」状態にスムーズに至る経路のメインストリームが、学卒就職して安定的な就業状態に至る経路と言えるだろう。

本調査のすべての対象者は、この「スムーズな移行」経路からいずれかの段階で降り、無業やアルバイトでの就業という現状に至っている。この章では、この「スムーズな移行」経路からの離脱が､どのように起こっているか､個々のケースを検討していきたい｡その上で、移行プロセスの障害となる事象とその発生の背景について、整理することを試みる。

そうした障害は、まず、次のような時点で明示的なものとなろう。第１に高校での学校斡旋や大卒の新卒採用のプロセスそのものに乗らなかった時点、第２に斡旋プロセスにのっても斡旋が成立しなかった時、第３に就職が決まっても早期に離職した時、さらに、第４に離学後・離職後に、正社員の仕事に（再）就職しない時である。以下ではこの時点ごとに新規学卒正社員へのコースからの離脱を促した要因、また、その後、移行が阻まれる状況を継続させる要因について、主に労働市場・職業能力形成・就業意欲など労働にかかわる側面からの対象者の言説によって見ていく。

２．学校斡旋・新卒採用プロセスからの逸脱

ここでは、学校から職業生活への経路のなかで、新規学卒採用プロセスにのりそこなうという意味から、学校段階に発生した問題とその後の移行トラブルとの関係を取り上げる。学校教育における問題そのものは、後の章であつかう。

2.1　高校非進学

中卒就職は近年極端に求人が減少している。高校進学率 97%という現状で、高校進学をし

ないことはすでに労働市場の中では不利な立場に立つことを意味する。高校へ進学しないケースは、（1am）のように学校を抑圧的なものととらえての反発や、（2am）のように学校への適応ができず、居場所が見つからない形で不登校になった結果である場合もある。（1am）のケースは卒業時に学校の支援をうけてガソリンスタンドに就職した。しかし、上司の態度を抑圧的なものととらえて反発して６ヵ月でやめ、その後も、しばらくの間「朝起きられない」など生活習慣の確立ができず短期の雇用を繰り返した。（2am）は、その後フリースクールに通い、アルバイトで就労するようになる。一度、知人に勧められて正社員に応募したことがあるが、採用されなかった。今も、自立への思いはあるが、学歴も経験もないという経歴に自信が持てずに、正社員への応募をためらっている。

*（高校進学でなく就職にしたのは？）*学校という何かに縛られたくないという自分が多分あったと思います。…何か変なこだわりがあってね、学校というところには行きたくなかったんですよ。…あのとき考えていたことは、学校が嫌やったというしか、いまだにちょっとわからないですね。

＜1am・24 歳・中卒・男性＞

（就職先のガソリンスタンドで）やっぱり社長というか、店舗の上の一番偉いさんの人ともめてやめたんですけど、やっぱり言い方が結構かちんときて、人間関係が一番難しかったですね。…そのときの中学卒業しての僕ですから、まだとげとげしい部分もあって、ささいなことでもまともに受けて反発してしまうという時期の自分やったんで、今、言われてもそんなに大したことないことなんやろうけど、あのとき感じたのは、何でそんなに偉そうやねんみたいな感じでしたね。

＜1am・24 歳・中卒・男性＞

（その後）もうぎょうさん面接やら行って、受かったのに行ってないとかありますから、そういうのを全部含めたらもういっぱいあるんですよ。だから、回転ずしへ行って３日でやめたり。*（これはどうやって探したんですか？）*これは職安ですね。受かって３日間行ったんですけど、次の日からやめました。*（何で？）*起きれなかったからですね。…あと、段ボールの倉庫の、段ボールをつくる仕事ですけど、段ボールの組み立てるまでの。受かったんですけど、行ってないですね。…一度も行ってないです。面接だけ行って、「受かりました」というのが来て行ってないんです。*（それは何で？）*起きれなかったんです、それ。起きたらもう次の日の晩なんですよ。ああーという感じですよ。*（行く気はあったの？）*行く気はありましたよ。行く気はあったんですけど、ぱっと起きたらもう晩なんですよ。

＜1am・24 歳・中卒・男性＞

中学は、１年で不登校したんです。夏休み明けから。*（どんな心の状況だったんですか？）*答えはよくわからないんですけれども、中学校で生活の環境が変わって…（他の小学校からの）人たちの入ってくる中にいて、何か居場所がないというか、学校に行っても楽しくないというか。…　あまり人受けする感じの人間ではなかったので、いじめられたりとかも多かったんです。…先生の接し方みたいなのも違って、小学校のときはあまり勉強がどうこうとか言われなかったんですけど、中学になってから、ちょっと厳しめになったんですかね。…そこをうまくやっていくことができなかったんですよね。

＜2am・22 歳・中学卒・男性＞

中学校を卒業するときに、担任から通信制の高校に行くのを勧められたんですけど、…

当時フリースクールに行っていたので、また学校に行って、通信制の高校だから違うんですけど、嫌な思いをするよりは、とりあえずフリースクールでいろいろやれることをやっていきたいなと思っていたんです。…当時は、学歴がどうとか、世の中のことを全然知らなかったから、そういう指導もされてこなかったですし、そういうことは考えずに、ただ高校に行くよりはフリースクールに行きたいなというだけです。将来のこととかは考えてなかったですね。

＜2am・22 歳・中学卒・男性＞

ＮＰＯ法人とか、あとは自分で事業をやったりとか、そういう変わったおもしろいようなことをやって生きていけたらいいなとは思っています。…（でも）踏み込むことができないのは、自分はこれができるとか、あれはできるとか、こういう能力があるとアピールできるものがないと思っているからだと思うんです。少なくとも社会人経験があって、そういうことができるというのがあったら、積極的にやってみるような気がしますけれども、自分の能力のなさというのが一番のネックだと思うんです。…（そのためには）また面接とか、就職活動をしなくちゃいけなくて、その就職活動のときに、さて自分は何をアピールしたらいいんだろうというのは、多分、一番の悩みだろうと思うんです。

＜2am・22 歳・中学卒・男性＞

2.2　高校中途退学

2.2.1　高校中退の事情

学校を中途退学することも、同様に、新規学卒就職の経路から外れることになる。高校からの中退には、まず、（3bm）や（4bf）のケースのように学業不振と遅刻・早退が多いタイプ、すなわち、学習の場としての学校からの逸脱のケースがある。学校は友達がいるからくる場であり、学業には価値を感じていない。友達との遊びの場は夜の街に広がり、その遊びに必要なお金のためにアルバイトは長時間行っている場合が多い。夜遅くまで家には戻らないので、朝はさらに起きれない。中退を決めるとき、ほとんど将来の職業などについては考えていない。行動を抑圧するものとしての学校からの離脱である。

（高校を中退したのは）留年したから。留年したらやめるって決めとったから。*（休むようになったきっかけは？）*だるかったから。…朝起きるのちょっとだるいし。学校行くために起きるのは面倒くさい。…授業中もおもろかったけど、授業としておもろいんやなくて、自分らで勝手に遊ぶからおもろい。席移動して友達としゃべって、全然授業無視して。*（先生に注意されない？）*そんなん、別に言われたってほっといて、しつこかったらキレて、反対に授業つぶして。

＜3bm・17 歳・高校中退・男性＞

*（やめるきっかけは？）*友達関係はうまくってたんやけど、友達とちょっと殴り合いになって青あざ作ってしまって、…その子が朝学校いって保健室で何年何組のだれだれさんに殴られたって言って、両方の親呼び出しされて。んで退学まではいかんかってんけど停学にはなるかもって言われて。で、結局停学にもならんかったんやけど、ダルなってやめますゆうてやめた。

＜4bf・20 歳・高校中退・女性＞

*（高校は？）*定時制。２年でやめた。…*（２年生のいつ頃辞めました？）*覚えてない。けっこう行ってなかったから。…最初の方は行っていた。３学期はあまりいってない。

（*なにかあわなかった？*）夜ってしんどかった。

＜6bf・20 歳・定時制高校中退・女性＞

表１－１　中卒・高校中退ケースの離学時の事情

対象者ＩＤ		1am	2am	3bm	4bf	5bm	6bf	7cm
	年齢	24	22	17	20	20	20	24
	学歴	中卒	中卒	高校中退	高校中退	定時制高中退	定時制高中退	中退後定時制高卒
	性別	男	男	男	女	男	女	男
	地域	関西	首都圏	関西	関西	首都圏	関西	首都圏
	現状	アルバイト	アルバイト	アルバイト	パート	ＮＰＯ非常勤	無業	アルバイト
中学卒業時	学業不振	○						
	反学校的文化	○						
	学校不適応・不登校		○			○		
	異性関係トラブル	○						
	遅刻・起きれない						○	
高校中退	留年			○				○
	学業不振			○				○
	個人的トラブル							○
	不本意進学			○				
	遅刻			○	○			
	けんか				○			
	夜の学校はつらい						○	
	他にやりたいことがある					○		

一方で、中学校での学校不適応をから定時制の高校へ進んだ（5bm）のケースでは、学校での勉強に価値を感じていない点は共通しているが、むしろ別にやりたいことを見出し、それに惹かれて高校を離れていく。もともと親の転勤で転校してきたことから、学校文化の違いもあって学校生活になじめなかった背景があり、前の２ケースのような遊び友達の輪があるタイプではない。

> バンドを組むんだけど、田舎なんでないんですね、人が集まらないとか。バンドを組みたいけど、組めないしという状態だったので、…高校１年で、10 月にはやめて、東京のほうに上京してきて。…（*それは思い切った決断ですね？*）そのときはやりたいから行こうかなという思いがあって、例えば学校に行ってたころ、先生との関係もあまりよくなかったので、やっぱりやりたいことをやれる場所に行ったほうが、後悔ないんじゃないかなという思いがあって出てきたんです。
>
> ＜5bm・20 歳・高校中退・男性＞

また、中学校までは学年のトップクラスで、順位争いを楽しむように勉強してきた（7cm）のケースは、大学付属の難関校に入学はしたものの、燃え尽き感と追い討ちをかける国籍問題に、精神のバランスを危うくしてしまう。

中学３年の 12 月か年を明ける前後から、集中力がなくなってきちゃって、勉強をずっとしてたんで、それがずっと尾を引いちゃってたんですけど。高校時代、何かやる気が出ない。何か糸が切れちゃったみたいで。…あれが大きかったんですよ。僕、在日朝鮮人なんですよ。両親ともそうで、それを高校に入る前に母親から聞かされたのがすごいショックで。…それでやっぱり未来が見えなくなっちゃったというか。…結局、やめることになったんですね。１年から２年には進級したんだけど、実は２年の５月に母親と別居したというのがあって、そこから余計にはまり込んでいって。その中でずっとやっぱり２年半ぐらいカウンセリングを受けて、安定剤とか睡眠剤とか飲んで。…２年から３年に進級できなくて（中退した。）

＜7cm・24 歳・一旦高校中退後高卒・男性＞

2.2.2　高校中退後の就業

上記のケースのうち、(3bm) は親から中退を許す条件として働くことを求められ、就業支援組織でのアルバイト、すし屋のアルバイトとつないできている。本人は中学生時に調理師学校への進学希望があり、すし屋での仕事には意欲を持って取り組んでいる。正社員になるよう誘いも受けているが、まだ、気持ちは定まっていない。

（正社員になることを勧められているが）今だけのことを考えたら、バイトのほうが金ええから。今は正職になったほうがちょっと高いけど…時間的に考えたら、金は少ないけどバイトのほうが…（正社員になったら）昼から夜中の、下手したら明け方ぐらいまで。仕込みのために昼から出てきて、夕方から店開けて、12 時閉店やからそこから全部片づけ始めるから。…、４、５年も続けるかどうかもわからんから、確信できてからのほうがええかなって。…ちょっと間続けて続けれそうやったらやってみようかなと。

＜3bm・17 歳・高校中退・男性＞

一方、(4bf) では夜友達と遊ぶことが生活の中心で、朝や昼は起きれない、夜は遊びたいと、お金はほしいものの長期のバイトはできず短期のものを転々とする。17 歳で未婚の母になり、親や祖母の助けを借りながら子育てをしてきた。昨年から父親の紹介で公共施設のパートに入り 1 年以上続いており、今は正社員を希望している。しかし、「その（正社員に応募する）前に、高校卒業してないし、資格とか多分取られへんと思う」「(定時制高校等への復学を）親にゆうたことあったんやけど、自分が続けられるときに行きって。そんなあやふやな気持ちで行きなやって。別に今からいかんでももうちょっと子どもが大きくなってからでも行けるしなぁみたいな。その間子どもどうすんのかって」言われ、復学は果していない。

（5bm）のケースは、上京後、音楽学校（高卒を条件にしない）に入り、並行してバンドも組んで音楽活動には積極的に取り組む。その後、「プロも難しいかなあと思い、別のこともやってみよう」と、大検を受けて大学入学資格を取ったり、若者支援のＮＰＯ活動に参加していくなど、社会的なつながりを作っていっている。ただし、自立した生計にはまだ遠い。

今の（ＮＰＯでの）活動は３年後も続けたい。これはほんとうに願望に近くなってくるんですけど。…ただ、状況が許すかどうかという。やっぱり僕の中で自立したいという

思いがすごくあって、どこのとこまでやるかなという。まあ、いい状況に、例えば今の活動でも、食えるだけの額になるかもしれない。３年かな。わからないけど、どこまでやるかというのはほんとうに自分の中である程度。…正社員とか働くという方向でやるかもしれない。ただ、今のところは全然考えてない。

＜5bm・20 歳・高校中退・男性＞

（7cm）の場合は、この進学校を退学した後、定時制高校に編入し、卒業する。しかし、就業への自信と意欲ははっきりしないまま、農業での有期のアルバイトを繰り返す。背景には、進学校での挫折に加えて、日本国籍をもたない出自を知ったことからくる、前途への絶望感が強く感じられる。中学校までトップクラスの学力を保持し、漠然とではあるが、一流大学、一流企業といった将来を描いていただけに、自分の努力では何ともしがたい壁として国籍問題が立ちはだかり、強い絶望感を持ってしまったのではないかと思われる。

高校受験に打ち込んで、そこからもう切れちゃったんですよ。そうなる感覚って怖い。結構、壊れやすいんで。何でも、たまっちゃうほうなんで、たまって潮が満ちてまた何かやる気がなくなって鬱病っぽくなるのが怖いんですよ。それが今までずっとありましたからね。その怖さというのかな。でも何かこうようやくとれてきたのかなと。…引きずってましたね。だから、農業なんかも踏み込めなかったと思うし。

＜7cm・24 歳・一旦高校中退後高卒・男性＞

表１－２　高等教育中退ケースの中退の事情

対象者ＩＤ		8dm	9dm	10df	11dm	12df	13dm
	年齢	24	22	28	32	20	28
	学歴	大学中退	短大中退	大学中退	大学中退	専門中退	大学中退
	性別	男	男	女	男	女	男
	地域	首都圏	首都圏	首都圏	首都圏	関西	首都圏
	現状	無業	無業	無業	アルバイト	無業	アルバイト
高等教育中退	校則・行動制約に反発					○	
	学業不振・留年	○	○		○	○	
	学習内容に不満		○				
	他にやりたいことがある		○				
	病気			○			○
	学校不適応・不登校	○		○	○		

2.3　高等教育段階での中途退学

2.3.1　高等教育中退の事情

高等教育からの中途退学も、同じく新規学卒就職への経路から離れていくことになる。中途退学の契機としては単位が取れないなど、大学での学業に関心が湧かなかったり、ついていけないなどの理由が多い。具体的には、中途退学の理由は次のように語られている。

（工学部に入学して）１年目は前期も後期も教養科目が多めで乗り切れたんですけど、

２年目は専門科目に入ってきて、前期も後期も単位が足りないということになって。…成績も厳しいし、例えば寝ていたら追い出されるようなところだから。…結局、何となく学校には行かなくなったんで。…*（大学をやめるときはどういう気持ちだった？）*元通りの位置に戻ったという…やっとほっとしたという感じでしたね。

＜8dm・24 歳・大卒中退・男性＞

*（何で単位足りないの？）*ギリギリ単位取れればいいなという考えだから…（大学と）同時進行で、〇〇のほうの（他大学の学生との）イベントに参加してたんです。企画をやったり、企画、構成、あとは誘導とか設営とか、その他もろもろの。…（自分の）学校のほうのがレベルが低くて、そっちへ行っているほうが勉強になったというか。…（専門である）お花の面ではいいんだけど、ほかの面で見ると、何か下みたいな。でも、いるだけでつまらないみたいな。

＜9dm・22 歳・短大中退・男性＞

法学部に行きたいと思ったので、全部法学部で、上の大学から下の大学まで法学部だけで、…まぁ、スベリ止めしか受からなかったんで。…自分は勉強はしてこなかったけど、ちゃんと関心はあるんです。だけど、みんなは関心がない。…六法を習いますよね。わたしはこうして見ているんだけど、みんな持ってこないの。重いしって。で、いつも何か出席をとるの「出しておいてね」とか、何となく憂鬱になってきて、私は努力しなかったから、向上心を持っている人達の間に入れなかった。…18 か 19 の時に何もしてこなかったというのを大学に入って嫌というほど思い知らされた訳です。…今まで私は何をしていたんだと思って、ちょっと行けなくなっちゃったんですよ。

＜10df・28 歳・大学中退・女性＞

*（２浪後に受かった大学は？）*まあ、スベリ止めとして自分が認められるぐらい。…しようがないかなという。もう要するにほんとうにもう自分が通したいというのは、そのころまでに随分磨耗し切っちゃって、特に何も残ってないような状態だったので、大学というのも義務感がないし、それでほとんど授業は受けなかったですね。サークルのほうは何とか２年間、３年間ぐらい行きました。学校の授業は全く受けなかった。

＜11dm・32 歳・大学中退・男性＞

この４例を見ても、大学での勉学への意欲を失う背景は一様ではない。まず、（8dm）では、高校在学中の文系・理系のコースを「たまたま、二択でどっちかと言われたら、どっちかに丸をつける」という形で選択し、理科系コースにいることに本人はかなり違和感をもっていたのだが、にもかかわらず、推薦で入れるからと工学部の機械科に進学してしまう。工学部の専門科目には、関心もないしついていけない。（9dm）は華道家を目指しての、（10df）は弁護士という将来の職業を描いての進学だったが、周りの学生の行動や大学の環境に納得できず、大学から離れていく。

（11dm）は、親の転勤に伴い小学校から高校まで何度となく転校を経験し友人関係を築けないできた。さらに家族が渡米の後、一人で入寮して予備校に通う生活を２年続けたあげく、不本意な進学をする。学業への意欲がわかないばかりでなく大学に通うことそのものもやめ「全く何もしない生活」に陥り、そのまま退学している。誰からも干渉されない生活が、孤立・孤独につながり、社会関係を失っていった。

次のケースは全く逆に、厳しい学校の生活指導が、高校を卒業したら自由になるという学

生側の期待裏切り、強い不満を抱かせて中退につながってしまったものである。高等教育において、どこまで生活レベルまでのサポートをするかは難しいところだろう。

また、これらのいずれのケースも、中退を選ぶ時には後の就業に与える影響はほとんど意識されていない。

（看護専門学校に）入るまでは頑張ろうと思って、頑張る気十分やったけど、…厳しいんです。前、あそこ准看学校やって、高看に変わったんです。…それで（私たちが）第１期生やって、すごい厳しかったんです。髪の毛茶色かったら「染めや」とか、ほんまにそんな言うことないやろうと。３年生はどうでもええのに、何で私らだけこんな言われなあかんのと。…３年生、あんな茶色いのに、パーマかかってんのに、何で１年生だけ言われなあかんのと。…そんなんとかでむかついとったし、わからんくせに口出すからむかつくんです。自分らは看護婦やっとって、偉いと思ってるか知らんけど、何かわかったような口きくからむかつく。…とにかく学校では先生と顔合わせたくないし、もうすべてがむかついてくるんですよ、学校行くこと自体が。だから、しんどいから普通に理由つけて休んだりとかして、もう行きたないわ、もう顔見るだけでウザイんです。

＜12df・20 歳・専門学校中退・女性＞

このほか、（13dm）と（10df）では、心のバランスを失してしまう病気の発症も中退の原因となっている。

2.3.2　高等教育中退後の就業

さて、中退後の状況は、短期間正社員で就業している場合もあるが、無業かアルバイトが多い。さらに、その後には別の学校という選択を行う（行おうとしている）者も少なくない。

アルバイトで目立つのは、短期のものを選択する傾向があることである。

*（大学を退学してからは？）*それからバイトをどんどんしまくる感じで…長く続いたのはほとんどなかったです。印象的なのは逆に短かった…雇う側の上司のほうが、自分と近い歳で嫌なやつ、１週間（で辞めた）。…自分からバイトやめたのは３つぐらいで、あとは期限つきのバイトしかやらなかったんです。…それで要するにバイトをやめるという段階になって、やめるのを一々言い出すのも面倒くさいから、あとは自分で続かないというので、最初から期限がくっついたバイトをやったほうがいいかなと、それでだんだん期限つきバイトをして、そんな感じで短く切っていくバイトができるようになった。

＜11dm・32 歳・大学中退・男性＞

*（短大を中退したのは？）*自衛隊のためです。…アメリカの 9.11 のグランド・ゼロがあった日にちょうどあって、それから自衛隊に行って…*（その後何を？）*陸上自衛隊、警備員、お風呂掃除屋さん、パソコン屋、派遣ですね。エキストラと俳優。（*それぞれは大体どのくらいの期間？）*自衛隊１週間、警備員が１ヵ月、お風呂屋さんが３日、パソコン屋さんが１ヵ月、エキストラが３年目、タレントが２年目です。…（今は）お金をもらうことはエキストラをやっています。…１ヵ月に５回あるかないか。…１本当たり 5，000 円なので。…自衛隊をやめてから、どれに向いているかなあって探して、一応お風呂掃除というのを経験をして、それから、営業もしたいということで営業もして、そこからもっとやりたいということで派遣のほうもやるんですね。

＜9dm・22 歳・短大中退・男性＞

（9dm）のケースは、他方で単位不足で進級できない状況があり、自衛隊への入隊は１週間でやめているように、進路を選びなおしたというより一時的な、感情的行動である。アルバイトを転々とするのは、次の進路を模索する過程で経験を広げ、選択する力を付けたいという思いがあるのだろう。

その後の進路を切り開く手段として、何らかの学校で資格なり技術なりを身につけようという行動を多くの者がとっている。

（中退して）またしばらく何もしなかったんですけれども。…次の春には専門学校に行くんです*（どういう専門学校？）*編集。*（なぜ編集？）*子供のころから会社にスーツ着て毎日通って…どうなのかなというのがちょっとあって。それと、もちろん、本づくりがしたいということもあって…*（勉強はどうでした？）*すごく楽しく。人脈をつくりに来ているような…厳しくはないんで、専門学校なので技術を身につければいいということだったから。…*（編集者になるための就職活動は大変でした？）*大変になる前にもう引いちゃった。…（応募したのは）全部で10ぐらいじゃないかなという気がするんですけど。*（引いちゃったのはなぜ？）*求人票を見て、資格のところに大卒とついていたけれども、会社訪問は可と書いてあったので行って…*（何月ぐらいまで活動したの？）*７月に会社を受けて、あと、おもしろそうなことをやっているところだったから見に行こうとなって。*（それが最後？）*うん。

＜8dm・24歳・大卒中退・男性＞

キャリアとかそういう位置付けはわかんないですけれども、漠然と自分の中でこういう人になっていたいというのは。…人のかかわり合いの中で、やっていくのが。人のニーズを取り出していきたい。*（例えば？）*ソーシャルワーカー。…今のところソーシャルワーカーというのは、資格としてまだないからというのがあるんですけれども、ただ勉強しなくちゃいけないから、一応、今、放送大学へ。

＜11dm・32歳・大学中退・男性＞

カウンセリングの勉強もしたいなと思って。…*（その目的のために、今何か具体的にしていることってありますか？）*今まず、カウンセラーの講習を受けなきゃいけないので、その講習のために今年１年は、その講習費を稼ぐという１年に今年はしようと思っている。

＜13dm・28歳・大学中退・男性＞

*（大学を離れてからの見通しは？）*ないです。…したいことを探しました。ワーホリに行こうかと。…ワーキングホリデーもいいと思ったし、軽い気持ちで行って、それでなれたらいいと思ったんですよ。結局行けなくなっちゃったんですね。…失恋しちゃったんです。髪の毛が頭皮が見えるぐらい抜けちゃったんです。…（その後）英語教室はいっぱい行きましたよ。専門学校も行ったし。あと、語学学院もいろんなとこを覗いて…○○外語学院とか○○会話学院にちょっと通ったんです。

＜10df・28歳・大学中退・女性＞

１年間また勉強して看護学校に再入学しようかなと思ったけど全部無理やって、それで看護師をあきらめて保育士になろうと思って、○○短期大学部の通信教育部の保育学科に願書を提出して、今結果待ちっていう状態なんですよ。…*（なぜ保育に？）*前から迷ってたんですよ。高校のときぐらいから、看護師か保育かどっちかやって。でも、やっぱり看護師になりたかったから一回頑張ってみようと思ったけど、自分が悪かったけど、入っても勉強に集中できへんかったということがあって、もう一回自分が何になりたいかを決めたかったからやめて、１年間頑張ったけど無理やったから保育に…。もうこっ

ちをきっぱりあきらめて保育に決めた。

＜12df・20 歳・専門学校中退・女性＞

高等教育中退者の場合、高校中退者よりなんらかの教育機関を利用して職業能力を身につけようという行動をとる者が多いのではないかという印象を受ける。また、高校中退者で、大学入学検定試験を受けたり、他の高校への編入をしている者ものもいるが、彼らの場合は、小学校・中学校時代には学業成績については自負を持ったものだった。一方で、友人との交友の場としての学校という認識が強い若者たちは、学校に戻ろうとはしない。こうした学校認識の者での中は、（4bf）のケースが高卒資格の必要を認識しているが、これも公共機関への就職の可能性が見えてきたときに初めて起こった変化である。若者の就業支援プログラムを設計するに当たって、職業能力獲得のためになんらかの学校を利用しようとする者としない者がいることを認識しておく必要があろう。

また、職業能力の獲得のために学校機関を利用したとしても、実際のところ、それで就職への経路が開けるとは限らない。就職には労働力需要の有無が決定的な要素である。編集者という需要の小さい職業を目指した（8dm）は就職活動を始めたところで早々に挫折している。ただし、このケースでは、就職活動は止めてしまったが、そこで出会った講師のホームページに文章を掲載することを認められるようになっている。学校進学は、直接的な職業能力開発によって就業機会を広げる役割のほか、職業・産業界に関する周辺的情報の獲得や人的つながりを広げ、また、本人の意欲を高めて、可能性を広げる役割をも果しているということができるだろう。

2.4　就職活動をしない

2.4.1　就職活動をしない高校生

卒業はしていても在学中に就職活動をせず、当然就職先が決まらないまま無業で学校を離れていく者がいる。まず、高校卒業時に就職活動をしなかったケースの活動しない理由を見てみよう。

*（高校在学中に就職活動は？）*全然しなかったです。最初は何もする気がなかったので。*（就職志望だったんですか？）*とりあえず、何もしないよりはいいかなと。…４月も何もする気がなくて（就職活動をしていない）。

＜14cm・19 歳・高校卒・男性＞

表１－３　就職活動せずに卒業した高卒ケース

対象者ＩＤ		14cm	15cf	16cf	17cm	7cm	18cf	19cf
	年齢	19	18	24	19	24	20	18
	学歴	高卒	高卒	高卒	定時制高卒	中退後定時制高卒	高卒	高卒
	性別	男	女	女	男	男	女	女
	地域	東北	関西	首都圏	関西	首都圏	関西	東北
	現状	無業	アルバイト	アルバイト	アルバイト	アルバイト	アルバイト	アルバイト
高校卒業時	求人が少ない							○
	希望職種求人なし・見込みなし						○	
	やりたいことがわからない		○	○	○	○		
	学業不振・遅刻	○	○		○		○	
	進路相談なし					○		
	何もする気がなかった	○		○	○			
	学校外でアルバイト求職					○	○	○
	アルバイトでいい			○	○			
	就職のための生活指導に反発						○	

*（進路をどう考えていましたか？）*あんまり。遅刻とか、欠席が多かったんで、進路がみんな決まってるころにも、決まってなくって。…先のことが見えなくて。…とくに自分がやりたい、あ、いいなあと思うことがあっても本気でやりたいとは思えなくって、でもみんなは進路が決まっていて。…年末くらいから、卒業できるかできないかだったんですよ。…で、２月くらいで、学校が休みになった時期に私が今度は来なきゃいけなくなって。補習、補習で。…だから、冬には卒業できないって言い切られたんですよ。*（今は、専門学校に行きたいということですが？）*美容師の専門学校で、高校３年の１月２月に行きたいなあと思ったんですけど、もうちょっと遅くなって。…何しようかなと思って。で、したいなって思ったことが見つかったら、もう遅くって、フリーターしか残ってなかった。

＜15cf・18 歳・高校卒・女性＞

*（高校卒業後どうしようと考えていました？）*そのときあまり考えてなくて、進学とかも考えてなくて、そのままなあなあのまま卒業しちゃった。…大学とか。高校のときとか結構、面倒くさいの感があったから、大学にこんなんで通えるのかなって。…遠かったというか、行くのがだるいというか。…*（学校の先生は何か言ってました？）*言ってました。どうするの、どうするのって。*（何て答えてたの？）*どうしましょうねって。…何ていうか、そのときはほんとうに考えてなかった。ゆっくり考えていけばいいかなぐらいに。*（ちゃんと決めないと進学できないとかいう気持ち？）*多分、あんまり考えたくなかったというか、何かそういう面もあったような。何か定まんないと行けないのかわからないけど、考えてない。周りもそういう子が多かったし。…そのぐらいには、何か動いてるだろうなぐらいに考えて。

＜16cf・24 歳・高校卒・女性＞

*（高校の進路指導は？）*あんまりなかったですね。どうするのかをみんなに聞いて、個人でどうするとか言ったら、それに合わせて、先生が多分。*（就職関係については全く何もしなかった？）*はい。*（在学中のバイトを続けていこうということですか？）*だと思う。（高校を出ても）何も変わらない感じです。*（学校で見せてくれる求人は魅力がなかった？）*はい、あんまり。…就職というと、イメージ的にも退職までとか…。ずっとやるというイメージがあるから、それはそんなに。全然わからんまますぐにしていいものかと。…これがやりたいということがなかったら。

＜17cm・19 歳・定時制高校卒・男性＞

卒業する前は、ほんとにどうしようかなって。B高校って進路指導してくれないんで。要するに生徒の自主性を重んじるんで、生徒が例えば大学のこの学部を志望したいんだけどって言えば、先生も親身になって情報提供してくれたりするけど、要するに生徒が動かないと先生は何もしないんで。ほんとどうしようかな、大学に行こうかな、専門でも行くか、いや、フリーターでもやるか、就職するかと。それで『○○（アルバイト情報誌)』とかあるでしょう。あれでですね、…４月から行ったんですよ。レタス農家に住み込みで、半年間△△（他県）に行って。…人と違うことをやりたいというか、*(農業をやりたかった？この場から離れたかった？)* 全部ですね。…自分の道とかを自分の手でつかみたい。

＜7cm・24 歳・中退後定時制高校卒・男性＞

進路を決めるときに、服屋の店員になりたくて、「学校からの就職はせえへん」と、親にも先生にも卒業の大分前から言っていて、それで何もせえへんかったし、お父さんもそのときは別に。めっちゃあほやったから就職もできへんのちゃうかという感じやったし、就職前とかになったら化粧とか服装とかも学校でめっちゃ言われるじゃないですか。そんなのもうざかったし、就職をする気もなかったし、それは親にも言っていたから特に何をしろとは言われなかった。…服屋さんで働いている子から、服屋さんの面接は学校には来ないと聞いていたから。

＜18cf・20 歳・高校卒・女性＞

(「バイトでもいい」と言うと、先生はどういっていた？) ちゃんと高校も出て、するんやったら就職したほうがいいって。…高校まで出てんねやったら、バイトじゃなくて、就職口はあるんやからって。*(就職口はあったわけ？)* 多分。行けるかどうかはわからんけれども、学校に来ているじゃないですか。求人は来とって、就職する子はみんな、放課後とかに見に行ったりしていた。…（私は）見に行ってもない。*(周りの子は結構就職した？)* 半々ぐらい。半分は学校からとかで就職して…。就職が決まっていない子は、その子らがずっと高校からやってたバイトが長くて、卒業してからも別にバイトでいいねんみたいなのとか、あともうすぐ子どもできてるのがわかってた子とかもいたから、働く気はなかったと思う。…（私も）バイトでいいと思っていたし、何年も働かんわ、２年ぐらいしたら結婚していると思ってて。…卒業して２年ぐらいは適当にバイトをして、２年ぐらいたったら結婚して専業主婦になってと思ってた。

＜18cf・20 歳・高校卒・女性＞

(高校生のときの仕事の希望は？) やっぱり、販売とかしたかったんですよ。べつにコンビニじゃなくても、デパートだったりとかスーパーだったりとか。*(販売の求人はあった？)* ちょこっとあったんじゃないですかね、ちょっとよくわかんないんですけど。…まあ、高校にいる時点でコンビニのほうで働かないかという話が出てたんで、あんまりよくわからないです。

＜19cf・18 歳・高校卒・女性＞

就職活動をしなかった高校生にも、いくつかのタイプが見て取れる。（14cm）は何もしたくないと、ただ、ただ、やる気を見せないが、このケースは出席日数が不足して卒業の見込みが立たず、「*(高校で就職説明会は？)* あったのですが、俺は出席日数が足りなくてそれに出してもらえなかった。*(求人票は見ていない？)* 高校では、全然」という状況であった。次の（15cf）のケースも同様で、卒業の見込みがつかない状況では、進路選択・就職のプログラムに乗れず、卒業後の進路について決まらないまま卒業だけすることにつながっている。（16cf）も進路について全く考えていないが、このケースは卒業の見込みが立たなかったわ

けではない。親は進学を勧めていたというが、本人に全くその気がなかった。

（17cm）と（7cm）は何をすればいいのかわからないという気持ちが強く、そこから先延ばしの意味でアルバイトを選んでいることが感じられる。どちらも学校の進路指導にもっと多くを期待していたのではないかと思われる。

また、（18cf）と（19cf）は、学校に頼ることなく自力で、かつ、したい仕事であればアルバイトであるか否かにかかわりなく、探している。学校を通した斡旋には消極的だが、やりたい仕事に向かって自分で進もうという面では積極的である。

さて、就職活動をしない、あるいは、最初からアルバイトの就業機会を探すという行動は、進学や公務員受験など、高校卒業時に果たせなかった選択を浪人して再挑戦するためにしばしばとられるものでもある。そのまま大学等に受かれば、ごく普通の経路なのだが、ここで進学や受験から方向転換すると、アルバイトや無業で生きる青年になる。「浪人くずれ」とでも呼べるフリーターである。

今回の対象者で、高校卒業時に進学や再受験を望んでいたものは４ケースだが、これらのうち、調査時点でも（就業しながら）再受験への準備をしているのは（20cf）のケースのみで、他の３ケースは、それぞれに進路希望を変えている。（ただし、（20cf）は在学中は就職希望であり校内選考で落ちてから進学に切り替えている。）

（21cm）のケースは親の支援が得られない環境で、新聞奨学生となり予備校に通うが、結局、学力が伸びず受験は断念する。コンピュータ工場での有期限の雇用から始め、これまで業務請負業登録など、工場内の有期限の雇用に多く就いてきた。他の２ケースは次のとおり。進路変更の先がアルバイト就業であったということだが、それぞれ積極的、あるいは消極的ながら、自分で選んでの変更であり、進路の選びなおしという捉え方も必要だろう。一方、受験準備と平行してアルバイトをする行動は、家計に進学を支えるだけの余裕がないことが背景にあった。環境が整わないために進学を断念せざるを得なかったという側面もあり、両面の理解が必要だと思われる。

> （高等看護学校に落ちた後）…で、準看、受ける受けへんて言うてて、受けるわていうてたのに、準看（の入試）が卒業式のあとやったんですよね、テストが。卒業した瞬間、看護婦ていうのが、あの、今お金がほしいという現実に変わって、そのバイトしてる所、朝は入ってなかったんですけど、学生の頃は。入れるようになったというんで、毎日働き出して、お金が、その時点で初めて自分の手元に 10 万を越えるお金が入るわけじゃないですか。もうそれで納得してしまったんですよね。*（準看はうけなかった？）*…一応予備校も行ってたんですよ、卒業してから。やっぱり、やりたいなーていうんで。でも、その、初めはバイト先…立場上、上になってきて、自分がシフトとか全部組まされるようになってきたら、どうしても休みがもらわれへんくなってきて。予備校も辞めてしまって。
>
> **＜22cf・19 歳・高校卒・女＞**

表１－４　卒業後、再受験を目指した高卒ケース

対象者ＩＤ		20cf	21cm	22cf	23cm
	年齢	18	31	19	21
	学歴	高卒	高卒	高卒	高卒
	性別	女	男	女	男
	地域	関西	首都圏	関西	関西
	現状	アルバイト	無業	無業	アルバイト
高校卒業時	家計の制約で非進学	○	○		○
	学業不振・遅刻			○	
	校内選考で落ちた	○			
	大学進学と平行	○	○		
	公務員受験				○
	専門学校不合格			○	
	学校外でアルバイト求職		○		
浪人から	受験のほかにやりたいこと				○
	アルバイトが忙しい		○	○	

（家計の事情で大学進学を断念し、教師の勧めで公務員に志望変更したが受験に失敗して）先生から電話かかってきまして、「おまえ、学校で働く気ないか」とか言われて。…「え？　何がですか」みたいな感じやったんですけど、「おまえ、公務員目指してるんやろ」みたいなこと言われて。…（理科の実験補助で有期限の採用をされたが、次の年も受験失敗）…２回落ちてるじゃないですか。もう、これは自分の天職じゃないなあと思ってしまったんですよ。で、…いつも行ってるブランドあるんですよ。そこの店長さんに「しゃべりうまいねんから、こういう業界入ったらええんや」みたいに言われて。そのとき何も思わなかったんですけど、でも服好きやしなあとか思い始めて。しゃべるのも確かに好きなんで、ちょっとバイトでやってみようかなって、そのころは簡単に思ってたんですけど。…楽しいなって思った。この仕事つきたいなって思いましたね。

＜23cm・21 歳・高校卒・男性＞

2.4.2　就職活動をしない大学生

高等教育卒業者でも、就職活動をしないまま卒業していく者の増加が指摘されている。しかし、今回の対象者では、全く就職活動をしなかったケースは（44ef）の１ケースのみであった。このケースが就職活動をしていないのは、大学での学びの中に自分の方向を見つけ、次々と可能性を広げていく途上にあったためだといえる。

*（３年生の後半になると就職活動はしましたか？）*それが、一切やっていないんです。…。異文化関係のコミュニケーションがおもしろかったので、異文化トレーナーっていう仕事があるんですけど、そういうのになろうかと思っていて。そうなると企業ではないので、…、私は、そういう先生が私のゼミの関係の学科にいるので、その先生に話を聞きにいったりですとか、仕事を見せてもらったりですとか、自分でやってましたね。…（ボランティアで）○○（海外）に行ってきて、そのあとに異文化コミュニケーション学会の世界大会があって、１週間くらいやってどっぷりつかっていて、やっぱりこれでしょうと思ってて。

＜44ef・27 歳・大卒・女性＞

その後、職業として成り立つ方向ということで産業カウンセラー資格に関心を持ち、その受験のために派遣で事務職に就き、と正社員にはなっていないが、自分の方向を選んで着実に進んでいる。

全く就職活動に参加していない学生には、こうした自分のキャリアの方向を一般的な企業への就職以外に定めた学生も少なからず含まれているのではないかと思われる。むしろ、こうしたケースは次の世代を担う若者として期待していい存在ではないだろうか。

「就職活動をしない」ことを心配されている学生は、こうしたケースではなく、おそらくもっと非活動的な学生であろう。今回の調査では、そうしたケースは、むしろ会社説明会にはいってみたというような、一定範囲の就職活動はしたが、途中で活動を停止したものに見られた。こうしたケースは、次の節で詳しく紹介したい。

ここでは、正社員としての移行経路に乗っていない学生のなかには、新しい方向を切り開く可能性を秘めた存在もあることを指摘しておきたい。

2.5　小括

この節では、中途退学や卒業時に就職活動をしないなどの、新規学卒就職への経路から自ら外れていく行動をとったケースを採りあげた。まず、高校へ進学しないケースと高校を中途退学したケースについてみると、学校離脱には次の３つのタイプがあった。第１は、学業に価値をおかず、学校生活を支える価値は友人関係であり、行動を規制する学校を抑圧装置と感じるタイプである。彼らは、学業不振と学校への反発から学校から離れていく。友人関係は学校外にもつながっている。第２は、友人関係の形成が進まず学校に不適応を起こしたタイプ、第３は勉強に集中し高い業績をあげたものの先の目標につながらず（ここでのケースは国籍問題が大きな壁となって）挫折したタイプである。

離学後は、第１のタイプではお金を稼ぐ目的ですぐ就業する。友人からの誘いで就業口を見つけることも多い。ただし、就労上の規律や基本的生活習慣が確立していなかったり、友人との遊びが生活の中心であるために、長続きしないことも多い。第２、第３のタイプは、すぐには就業に至らない。第１のタイプと異なり、音楽を目指したり、農業を目指したり、自分を表現するものとしての仕事を探す。経験も職業能力もない自分を意識して、戸惑どうケースもある。

高等教育での中途退学も、正社員就業への経路からの離脱につながる。勉学への意欲を失い単位をとれずに中退していくのだが、それには、①大学進学以前の進路選択に問題があり関心も適性もない学科に進学してしまったケース、②職業希望を持って大学・学科選択をしたが、不本意入学であったこともあり、周囲の環境になじめなかったケース、③学校の厳しい生活指導への反発、逆に、何の枠付けもない生活に孤立・孤独に陥るケース、などがあっ

た。中途退学後は、短期のアルバイトを中心にする者が多い。背景には経験を広げ次の進路を探そうとする意識があると思われる。また、何らかの学校機関を使って、職業能力を身につけ再スタートを切りたいという気持ちを持つ者が多い。

卒業はしても就職活動はしていないケースは高卒者に多かった。こうしたケースには、まず、①単位や出席日数が不足して卒業の見込みが立たないために、就職プログラムにのれず、何とか卒業だけするという者がある。遅刻、欠席が非常に多く、学業不振も伴っていた生徒である。また、②卒業見込みは立っているのに、何をしたらいいのか分からないからと、就職も進学もしないケースもあった。何も考えていない、そのうち何かが動いてくるだろうと、アルバイトにだけ就く。これに対して、③学校外で、就きたい仕事のためにアルバイトに応募するケースもある。ファッション系の販売職などは、学校への求人によるのではなく、アルバイトからの登用で正社員を採用する企業が比較的多いための行動である。学校を通した移行ではないが、むしろ他の経路での就職活動をしていると見るほうがいいのではないか。このほか、進学や公務員受験を再受験するために浪人をするが、途中で進路変更をし、その結果アルバイト就業になったケースもある。

３．学卒時の斡旋不成立

3.1　就職できなかった高校生

次に、就職活動はしたものの、結局就職できないまま卒業することになったケースを見ていこう。

就職を目指して求人票を検討し、企業見学に行き、また応募するという行動をとりながら、就職が決まらなかったケースの背景にはあるのは、まず、学校への求人が著しく減少している事態である。東北地方の高校出身者では、全般に遅刻や欠席も少なく成績も良好な生徒が、学校の斡旋に乗りながら、結果としては内定をもらえず卒業している。「先生から『今年は一番少ない』って言われてて『進学の事も考えとけ』って」（24cf）という指導にも、求人が減ってしまった学校の困惑が伝わってくる。学校側からの補足的インタビューにおいても、その減少が極めて著しいかったことが指摘されている。また、そうした少ない求人に「（どんな求人があるかは）進路指導の方が聞いてくれて、みんなに紹介するという手はずだったんで自分の希望はあんまり出しませんでした。」（25cf）と、就職できる者を増やすために学校側は綿密な指導をもってあたっていることがうかがわれる。

> *（どういうところ面接受けましたか？）*事務系…２～３社。*（事務じゃないと嫌だったの？）*いやサービスでも良かったんですけど、情報処理で検定とかも受けていたのでそのほうがいいかなと。*（どういう検定受けていたの？）*情報処理技能検定・ワープロ検定・簿記とか。*（この求人は自分で選んだの？）*いや先生のほうから。
>
> **＜25cf・18 歳・高校卒・女性＞**

表１－５　就職できなかった高卒ケース

対象者ＩＤ		24cf	25cf	26cf	27cf	28cf	20cf
	年齢	19	18	20	18	19	18
	学歴	高卒	高卒	高卒	高卒	高卒	高卒
	性別	女	女	女	女	女	女
	地域	東北	東北	東北	東北	関西	関西
	現状	無業	アルバイト	アルバイト	無業	無業	アルバイト
高校卒業字時	求人が少ない	○	○	○	○	○	
	家計の制約で非進学		○	○		○	○
	希望職種は要進学		○				
	希望職種求人なし･見込みなし	○		○		○	
	急いで就職することはない					○	
	学業不振・遅刻					○	
	校内選考で落ちた				○		○
	面接受けたが不合格		○		○	○	
	一次応募不調で活動休止				○		

*（９月に入社試験受けましたか？）*受けようと思って夏季見学とかも行ったんですけど仕事がはっきり男性て言うわけではないんですけど、仕事ができたらそっちのほうみたいな内容が。履歴書とかも書いてたんですけど途中で止めて。…印刷オペレーター。でも先生の話だとパソコンでできるっていうことだったんだけど、…会社のほうから「事務系だと思ってると違うかもしれないので見学に来ませんか」ていうことで見学に行ったらちょっと違った。…*（その後は？）*殆どみんなこう自分の（受ける）会社決まってるから、他は事務系が少ないっていうのもあって、なかった。…先生からは何個か紹介されたんですけど。…事務じゃないっていうのもあって。そんなに強く「事務じゃなきゃダメ」っていうわけではなかったんだけど、なんか「違う」っていうか「無理かなー」みたいな。…やっぱり９月に受けた会社が思ったところと違うということでなんか、こう、やる気がなくなったというか。

＜24cf・19 歳・高校卒・女性＞

（高校で、求人票を見て）いろいろ考えたんですけど、やっぱよく分からなくて。求人票とかみて「ここ受けたいですけど」っていうと、（先生から）こう何かこっちの方がいいっていうか、ここはどういうとこかとか、条件とか色々聞かされて、多分、女は採らないとこだとか。そういうのがあって。…結局はもう全然受けないで。…*（先生が薦めてくれたところはありましたか？）*はい。お菓子の製造とか薬やさんとか。…それは（隣の）Ａ市内だったんですよ、その薬屋さんというのが。通勤のことを考えるとちょっと無理かなっと思って。駐車場も無かった所なんで自分でとるか、それか電車とかバスとか使って行かなければダメだという所で。で、それを考えると給料からやっぱ毎月5 千円・6 千円引かれていくことを考えると。

＜26cf・20 歳・高卒・女性＞

*（求人票を見てやりたい仕事は？）*ケーキ屋さんとかあったんですけど、倍率がすごく高くて、推薦とかも通れなくて。で、結局受けたところがホテル関係（の接客）だったんです、全部。（接客だったので）心配なとこあったんですけど、でもやっぱり挑戦してみるのもいいかなと思ったし、いろんな人と接してみたいとも思ったんで。…（ホテルを受けたけれど決まらず）自分で、求人とか見て探そうかと思ったんですけど、なんか結局アルバイトになっちゃって。

＜27cf・18 歳・高校卒・女性＞

（25cf）のケースは、商業系学科卒で検定資格も多く持っている生徒で、学校側が事務職への斡旋を積極的に行ったが、合格できなかった。また、（24cf）のケースでは、学内の成績は良好で学校推薦を得て印刷オペレーターに応募する予定でいたが、夏休みの会社見学で、仕事内容に誤解があって（学校で修得した）パソコンが活かせる仕事ではなかったことがわかり、応募せずに断念する。（26cf）も成績の良い生徒だが、応募先がなかなかきまらなかった。担当教員は採用可能性を吟味し、相談にも時間をかけているようだが、結局、卒業まで一つも採用試験を受けていない。（27cf）も、応募したいところは学校推薦がもらえないし、その後、応募はしたが内定はもらえなかった。就職活動をしなかった生徒と違い、高校の指導に乗って就職活動をしているこれらのケースは、出席状況も良好だし、検定資格の取得などでも努力してきた生徒である。

また、次の（28cf）は、都市部のケースだが、専門学校進学希望があって応募が遅れた。進路指導のスケジュールに従った推薦・応募の時期を逃すと、十分な求人がないだけに就職のチャンスは非常に小さくなる。

このケースもそうだが、学校内での斡旋が難しくなった段階でハローワークに直接生徒を連れて行くなど、ハローワークのサービスを利用することも活発に行われている。学校とハローワークの協力関係のあり方は地域によって異なるが、求人の少ない地域、求人の少ない学校ほど緊密な連携をとっていると思われる。

> *（高校卒業後の希望は？）*料理関係の専門学校に行きたかったんですよ。でも、親に反対されたんですよ。お金かかるじゃないですか。…ほんまに料理の勉強したいんやったら、どこかに、見習いで就職か何かして、勉強して調理師の免許とりなさいという感じ…それもいいかなって思いましたね。働きながら勉強もできるしお金も稼げるし。（*そう思ったのはいつぐらい？）*３年の終わりぐらいに、やっと、もうしょうがないかなという感じでしたかね。*（卒業まで時間がない？）*全然ないですね。…（３年の１、２月ぐらいに）学校から、就職できなかった組といったらおかしいですけど、できなかった子らで、まとまって、（ハローワークに）先生たちが連れていってくれたという感じ。…一応面接には行っている。*（どんな仕事？）*サラダを売る関係。百貨店とかでサラダを売っているじゃないですか。…見事に落ちました。…１週間か、それぐらいしたら連絡しますみたいなんやったんやけど、全然連絡来なかったから、「先生、どないなってんねん。ちょっと聞いて」って聞いてもらって。
>
> **＜28cf・19 歳・高校卒・女性＞**

これらのケースは卒業後の状況は、（25cf）は一般の求人広告でホテルのアルバイトに就き週６日働いている。正社員への希望があるが、「（ハローワークに行って）探してたんですけれど、20 歳からって分かったんで…」と 20 歳以下では応募できる正社員の求人が少ないので、しばらくはアルバイトでと思っている。（24cf）は応募する意欲をなくし「あんまり焦りはなくて、自分のやりたいこと見つけようかなって、他に勉強したいの見つけて…」という気持ちで卒業し、現在は就職には自動車免許が必要だと思い自動車学校に通っている。（26cf）

は、学校の紹介で地方自治体のインターンシップ事業に応募し、それを契機に、現在のパートでの事務職に就いた。１日５時間なので条件がもっといいところがあればとは思うが、事務の仕事内容は気に入っていてしばらくは続ける気持ちになっている。正社員（27cf）は、卒業後、求人誌で探した個人経営の製パン店にアルバイトで入るが早朝からの仕事に体のバランスを崩して辞めて、現在求職中である。（28cf）は「そんなに焦って就職しても自分のやりたくない仕事とかやったらすぐ辞めちゃうと思うので」と、在学中の回転寿司のアルバイトを続ける事にした。ただし、現在は母親の体調が思わしくないため辞めて家事を主にしている。

これらの例でアルバイトに就いた者は、基本的にまじめな態度で就業している。短期で辞めた（26cf）のケースも、次のとおり就業への前向きな態度が感じられる。

> （アルバイトをして良かったことは）なんか、やっぱ職場って人間関係すごい大事じゃないですか。入ったときからすごいみんなやさしくしてくれて、で、やっぱり自分の仕事をすごいまかされるじゃないですか。で、自分ができないと、みんなに迷惑をかけてしまうってのがすごい分かったんですよ。で、すごい責任感もでてきて、そういう面ですごいよかったなと思いますね。
>
> **＜27cf・18 歳・高校卒・女性＞**

なお、（20cf）のケースは、当初は就職希望があったが校内推薦を取れず就職をあきらめ、平行して考えていた大学進学に志望を絞った者で、現在は卒業校での臨時の仕事に就きながら進学準備をしている。

3.2　就職できなかった高等教育卒業者

高等教育卒業者にも、就職活動はしたが就職できなかったという者は少なくない。

就職できなかったケースの特徴として、まず専門学校・短期大学の２年課程の場合で、２年目の卒業制作などに時間をとられて、あまり就職活動に時間を割けなかったというケースである。このうち、学校での専門領域に対応した一定範囲に応募先の職種・業種を限定して就職活動をした場合（30ef）では、卒業後も同じ領域で長く就職活動をしており、また、現在就いているアルバイトも同じ領域の仕事である。専門職としてのキャリアを求めてぶれない方向性があるケースだといえる。

> *（就職についてはどう考えていましたか？）*短大の２回生はみんな、それは考えれない状態、忙しくて。卒業、普通、論文とかなんですよね。でも、ファッション科だから作品。ファッションショーするから。それに１年つぶれるから。…うん。余裕がある子は、就職活動は多分してたやろうけど、そんな多分できてないと思う。…就職はとりあえずしなかった。
>
> **＜29ef・24 歳・短大卒・女性＞**

表１－６　就職できなかった高等教育卒業者ケース

対象者ＩＤ		29ef	30ef	31ef	32em	33em	34ef	35em	36em
	年齢	24	24	24	28	27	24	25	25
	学歴	短大卒	専門卒	短大卒	大卒	大卒	大卒	大卒	大卒
	性別	女	女	女	男	男	女	男	男
	地域	関西	首都圏	首都圏	首都圏	首都圏	首都圏	首都圏	首都圏
	現状	アルバイト	アルバイト	無業	アルバイト	アルバイト	アルバイト	アルバイト	無業
高等教育卒業時	職種絞って就職活動		○	○	○	○	○	○	
	就職活動よりやりたいこと							○	○
	応募しても採用にいたらず	○	○	○	○	○	○	○	○
	個人的トラブル	○							
	どうしても就職とは思わない			○			○	○	
	同級生も就職できずアルバイト	○	○	○					
	浪人・留年で年齢高い				○				
	公務員受験			○	○	○			

*（２年生になると就職活動するんですか？）*するんですけど、みんな卒業制作とかがあってなかなかそれだけにみたいにできなくて厳しかったですが…あまり就職活動はしてないです。２年の途中は。…*（就職する気がなかったというんじゃなくて？）*時間がなかった。就職活動しなきゃというか、就職活動って何みたいな話をそこで、まだ何もわからないみたいな、周りの友達もあまりそういう話はしなかった。…*（エントリーシートとか書かなかった？）*絶対無理だけど、おふざけっぽくみんなで大きいところへ出してみようみたいなところですね。そういうの１回ぐらい。*（この先どうしようみたいなことは？）*最後ら辺で、ちょっと考えなきゃなと思ったんですけど、そこまですごい深刻には考えてなかった。

＜30ef・24 歳・専門学校卒・女性＞

（短大を出るときに就職活動はしましたか？）…短大のときに受けたのは２つぐらいで、あと、公務員試験を受けたんですけど、二次試験で落ちました。*（どっちのほうが本命？）*ちょっとよくわからない。とにかく何か就職できればいいかなと思って。…*（就職活動は大変でした？）*そんなに頑張ってなかったので、大変って感じは…。*（会社を回ったりとかは？）*そういうのは全然ないです。*（受けた２社はどうやって？）*たまたま求人広告というか、募集を見たので応募した。１個は農協と、地元の信用金庫。

＜31ef・24 歳・短大卒・女性＞

前２ケースは、専門教育のさなかで就職活動は後回しのケースだが、(31ef) のケースは、専攻は日本文学で２年次には就職活動に入る環境にはあった。しかし、次のとおり、就職活動への意欲はそれほど高かったわけではない。

*（短大の就活のときに、ほかの人は結構バリバリやってた感じ？）*私の友達はバリバリやってなかったです。*（それはどうしてかな？）*どうしてなんでしょう。私の周りで、卒業した時点で就職がちゃんと決まっていた人っていないんですよ。みんなバイトとか。*（そんなにすぐ仕事を見つけなきゃっていう雰囲気ではなかったんですか？）*はい。

＜31ef・24 歳・短大卒・女性＞

どのケースも、「みんな」「周りの友達」は同じように、時間に余裕がなかったり、意欲的

でなかったりと、同じような行動をとっている。短大・専門学校卒業生にのみの特徴ではないが、友達、仲間集団の行動が、相互にそれぞれの就業行動に大きく影響を与えている。

なお、(31ef) のケースは、卒業してしばらくしてから週３日に事務のアルバイトに就き３年ほど勤めたが、その後仕事が減ってしまったので退社する。今は求職中だが、パートやバイトと正社員との差は、あまりないと考えている。「もし結婚とかしても、子供を保育園に預けて、バリバリ働くわというタイプじゃない」という将来展望がこうした意識、行動の背景にあるのだろう。

４年制大学卒業者のケースで、卒業までに内定が得られなかった理由としては、やはり職種・業界を絞った就職活動が挙げられるが、その絞込みは専門学校・短大と違って、専攻学科に直結する職種・業界ではなかった。本調査でみられたのは、公務員試験や外交官試験などの資格試験を目指したケース、さらに応募倍率の高い出版社などに絞ったケースがある。

４年生のときに外交官の試験を受けましたね、ノンキャリのほうですけど。…大学時代（浪人と留年）でつまづいちゃったということがあるので、民間のほうで就職活動しようというのがあまりなかったんですよね。…民間はやめて、じゃ、公務員でやろうと思って、外交官、ノンキャリアのほうを２回受けて、２回受けて残念だったですけど。…*（外交官になろうと思ったのはなぜですか？）*当時、自分なりに就職について思ったということは、何か取り柄がないと難しくなっているなと思ったんですよ。派手な生活とかは全然思ってなかったですけど、ノンキャリアのほうだったら、いろいろなところに、どこかわかりませんけど、例えばアフリカならアフリカのどこかの国に行かされて、言語を修得してとかそういうことがあるじゃないですか。自分なりにツテを使って、元外交官、ノンキャリアだった人の話を聞いたりとか、あんまり勧めないよということを言われましたけどもね。でも、その人もやっぱり今、外務省をやめてからロシア語の通訳をやっていると言ったし、やっぱりそれだけのすべはあるんだなと思ったので。…専門性というところかな。それにあこがれたのかな。

＜32em・28 歳・大卒・男性＞

（就職活動は）３年ぐらいからですね。…食わなければいけない、何しようか、営業は嫌だと。営業こそ日本の企業の一番悪い部分を温存しているところがある。…そこで今度は出版という。あれかな、大手出版社は嫌ですから、専門書をつくっているような小さい出版社を回ろうかなと思って、それが大学３年の２月ぐらいかな。…40 社ぐらい受けましたね。あちこち。公的な仕事はしたかったし、そうすると〇〇公団とかも受けたりとか、小さい何とか財団法人とか、それで何だかんだで 40 社ぐらい。出したのが 80 社ぐらい。そこでさっき言った鉄道関係、好きでしたからね。…冬まで頑張りましたけどね。もう１月越えて無理だと。何もないし…。*（それでどうされたんですか？）*それで…六本木の学生職業相談施設とか、そこに行って、相談員の方としゃべっているうちに、ああ、公務員というのもいいな、そこで初めて公務員が出てきたんです。確かに（ゼミで）ジェンダー論とかやってて、ある種、ああいうものというのはお金というよりもむしろ政策だったり制度だったり、そこともリンクしてくる。確かに鉄道が好きだった、観光も好きなんです。まちづくりという、交通政策とかそういうキーワード。何かおれに向いてそうじゃないかと。そうすると市役所とかいいなと。市役所を受けてみようかなと思って市役所。公務員の中でも特に市役所を受けて、科目も少ないから。…（卒業してから）予備校に週１回行ってました。何もわからなかったですからね。そこに行って勉強してという。〇〇市役所を受けたんです。最終までいったんです。やっぱり面接。

これも面接だった。落ちましたね。

＜33em・27 歳・大卒・男性＞

*（大学時代の就職活動は？）*私は出版社を数社受けました。*（出版社だけに絞って？）*出版社はすごく難しかったので、(後には) 普通の事務職で２社ぐらいだと思います。(*出版社は大学に入る前からの希望ですか？）*いや、なかったですね。就職活動を始めるというぐらいになってから…。*（どうして出版社がいいと？）*出版社にいるといろいろな人に会えたりとか…。ほんとうに漠然とした考えでした。…*（就職活動はいつごろからいつごろまで？）*３年生の 12 月（がはじめで)、それから４年の夏過ぎにも事務職とかを受けたと思います。だから秋ぐらいまでです。*（結構頑張った？）*あんまり頑張っていないです。…そんなにリサーチとかもなく、出版といって気楽に始めてしまって…。だから、気持ちがすごくなえていましたね。それと、やっぱり出版を目指したい人というのは、ほんとうに前々からそういう出版社に就職するためのセミナーとかにちゃんと通っていろいろと勉強をしているのに、自分はやってきていないし、自分はそこまでして出版に行きたいという気持ちがあるのかどうかという疑問がすごく出てきましたね。

＜34ef・24 歳・大卒・女性＞

それぞれケースが、それぞれの思いから、公務や出版業への絞込みを行っている。(32em) のケースは、在学中に半年海外を放浪したこともあり単位が取れずに留年、それに加えて入学前に２年の浪人期間がある。こうした経歴が民間企業への応募を早い段階であきらめさせていると考えられる。(33em) のケースは、社会と自分の関係を考え続け、接点を広げながら就職活動は積極的に行っている。内定に至らないのは、面接での自己表現が苦手であるから、そして、それが苦手になった背景には、大学でのジェンダー論のゼミでの「頭でわかっても感情でわからないという」議論に、発言できなくなる自分を感じてきたことがあると自己分析する。

(34ef) のケースは、漠然とした面白さを出版に感じでの絞込みだが、事前の準備不足に気づき、次第に就職活動への意欲を失っていく。自分と仕事とをどう関連付けるのか、むしろこれ以降に悩み始める。

就職内定を得られない大学生の一つのタイプとして、「就職」を目前にして働くこととは何かを考え、その一応の結論として業種・職種の絞込みを行うが、求人が減少した中で、その現実的接点がうまく設定できないというものがあることが考えられる。

次のケースも、働くことそのものをどう自分の中に消化するのか、学生時代の就職活動をひどく限定的なものにすることでその段階の自分との折り合いをつけ、(その折り合いのつけ方では産業界からの了解は得られず) 就職をあきらめ、海外放浪で自分を見つめようとしたものだろう。

（育ててくれた祖母がなくなってから)、何か就職とかも、大学卒業したら就職しなきゃいけないのかなみたいな疑問を感じるようになって。…すごいいろいろ考え始めた。別に大手に入らなくてもいいんじゃないか。それまで当たり前に思ってたことを、ちょっと考えるように（なった)。*（就職活動は？）*何かやりたい仕事だったら、いいかなっ

て。そのときは、映画は好きで、スノーボードがすごい好きだったので、映画の配給会社と〇〇スポーツにエントリーシートを出して、でももうそのぐらいしかやらなかった。…あと、カード会社。それが何か、海外研修ある、みたいな感じで。…*（結果は？）*それはもう全然だめで、エントリーシートからだめだったから。で、もう坊主にしましたね、とのときに。…「もう就職活動いいや」みたいな感じで、丸ぼうずにして。…*（大学の就職課で情報とったり相談したりは？）*してないですね。何かぺらぺらとＯＢがいる会社とかは見たりしたけど、相談とかもほとんどしなかった。…*（就職をやめてどうするつもりだったの？）*もう、あれ、海外…。多分、もう大学３年の冬ぐらいかな。海外行きたいみたいなことは、家族に言って、親は、行くんだったら、休学して留学しなさいって言ったんですけど、何かそういうんじゃないんだよなと思って。…卒業してから行くみたいな感じで、卒業して。

＜35em・25 歳・大卒・男性＞

これらのケースには、自分の生き方、働き方を正面から考えて進路を見つけ出そうとする生真面目な方向性が見て取れる。ここでは、「周りの友達」や「みんな」の行動は意識されていない。就職活動を限定的にしているのは、青年期の課題にまともに向き合う過程での行動であるためだと思われる。

これに対して、次のケースは業種については「新卒採用ならどこでもいい」と業種や職種にはこだわりを見せず、一方で、地域や保険・年金、労働組合といった働く条件面を重視している。

*（大学を卒業する前には就職活動はしましたか？）*大学の就職課で一応あっせんしてくれたところを、自分の意思ではないんですけれども、やっぱり新卒のうちにやっておいたほうが、全然あれじゃないですか。…*（何社面接受けた？）*２社しか。だから就職課の人に、大学のほうであっせんしていただけるようでしたら、もう喜んで採用試験を受けさせていただきますと、就職課長の方に言ったんです。*（自分で面接会・会社説明会とかにはほとんど行ってない？）*あんまり行かなかった。…新卒でどこでもいいという考え方もあったんです。もう新卒でもし採用してもらえるんだったら、どこでも業界・業種は問わない。*（機械工学専攻だから、求人はあったんじゃない？）*そうです。ちょっとあまり乗る気にならなかったのもある。でも、何かちょっとそこがあいまいなんですけれども、待遇とかを見てみるとちょっとだめだなと、やっぱりもって１年かなみたいなところだったので、やっぱり長続きできるところがいいですね。多少はちょっと慎重になるところもあります。そういった幾らどこでもいいところだといっても、首になったらだってキャリアにもならないですよね。それに次の就職にためにはやっぱり不利になってしまうので、*（受ける気になったのは？）*やっぱり東京都近郊とか…あと、福利厚生とか、労働組合があるといったとか、…健康保険、雇用保険とか社会保険、厚生年金とか、そういった４つがちゃんとそろっているところとか。そういった数字とか見てみると、意外とないところもあるんですね。

＜36em・25 歳・大卒・男性＞

このケースは、最初の３年次は卒業の見込みが立たないため就職活動に入れず、留年して必要単位をとってから、学校での斡旋に乗れるようになった。「どこでも」というのはその焦りもあると考えられる。結局２社とも失敗し、そのまま卒業だけする。そこで、「仕事選ぶのって重大な選択じゃないですか。なので、何かいろいろな仕事を経験して、そこから何かち

ょっと仕事の楽しさが見つかれば、そういった仕事につこう」と、アルバイトでの就業を選ぶことになる。

この行動まで含めれば、これらのケースに共通することとして、最初の「就職」の重要性を意識して、将来にわたる重要な選択であるだけに、自分の生き方とどう折り合いを付けていくのかを正面から考えていることが指摘できる。そのプロセスと就職活動が平行している状態だから、なかなか正社員就業に至らない。

各ケースの卒業後の状況を確認しておくと、まず、(32em) は、いったん郷里に帰って社会保険労務士資格のための勉強をし､取得のめどがたってから上京して求職活動をしている。求職活動をとおして、資格をとっても実務経験がなく年齢が高いので良い条件での就職は難しいと言う認識を持ち、また、違う学校にかよっての資格取得を考えている。(33em) は、その後郵政の試験に合格して郵便局勤務するのだが上司と折り合わず短期で離職、次に、知人の個人経営企業を手伝うがこれも経営方針に納得できず離職し、現在は、公務員をあらためて目指しての勉強と大手スーパーでのアルバイトをしている。アルバイト先には正社員登用が制度化されており、こちらの方向も考えている。(34ef) は、卒業前に就職活動を断念して「おもしろそうだ」とテレビ局のアルバイトに。フリーターでもいいと考えていたがあまり日数が入れないので、事務職希望で就職活動を再開するが決まらない。では資格をと簿記の勉強をして、資格取得の見込みをつけてハローワークで求職。そこで「本当にやりたいと思っていれば大丈夫」と励まされたことが、逆に「本当に自分がやりたい仕事はどういうものか」とまた、自問を始めてしまった状態である。(35em) は、卒業後、パチンコ屋でアルバイトをしてためたお金に親からの借金を加えて、ニュージーランドで 1 年間ワーキングホリデーを過ごす。帰国してからは飲食店でのアルバイト。親に申し訳ないと、何とか就職したいと思っているが、「じっくり考えて…就職できたとしても半年とか 1 年だったら意味はない」と情報収集の段階だという。(36em) は、卒業後はテーマパークで 9 ヵ月アルバイト、その後インターネット接続会社での電話相談の仕事などアルバイトを転々とし、現在は、あと 1 ヵ月で 26 歳になるという年齢に恐怖感を感じながらヤングローワーク等で求職活動をしている。

3.3　小括

本節では、学校卒業段階で就職活動をしたにもかかわらず、不調に終わり、アルバイトや無業になったケースについてみた。

高卒者では、学校内での成績や出席状況の良い生徒が学校斡旋プログラムに乗っているのだが、地方部では求人減が著しく、就職できない状況があった。また、都市部でも就職志望のタイミングが遅いなど、プログラムに乗るタイミングを失すると就職できない状況があっ

た。卒業間近には、直接ハローワークに行ったりと活動レベルを高めているが、20 歳未満で応募できる求人は少なく不調であった。卒業後は、出勤日数の多いアルバイトでまじめに継続的に就業しているケースが多い。公的機関での若者向け有期限雇用のプログラムは有効で、これを契機に就業チャンスが広がっている者がいた。高校の就職斡旋にのって活動した生徒は、勤勉さを備えているケースが多く、アルバイトに就いても勤勉な様子がうかがえる。

短大や専門学校の２年課程の卒業者では、卒業制作などの２年次の専門教育と就職活動を両立させることが難しく、就職活動が不活発だったケースがある。こうした場合、学校での専門を生かした専門職への希望が強いので、卒業後も方向性のあるアルバイトをし、専門職への求職活動を続けている。また、専門職に直結しない課程や本人が特に専門職での就職を望んでいないケースでは、(事務職求職となり) 就職できないことが珍しくない状況になっている。学校の友人、仲間集団の行動が本人の行動に大きく影響を与えている。また、専業主婦志向もあって、アルバイトに就くことに抵抗がないケースもあった。

４年制大学卒業者では、自由応募の慣行の中で、業種・職種の絞込みをどう行うのかが難しい課題になっていた。一斉一括採用のタイミングに乗る「就職」の重要性を意識しており、それだけに、就職と自分の生き方とどう折り合いを付けていくのかを正面から悩んでいるケースが多い。その時点での自己認識・考え方にしたがって業種・職種の絞込みをおこなっているのだが、現実的体験不足もあり、現実的な労働市場とのすりあわせが難しい者もいる。また、大学入学時点で浪人し、在学中に留年し、と複数年の遅れを感じているケースで、公務員や資格職業への志向が強くみられた。移行のいずれかのタイミングで乗り遅れることが、（民間企業における）一斉一括採用、入社年次による人事管理において不利になると感じ、こうした志向につながる面も考えられる。

４. 早期離職

次に、学卒就職したものの短期のあいだに辞めて無業やフリーターになったケースについてみる。これも高校レベルと、高等教育レベルに分けて検討する。

4.1　高卒就職者の早期離職

就業準備不足

早期離職した高卒就職者のうち、最初の（37cm）のケースは、入社式の日取りを聞いていないと出社せず、そのまま連絡を採ることなく、辞めてしまっている。(38cf) は体調を壊してということだが、４日間でやめている。最初の職に就いたともいえないあまりに短期の離職は、背景に求人が少ない中での選択で不本意なところもあるだろうが（さらに、(38cf) の健康問題の背景は不明だが)、生徒の側に就業への準備が十分できていないことに問題があっ

たケースだと思われる。なお、(37cm) はその後、ハローワークに求人を見に行っているが、結局、今は友人の誘いでカラオケ店でアルバイトをしている。(38cf) は、「正社員・パートって別にこだわらないで、とにかくなんか自分がしたい仕事があったら、入れたらラッキーぐらい、しか思ってない」と「仕事を探したり探さなかったり」という状況にいる。

表１－７　早期離職した高卒就職者のケース

対象者ＩＤ		37cm	38cf	39cf	40cm	41cm	42cm	43cm	45cm	46cf
	年齢	19	18	19	19	22	24	20	24	19
	学歴	高卒	高卒	高卒	高卒	高卒	高卒	高卒	高卒	高卒
	性別	男	女	女	男	男	男	男	男	女
	地域	関西	関西	関西	関西	関西	首都圏	東北	関西	関西
	現状	アルバイト	無業	無業	アルバイト	アルバイト	無業	無業	アルバイト	アルバイト
	就職先	機械部品工場	印刷会社	金物製造卸売り	日本料理店	日本料理店	土木建築	トラック運送業	自動車部品販売	美容院
	就業期間	0日	4日	2ヶ月	3ヶ月	1年半	5ヶ月	10ヶ月	3年	1年2ヶ月
正社員就職先離職	不本意就職先	○						○		
	長時間労働				○	○		○		○
	孤立的職場				○			○		
	入社式知らず	○								
	上司とのトラブル					○	○		○	○
	上司からの暴力						○			
	勤務地変更(住居移動)				○	○				
	バイトのほうが楽しそう					○				
	勤務条件が違っていた									○
	大卒との格差								○	
	仕事がこなせない			○						
	仕事内容あわない			○						
	体調不良		○							
	経営不安(やり直せるうちに)					○				
	業界への幻滅									○

(高校在学中、就職活動は？) しました。…職種っていうのが、ほんまに全然なかったんで、仕事選ぶということもできない位でしたね。「どれがいい」というのがないんで。… *(受けたんですか？)* 受けました。…近くて、土・日休みでという感じ、ほんまに楽なとこという理由で選びましたけど。…受かってたんですけどね。入社式の日取りとかの情報がなくて、「あったんや」思うんですけど、学校が忘れたのか、僕が忘れたのか分からないですけど。で、そのまま。*(入社式にいかなければ、学校から連絡はなかった？)* 一回電話かかって来ましたね、学校から。…「あやまりにいこか」とか言われたんですけど、そんな、「あやまって入るぐらいやったら、もう辞めとくわ」って、会社辞めました。

＜37cm・19 歳・高卒・男性＞

ハローワークも、あの学校から、最終的に、なんかみんなで、就職の子が行くっていうのがあって、そこに行って、見つからなかったらまた後で自分らで探してみーみたいな。… *(その時はいい仕事あった？)* あったりなかったり、人が多かったり、で後で行きました。*(受けに行った？)* はい。…受かったんですけど、受かって働き始めたんですけど、なんか、急に体調が悪くなって、なんか、辞めなあかんかったような感じで、辞め

てしまって、ほんとは…*（仕事の内容は？）*印刷の、こう点検みたいな。…正社員でなく、研修があって、期間があって様子を見て、できそうかできへんか、を向こうの人が決めるみたいな。*（続けたい気持ちはあったのかな？）*続けたかったけどどうしても辞めなくてはならなくて…辞めてしまってまた探さなあかんって感じで、うーん。*（期間はどれくらい働いたの？）*４日間しかいなかったです。たった４日間。

＜38cf・18 歳・高校卒・女＞

仕事内容が合わない

次のケースも２ヵ月と短期の離職である。このケースは営業事務の仕事内容が自分で無理だと感じての離職で、事前の職場見学があれば、本人が確認できたことではないかと思われる。

学校紹介みたいなん。就職した。*（どんな仕事？）*仕事は営業事務でした。…パソコンと電話と、あの、なんかいろいろ伝票とか、発行とか、なんかいろいろ。…お客さんを担当するってことになったんですよ。…「今度からは私がやります。よろしく」とかゆった後にポンっとやめられへんから、その前に、あの、まぁやめようということで。*（やめたのは何月ぐらい？）*５月です。…３月の末ぐらいから研修が始まって、…けっこう初日らへんから、「こりゃあかんわ」って思いました。…電話とか、「あっ、これは私はやっていけるもんじゃないなぁ」って。…なんかこういろんな、聞いてたら、なんかすごいなんっていうか、うまいこというじゃないですか、お客さんに。そういうのが私、ちょっとあんまり。なんかうまくなくて、なんかいってる自分も嫌やし、とかなんか、とにかくなんか無理とか思って。

＜39cf・19 歳・高校卒・女＞

勤務地の変更と仲間集団

次の（40cm）のケースも在職期間は３ヵ月と短い。勤務地の変更と住み込みで働くという勤務条件の変更を提示されてやめている。この場合は労働条件の変更という以上に、「遊び仲間」を非常に重視する若者側の価値観と、職場サイドの「友達と縁切らなあかん」という方針との対立が大きい。個人経営の小さな職場で、職場での仲間集団が形成できない環境において、在学中からの遊び仲間の存在は、若者にとっては心の支えともいえる重要な人間関係であろう。一方、職場からすれば、その遊びのために仕事に身が入らないとマイナス要素にしか写っていない。職場が期待するプロへの覚悟という意味では職業人としての準備不足ではあるが、同世代の仲間集団が形成できない孤立的な職場で職業生活を始める若者の心情には配慮が必要だろう。本人は、中学時代から調理師への関心が強く、現在のアルバイトもスーパーの売り場で魚をさばいている。将来は食べ物屋を持つことが夢だという。

また（41cm）も、離職のきっかけは○○（他県）への転勤命令である。このケースでは、就職先選択時にほとんど何も考えず、「寮がある」という条件を満たす求人で、求人一覧表の最初に出てたところに、それだけの理由で応募してしまっている。1 年半と長く続けてきたが、「大事なことを全く考えていなかった」と自分の進路選択を反省している。この時点で転

勤命令をうけて動揺し、さらに、アルバイトをしながらバンドにかけている友達が楽しそうに見えて、離職を決意している。やはりここでも友達と会えなくなる「転勤」は受け入れがたい条件になっている。このケースのその後は、別の友達の誘いでガードマンをしていたが、いったんは正社員で○○会社に就職した。が、経営状況に不安を感じやめて再びガードマンのアルバイトに就く。今は「一生面倒見てくれる会社を探したい」。友達が就職して、焦りを感じて求職活動をしている。

> *（就職先は？）*個人経営なんですよね。結構、繁盛したところで、お医者さんとか、そういう人らが来るような。…*（お休みは？）*月曜日。最初はそれは嫌やったんです。仕事が終わってから遊ぶの、しんどいじゃないですか。*（３ヵ月でやめたのはなぜ？）*住み込みで違うところで働けいう感じで言われたんですよ。…もう、強制的に行けみたいな、ほんとに聞いてなかったんですけど、最初、面接のときに３ヵ月は見るけど、それで使われへんかったら何か違うところへ行かすみたいなことを言うとったんですよ。…そこの店に一遍連れて行かれたんです。…今日からでも来いみたいな、言われたんですよ。荷物は今度持って来いみたいなんで、それは嫌やったんですよ。友達と余計遊べなくなるじゃないですか。Aいうたら通える距離なんやけど、最初から住み込みでって言われたんですね。…やる気があまり見えへんと言われたんですよ。で、家帰って、一遍聞かれたんですよ。友達ともそんな。それじゃあかんとか何か言われて、友達と縁切らなあかんとか言われたんですよ。そのために住み込みで働け言うて。嫌やったんでやめた。
>
> **＜40cm・19 歳・高校卒・男性＞**

> *（高校での就職先決定は？）*就職組やったんですけど、夏休みの登校日いうのが最終決定か何かだったんですけど、その日忘れてて昼過ぎまで寝てたんです。M先生に電話されて、就職せんのかって。…友達とかすごいせかされてて、僕、就職するときは家を出ていけと言われていたんです。寮のあるようなところに行って、出ていきなさいと言われていたんで、先生に寮があるところを探してますみたいなことを言って、寮あるところで一番のページで、上から、あっ、寮と、一番最初に入っていたこれという形で決めちゃったんです。…*（料理店に１年半勤めたあと、なぜやめたのですか？）*○○（他県）の店に行けと言われたんです。そのときに確信しました、嫌やと。絶対嫌やと思いました。…*（何がいやで？）*△△（地元）を離れるのは話にもならなかったです。そういうことを考えてたんで、将来、ずっとやるんかな。初めての就職で、大事なことも全くちゃんと考えてなくて、その１年半ぐらいでやっと気づき出したときに、ちょうどタイミングでそう言われたんで。考え出したときに、あっ、やらんわってすぐわかったんです。…○○（他県）に行くと言われる前に、…久しぶりに仲よかった友達と会って、その子がバイトしながらですけど、ものすごい自分のやりたいことをやってて、楽しそうに見えて、ああ、いいなと思ってた矢先に○○（他県）に行けと言われたんで、胸張って嫌と言いました。（お友達は*何をやってる子なんですか？）*バンドやってましたね。楽しそうでした。
>
> **＜41cm・22 歳・高校卒・男性＞**

職場の暴力

次の（42cm）は「何をしていいか分からない」ことから親のツテで土木建築の職場に入るが、ここで親方から暴力的な指導を受け挫折する。暴力が離職の引き金だが、選択時の方向性のなさが、背景要因にあったのだろう。離職後、この失敗のダメージを引きづってしばらく仕事につけない状態であったが、その後レンタルショップのアルバイトに就く。接客が合

わないと思ってやめ、さらに無業の期間があって、後に食品仕分けのアルバイトに。仕事が少なくなったため辞めて、今は、求職中である。

*（高校のときの進路指導は？）*進路に関しての指導って、特にね…。ほんとになかったように思いましたね。…*（進路指導室はあった？）*ありました、ありました。そこに学校の求人っていうのが。そこから自分が見つけていって。…そんな感じでしたね。ただ、やっぱり、…自分は就職っていっても何やっていいかわからなくて、何の仕事を見つけていいか、探していいかもわからなくて。*（先生からのアドバイスとかはなかった？）*特になかったです。僕自身も先生には、特に相談はしなかったですね。…（親に）自分は何やっていいかわからないんだけど、どうしたらいいかなみたいな相談を親に持ちかけて、そうしたら、じゃあ、知り合いの土木の会社で仕事あるから、ちょっと行ってみてやってみるかという話になって、最初についたのがこれだったわけです。…*（それを５ヵ月でやめたのは？）*まあ、仕事ですから、もう、きつい、つらいということは我慢できるんですよ。仕事は多分、どんな仕事でもきついでしょうから。ただ、教えてもらう、上の親方っていうかが、とても厳しい方で、もう正直、毎日どなられ、たたかれの連続だったんですよ、正直。仕事がきついというのももちろんありはしたんですけど、ちょっと毎日、どなられ、たたかれの連続で、もう毎日それの繰り返しだったもので、時には蹴られみたいなね、もうちょっと仕打ち的な扱いされたんで、正直。ちょっとこれは精神的に続かないだろうっていうように自分で思って、もうやめる判断を自分で下して、それでやめました。

＜42cm・24 歳・高卒・男性＞

長時間労働・高密度の労働

正社員の職場での長時間労働の問題が指摘されているが、若者の離職の背景にも、長時間労働や、労働密度の高い職場の問題が影を落としている。

（運送会社に学校斡旋で就職）（勤務時間は）求人票では８時半～５時半までだったんですけど。実際入ってみるとやっぱり多少のズレはあって最初は７時から６時とか５時半くらいで上がらせてもらったんですけど、やっぱり仕事慣れてくるにつれて朝の６時とか。…で夜は 12 時過ぎちゃったりとか。始めびっくりしちゃって。10 時とか 11 時は普通でしたね、毎日。…（毎月の残業時間は？）だいたい 100 時間くらい。…（仕事をやめたのは？）やっぱ朝５時とか６時に起きて、夜遅く、またつぎの日も早く起きてということが続くと身体がだんだん持たなくなってくるんです。でも「やっぱりみんなやっていることだから」って我慢してたんですけど、やっぱり辛いなって。…（いっしょに入った同年代の人はいないの？）一人いました。18 歳の人が。でもその人は入って２～３ヵ月くらいで辞めちゃって。

＜43cm・20 歳・高卒・男性＞

大卒との格差

職場の学歴間格差も離職の要因になっている。次のケースは、力をつけ仕事をこなしているという自負があるだけに、後から入ってきて仕事ができない大卒との給与が逆転していることに納得がいかない。離職の要因としては以前からあったものだろうが、職場の高学歴化が進みつつあり、かつての高卒と同じ仕事で大卒が入ってきているという最近の傾向が特に理不尽さを強く感じさせるのだろう。

*（やめたのはなぜ？）*仕事の内容的には別に問題はなかったんです。週休２日で仕事もイライラなかったし、給料とか割に合わなくなってきて。３年も働いてくるとだんだん上に上がっていくじゃないですか。ピット長の代行やったんですけど、給料はそれに伴ってきてへんみたいな。で、不景気で高卒の子らが多かったんですけども、不景気やから大学卒業生とかもうちに来るようになり始めて、大手入られへんから、僕らみたいな会社に入ってきて、給料がスタート時点が全く違くて、たまたま大卒の給料見たんです。そんなら明らかに、ちょっとおれ負けてるやんみたいな給料やったから。…こっちは３年やって、ピット代行して、ある程度いろいろ仕事こなせるようになって、あほくさ思うて。…ちょっと待ってやみたいな。それで店長に話したんですけど、店長は全然話にならなくて、次長とかに話したけど、仕方がないみたいな。ならやめますわ…。なかなかやめさせてくれなかったですけど、もういいです、配転かえるいう話もあったんですけど。

＜45cm・24 歳・高校卒・男性＞

業界への幻滅

職場のいやな面を見て幻滅することも、離職の要因である。これも、特に新しい傾向ではないだろう。

*（高校卒業しはった時は、何をしてはったんですか？）*美容院に就職したんですけど、そこの会社の社長さんが経営してる職業訓練校に行って…*（美容院には、正規職員で就職したんですか？）*はい、社員で、…（今は）辞めて職業訓練校にだけ行って…*（美容院をやめたのはなんでですか？）*なんか、店のやり方とか、１年では分かれへんとかよく言われるんですけど、やっぱり人間のこととか、色々、嫌なこととかもででくるし、その、技術的なものでも見てもあんまり勉強になれへんとか思ったり、上の人は言うだけ言うけど、下のことはなんかあんまり分かってないみたいな、そういうところもあったから。

＜46cf・19 歳・高校卒・女＞

4.2　高等教育卒就職者の早期離職

高等教育卒業者の短期離職率も高まっている。そこで語られる理由を整理してみる。

表１－８　早期離職した高等教育卒就職者のケース

対象者ＩＤ		47em	48em	49em	50em	51em
	年齢	26	24	26	25	22
	学歴	大卒	大卒	大卒	専門卒	専門卒
	性別	男	男	男	男	男
	地域	首都圏	首都圏	首都圏	首都圏	関西
	現状	無業	職業訓練	無業	無業	アルバイト
	就職先	アパレル貿易商社	ベアリング製造業	レンタル業	外食産業	設計会社
	就業期間	1年半	5ヶ月	2年8ヶ月	4ヶ月	3ヶ月
正社員就職先離職	上司とのトラブル				○	
	上司からの暴力				○	
	他にやりたいこと					○
	勤務条件が違っていた					○
	仕事がこなせない	○	○	○		
	仕事内容あわない		○	○		

仕事がこなせない

（アパレル関係の貿易商社に入って、1 年半で退社）：*（仕事はやってみてどうでしたか？）*楽しかったんですけど苦労も多くて、とにかく体力が要って大変だった。あと寝る時間がないとか。… *（嫌ではなかったんですか？）*嫌までではなかったんですけど、どちらかっていうと、自分のミスが発生して周りに迷惑がかかったりとか、損失を与えるとか。結局、ミスっていってもお金が絡むミス。何のために仕事やったんだってことになっちゃうでしょう。周りの人にもすごい睡眠時間を削って仕事させる羽目にもなっちゃうし。それが一番つらかったですね。… *（やめることになった直接のきっかけは？）*仕事が大変だから回せなかったんですね。…やっぱり１つの、これだけ目の前にあってやっていればいいというんじゃなくて、在庫の管理もしなきゃいけないし、お客さんに対してはサンプルがどうのこうのとか、やりとりもやらなきゃいけないし、商品の搬入、搬出に対しても指示しなきゃいけないし、いろんな生産に関しての工場に指示も出さなきゃいけない。ほかにもＢ品が何枚とか、問題が起きましたみたいな話を、全部、平行してやらなきゃいけなくなっちゃうと、どこかが抜けちゃったらもうアウトですよね。そんなのがずっと続いちゃって、これ以上、続くともう管理できないってなっちゃったんですよね。…最低限、責任を負わないと、社会人として、やっぱり働いているってことになりませんからね。…向こうから、もうちょっと無理なんじゃないっていう感じで。僕もちょっともう無理だなって思った。*（やめたときの気持ちは？）*ほかの仕事にももうつけないんじゃないかって思い始めちゃったりとか。…こんな仕事もできないんじゃっていうのが１つあって、どこに行ってもだめなんじゃないかとか考えだしちゃったりとか。

＜47em・26 歳・大卒・男性＞

（47em）のケースは、学生時代からアパレル関係の仕事がしたいとの希望があり、積極的な就職活動をして、この会社に営業職で入った。意欲を持って仕事に取り組んでいたものの、仕事がこなしきれなくなり、自信を失って辞めている。最近の職場の傾向として、若手社員の負担の増加が指摘されているが、このケースに該当するのではないだろうか。このケースの場合は、周囲に迷惑をかけているとの負担感から辞職しているが、次のケースのように、仕事がこなせないことに厳しい評価を突きつけられて、辞めている者も少なくないだろう。

厳しい能力評価と退職勧告

次の（48em）のケースは、本人も 1 年ぐらいの下積み期間の配属と理解をしていたが、製造現場への配属で、機械そのものを使用した経験がない本人は非常に大きなプレッシャーを感じている。大卒社員をどのような労働力としてどう配属し、どう育てるか、本人と企業側の思惑の違いがあったと考えられる。こうした現場の忙しさにはついていけない本人の問題もあるだろう。結局、自己都合退職にはなっているものの、離職の背景には会社側からの厳しい能力評価がある。この点は、（49em）のケースも同様で、会社側の期待水準に達しなかったといっていいだろう。このケースは、「線路が引いていないと何もできない」と指摘され、また、アルバイト社員の多い職場での正社員として「人が使えない」ということが問題にされ、「なめられキャラ」と批判されている。さらに、「雇うのにいくらかかっていると思

っているんだ。無駄に金は払えない」と言う言葉を浴びせられている。

（47em）のケースを含めて、これらのケースでは、最初の就業先で突きつけられる厳しい評価が、退職後、本人にとって大きな課題となり、正社員として次の職場を求めて就職活動をすることを躊躇するようになっている。

（ベアリング製造の会社に入って５ヵ月で退社）：最初は下積みですからいろいろ雑用みたいなのをやってて。それで１年ぐらいと思っていたんですが、突然、結構責任ある仕事を任されて。責任あるというか、何というか、自分が仕事をやらないとほかの、流れ作業って言うんですかね、…自分は工作ということで、穴あけというのをやっていました。ボール盤とか、マシニングですとか。…（大学で関連領域の研究はしたが）ただ機械をいじったことはなかったです。…最初はうまくいったのかなと思ったんですけども、何かいろいろ教えられることが多くて。頭がちょっとパンクというか何というか、いろいろ教えられて頭がパニックになってたりとか。それでさらに雑用とかそんなことを。…一遍にいろいろなことを細かくとか、自分の弱点だとは思っていますけど。*（つらかった？）*つらかったですね。ほんとうに。休日も何もする気にならなくて。ただただ月曜日が憂うつで。ほんとにもう、何もやる気がなくて、少しでも時間を長く持ちたかったんですけど。…結局その部署では６月ぐらいまでやっていましたね。４、５、６ですね。「３ヵ月たっても残業できないのかって、新入社員で残業できないのはおまえだけだと。恥ずかしくないのか」と。…部署をかえてもらうことにしたんですが。社長も話をされて…何とか身につけようとは思っていたんですけれども。もう１ヵ月後ですか、ちょっと向かないんじゃないかって社長のほうからお話がありまして。それでちょっと親ともいろいろ話し合って。それでやめることを決断したんです。このままですと解雇になっちゃうので。

＜48em・25 歳・大卒・男性＞

上司とのトラブル・職場の暴力

上記のケースは、職場でのトラブルを本人が自分の能力の問題と捕らえているが、本人の問題としてではなく、上司・職場の問題として捉えているケースもある。このケースでは暴力も介在しており、本人の職場への思いはうらみに近いものになっている。このケースの場合も、すぐに次の求職はしておらず、違う方向を求めて資格をとる方向にすすんだ。

また、これらの層で目立つのは、在学中の就職活動の活動性は高く、何が何でも就職するという意欲が強かったという点である。（50em）のケースは特に、専門学校での斡旋が（学業不振のため）望めず、自力で探すと必死にがんばった末に得た職である。こうしたケースでの採用先は、これまで高等教育卒業者を多く採用してきた企業ではないことが多く、その育成プロセスが確立していないし、また、配属先も高等教育卒業者があまりない職場であることが多い。職場の期待が本人の認識に比べて、時には過大だったり、過酷だったりということがあるのではないかと考えられる。

*（就職活動で、業種とかは？）*もう何でも。何でもかんでも。手当たり次第。*（職種は？）*全然そんなの関係ない。…何でも。もうそういうこと言ってられないの、ほんとに。何やりたいっていう自由がきかないの。そういう世界だった…一応３つ決まったんで。で

も、そのうち２つが東京だったから、それは寮で暮らせるっていうところがあったけど、ちょっとお金の感覚がずれるっていうか、やめておいたほうがいいって。*（だれが言ったの？）*親。…結局、バイトから親しんでいる、外食産業がいいんじゃないって、１社決まったから。*（で、どんな仕事なんですか？）*もうバイトと一緒。…バイトのように、ほんとにたたき込まれて教えられてた。…接客もやったし、調理もやったし。一通り全部やらされた。…*（そのお店にずっといたの？）*いないよ。*（どうしたの？）*やるのは構わない、教えるのも構わない。けど、ちょっと暴力とかあったから。…あとちょっと、会社の状態があまりよくないみたいなことが。将来性もないし、あと、社長がないがしろにされているのが気にくわなかった。…部下数人いて、もう戦争になったら、みんなこっちにつく。社長にはつかない。おれらは反乱を起こせるんじゃないかみたいな。*（暴力振るわれたというのは、そのお店の上司の人に？）*肉体的には店長さんから、心は上司がやったんです。

＜50em・25 歳・専門学校卒・男性＞

働く覚悟

次の例は、就職先の職場との関係ではなく、本人の中に、自分の生き方と働くこととの折り合いが十分つけられていない、という職業選択段階の問題をのこして就職したための早期離職である。

（専門学校卒業後）就職したんですけど、２、３ヵ月でやめました。…*（やめたのはなぜ？）*嫌だったというのもあります。今思えば若かったんだろうなと思うんですけど。それと、今バンドをやっているんですけど、そっちを本格的にやりたいなと思って。べたなフリーターという感じですね。*（バンドはいつから？）*専門学校の終わりぐらいからやり出して、やっぱり就職して土日しか休みがないんで、融通きいてとれなくて、バンドでやるにはちょっとしんどい環境だったので。それで、もう嫌だし、やめてしまえという感じで。…専門学校をもうすぐ卒業というときに、僕はこのままでいいのかなと思って、その流れでバンドを…このまま卒業して、社会人になって、ずっとここで働くのか、おれ、こんなんだったのかな、何かやりたいことないのかなという感じですかね。

＜51em・22 歳・専門学校卒・男性＞

4.3　小括

この説では、早期離職の理由を学歴別に見た。

高卒者で早期離職したケースについては、本人の側に就業のための準備ができていないケース、仕事内容が合わないケース、勤務地の変更に従いたくないため辞めたケース、職場の暴力や、長時間・高密度の労働、大卒との格差、業界への幻滅など、職場側の問題も大きいのではないかと思われるケースがあった。

高等教育卒業者で早期離職したケースについては、高い就業意欲を持って（中には、どんな業界でもいいと）積極的な就職活動をして、入社したものの、仕事がこなせないため、さらに職場からむしろ退職勧告を受けて、離職するケースが目立った。これらの背景には、高等教育卒業者をあまり採用してこなかった職場で、かつ、ギリギリの人数で運営しているような職場において、早くから大きな責任が与えられたり、過剰な期待がよせられる等の事情があると考えられる。最近の傾向として、絞り込んだ採用の結果、若手社員の労働密度が高まっているという指摘もある

（労働政策研究･研修機構　2004)。こうした職場要因から離職する若年者も少なくないだろう。ただし、彼らは自信をなくしての自分から辞めるか、「将来に影響がある」と自己都合退職の形をとることを勧められるので、統計上の失業理由は自己都合という形になっているのではないかと考えられる。

５．　離学後、離職後の労働市場と意識

学校を離れたり、最初の職場を離職したのち、次に正社員で就業していないから無業やアルバイトでいるわけで、なぜ次の正社員の職に就いていないかも「スムーズな移行」の障壁を探る上では重要な視点である。本稿では、これまでの記述の中でそれぞれのケースの離学、離職後の状況の概略を記しているが、この節では改めて（再）就職していない理由として述べていることを整理してみる。

5.1　正社員の就業機会の限定

正社員の口が少ないこと、なかなか採用されないことが、まず正社員になっていない理由としては挙げられる。採用されない理由として挙げられるのは、知識や経験がないことが最も多い。

求人がない・採用されない

正社員への求職活動としては、新聞の折り込みチラシのチェック、ハローワークに求人を見に行くという行動を多くの者がとっていた。そこで「いい求人がない」「応募しても採用されない」と正社員への壁を大きく感じている者は多い。特に地方では、高校を卒業したばかりの若者には応募できる求人が非常に少ない。

> 今は何もしてなくて、仕事を探している。*（どうやって？）*ハローワークに通ってる。…パソコンみたいな画面があるんで検索して、求人が来ているのを探してる。*（窓口で相談したことある？）*混んでるんで。曜日にもよるんだけど、毎週火曜日には新しいのが出るんで。今日も行くんですけど、ん、多分、市内に２つくらいあると思うんだけど、両方行っても同じくらい混んでる。並んでいる人も立ってる人もいるくらいだから。…ハローワークでもパートっていうか、それでも探せるし、求人とか情報誌とかにも載っててそういうのでも一応探しておいて。
>
> **＜24cf・19 歳・高校卒・女性＞**

> *（就職できずに卒業、その後は？）*最初は就職、やっぱり探してたんですけど。（ハローワークで求人を見たら）20 歳からってわかってたんで。…親も 20 歳までに就職見付ければいいって。
>
> **＜25cf・18 歳・高校卒・女性＞**

> 友達が急に就職が決まっちゃったんで、もうびっくりして、ここで僕もちゃんと毎日のように職安行って、ここで決めたろうと思ってたんです。…もう次はやめることができ

ないので、仕事が厳しいとかじゃなくて、一生できる、任せていいんかなというところを選びたかったんで、厳しさはある程度やったから経験あるんで、そういうでかいところは何か資格が要ったり、面接はやってくれない状態で、何個か受けても落ちたりで。

＜41cm・22 歳・高校卒・男性＞

技能・経験の不足

正社員への壁は、具体的には、技能・技術や経験がないことでまず書類選考などで落とされることに現れる。また、資格を取ることの難しさや、資格を取ったとしてもそれで就職が容易になるという見込みがもてず、資格取得にも動けない。専門教育を受けた（30ef）のケースも、実務経験がなく女性で年齢が相対的に高いことがハンディになっていると感じている。

コーディネーターみたいなのあるじゃないですか。インテリアコーディネーターみたいな、あれしたら、ちょっと楽しいかなみたいな。やめて、そっちへ行こうかなと思ってたけど、免許がなかったから、書類選考で落とされて。…未経験ではなかなか無理かな思って。あきらめるのも早いけど。…自分でも（インテリアコーディネーターの）テストは受けられるみたいですけど、なかなか通らんみたいで。何か今さら学校行くのもなと思って、ちょっと勇気要るなと思って。もっと早いうちに行けたらよかったなという後悔もあります。…何とか家具、そういう関係も送ってみたけど無理で。なら家具製造やったらどうかなと思ったんやけど。自分らで考えて家具をつくったりとか。…つくるほうはどうかなみたいな。自分で考えて家具つくれたらむちゃええちゃうかな。興味があるし、何個かいったけど、やっぱり機械使われんかったら話にならん言われて。

＜45cm・24 歳・高校卒・男性＞

僕の場合、小さいですけどなるべく配達がしたいなと思ってるんですけど、それを見ていくとないんで、とりあえず最初それを見るんです。やりたい仕事を見るんですけどないから、だんだん妥協していって探していく。*（大型免許を取ろうとか考えていますか？）*お金がないし、取っても大型トレーラー、トラックで免許を持っていても、実務３年とか書いてあるじゃないですか。だから、大型でも絶対やってなかったら採ってくれないですから。

＜41cm・22 歳・高校卒・男性＞

*（映像・音響系の専門職を目指して…大体どのぐらい今まで応募したと思う？）*30 以上はしてます。面接までいったのは、20 はいってないけど、10 以上はいってる。*（自分では、何で通らないんだろうと思う？）*今通らないのは、未経験者ですので。それと年齢。23 か 24（歳）というのは、女の人だから。

＜30ef・24 歳・専門学校卒・女性＞

また、（45cm）のケースは、高校進学時に本人は工業高校を志望していたが、親と教師の勧めで普通科に進学した。失業し、再就職で技能を持たないことからくる壁を前に、この進学を悔やんで「その時点で僕はもう終わってしまった」とも感じている。技能・技術の獲得の重みを改めて感じたとき、今後の獲得の難しさと過去の選択の悔いとが重くのしかかり、次への意欲がなかなか湧かない状況に陥っている。

心の準備

応募しても受からないのは、正社員になることの覚悟といった本人側の心の準備不足というとらえ方をしているケースもある。

> 正社員で働こうとかは考えてはいたんですけど、自分がこういうやる気（がない状態）だし、無理なのかなみたいな思いが強くて、親戚から勧められてホテルの面接に行ったこともあるんですけれども、やっぱり面接の中で自分をうまくアピールできなくて、落ちちゃいました。…何か、平坦っていうわけでもないんですけど、淡々としていた感じで、自分の中でこれはだめだなみたいな。あと、やっぱり自分の中で正社員で月のほとんどを仕事するっていう心の準備がまだできてなかったのかもしれません。
>
> ＜2am・22 歳・中卒・男性＞

アルバイト経験のマイナス

アルバイト経験が長いことや、経験職種の内容が正社員に就くにはマイナスになるという認識もある。次のケースの場合は、正社員として事務職を意識しているのではないかと思われるが、喫茶店での仕事経験がマイナスイメージを与えるのではないかと危惧し、正社員は「無理」と判断している。

> （正職につきたいという考えは）あるけど、無理。…喫茶店とかってイメージあんまりよくないんです。…「昔の人に言わしたら、あれは水商売」って言ってきた人がいた。「面接の人にあんまり言わんほうがええよ」って、喫茶店でバイトしてたっていうのは。…あるんかなって思ったけど。あと、フリーター歴が長い。４、５年になる人。１年とかやったらまだ言い訳とかいろいろできるじゃないですか。
>
> ＜29ef・24 歳・短大卒・女性＞

正社員経験がない、応募するには技能・技術や経験がない、アルバイト経験はむしろマイナス評価されると、自らを労働市場では不利な立場であると意識しているために、正社員への意欲を失っているものも少なくないのではないだろうか。

5.2　アルバイト・非正社員の利点

一方で、アルバイトをはじめ正社員以外の雇用形態にメリットを感じているから正社員になるための求職活動をしていない場合も少なくない。その利点としては、まずアルバイトや非正社員なら就業できること、こうした雇用形態からやりたいことにつながる機会であること、その仕事や職場が楽しかったり、収入面で勝っていたりすることが挙げられる。

就業機会が豊富

正社員に比べてアルバイト等は就業の機会が豊富である。

まず、就業チャンスの伝達が、友人・知人の誘いというインフォーマル・ネットワークよ

ってスムーズに行われている場合が目立った。採用試験など難しい壁があるわけではなく、また、友人に誘われて一緒にアルバイトにはいるので、安心感があり心理的なハードルも低い。

探してる時に（友達から）「一緒にバイトしようや」って誘われて、まあ「とりあえずバイトでええわ」と。…アルバイトはもう４月に決まったんで。

＜37cm・19 歳・高卒・男性＞

（最初の職場をやめてから）３ヵ月か４ヵ月ゴロゴロしてました…何かで友達の番号を知って、おれ、今、プーやねんって言ったら、なら、おれが行ってるところ来いやみたいな、ガードマンですけど、軽トラで〇〇市まで行ってやっとんねん、やるかみたいな感じで、２人で軽トラ乗ってやってたんです。

＜41cm・22 歳・高校卒・男性＞

（飲食関係で働いていた彼氏から）誘いがあったんです。「ちょっと気軽やし、やってみいひん」と言われて、ああ、いいな、いけるやろと思って。

＜12df・20 歳・専門学校中退・女性＞

*（アルバイトに就いたきっかけは？）*これも友達。…何か、「だれかおらん？」みたいな感じで友達も聞かれてて、たまたまその時期に私が。…1 年か、２年。（その後は）〇〇の知り合いの喫茶店みたいなところで、最初はお手伝いというような感じで入って、そのまま。*（いつごろ？）*前の喫茶店とかぶって行ってて。１、２年。*（このバイトはどうして？）*そこの店長をしてる人と知り合いになったというか。

＜29ef・24 歳・短大卒・女性＞

アルバイトへの契機は、こうした友人・知人からの誘いのほか、すでに、学生・生徒のころから多くが経験しているために、それをそのまま続けるという形での入職も少なくない。

*（就職関係については全く何もしなかった？）*はい。*（在学中のバイトを続けていこうということですか？）*だと思う。（高校を出ても）何も変わらない感じです。

＜17cm・19 歳・定時制高校卒・男性＞

*（周りの子は結構就職した？）*半々ぐらい。半分は学校からとかで就職して…。就職が決まっていない子は、その子らがずっと高校からやってたバイトが長くて、卒業してからも別にバイトでいいねんみたいなのとか。

＜18cf・20 歳・高校卒・女性＞

このほか非正社員の就業機会としては、若者への支援の一端として、地方自治体や学校、若者就業支援機関における臨時・有期限の雇用機会がある。本調査のケースでは、こうした機会は学校や支援機関から声をかけられる形で対象者に伝えられ、採用されている。先の友人の誘いと同様に、声をかけられた本人の心理的ハードルは低い。今後同種の事業が重要な役割を果すと思われるが、公募に積極的に応募するという行動をとらない若者たちにも支援を広げるためには、支援機関側から積極的に声をかけていくという施策運営が有効ではない

かと思われる。

（理科の実験助手の紹介は？）、応援するみたいな制度が○○高校にはあって、そういう仕事があるけど、それやったら卒業した後、ほかのところでバイトするよりはここのほうが、…自分やったら、その辺でバイト見つけたら、結局流されてしまうかなとか、そこでやっぱりずるずる働いてしまうかなと思いましたけれども。

＜20cf・18 歳・高校卒・女性＞

こうした、就業機会があるから正社員以外の雇用に応募するという場合、意識のうえでは、「とりあえず」という者が多い。

*（卒業を迎えた時点で何やっていこうかというものってありました？）*とりあえずバイトをやっていこうみたいな。*（その時点でバイトは？）*○○○のレジにバイトが決まって、４月から。

＜16cf・24 歳・高校卒・女性＞

アルバイトの方がいい、アルバイトでもいい

これに対して、積極的にアルバイト等の就業形態を支持して、アルバイトを選んでいるケースも少なくない。

積極的な選択理由として挙げられるのは、まず、本人の志望する職種・仕事がアルバイトという雇用形態である、あるいは最初はアルバイトからのほうが入りやすいという理由である。典型的なのは、テーマパークでの仕事やファッション販売系での販売員としての仕事である。

○○テーマパークができたときに働いてみたいというあれがあったので…*（就職活動をやめたのは、テーマパークでのアルバイトをしたいという気持ちがあった？）*ありました。ちょっと２つこんがらがったとき、これもやりたいんだけれども、あれもやりたい。だから、就職する前にちょっともう一つだけ経験しておこうかなと思って。…そうですね、もう基本的に時間的にもやっぱり余裕があったので、もし採用していただけたらやっぱり一日も充実できるし、家でというかほかの仕事やっても、今まで長続きできたのは○○○のアルバイトだから。

＜36em・26 歳・大卒・男性＞

服が好きやったから、その販売とかを。…服屋さんで働いている子から、服屋さんの面接は学校には来ないと聞いていたから。…服屋さんで社員になりたいとかではなくて、服屋さんで働けたらバイトでもいい、若いうちしかできへんしという感じやって。

＜18cf・20 歳・高校卒・女性＞

アパレル系、僕行きたかったんで。何ていうんですか、百貨店とか、ああいう感じ行きたいんで、ほんとはそういう系でバイトしたかったんですけど。っていうか、社員とかなりたいんですけど、なかなかなれないんで、とりあえずお金欲しいじゃないですか。だから（靴の）販売の仕事をしながら、今、探してるんですよ。

＜23cm・21 歳・高校卒・男性＞

アルバイトは楽しい・収入がいい

アルバイトでの職場の楽しさや、収入に満足して、アルバイトがいいという者もいる。楽しさは、マスコミ関連で好奇心が満たせる職場だったり、同世代の若者の多く、仲間と楽しく働ける職場だったり、好きなものを扱う職場だったりするところからくる。収入面では、正社員となったときの長時間労働を考えると、割がいいという感覚が語られている。

*（アルバイトを始めたときには、当面はフリーターでという気持ちだったの？）*そうです…在学中の１月からもうやっていました。テレビ局の下働きっぽい、雑用っぽい…。*（人気がありそうなアルバイトですね。）*そうですね。*（タレントさんとかに会えたりとか？）*ありました。でも、報道フロア担当だったので、あまり芸能人には会えないんですよ。…楽しかったですね。

＜34ef・24 歳・大卒・女性＞

（飲食店での）バイトのほうは、初めてやったし、初めのころは、人間関係はしんどかったです。…頑張って、やっぱりなれてきたら、みんないい人やってわかったから、すごい楽しかった。…そこからすごい楽しいですね。何ぼ疲れとっても、みんながいてるから頑張ろうかなという気もなるし、バイトでしんどいと思ったことはないな。

＜12df・20 歳・専門学校中退・女性＞

*（服屋のアルバイトに入ってみてどうでしたか？）*楽しかった。…別に知識とかはいらんかった。その場で覚えたみたいな。

＜18cf・20 歳・高校卒・女性＞

（寿司屋のバイトに入って）今だけのことを考えたら、バイトのほうが金ええから。今は正職になったほうがちょっと高いけど、このまま続けとったら時給が上がったらバイトのほうが。時間的に考えたら、金は少ないけどバイトのほうが金もらえてるから。

＜3bm・17 歳・高校中退・男性＞

働くんやったら、ちゃんと社員になりなさい、ていうか、保険がちゃんとついているところに行きなさい、ていうのは、ずーと、ずーと今までずーとずっと言われてきてたんですけど。社員になって、10 万そこらの給料になるんやったら、フリーターで入ってて、20 万以上もらって保険自分で払っていくほうが、私はいいて言い切ったんです。

＜22cf・19 歳・高校卒・女＞

5.3　将来のキャリア、他の活動とアルバイト

将来のキャリアにつながる一時期のアルバイト

アルバイト等の雇用形態を選ぶ理由には、現在への関心ではなく、将来のキャリアを見通したときの今という位置づけで選んでいる場合がある。キャリア設計の中の一時点としてのアルバイトである。まず、(33em) のケースは、公務員試験を受けて公務員を目指す方向をさぐりながら、平行して内部登用試験を受けて正社員につながる道として、スーパーでのアルバイトを選んでいる。また、(44ef) のケースは、産業カウンセラーの資格には実務経験が必要なので、そのために派遣社員で働き始めることを決めている。このほか、学校に通ったり資格を取ったりするために、まずアルバイト等で資金を得ようということで正社員以外の

雇用を選ぶ者は多い。

（仕事をやめ公務員試験に落ちてから）…29 歳が国家Ⅱ種の最終年齢制限ですから、そこまでとりあえず頑張ってみようかと。何らかの稼ぎが必要だよねという話をして、○○で今、パートで働いてという話なんです。…まず公務員に受かればいい。受からなくてもパート社員の規定、社員登用の道もあった。…試験を受けて。そういう仕組みなんです。非常に公平な仕組み。…半年に１回（の試験を受ければ）、早く行ければ３年か４年かもしれないけと、落ちるってこともあるから。そういうふうなことをやって、社員登用の道も開かれていないことはない。これで上がっていけば、もちろん自信も上がりますから。

＜33em・27 歳・大卒・男性＞

そのときは労働省認定だったのが産業カウンセラー協会だけだったんで、…そのためには社会経験も必要だから。もうそのときはボランティアとか思っていなくて、心理に関するものはイコール人事と思っていて、就職しなきゃと。お金も要るし。それまで塾で相談とかのバイトをしてたんですけど、もう就職しますって言って。いきなり就職はちょっと人事はできないので、社会経験が必要でっていうことで、とりあえず派遣で経験をしてお金もためましょうっていうことで、もうばんバーンって一気に決めて申し込んで。

＜44ef・27 歳・大卒・女性＞

将来につながるキャリアの途上という意味では、次のケースのように、専業主婦になるつもりがあるから、ハードルの高い正社員を選ぶ必要はないという選択もある。

（私も）バイトでいいと思っていたし、何年も働かんわ、２年ぐらいしたら結婚していると思ってて。…卒業して２年ぐらいは適当にバイトをして、２年ぐらいたったら結婚して専業主婦になってと思ってた。

＜18cf・20 歳・高校卒・女性＞

現在の他の活動との兼ね合いでのアルバイト

現在の他の活動との兼ね合いから時間の融通が利きやすいアルバイトを選ぶという行動もある。他の活動にはバンドのように、将来のキャリアとの結びつきが有るものもあるし、家族の介護などの場合もある。

今はバンド（やっていきたいので）（就職は）「行ってなくてよかったな」って思いますけど。

＜37cm・19 歳・高卒・男性＞

*（就職先をやめたのはなぜ？）*嫌だったというのもあります。今思えば若かったんだろうなと思うんですけど。それと、今バンドをやっているんですけど、そっちを本格的にやりたいなと思って。べたなフリーターという感じですね。*（バンドはいつから？）*専門学校の終わりぐらいからやり出して、やっぱり就職して土日しか休みがないんで、融通きいてとれなくて、バンドでやるにはちょっとしんどい環境だったので。それで、もう嫌だし、やめてしまえという感じで。

＜51em・22 歳・専門学校卒・男性＞

その友達と同じアルバイトをして、そこに一応入ったんですが、それは１、２ヵ月たったときに、うちの親が病気になっちゃって、入院みたいなことになっちゃって、お父さんに無理やりやめろと言われた。ちゃんと看病とかしろって。…それで、結局１年近く。何も仕事しなくて…お母さん自体はそんなにずっと入院してたわけではないんですけど、やっぱりすごい心配で仕事はできなかったです。それでそろそろ大丈夫かなみたいな感じで、就職しなくちゃいけないんだけど、とりあえず最初からそんなうまくできるわけがないから、前行ってた、その人のバイトで、ちょうど友達から電話がかかってきて、人手が足りないんだけど、補助としてきてくれるかなと言われて、それじゃというので、それから現在に至っています。

＜30ef・24 歳・専門学校卒・女性＞

5.4　正社員への意識と就業への意欲

正社員への行動を起こさない理由として、正社員へのハードルを越えるためには、職業能力の獲得や資格の取得が必要だという認識から、まず学校や訓練校に行くという行動を取るケースも多い。

職業能力獲得のための学校・資格

なかなか（就職が）決まらないので、じゃあ、何か勉強しようかなということで簿記の勉強を。…前に２級のテストを受けたんですけれども落ちちゃって、今回は１級、２級を一緒に受けたんです。…それでも、もう１級のテストも終わったし求職活動をちゃんとしようと思ったんですね。それでハローワークに。

＜34ef・24 歳・大卒・女性＞

（外交官試験に落ちて）まあ、しようがないかと思って。…*（それから郷里に帰られて？）*〇〇県に戻っているときに勉強を始めて…*（何で社労士の試験を受けようと思ったんですか？）*別に今も年金に興味があるわけじゃないんですけど、司法試験は何か今、ロースクールがどうのこうのと言っているし、司法書士もちょっと難し過ぎるし、じゃ、手軽に社労士をやってみようかなと思って。

＜32em・28 歳・大卒・男性＞

ちょうど大平光代さんの本が出たころだったんです。それで、何かすごいなと思ってあこがれまして、法律の関係だったら、資格さえとれば学歴がなくても働けるかなみたいに思いまして、しようと思いました。…ただ、アルバイトをやりながら独学で勉強していたんですよ。それだと続いていかなくて、親に「そういうことをやっているよりは就職しなさい」みたいなことを言われたりして、続かなかったですね。

＜2am・22 歳・中学卒・男性＞

自信回復の期間・考える期間

正社員へのハードルが職業能力でなく、働いていく自信であることがある。最初の正社員の仕事で何らかのダメージを負って辞めた場合に多い。

（最初の仕事を５ヵ月で辞めてから次のアルバイトまで）やっぱりちょっとあきっていうんですか、ブランクってのがあるんですけれども、（次の）接客の仕事から次の仕事に行くに関しても、やっぱりちょっと長いブランクっていうのがあいてしまって…*（ブ*

*ランクってどれぐらいあった？）*９ヵ月ぐらいですかね。…。*（この９ヵ月、このときっていうのはどういうふうに過ごしていたんですか？）*特に何もせずに。何ていうんですかね、家のことをやったりって感じ。やっぱり、最初ついた仕事でも、教えてもらう人がああだったからっていうのもあるんでしょうけれども…結構、このブランクは思い悩んでいた時期だった気がしますね。

＜42cm・24 歳・高校卒・男性＞

アルバイトから。ちょっと自信なかったんでアルバイトを最初にやろうと思って。最初に２ヵ月くらいは工場のほうでちょっとアルバイトをやったり、登録制のところで、紹介されたところで工場とかがあったんですけど、２ヵ月ぐらい、結局、やってたくらいだったかな。

＜47em・26 歳・大卒・男性＞

その後、先月までやっていたんですけど、引っ越しのチラシのポスティングのアルバイトをしてたんですよ。マンションとかアパートとか、それを１年半から２年。…（普通は）短期ですね。何かあったんでしょうね。自分でスケジュールを組めたので。週１日でも２日でも、土日休んでもいいし、平日休んでもいい。…『〇〇（アルバイト情報誌）』で見て、自分でスケジュールを組めるし、じっとしているのは嫌だから、まあ、いいやと思って、働けるならいいかなと。…（孤独なのは）それは結構よかったです。いろいろ考えることができたし。今思えばありがたかったくらいかなと。いろいろ考えたかったし、よかったかなと。

＜7cm・24 歳・一旦中退後高卒・男性＞

これらのケースは、職業能力の獲得、あるいは、自信回復の期間として、無業やアルバイトの日々を位置づけている。そうした準備期間が必要なのは、各人がそれだけ自分の納得できる仕事としての正社員を意識し、そのハードルを自ら高く設定しているからであろう。働くことを重視し、またそこに自己表現をこめる価値観があるから、今すぐには正社員に応募していけないのだとも言える。

就業への逡巡

こうした納得できる仕事というハードルではない、一定の社会関係としての就業に入ることを躊躇する意識も感じられるのが次のケースである。全く求職活動をしていないわけではないが、真剣に探しているとも言いがたい。意識の方向付けがないまま、逡巡している状態で、何らかの後押しが必要なのかもしれない。

*（今までに応募したことはありますか？）*直接電話して。屋根のリフォームのような感じの。…*（それはどういったところがいいと思ったのですか？）*外でする仕事がいいかなと思って。*（他にはありますか？）*大工とか。でも聞いたら資格がないとダメと言われた。（*じゃ見習い修業をしようかなと思ったりしましたか？）*ないです。

＜14cm・19 歳・高校卒・男性＞

働きたいとは思うんですけれども、いざとなると動けないんですよね。…知らないところとか初めてのこととかに挑戦するのがいろいろ不安になったり。（ハローワークとかにもいっているのに）でも、なかなか実際に応募するまでにはいかないんですよね。…実際に働くのを考えると怖くなったりして。…バイトしか経験がないから、ちゃんとこ

なせるかとか。

＜31ef・24 歳・短大卒・女性＞

5.5　小括

この節では、離学、離職した後に正社員として就業しないままでいる理由として語られていることの整理を試みた。

まず、一つの軸は正社員の雇用機会が限定されており、そもそも就業機会が乏しい、あったとしても、なかなか採用されないという理由である。地方の高校を卒業したばかりの者に対しての求人は特に少ない。また、採用に至らないのは、技能・技術、経験の不足が多く者が挙げる理由である。本人の働く覚悟ができていないことやこれまでのアルバイト経験がマイナスに働くといった認識もあった。

また、むしろアルバイトをはじめとする非正社員の働き方に利点があるからであることを指摘するものも多かった。その利点としては、第１に、アルバイトや非正社員なら就業できる機会が豊富で就業しやすいことがある。アルバイトは友人・知人からの誘いが多く、心理的ハードルも低い。さらに、最近では若者支援施策としての有期限雇用の機会もある。ただし、これも誘われる形で入っており、支援機関側からの積極的働きかけが重要な契機になっている。第２に、テーマパークの仕事やファッション販売など、やりたい仕事がアルバイトの形態であったり、アルバイトからの正社員登用が多いことが挙げられる。第３には、アルバイトでの仕事自体が楽しいとか収入がいいというものである。楽しいのは、同世代が多く楽しい職場だったり、マスコミ関連で好奇心が満たされたり、好きなものを扱ったりすることによる。収入は、正社員になったときの長時間労働に比べれば割に合うという感覚であった。

さらに、アルバイトなどの非正社員を選ぶのは、将来のキャリアに向けての一時期の選択である場合や、現在の他の活動との兼ね合いで時間的に融通が利くことを重視しての選択である場合もあった。

また、自分の納得できる仕事としての正社員を意識し、そのハードルを自ら高く設定していることから、正社員への準備として職業能力獲得の時間をかけ、あるいは、何らかの失敗で傷ついた就業への自信を回復させるために一時期無業やアルバイトを選択しているケースがあった。また、一定の社会関係としての就業に入ることを躊躇する意識が感じられるケースもあり、こうしたケースでは、何らかの後押しの必要性が感じられる。

６．まとめ

この章では、学校から職業への移行プロセスのどの段階でどのような障壁があり、正社員での就業から離れていくのかを分析した。

まず、最初の段階は、高校へ進学しない、または、中途退学する段階である。この段階で学校から離れることは、すなわち正社員就業の経路から離れることにつながる。これには、まず①学業に価値をおかず、学校生活を支える価値は友人関係であり、行動を規制する学校を抑圧装置と感じるタイプがある。彼らは、学業不振と学校への反発から学校から離れていく。友人関係は学校外にもつながっている。②友人関係の形成が進まず学校に不適応を起こしたタイプ、③勉強に集中し高い業績をあげたものの先の目標につながらず挫折したタイプである。離学後は、①では金を稼ぐ目的ですぐ就業する。友人からの誘いで就業口を見つけることも多い。ただし、就労上の規律や基本的生活習慣が確立していなかったり、友人との遊びが生活の中心であるために、長続きしないことも多い。②、③は、すぐには就業に至らない。①と異なり、音楽を目指したり、農業を目指したり、自分を表現するものとしての仕事を探す。経験も職業能力もない自分を意識して、戸惑どうケースもある。

高等教育での中途退学も、正社員就業への経路からの離脱につながる。中退理由には、①大学進学以前の進路選択に問題があり関心も適性もない学科に進学した、②職業希望を持って大学・学科選択をしたが、不本意入学であったこともあり、周囲の環境になじめなかった、③学校の厳しい生活指導への反発、逆に、何の枠付けもない生活に孤立・孤独に陥った、などがあった。中途退学後は、短期のアルバイトを中心にするものが多い。背景には経験を広げ次の進路を探そうとする意識があると思われる。また、何らかの学校機関を使って、職業能力を身につけ再スタートを切りたいという気持ちを持つものが多い。

卒業はしても就職活動はしていないケースは高卒者に多かった。こうしたケースには、まず、①単位や出席日数が不足して卒業の見込みが立たないために、就職プログラムにのれないケース、②何をしたらいいのか分からないから就職も進学もしないケース、③学校外で、就きたい仕事のためにアルバイトに応募する、などのタイプがあった。このほか、進学や公務員受験を再受験するために浪人をするが、途中で進路変更をし、その結果アルバイト就業になったケースもある。

次の段階は学校卒業段階で、正社員になるための就職活動をしても、内定をもらえず就職できないというケースである。まず、①学校にくる求人が少ないことが背景にある。特に、東北地方のケースでは求人が極端に少なく、情報処理科で関連資格を取り、学業成績はむしろ優秀なケースでも内定がもらえないまま卒業している。地域の労働市場状況が大きくかかわる。②都市部では定時制の学校卒業者で厳しく、また学業成績や出欠状況の悪いケースで就職できない。③進学希望があって就職活動が遅れたケースでは、応募先がなくハローワークに行っても不調だった。

高等教育卒業時点でも同様に就職できなかったケースがある。短大・専門学校卒では、卒業制作など、２年次の専門教育と就職活動を両立させることが難しく、就職活動が不活発で

あったケースが有る。こうしたケースでは学校での専門を生かした専門職への希望が強いので、卒業後も方向性のあるアルバイトをし、専門職への求職活動を続けている。また、専門職に直結しない課程や本人が特に専門職での就職を望んでいないケースでは、(事務職求職となり）就職できないことが珍しくない状況になっている。学校の友人、仲間集団の行動が本人の行動に大きく影響を与えている。また、専業主婦志向もあって、アルバイトに就くことに抵抗がないケースもあった。

４年制大学卒業者では、自由応募の慣行の中で、業種・職種の絞込みをどう行うのかが難しい課題になっていた。一斉一括採用のタイミングに乗る「就職」の重要性を意識しており、それだけに、就職と自分の生き方とどう折り合いを付けていくのかを正面から悩んでいるケース多い。その時点での自己認識・考え方にしたがって業種・職種の絞込みをおこなっているのだが、現実的体験不足もあり、現実的な労働市場とのすりあわせが難しい者もいる。また、大学入学時点で浪人し、在学中に留年し、と複数年の遅れを感じているケースで、公務員や資格職業への志向が強くみられた。移行のいずれかのタイミングで乗り遅れることが、（民間企業における）一斉一括採用、入社年次による人事管理において不利になると感じ、こうした志向につながる面も考えられる。

次の段階は、学卒時点で就職しても早期に離職する行動をとったときである。

高卒者で早期離職したケースについては、本人の側に就業のための準備ができていないケース、仕事内容が合わないケース、勤務地の変更に従いたくないため辞めたケース、職場の暴力や、長時間・高密度の労働、大卒との格差、業界への幻滅など、職場側の問題も大きいのではないかと思われるケースがあった。

高等教育卒業者で早期離職したケースについては、高い就業意欲を持って（中には、どんな業界でもいいと）積極的な就職活動をして、入社したものの、仕事がこなせないため、さらに職場からむしろ退職勧告を受けて、離職するケースが目立った。これらの背景には、高等教育卒業者をあまり採用してこなかった職場で、かつ、ギリギリの人数で運営しているような職場において、早くから大きな責任が与えられたり、過剰な期待がよせられる等の事情があると考えられる。最近の傾向として、絞り込んだ採用の結果、若手社員の労働密度が高まっているという指摘もある（労働政策研究・研修機構　2004)。こうした職場要因から離職する若年者も少なくないだろう。ただし、彼らは自信をなくして自分から辞めるか、「将来に影響がある」と自己都合退職の形をとることを勧められるので、統計上の失業理由は自己都合という形になっているのではないかと考えられる。

最後に、離学、離職した後に正社員として就業しないままでいるという段階が有る。

正社員就業しない理由は、①正社員の雇用機会が限定されており、そもそも就業機会が乏しい、あったとしても、なかなか採用されないという理由である。地方の高校を卒業したば

かりの者に対しての求人は特に少ない。また、採用に至らない理由として多くの者が挙げるのは、技能・技術、経験の不足である。本人の働く覚悟ができていないことやこれまでのアルバイト経験がマイナスに働くといった認識もあった。

また、②アルバイトをはじめとする非正社員の働き方に利点があることを指摘する者も多かった。その利点としては、第１に、アルバイトや非正社員なら就業できる機会が豊富で就業しやすいことがある。アルバイトは友人・知人からの誘いが多く、心理的ハードルにも低い。さらに、最近では若者支援施策としての有期限雇用の機会もある。ただし、これも誘われる形で入っており、支援機関側からの積極的働きかけが重要な契機になっている。第２に、テーマパークの仕事やファッション販売など、やりたい仕事がアルバイトの形態であったり、アルバイトからの正社員登用が多いことが挙げられる。第３には、アルバイトでの仕事自体が楽しいとか収入がいいというものである。楽しいのは、同世代が多く楽しい職場だったり、マスコミ関連で好奇心が満たされたり、好きなものを扱ったりすることによる。収入は、正社員になったときの長時間労働に比べれば割に合うという感覚であった。

さらに、③アルバイトなどの非正社員を選ぶのは、将来のキャリアに向けての一時期の選択である場合や、現在の他の活動との兼ね合いで時間的に融通が利くことを重視しての選択である場合もあった。

また、④自分の納得できる仕事としての正社員を意識し、そのハードルを自ら高く設定していることから、正社員への準備として職業能力獲得に時間をかけ、あるいは、何らかの失敗で傷ついた就業への自信を回復させるために一時期無業やアルバイトを選択しているケースがあった。また、一定の社会関係としての就業に入ることを躊躇する意識が感じられるケースもあり、こうしたケースでは、何らかの後押しの必要性が感じられる。

以上の分析から、政策的には次のような対応が必要ではないかと考えられる。

① 本調査は少ないサンプルでの聞き取り調査であるが、各学校段階での離学および離職の背景要因はそれぞれ異なっていた。全容を把握するに足るサンプル構成での実証分析を行い、それぞれの移行の隘路を明らかにし、それぞれへの対応策を講ずる必要がある。

② 中等教育段階での中退および卒業者のうち、学業不振、基本的就業準備不足のある者を対象にした就業準備教育が必要である。具体的には、産業界と連携によって就業現場での体験教育、職業訓練を学校段階から取り入れて、就業への意欲を喚起し、むしろそこから学校教育の意味を理解させる方策が可能ではないだろうか。また、学校や友人関係への不適応から中途退学や進学を放棄する者への対応に、職業的観点からの情報提供や相談のサポートが必要である。また、どちらのタイプにしても、学校におけるこれまでの就職斡旋プロセスには乗ることができないので、学校外の組織を通じての就業支援を

行う必要がある。

③ 高等教育での中途退学者については、高校での進学指導のあり方を見直す必要があると同時に、高等教育入学後の個別のキャリア相談をとおして、転科・転部、場合によっては転学を含めてサポートする必要がある。中退者および学卒未就職者の両者にとって、初期の生活指導や専門教育を通じて、本人の職業的方向付けの探索を喚起しまた相談や情報提供を通じて個々の探索をサポートすることが重要であろう。

④ 離学後、一定期間、試行的就業や幅広い経験をへて職業的方向付けの明らかになる者がいることを前提にした、就業サポートや採用のあり方が望まれる。その際の就業サポートには積極的な働きかけ姿勢が必要である。

引用文献

労働政策研究・研修機構（2004）『第 1 回ビジネス・レーバー・モニター調査／若手正社員の姿』http://www.jil.go.jp/kokunai/bls/monitor/documents/blm_040123.pdf

第２章　学校という包括的移行支援機関

１．はじめに

本章の目的は、新規学卒一括採用という包括的な就業支援の主たる担い手であった学校が現在どのような状況にあるのか、若者の移行過程の検討を通じて浮かび上がらせることにある。

若者に対する就業支援は、制度や慣行などのかたちでそれぞれの社会に埋め込まれている。より詳細に見てみると､若者就業支援策は､包括的支援とそれを補完する支援の組み合わせ、具体的には学校段階での移行支援と学校を離れた後の失業対策の組み合わせから成っている。たとえば、ドイツのデュアルシステムとＪＵＭＰプログラム、アメリカの移行機会法と不利な立場に置かれた若者に対するジョブコアなどの支援などの組み合わせがその例である（労働政策研究・研修機構 2004)。日本においては、新規学卒一括採用という慣行が、若者が学校から職業へ移行するための支援として機能してきた。特に高校生の就職の場合、企業と学校の信頼を基盤とした継続的な取引関係である「実績関係」は、学歴の高くない若者を職業に移行させるシステムとして国際的にも高く評価されてきたのである。

しかし現在、日本においても若者への就業支援政策の必要性が認識され、議論されはじめている。これは新規学卒一括採用がなくなったわけではなく、新規学卒一括採用での支援が届かない層が増加したことが背景に存在する。

日本においては包括的な支援である新規学卒一括採用がうまく機能していたために、ここからこぼれおちてしまった若者に対する補完的な支援はこれまであまり存在していたとは言えなかった。そのため日本においては、包括的な支援で移行できなかった若者は、個人で移行の道筋を再構築せねばならなかったのである。

しかしながら、個人任せの移行の再構築は近年難しくなりつつある。これは単純に、学生でも主婦でもない、若いパートタイム労働者を主に意味する「フリーター」の増加だけを指しているわけではない。データは 1997 年までとやや古くなるが､『就業構造基本調査』の再分析によれば、正社員を目指しながらフリーターを続けている若者、すなわち正社員志向のフリーターが、正社員へ移行できる割合は低下しつつある（小杉礼子編 2002)。

このような状況に対する支援の方向性には在学中の包括的支援の密度を高めるとともに、学校を離れた後の補完的な支援が考えられる。補完的支援については他章で扱い、ここでは主に学校が行う包括的支援に焦点づけて考える。

新規学卒者一括採用は、高校の場合学校が直接就職斡旋をするため、高校生にとっては学校という機関が包括的支援として現れる。大学生にとっては、高校とは比較にならないが、大学の就職部も支援機能を持っており、また大学進学自体が本来就職を有利にするための選択としての側面を持っている。

以下ではインタビューを用いて、学校段階別に彼らの語りの中を見ていく。特に高校で学

校を離れる若者については、高校が移行支援の中心を担っているため、高校について検討する（３章において、特に高校で学校を離れた若者と学校について詳しく分析をしている）。

学校段階別に検討するのは、最後に離れた教育機関がその若者にとっての移行支援を担うことになるためである。また学校からの移行先である労働市場の状況は地域別に異なるため、地域という変数にも考慮しながら検討を加える。

２．高校卒業者・高校中退者にとっての学校

すべての若者が同じように、学校におけるさまざまな規則や規範を受け入れ、実現しようとするわけではないことはよく知られている。最も典型的な例としてあげられるのは、イギリスの労働者階級である。学校になじみのない文化で育った若者は、学校における価値を受け入れずに、自ら学校から離れていく。

しかしながらこれまで日本においては、「メリトクラシーの大衆化状況」（苅谷 1991）が存在するとされてきた。日本の学校では、すべての者が学校におけるメリット（業績）という基準を受け入れ、その基準に沿って「がんばる」。かつて日本においては、上位ランク、下位ランクそれぞれに、少しでも学校ランクが上の高校に進学したいと願うものであった。この「分相応のアスピレーション」（竹内 1995）によって競争の加熱が維持されることが、日本の選抜の特徴であり、優秀な労働力を養成する礎だとされてきたのである。

しかしこうした認識に対する疑問が近年指摘されつつある。近年蓄積されつつある高校研究、特に大都市の進路多様校における「脱学校的」傾向はこうした認識に再考を突きつけている（樋田ほか 1999　耳塚編 2002　耳塚編 2003）。

こうした学校の位置づけの変化がどこでどのように起こっているのかは様々な見地から検討されねばならない。しかし本稿ではまず、業績主義へのコミットメントの指標として高校の選択理由という観点に着目し、高校生活とその後の進路選択という過程について検討することにより、移行過程において高校がどのような役割を果たしているのかについて考えてみたい。

高校を選択するにあたって、中学時の成績がよければ選択の幅が広がるのは当然である。けれどもこれまでの研究を振り返るまでもなく、高校の選択は、自分の成績に応じたランクの高校にすすむのが当然だとされてきた。しかしこれは何も日本だけの傾向ではないであろう。日本の特異な点は、すでに述べたように、それぞれに「もっといい高校へ」すすみたがるというところにある。成績上位者は当然としても、成績中位・下位の者においても、ちょっとでも上のランクの高校へのアスピレーションをかき立てられるのである。すべての者がそれなりのアスピレーションを持つというのが、日本的な特徴であった（竹内 1995）。高校の選択の理由や基準はまだ優秀な労働力を生み出す仕組みを備えているのだろうか。そして高校選択理由に象徴される業績主義志向はいぜんとして存在するのか、そしてその後の軌跡とはどのようなものなのだろうか。

本稿のインタビューの対象者は関西地区と東北地区、首都圏地区にわたっており、地区の特徴であるのか高校の特徴であるのかは判別できないものの、今回の対象者は地区ごとにおよそ次のような特徴がある。関西地区の対象者には中位以下の普通科が多く、東北地区は私立の商業系学科が大半である。彼らのほとんどには、上位ランクの高校に進学するという選択肢はほとんどない。これに対して首都圏は学歴が高く、大卒が多い。

業績主義的価値へのコミットメントの指標としての「高校の選択理由」を軸に、そこに至るプロセスとその後の高校生活や進路を追っていくことで、移行過程を浮き彫りにしたい。

2.1　関西地区

高校進学に成績の制約があるといっても、それなりに彼らにも選択肢が残されている。けれどもその選択肢を選ぼうとするとき、ちょっとでも上の学校ランクの高校に行きたいという動機が決定的に働くことはまれである。彼らの選択の中で優先されるのは、「友達」「家から近い」という条件である。「学費」という経済的な条件も無視できない。以下では、どのようなプロセスでこうした選択に至っているのかを見る。

（3bm）は、友達が行く、私立は学費が高いということで、「適当に」高校を選択している。（3bm）は小学校はきちんと行っていたが、中学校２年になってあまり行かなくなった。行かなくなったのは、行ったら行ったでおもしろいが、学校に行くために起きるのは面倒で、「だるいから」であった。授業はおもしろくないが、ノートはとっていた。授業中に席を移動して友達と話すなど、授業を妨害することは楽しかったという。

> 小学校はちゃんと行っとって、中学校１年はちゃんと行って、２年はそこそこ行って、３年は、行ったり行かんかったり。だるいから。行ってもすぐ帰ったりとか。学校行くために起きるのは面倒くさい。学校はおもろかったけど、行ったら行ったでおもろいけど、行くまでがだるい。*（前の晩は？）*普通に。11 時かそこら。そんときは家で。
> 授業はおもろない。勉強は嫌いやけど、ノートだけはちゃんととっといて。成績は悪いと思う。*（おもしろい先生とかおりはりました？）*おれへん。っていうか１人も。
> *（ノートをとっていたのは、テストに備えてとか？）*そんなんじゃない。ノートは一応とっとこうかなとか思って。授業中もおもろかったけど、授業としておもろいんやなくて、自分らで勝手に遊ぶからおもろい。席移動して友達としゃべって、全然授業無視して。*（先生うるさいちゃいますの、「静かにせい」言うて？）*そんなん、別に言われたってほっといて、しつこかったらキレて、反対に授業つぶして。*（話できる先生はおらへんかった？）*おったんはおったけど、話したいとも思わへんかったから。
> 好きな先生もおるけど、自分らの学年にはおらんかった。３年間一緒の担任か副担やったから。副担が担任になったり担任が副担になったりで３年間ずっと一緒やったから。普通の教師より、校長や教頭のほうが仲よかったから。話しするんだったら校長、教頭のところ行って。

（3bm）は規則正しい生活が要求される学校になじもうという気持ちは薄く、また先生を、学校においては従わなくてはならない権威を持った存在とは見ていなかった。中学卒業後の

進路についても、特に高校に行きたいというわけでもなかったため、料理が好きということで調理師学校への進学を考えた。しかし基本的に進路については口を出さない母が、調理師になりたいなら学校に行っても身につかないので、実際に働いて身につけるようにと言ったため、働くよりは高校に行っておこうかと考え、高校進学に決める。もともと高校に進学しようという気持ちが強くない中での高校の選択は、「適当」になった。

> *（中学校の先生が「ここ行ったらどう」という感じで？）*友達と最終的に○○高校に行こうと思って。私立と○○と、もう１校、一次選抜で商業。商業落ちて、私立と○○だけ受かって。私立高いからただ滑りどめで受けただけやから、○○受かったから。公立やから受かったらそのまま行かなあかんから、絶対。
> *（商業に行こうと思ったんは？）*、何か適当に受けとこかと思って。友達と２人で。三者面談とか、あんま行ってない。懇談もほとんど受けてないし。面倒くさいし、僕も別に行きたくなかったし。全部家庭訪問でした。（先生に）全部家に来させて、話終わらせて。
> （高校生活は）１年のときは普通に行っとったけど、２年ぐらいから休みまくって、１学期はまじめで２学期から休むようになって、３学期もほとんど休んで。留年したから。留年したらやめるって決めとったから。
> *（高校２年生の２学期ぐらいから行かんようになってきたきっかけは？）*だるかったから。行ったらおもろいけど、朝起きるのちょっとだるいし。
>
> **＜3bm・17 歳・高校中退・男性＞**

適当に選んだ高校だったが、行けば楽しく、１年生の時は行っていた。しかし２年生で「だるかった」ので学校に行かなくなり、留年が決定したため中退する。留年したらやめると決めていたと語っている。中退の際には、母が学校をやめるなら働くように言い渡したため、アルバイトをはじめる。はじめは短期のアルバイトだったが、現在は寿司屋で見習いのようなアルバイトをしている。今のところはすし職人になるかどうかは決めていないものの、具体的な職業と将来の見通しについて考えている状態にある。

このケースは、座学中心の学校には適応できないかもしれないが、働くことは嫌いではないタイプの若者である。母のアドバイスも、学校に行くよりも実地で学んだ方がよい、高校を中退することについては口出しをしないが、中退したいなら働くことを約束させるなど、勉強することよりも働くことを重視する姿勢が浮かび上がってくる。彼らは学校に行くのはだるいが、仕事にはきちんと行くのである。また職人であれば、「10 代のころに覚えた方が覚えは早いから」と本人が語っているように、若いときに仕事を始めた方がよい側面もあり、進学することがいいとは一概には言えないのかもしれない。しかし産業構造の変化により、職人の仕事を失うような事態に直面したときには、高校を卒業していないということは本人がキャリアを再構築する上で、大きなマイナスになる可能性もある。

（28cf）は、中学時部活のテニスに燃えていた。当初テニスが強い私立高校に進学しようと思っていたが、運良く公立高校に受かった。学費を考え公立高校に進学したものの、高校はテニスが盛んではなく、がっかりしてすぐにバイトに打ち込むようになった。一時は２つ

のアルバイトを同時並行でこなしていたときもあった。

勉強はテスト前しかしなかったですね。学校に来てても、あんまり勉強せずみたいな。*（疲れててというのは？）*ちょっとあったかもしれない。基本的に、ほんまに勉強するの嫌なんですよ。
授業中は、１年のときはちゃんと授業を受けていたんですけど、２年ぐらいから気が抜けて、寝たりとか。先生とかに悪いんですけど、寝たりとか。１年は欠席とか遅刻もせず、寝ずに頑張って授業を聞いて、ノート写すだけですけど、まあ、まじめにやっていたという感じですね、１年のときは。でも、２年生のときから、遅刻もぼちぼち、欠席もぼちぼちみたいな感じで。
３年は遅刻魔でしたね。よく昼休みに学校来て、先生とかに、「おまえら、またか」とか言われていましたね。友達と遅刻していたんですよ、一緒に。朝早く、早くといっても 10 時ぐらいなんですけど、それぐらいにぱっと起きて、携帯見たら、友達からメールとか入ってて、まだ学校に行ってない友達が「あんた、もう学校行ってる？私、まだなんやけど」って入ってたから、電話して、「ごめん、今起きた。今から行こうや」とか言って、その友達と行く途中にファミレスとかやっぱりあるじゃないですか。そこに寄って御飯食べて、学校来て。
*（寝坊しているということは、疲れているんじゃないかなとおうちの人が、大丈夫かなとか心配したり？）*はあんまなかったんじゃないですかね。１回ちゃんと起きるんですよ。目覚ましとか鳴って起きて、で、親にも起こされて、起きるんですけど、もうちょっと寝たいというのに負けてしまって寝ちゃうんですよ。
見逃すというか、ほっとかれていましたね、完璧に多分。言ってもきかないから。好きにしいやって。*（最初はちゃんと学校行きやとか、早く起きやとか？）*言われていたんですけど、ダブったら自分のせいやねんからって感じでしたね。
（バイトのことに関して心配していることは？）、別になかったです。バイトしていても、逆によかったん違うみたいなのはありますけどね。お客さんとか、年上の人とかと接することによって、言葉づかいとか、あるじゃないですか、あいさつとか、礼儀とかやっぱりちゃんとしないといかんじゃないですか。そういうのが身についていいん違うという感じでしたね。お母さんとお父さん、両方。

＜28cf・19 歳・高卒・女性＞

高校卒業時には、料理が好きだったため、はじめは専門学校を希望した。しかし両親に、学校に行くよりも見習いで就職し、調理師免許をとったほうがいいと言われ、就職活動をしたが、内定をとることはできずに卒業し、在学中からのアルバイトを続けている。

学校から、就職できなかった組といったらおかしいですけど、できなかった子らで、まとまって、（ハローワークに）先生たちが連れていってくれたという感じ。でも、そのときは、こんな感じの部屋、特別な部屋みたいなのを用意してくれて、みんなで求人票をばーっと見て、気に入ったのがあったら、コピーしてくれてという感じでしたね。３年生の終わりらへんとか。（仕事を見て）あんまりないなあって感じでしたね。
最初は、進路のグループは専門学校組だったが途中で就職に。夏休みかな。就職組の人は学校に何回か来て、求人票みたいなのを見て、それ、友達についてこいって言われて、結構ついていって、一緒に見てました。
*（９月の１次には？）*別に行かなかった。そのときも別に大したもんないなという感じかな。自分がやっぱりやりたいことがあったら。行ってましたかね。*（今はやりたいことをどう見つけようかなっていう？）*、そんな感じ。

＜28cf・19 歳・高卒・女性＞

学校を通した就職には関心が高く、また進路指導担当教員についてハローワークを訪問するなど、学校の行う支援にはのってきている。

以下のケースにも見られるように、「勉強よりも手に職」と考え、高校は適当に選ぶという若者は一定数を占めている。

（高校進学の際）そのとき、高校に行くか、専門学校に行くかで迷ったんですけど。調理（の専門学校）です。みんな、やっぱり中学を卒業したら、専門学校よりは結構、高校へ行くじゃないですか。そういうところもあるし、別に高校を卒業してからでも遅くないかなみたいな感じですね。
（高校選択の際）僕は違うところを受けようかなと思っとったんですよ。それでそのときの担任の先生に言うたら、別にそんな冒険せんでいいと言われたんですよ。で、仲のいい友達が○○を受ける言うたんで、まあ、○○にしようかなみたいな。

＜40cm・19 歳・高卒・男性＞

また（20cf）は、中学時に家庭内の人間関係でしんどい状態にあり不登校であったが、家庭の状況が好転するとともに、高校進学へ希望を持ち始めた。高校見学に行くなど高校選択に対して積極的に行動しているが、不登校だった中学時代の生活では朝電車に乗って遅刻せず学校に行くことが難しいと感じたこと、また高校受験についての情報は特定の友達からの情報に限られていたが、友達の話では総合学科は自由に授業を選べておもしろそうということから、高校決定の決め手となったのは、自転車で行ける総合学科であった。

（総合科に行きたいなと思ったのは？）、最初から熱心やった友達が、総合学科というのはいろいろなものを選べるとか、いろいろなやつができるところやねんでという話で、その子は芸能文化科みたいな、芸能系のほうに進みたいと、演劇とか、最終的には声優になりたいと言っていたんですけれども、そういうのんがいいからと言って、じゃあ、声優とかになりたいと言っているような子でもそういう学校に行けるところがあるんやと思って、聞いたら、普通のかた苦しい授業ばっかりじゃなくて、実験してやるようなやつもあるんやでと言うていたので、じゃあ、これやったら総合学科へ行ってみようかなと思って。そのころは、何か高校へ行ったらこんなことをやれるのかなとかいう楽しいところばっかりちょっと考えてしまっていたので。何となく、体験入学が一通り終わって、じゃあ、自転車で通える××高校でいいかなと思って決めたような気がするんです。

＜20cf・18 歳・高卒・女性＞

（20cf）は大きな期待を持って高校に進学したが、期待を裏切られ、それなりの高校生活を過ごした。高校卒業時に就職を希望するも、校内選考で落ちてしまう。その後進学に切り替え、大学を目指しているが、学力と金銭的な面で厳しい状況にある。

（23cm）は、中学時の成績はそれなりによく、自分の成績よりもちょっと上の高校に行きたいと思ったが、行こうと思った高校が遠かったため、友達が行く近くの高校に進学する。

うーん、何なんですかねえ。僕、最初は、わかんないと思うんですけど、△△っていう高校に行こうとしてたんですね。でも、すごい遠いんですよ。毎日行くのに、これはだるいなあって思いました。自分の成績から見て、ぎりぎりのところに行きたいじゃない

ですか。ちょっと背伸びしたかったんです。その頃、塾行ってたんですよ。「△△はちょっとおまえ、ぎりぎりやな」とか言われてたんで、「じゃあ、やってやろうじゃねえか」みたいな感じ。
（しかし実際には）「あ、やっぱ、いいかなあ」って思っちゃいまして。僕んちから○○が結構近かったんです。（○○高校は）友達も結構多かったんで。

＜23cm・21 歳・高卒・男性＞

（23cm）は高校進学後、成績もよく進学するつもりだったが、家計の状況を見て、公務員試験に切り替える。しかし２回失敗し、自分の天職ではないかもしれないと思い、前から好きだった洋服関係の仕事をはじめている。

（20cf）（23cm）は、いったんは高校の選択について考えたものの、志望校の決定については家から近いことを重視した。高校進学後は就職、進学とそれぞれの希望があったが、高校卒業時の進路選択は、就職が難しかったことや家計の状況、学力不足から希望を断念し、それぞれ進学と公務員試験へと希望を変えた。希望は今のところかなっていないが、当面の目標は持っている。

（51em）は、小学校の時はとても勉強ができたが、中学では部活でバレーボールに打ち込んだ。そのため練習ばかりで、宿題以外勉強したことがなかったが、バレーボールでの推薦を受けられるようなスポーツの得意な生徒であり、成績は悪くなかった。しかし打ち込んでいたバレーボールで体をこわし、進路選択時にはややなげやりとも言える状態にあり、詳しく考えることもなく友達と同じ高校に進んだ。

××君が中学から一緒なんですけど仲よくて、○○へ行くと。それなら俺もそこでいいやという感じで。中学の先生に最もやったらあかんと言われていたやり方で高校を選びました。友達が行くからとか、そんな理由で選んだらあかんよとずっと言っていたんですけど、もうええやと。高校へ行くのもどうでもよかったんですよ。行かんでもいいかなと。
（先生に）ここでいいんかと言われて。僕よりも成績の悪い子が１個上の高校へ行っていたりしていたんで。

＜51em・22 歳・専門学校卒・男性＞

（51em）は高校進学後、一時期理由もなくまったく行かなくなり、中退しようとアルバイトをはじめた時期があった。しかし母が泣いているのを見て思いとどまり、何とか高校卒業にこぎ着けた。卒業時には、あんまり真剣ではなかったためよく覚えていないが、四年制大学は成績で難しいということで建築の専門学校に進んだ。卒業後就職した会社の労働条件が当初示されていた条件とまったく違ったため、２、３ヵ月でやめる。現在はバンドで成功することを目指している「べたなフリーター」である。節目では投げやりとも言える態度で進路選択をしてきた（51em）であったが、現在は「もうこれしかない」とバンドに打ち込んでいる。

（37cm）は、中学時代あまり学校に行っていなかった。中３になって高校に行きたいと思い、ちょっとずつ高校に行きはじめる。先生の薦めで高校を選択する。高校に進学してからは、中学校に比べて高校は雰囲気が自由で、友達も様々な地域からやって来ていたため、おもしろかったと語っている。留年することはなかったが、アルバイト中心の高校生活を送った。

*（ちなみに高校の時は、クラブ活動は？）*サッカー部を。とりあえず、バイトのない日だけ出るっていう。バイトが先、優先ですね。（あんまりこの高校は）クラブは、盛んではないですね。バイトばっかりですよ、多分。そっちが一番やと思いますよ。
*（バイト行ったんは、小遣い稼ぐため？）*金使う遊びしか、しなくなりますからね。この年なってきたら。高校生なってきたら。ま、カラオケいったり。この辺遊ぶとこ、ないっすけどね、それ位しか。高校生なったら、服とかも気つかってきますし。ん、だいぶ金かかるんで。
（家から小遣いは？）、もうバイト始めてからは、ほんとに貰ってないですけど。*（家からのお小遣いとアルバイト料の二重取り？）*まで、できなかったです。ほんまに。
*（典型的な高校生活の一日は？）*学校来て寝てって感じですかね。学校で寝て。バイト行って、晩から朝まで、ベース触ってて、いう感じですかね。

＜37cm・19 歳・高卒・男性＞

高校卒業後の進路を考える時期になり、就職活動をして内定を得たが、入社式の日取りも分からずそのまま放棄してしまった。

もう全然仕事は、一度しかけたんですけどやっぱ、まだいいかなと。*（就職活動は？）*しました。
もう進学ということが頭になかったんで。職種っていうのが、ほんまに全然なかったんで、仕事選ぶということもできない位でしたね。「どれがいい」というのがないんで。
いや、受かってたんですけどね。入社式の日取りとかの情報がなくて、「あったんや」と思うんですけど、学校が忘れたのか、僕が忘れたのか分からないですけど。もう、そのまま。
（学校の先生とかが、「一応こういう所、どうだ」という形ではなく？）、いやもう「近いとこ、金、いいとこ」いうくらいで、僕が自分で決めた所です。わけ分からん会社なんですけど。入社してへんけどみたいな。*（それっきり連絡ない？）*ですね。
*（その会社を見つけたのは？）*学校の案内見て。「もう、ここでええわ」近くて、土・日休みでという感じ、ほんまに楽なとこという理由で選びましたけど。*（給料なんかは？）*、まあ、普通のところ。
*（入社式、行かへんかったら？）*一回電話かかって来ましたね、学校から。「そんなん、こっち知らんもん」言うくらいですわ。
（進路の先生に）「謝りに行こうか」とか言われたんですけど、そんな、「謝まって入るぐらいやったら、もう辞めとくわ」って、会社辞めました。「また、一緒に職安行こうか」とか誘ってくれましたけど、さすがに「そんなん自分でする」って。

＜37cm・19 歳・高卒・男性＞

その後高校時代から参加していた祭りの活動を中心に、アルバイトをしながらバンドでの成功を夢見て暮らしている。

（18cf）は、友達が行く公立高校に行きたかったが成績面で厳しく、私立高校に進学した。

先生とうまくいかずやめたかったが、高いお金を出していっているからと何とか通った。しかし卒業の段階になって、学校の就職推薦の基準に従って外見を変えるような行動はできないという気持ちと、希望する求人が学校には来ないという理由から、学校を通じた就職を拒否している。

> 進路を決めるときに、服屋の店員になりたくて、「学校からの就職はせえへん」と、親にも先生にも卒業の大分前から言っていて、それで何もせえへんかったし、お父さんもそのときは別に。めっちゃあほやったから就職もできへんのちゃうかという感じやったし、就職前とかになったら化粧とか服装とかも学校でめっちゃ言われるじゃないですか。だから、そんなのもうざかったし、就職をする気もなかったし、それは親にも言っていたから特に何をしろとは言われなかった。
> ショップで働きたかったので。服屋さんで働いている子から、服屋さんの面接は学校には来ないと聞いていたから。服屋さんで働くために、別に行動はしていなかった。服屋さんで社員になりたいとかではなくて、服屋さんで働けたらバイトでもいい、若いうちしかできへんしという感じやって。バイト募集を探すとか、そういうのはしていた。卒業してから（店員になった）。
> *（学校があっせんする就職ルートは？）*まったく。（どんな口があるか）もう見る前から。３年ぐらいになったら、卒業間近でなくても進路のことを聞かれたりするけれども、全然進学する気もなく、就職する気もなく、興味もなかったし。
> 学校から就職するといったら、めっちゃ面倒くさいような感じもあったし、成績が多少関係あるじゃないですか。あまりにもあほやったし、ほんまに。だから。化粧とかに途中からめっちゃ厳しくなって、そんなんを言われること自体がいややって、面接の練習みたいなものがあったときも、スカートを下までおろして、ボタンも全部閉めて、化粧を全部取らされたりして、そんなんしてあほちゃうかって。髪の毛はめっちゃ厳しかったから真っ黒やったけれど。そんなのをする前から化粧とかを毎日言われていて、就職を希望している友達のスカートがめっちゃ長くて、そんなのを見ていたら余計に関係ないという感じで。
> 「後から後悔する」とかは、先生がよく言っていた。それで、就職する気はないとずっと言っていたら、卒業間近になったら短大とかをめっちゃ勧められて、そんなんのほうがちゃんちゃら行く気はなくて。勉強にしても身だしなみのことを言われるにしても、「今我慢したらいいねん。卒業したら好きなようにやれんねんから」とか。（就職）したほうがいいぞとは別に。就職はしいひんって言っていたら、「何か行くところがあるのか」と言われて、別にないけれども、バイトでもいいという感じだったから、結構しつこく「お父さんにはちゃんと相談して」とは言われてて。
> *（「バイトでもいい」と言うと、先生は？）*「やはりちゃんと高校も出て、するんやったら就職したほうがいい」って。それか、専門学校とか、看護婦の学校に行きながら病院で働くというものも勧められたり。高校まで出てんねやったら、バイトじゃなくて、就職口はあるんやからって。行けるかどうかはわからんけれども、学校に来ているじゃないですか。求人は来とって、就職する子はみんな、放課後とかに見に行ったりしていた。（自分は）見に行ってもない。（笑）
>
> **＜18cf・20 歳・高卒・女性＞**

成績が悪いため学校を通して就職することは難しいだろうと予想しているが、もし学校を利用するとしても、就職するためにスカート丈を直したり、髪の毛を黒く戻すようなことはしたくはない。もし希望する求人が学校に来たとしても、学校推薦にかなうような外見にしたくなければ、学校を通じた就職は難しいであろう。こうした生徒は、学校を通じた就職は難しいと考えられる。

この生徒は卒業後、洋服の販売のアルバイトに就き、楽しかったと語っているが、憧れていた洋服店からアルバイトに来ないかと言われたため、そちらにアルバイトを変えた。しかし実際に働きはじめてみると、好きな洋服を着てお店にでられないきまりだったため、不満に思いすぐにやめてしまい、そのあとアルバイトを転々としている。

学校を通じた就職にのらない、拒否する高校生は少なくない。高校生の就職の場合、学校を通じた就職をするためには、学校のきまりに従う必要があるが、先行研究によれば、フリーターや進路未定者は進路指導への期待の度合いが低いことが指摘されている（堀 2000）。また進路多様校においては、クラスの担任の先生のフルネームさえ言えない生徒の割合もけして低くなく、学校への関心度は低い。教員側から見ても、フリーターになっていく生徒は、そもそも卒業見込みがたたず、進路指導の対象外となっていることもしばしばである（耳塚ほか 2002）。

2.2　東北地区

東北地区の対象者の特徴は、私立の商業系学科出身者がほとんどであるということである。地方では、第一志望が公立、第二志望が私立であることが多い。つまり彼らの中学時代の学力は高かったわけではなく、第一志望の公立に落ちたという者もいる。しかし学校ランクや合否という制約は大きいが、選択基準としてまず挙げられるのは就職がよいかどうかである。高校進学の際に就職を考え、就職がよいという評判の高校へ進学している。専門学科からの進学が増加したいまでも、専門学科＝就職という意識は浸透している。これは関西地区とはまったく対照的な高校進路選択である。

（43cm）は、高校入学以前から就職を希望し、専門学科に進学した。

> 一応専門学校とか大学は行かないで高卒で就職しようと思って、ここのビジネス科に入ったから。はっきりというか、大学とか専門学校とかには行かないで働きたいなと半分くらい思っていたんで。
> 中学校３年になるとやっぱり進路のこととか、高校からまた先のことを考えなくてはいけないんで、ある程度は大学とかは行かなくていいかなと思ってたんで。
> *（早く独立したいとか？）*、そういう意味じゃないんですけど、大学とか勉強するのが嫌だった。
>
> **＜43cm・20 歳・高卒・男性＞**

卒業後、とにかく就職したいと、仕事にこだわらず、保険などは備えている会社を探した。がんばって働いたが、労働条件の厳しさから離職し、現在は慎重に仕事を探している。

（26cf）も、高校を選ぶ際の基準は就職であった。はじめは看護師を考えたが、成績が足りなかったため、次に美容師を考えた。美容師でやっていくためには商業の勉強をした方がいいかと思い、専門学科を選んだ。

その時は看護師になりたかったんで、それで○○高校の方にちょっと「行きたいなー」っていう気持ちはあったんですよ。県内ではそこしかないんで結構…。やっぱ成績面からしても、ちょっと、もう少し頑張んなくてはダメなんじゃないかとか、通学の面からも、ちょっと厳しかったんですよね。電車、乗り継いで行かなくちゃいけない場所だったんで。
やっぱこう実際に考えてみると、血が結構だめな方なんですよ。「はあー」みたいな、ちょっとこっちが下ってきてしまうような、「あ、ダメかなー」って。ただ「なれればいいな」って、憧れみたいな感じだったんですけども。
今度は美容師の方にちょっと芽生えたというか。それで一応その経営するために、商業の方とかも「学んだ方がいいのかな」と思って。一応商業科のあるところ探して、あの△△高校が私の入る年から総合学科になったんで、そこでも結構学べたからそっちの方も受けたんですけど、ちょっと落ちてしまって。で、こっちの方が受かったもんで、はい。

＜26cf・20 歳・高卒・女性＞

高校進学後、成績もよく、真面目な学校生活を送り、就職活動をはじめる。先生に積極的に相談し、求人票だけではわからないような情報も得るなど努力をしているが、思うような求人がなく、受験には至らなかった。

（美容師は）先生とかから話を聞いたりして。高校卒業して見習いとして美容室に入って２～３年かけて取るって人もいるんだって聞いて。でも、もしなんか「途中で挫折してしまったりして免許を取れなかったら、その間の期間はフリーターとしてしか見られないから」って言われて「考えろ」って言われて考えて（やめた）。６月。
んー。（そのあとは）とりあえずは美容師というのは考えなかったですね。ほかの職で何が合ってるのか…、いろいろ考えたんですけど、やっぱよく分からなくて。求人票とか見て「ここ受けたいですけど」っていうと、（先生が）こう何かこっちの方がいいっていうか、ここはどういうとこかとか、条件とか色々聞かされて、多分、女は採らないとこだとか。そういうのがあって。
１つも受けてないです。はい。それで２月か３月あたりに、あの先生からインターシップの話聞かされて「じゃ受けてみようか」と思い受けて、去年の４月から１年間いたんですけど。
（先生が薦めてくれたところは）お菓子の製造とか薬屋さんとか。製造ではなく販売ですね。条件というか、それは○○市内だったんですよ、その薬屋さんというのが。通勤のことを考えるとちょっと無理かなっと思って。駐車場も無かった所なんで自分でとるか、それか電車とかバスとか使って行かなければダメだという所で。で、それを考えると給料からやっぱ毎月５千円・６千円引かれていくことを考えると。△△市内のは殆ど無かったですね。△△市自体があんまり企業がないので。

＜26cf・20 歳・高卒・女性＞

高校卒業前に就職を決めることはできなかったが、県のインターンシップに合格し、アルバイトではあるが事務の仕事に就いた。その契約期間がきれたあと、職場の紹介で別の事務のアルバイトで働いており、正社員を希望している。

こうしたタイプの生徒は、求人があれば学校を通じた就職が可能だった例である。

（24cf）（25cf）（27cf）とも就職を希望しており、就職に向けた活動を行っているが、労働市場の状況が厳しく、就職することができなかった。以下のケースも、高校選択に当たっ

て就職を考慮し、専門学科に進んだ。高校卒業時も就職を目指し活動を試みたが、厳しい労働市場の状況からうまくいかなかった。しかしそれぞれがアルバイトを探しにハローワークへ通うなど積極的に活動している。

（情報学科は）中学校の先生から就職がいいみたいなこと聞いて、それであーって入った。中学校のときから高校卒業したら就職しようと漠然と思っていた。

＜24cf・19 歳・高卒・女性＞

第一志望ではなかったんですけど。他の商業関係の高校、（公立の商業関係を志望していた）、で今の学校、で、学校生活楽しかったし、まあいいかなと。

＜25cf・18 歳・高卒・女性＞

最初は私、食物関係の方に行きたかったんですけど、でもなんか、就職のこととか考えたら情報処理とかやってたほうがいいのかなと思って、そして、最終的に〇〇に。自分の家からも自転車で通えて、商業科もあるってことでここ選んだ。
最初は、ほんとは公立に行きたかったんですけど。そういうコースがあって、そこに入りたかったんですけど、そうすると私立とかけもち、併願で受けるのが難しくて、で、私立って考えたら〇〇か、△△かどっちかって考えてたんですよ。最終的に商業っていうことでこちらを選んだ。

＜27cf・18 歳・高卒・女性＞

こうした卒業後の進路を意識した回答の一方で、「電車通学をしたい」「姉が行っているから」という回答も見られる。これは「友達が行くから行く」という理由とかなり似ている。（14cm）は、「女の子の制服がかわいく」「電車通学をしたい」という理由で高校を選び、専門学科しか入れなかったということで専門学科を選択した。

（〇〇市から通学していたのは？）、女の子の制服がいいと思って。*（△△市の学校に行きたかったのは？）*、中学校の時に電車通に憧れていたので。（学科は）ビジネス科でないと入れないと言われて。

＜14cm・19 歳・高卒・男性＞

（14cm）は、高校進学後、電車で学校の近くまで来た後に学校に来ないで遊びに行くことが多くなり、出席が足りず、就職のための学校推薦の基準に達しなかった。そのため卒業時には就職活動はしておらず、その後父の紹介で契約社員になったが離職した。現在は無職であり、ハローワークなどで仕事の検索はしているが、就職活動には至っていない。

（19cf）は、姉が行っているからと高校を決め、高校進学後はアルバイトに打ち込んでいる。

いいえ、とくにやりたいことはなかったんですよ。同じく姉が〇〇の情報処理科に行ったんで、コンピューターを覚えておいたほうがいいかなと思って。ですね。
（バイトは）無許可で。高校入ってすぐにやりました。いま働いてるオーナーの、もっとちがうなんか、コンビニなんですけど、そこで。人は同じなんですけど、場所はちがう。（時給は）650 円です。けっこうバイト、バイトってすごい入ってたんで。月５、６

万、高校１年のときにもらってたんで、まあ遊ぶには十分。
*（家にいれて？）*は、なかったですね。*（友だちなんかよりも全然お金もってたって感じ？）*でしたね。それ１年間やりまして、そのお店がちょっと経営者が変わるってことだったんで、私もやめて、で、半年は何もしてなかったんですけど、そろそろしようかなってことで、ウエイトレスっていうんですか？またバイトしたんですけど、ちょっとそこは合わなかったんで、２ヵ月くらいでやめて、また、同じ、コンビニの方で。（コンビニは）まあ、仕事自体は好きですけど、楽なんですよ。たぶん、ほかのコンビニよりはけっこう仕事がいっぱいあったと思うんですけど、まあ、仕事自体は掃除とかも好きなんで、全然。

＜19cf・18 歳・高卒・女性＞

（19cf）は、就職したいという気持ちがなかったわけではないが、学校の就職活動にはほとんどのっていない。現在もアルバイトをしており、特に今後の見通しは持っていない。

東北地区には就職を考えて高校を選択したタイプが多いが、このタイプは高校卒業時に就職活動を行っている。その希望や活動は厳しい労働市場の状況に阻まれているが、卒業後も働こうという気持ちが持続している。

他方で、電車通学がしたいなどの理由で選んだ者は、学校生活にはあまり積極的ではなく、就職活動には至っていない。現在アルバイトしている者もいるが、無職で見通しを持っていない者もいる。

かつては専門学科に入学する者の多くは、高卒で就職するつもりで入学し、これをさらに専門学科の進路指導が就職志望へと水路づけていた。しかし専門学科からの進学が増加した現在、専門学科の水路付け機能は低下し、高校入学時に就職するという希望を明確に持っていた者のみが、高校卒業時の活動を行っている。

2.3　首都圏

首都圏は高学歴者が多いが、大学非進学者は関西や東北地域の高等教育への非進学者と同様の傾向を見せている。以下の例はなりゆきで高校を選択した代表的な例である。

（16cf）は小中学校を通して成績はそこそこで、高校には行こうと思っていた。

大体、先生とかと相談して、<u>自分のレベル的なことと近いこと</u>。*（特にこの学校に行きたいとか？）*そういうのはなかった。多分、普通科でいいかなって、<u>友達が行くんで何となく</u>。

＜16cf・24 歳・高卒・女性＞

深く考えることなく高校を選び、高校に入ってからはしょっちゅう遅刻したり、友達と遊びに行ったりしていた。家庭には経済的余裕があったため進学を勧められたが、高校に通うのが「面倒くさかった」ため、大学には通えないだろうとは思っていた。

その時あまり考えてなくて、進学とかも考えてなくて、そのままなあなあのまま卒業しちゃった。（高校に入る時は）心理学とかやってみたいなとかあったんですけど。大学とか。高校の時とか結構、面倒くさいのがあったんで。通うのが面倒くさい感があったから、大学にこんなんで通えるのかなって。遠かったというか、行くのがだるいというか。*（朝起きて行くのがとか？）*そうですね。そんなのがあったら、友達と遊びに行っちゃったりしてたから、大学なんて通えないかって。（心理学は）多分それは、テレビとか。何かドラマとかで影響されたんだと思う。心理学系の何かそういう系のドラマがあって。
（学校の先生は何か言ってました？）、言ってました。どうするの、どうするのって。どうしましょうねって。何ていうか、その時はほんとうに考えてなかった。ゆっくり考えていけばいいかなぐらいに。
*（ご両親は？）*まあ、ずっと進学したらって。進学はしておいたほうがいいんじゃないかみたいな感じで。多分、あんまり考えたくなかったというか、何かそういう面もあったような。何か定まんないといけないのかわからないけど、考えてない。周りもそういう子が多かったし。

＜16cf・24 歳・高卒・女性＞

この若者は、進路活動を何もせず、やりたいことを探すためフリーターになった。大都市進路多様校からフリーターになる、最も典型的な例である。教員も声をかけてはいるが、十分に伝わっていない。就職しようとも思わず、高校卒業時もこれといって進路を考えることもなくそのまま卒業した。高校生の時も決まっていなかったし、現在もすすむ道ややりたいことは定まっていないと語る。正社員になった方がいいかとも考えるが、行動には至っていない。

これに対して、大学進学を希望しながら果たせなかった次の事例においては、もっと学校ランクの高い高校に行きたいと希望し、行けなかったのは残念だと述べている。経済的に豊かではなかったため、高校も公立以外は許されなかったが、大学に進学したいという気持ちも持っていた。

偏差値至上主義という風潮があるんですよ。自分のその通知書の中で、あらかじめ担任は、この学校なら行けるということは伝達されていました。その枠の中で、自分の希望の高校は２ランクぐらい上のところだった。何でそこがいいかと言うと、家から近かったからなんですけど、その上、中学校からも近いし。だけど、あきらめたほうがいいと言われていたんで、ある種異存がありました。それとあと、大概の人は県立、私立と併願なさるんですけど、僕の場合、私立にはとても行けるような状態じゃなかったので、県立一本という感じでした。

＜21cm・31 歳・高卒・男性＞

大学へ進学したいと望んでも、自分で学費を稼ぐ必要があり、塾などの学校外機関の利用は難しいなど、いくつものハードルが科されている。そのハードルを超えることは難しく、挫折に至っている。

進学できない環境にいるけれども、でも進学しないのは言いわけじゃないかという気持

ちもあったんで、もともと高校に入ってから大学行ってもいいなという気持ちにはなっていました。新聞配達したのは、新聞配達することで大学に行くための費用を捻出できるということを聞いたことがあるんで、部活とかは何もやっていない自分は、とりあえず定期的にサークルで何かをしようという気持ちがあったんで、そこで新聞配達していました。
つまり、大学にその時点で行っている人というのは、もう既に小学校の遅くても高学年のうちから塾へ行くなり、計画を立てて、自分１人の個人でなく、家族全体で行くという雰囲気もあったし、向かっていくという感じの人が多かったんですよ。僕のような、家庭不和で、本人もいじけしまって、カエルの子はカエルのような子が目覚めたからといっても、すぐになれないんですよ。要領が悪く、時間かけ過ぎ、なおかつ一番必要なコストがなかったんです。*(塾とか行けなかったということ？)* はい。というのが（大学に行けなかった）大きな要因であります。

＜21cm・31 歳・高卒・男性＞

2.4　小括

高校の選択理由を軸に、高校生活・卒業後の進路・将来への見通しについて、プロセスを追ってきた。

まず高校を選択する主な理由を見てみると、大学進学を希望しない層にとっては、学校ランクが高いかどうかは選択にさほどの影響を及ぼさない。主な理由としては、①手に職をつけようと思うが、中卒で働くのも何なので適当に進学先を選ぶタイプ、②友達や近いことや学費を考えつつ、なりゆきで選ぶタイプ、③就職したいので、就職に有利な高校や学科を選ぶタイプがある。

こうした高校選択の姿勢は、高校を離れるときの本人の将来に対する展望とそのための活動と関連が見られる。中学時に高校選択にあたって真剣に考えた者は、高校を離れる時の進路においても真剣に取り組む傾向が見られるのである。そして高校を離れるときに進路を真剣に考えた者においても、現在移行の危機にあるが、将来への希望や展望を持っている傾向がある。

①のタイプは、学校に来るのは面倒だが、アルバイトでは真面目であり、学校を離れてからはアルバイトに打ち込むなど、将来の長期的展望はあるとは言えないが、①のタイプなりの社会参加が見られる。①の背景には、職業能力を身につけるにあたっても、学校を通じて身につけるよりも、仕事の中で身につけることを重視するような、座学よりも実地を重視する家庭の価値観が背景に存在する。

②は、高校の選択基準もあいまいであるが、在学中も特に希望や目標などを持たず、進路選択の時も十分に考えないまま、移行が困難な状況に陥っている。そしてその状況を深く問題だと考えていない者が多い。

③については、在学中も就職の希望を持ち続け、真面目な学校生活を送っているが、卒業時には地方の厳しい若年労働市場の状況により就職ができないという者が特に女性に多く見られる。しかしこうした若者には働こうという気持ちがあり、前向きである。

これらの知見は第一に、高校の選択時や高校卒業時などの節目に当たって、進路について

考えさせるプレッシャーが必要であるということを示している。中学時に考える将来の希望は現実的ではないかもしれないが、進路選択の指導の中で、その時々に真剣に考えるようにプレッシャーをかけていくことは重要だと考えられる。

第二に、学校で勉強することよりも、働くことを高く評価するタイプにおいては、彼らの志向を踏まえた上で、より幅広い情報に接する機会を与えることも考えられる。

またここで対象とした、大学や短大などの一般受験が難しい層の高校生の場合、進路選択にあたっては進学、就職ともに学校推薦が必要となる。高校進路指導は、地方の場合にはまだ機能しているが、大都市では就職の際の条件となるコードに従いたくない者もおり、こうした生徒には影響が薄い。また何をしたいのかわからないと、とりあえずフリーターになる者は、教員の進路指導を避ける傾向が見られる。

しかし実際に利用するかどうかは別にしても、次のケースに見るように、学校が就職への支援をしてくれるという認識は共有されている。学校の進路支援機能を立て直す余地が有るとも言える。

> *（進路指導は？）*あんまりなかったですね。どうするのかをみんなに聞いて、個人でどうするとか言ったら、それに合わせて、先生が多分（対応してくれる）。就職するとなったら、就職の募集のやつを見せてくれたりとか。（*就職に向けての取り組みがはじまるのは？）*４年生の２学期。あんまり覚えてない。（就職については何もしなかった）。卒業したら働こうというつもりはあった。
> *（学校が紹介する正規職員の仕事には？）*、あまり魅力を感じなかった*（金額とか？）*というか、就職というと、イメージ的にも退職までとか…。ずっとやるというイメージがあるから、それはそんなに。全然わからんまますぐにしていいものかと。
> 定時制の場合に、仕事のことについて、学校ではいろんな情報とか、たぶん少なかったと思います。
> （求人は）美容師見習いとか、調理の。会社の事務というのもあった。*（事務も？）*結構あったように思います。いっぱい、そういう感じ。
>
> **＜17cm・19 歳・定時制高卒・男性＞**

３．大学進学者にとっての移行支援機関としての学校

次に、大学に進学した者、または大学進学を希望した者について検討したい。

大学進学者と高校で学校を離れた者を比較すると、すでに例を挙げたが、高校は成績に釣り合ったより学校ランクの高い普通科に進学している。高校時代特にアルバイトをすることなく、進学するのが本人も周りも当然だと思っている中で大学に進学している。

これまでたびたび高校進路研究で指摘されてきたことではあるが、高校で学校を離れた者と比べると、まったく対照的な高校生活と言える。

ここでは、大学への進路選択と就職活動と将来の見通しについて検討する。

大学に進学した者にとっての高校における進路選択は、進学を選んだという意識さえ薄いことが特徴である。大学への進学は、選択肢を広げ、やりたいことをみつけるためという理

由からなされる。学力面でも経済面でも恵まれた若者には、自分の可能性を広げ、探ることができる時期が与えられる、それが大学への進学と言える。経済的に恵まれていない若者にとっての大学進学のハードルは高い。

学部の選択も、就職にあたって自分の選択の幅を狭めない、つぶしがきくという見地からなされる。あるいは何か特定の学部にこだわっていたとしても、就職を意識しているというよりは、勉強してみたいという動機が強いようである。

例えば（34ef）は、高校は自分の学力にみあった普通高校に進学し、当然のように大学進学を希望した。

> （経済学部に行ったのは）漠然としていましたけれども、自分の進路がそのころから全然決まっていなかったので、経済学部に行っておけばいろいろと選択肢があるんじゃないかと思って。高校の時はとりあえず進学だったので。
>
> **＜34ef・24 歳・大卒・女性＞**

まあ満足のいく大学に合格でき、楽しい学生時代を過ごしたが、いざ就職にむけて動き出す時期になり、悩みはじめる。

> 私は出版社を数社受けました。*（編集者になりたいとか？）*そうですね。できればなりたかった。出版社に入りたいというのは就職活動を始めるというぐらいになってから…。出版社にいるといろいろな人に会えたりとか…。ほんとうに漠然とした考えでした。やはり、自分の方向性がはっきり決まっていなかったのがここにもあると思うんですけれども、いろいろな人に会えたりとか、いろいろなことが勉強できる場所だと思ったんですけれども。
> そんなにリサーチとかもなく、出版といって気楽に始めてしまって…。だから、（だめだったときは）気持ちがすごくなえていましたね。それと、やっぱり出版を目指したい人というのは、ほんとうに前々からそういう出版社に就職するためのセミナーとかにちゃんと通っていろいろと勉強をしているのに、自分はやってきていないし、自分はそこまでして出版に行きたいという気持ちがあるのかどうかという疑問がすごく出てきましたね。
> それで春が終わって。「夏休みは…」って思っていました。（笑）ほんとうに、学生のときは進路について真剣に悩んでいなかったと思います。
> そのころから、秋になったらもう一度ちゃんとやろうと思っていたんです。出版とは全く切り離して、とりあえず就職をしなかったら生きていけないし、でも営業は大変そうだしと切り捨てていって、その結果が事務職と。周りが、やはり女の子は事務職という傾向がすごくあったということもあります。
> 友人が一番相談しやすかったですね。励ましてくれたり、就職部に連れていってくれました。お世話になって…。（就職部は）私は友達が連れていってくれたときぐらいで、あまり行かなかった。ほんとうにひどいんですよ、私の性格は。でも、その私を就職部に連れていってくれた人は、結構ちゃんと通っていろいろと仲良くなったりとか、入ったりとかしていたので、そういうふうに何度も通って、自分でやるぞという人に対しては、やはりそれなりに求人を紹介したりとかをしてくれていたんだと思います。あまり自分の就職意欲が高くなかったんだと思います。絶対にしなければと思ったら、もっといろいろなところに行ったと思うんですけれども。
>
> **＜34ef・24 歳・大卒・女性＞**

（34ef）は卒業後、アルバイトをしつつ、事務の仕事を目指して簿記を勉強し、資格試験に挑戦している。しかし相談機関を訪れ、いろいろアドバイスをもらったが、自分の目指す仕事が事務でよかったのかと悩んでいるのが現状である。

（35em）も、大学進学は当然という家庭に育ち、大学へ進学した。

全く考えたこともなくて、数学がもうほんとにだめだったんで、まあ、文系だなと思って、大して調べもしないで、まあ、文学部はちょっと就職に不利だし、語学部って別に興味ないから、じゃあ、商学部とか経済・経営あたりで、何か就職のときにちょっと有利かなみたいな感じで、その辺の学部を受けただけでした。
大学行く、進学というのは、もううちでは当たり前だったと思うんで、自分もそう思ってたし親もそう思っているんで、浪人したときは、何とか浪人させてくださいっていうふうには言ったけど、親も大学進学は当たり前だろうみたいな感じだったんで、適当に浪人させてもらって。

＜35em・25 歳・大卒・男性＞

浪人はしたが大学に進学し、大学生活を送っていたが、自分を育ててくれた祖母が亡くなったことがきっかけで、将来について考えはじめる。

ちっちゃい頃からおばあちゃん子だったんですよ。両親が共働きで、うち、お花屋さんを両親がやっているんですけど、もうとにかく全然、僕はおばあちゃんに任せっきりみたいな感じで、保育園からもうずっとおばあちゃん子だって、だから塾とか行ってるときも、おばあちゃんがくれたご飯を食べて行ってみたいな感じで。もう親とはあんまり会わないぐらい。高校のときも…。だから、生き物を扱うというか、植物だから、そんな休みなんか取れるわけもないしというんで、もうほんとにずっとおばあちゃんで、もうおばあちゃん子だったんですけど、それが大学２年の春に死んじゃって。
それから、すごい考え方が変わったというか、何か就職とかも、大学卒業したら就職しなきゃいけないのかなみたいな疑問を感じるようになって。疑問っていうか、何で…。何だろう…。やっぱりすごい大学入ったときも、おばあちゃんが喜んでくれたし、そういうのもあったのかなという…。
そのときは、そういうことなかったのかもしれないけど、○○から△△（キャンパスの移動）に３年から移るじゃないですか。とにかく通学が嫌になってきた、遠いし。何か、まあ、３年だからそんなに授業がないから今はいいけど、週５で毎朝毎晩ラッシュでっていうのはちょっときついなと。そんな大企業じゃなきゃいけないの、みたいな感じで。そのときも、すごいいろいろ考え始めた。別に大手に入らなくてもいいんじゃないか。それまで当たり前に思ってたことを、ちょっと考えるように…。
多分、３年の春からちょろちょろはあったんですけど、まあ、そのころは多分全然出てなくて、３年の夏休みに友達とスペインとかモロッコに旅行にバックパック背負って行ったんですよ、２週間ちょっと。もうすごい貧乏旅行をしたというか。飛行機のチケットだけを…。それがすごい楽しくて、すごい海外で生活したいって思うようになったというか。
何回かは、説明会とかに出ましたね。ただ、まあ、何かやりたい仕事だったら、いいかなって。そのときは、映画は好きで、スノーボードがすごい好きだったので、映画の配給会社と□□スポーツにエントリーシートを出して、でももうそのぐらいしかやらなかった。普通の…。あと、カード。それが何か、海外研修ある、みたいな感じで。あ、海外研修あるんだ、海外行きてーなぐらいので…。
それはもう全然だめで、エントリーシートからだめだったから。で、もう坊主にしまし

たね、そのときに。「もう就職活動いいや」みたいな感じで、丸ぼうずにして。

＜35em・25 歳・大卒・男性＞

（34ef）（35em）ともに、特に将来のことは考えず、当然のように大学へ進学した。大学進学後、就職活動をする時期になり、本人から見ても周りから見てもあやふやな希望に基づき就職活動を行うが、希望が叶わなかったあとに迷いだし、途中で半ば就職活動を離脱する。その後は簿記の勉強、英語の勉強のためにニュージーランドに行くなど、あらたな道を踏み出している。少なくとも将来についてかなり真剣に考えるようになっているが、現在それぞれに道が定まったというわけではない。

（32em）は、高校時代からニーチェを読み、周りにはとっつきにくいという印象を与えていたという。（32em）は、国際関係を勉強したいという理由から大学を選択した。

（大学進学）そこを一番悩んだんですよ。一応進学校だから、９割９分までみんな大学か、あるいは専門学校に行くんですよね。僕も大学に行って卒業したわけですけど、これでいいのかなって。何かベルトコンベアの部品じゃないみたいに思うところがあって、それがまだいまだに引きずっている部分があります。もっともこれだけ就職が厳しくなったら、そんなことも言っていられないやというのもありますけどね。
（悩んで）やっぱり行ったほうがいいかなと。*（大学進学をやめようと思った？）*そういう時期もありました。高校３年ぐらいのときはどうしたらいいかなと。
*（そのときに相談できる人は？）*クラスメートで。ええ、１人いました。（親は）一応大学に行ったほうがいいぞとは言ってましたね。
*（国際学部に行ったのは？）*それは、今思えば若気の至りなんですけども、今でも勉強はしているんですが、国際関係の勉強をしたいなと思ったから、単純に国際という名前がつくところを片っ端から受けたという。仕事じゃなくて。勉強をしたいなあというだけだったんで、英語の勉強は一生懸命やったんですよ、浪人時代から。

＜32em・28 歳・大卒・男性＞

今から振り返ると、勉強をしたいとは思ったが、将来の仕事とは結びついていなかったと語っている。大学時代は、海外を放浪するなどしたため、単位が取れず、二浪二留ということもあり公務員を目指すが、失敗してしまった。大学院入学も検討したが、将来が不安という判断からいったん実家に戻った。

*（大学を卒業した後のことは？）*いえ、特に決めてなかったですね。大学時代でつまづいちゃった（二浪二留）ということがあるので、民間のほうで就職活動しようというのがあまりなかったんですよね。今になってみてもやっぱり思うんですけど、周りの人で就職をした人とか話を聞いてみると、大学の就職課、ほとんど機能してないですけどね。一応それを頼って就職した人の話を聞いてみると、コネ以外だったら…。コネがある、昔からつき合いがあるような会社が多いことに気づいて、民間はやめて、じゃ、公務員でやろうと思って、外交官、ノンキャリアのほうを２回受けて、２回受けて残念だったですけど、まあ、いいかと思って。あんまり後腐れはなかったですね。まあ、しようがないかと思って。
当時、自分なりに就職について思ったということは、何か取り柄がないと難しくなっているなと思ったんですよ。派手な生活とかは全然思ってなかったですけど、ノンキャリ

アのほうだったら、いろいろな所に、どこかわかりませんけど、例えばアフリカならアフリカのどこかの国に行かされて、言語を修得してとかそういうことがあるじゃないですか。自分なりにツテを使って、元外交官、ノンキャリアだった人の話を聞いたりとか、あんまり勧めないよということを言われましたけどもね。でも、その人もやっぱり今、外務省をやめてからロシア語の通訳をやっていると言ったし、やっぱりそれだけのすべはあるんだなと思ったので。やっぱりそれはそれで残るわけで、専門性というところかな。それにあこがれたのかな。
２回受けて２回ともだめだったんですが、２次試験まで行ったんだし、それにＯＢの話を聞くと、キャリアとノンキャリアの差はものすごく、カースト制度に近いぐらいにひどいものがあると言うし、何かごまかしとかそういうのはしょっちゅうだと言うので、あんまりそんなあこがれるようなものじゃないと。
ようやく卒業して、ちょっと疲れてたのかな。〇〇大学の大学院を受けて受かったんですけど。政治学の。受かったんですけど、そんなところを出てどうするんだよと、確かに言われればそうなんですけど、出たからといって、今、職なんかあるわけないなと。自分のおやじ（大学教員）もそう言ったし、自分なりにサーチしてみても、やっぱり否定的な意見が多かったと。（進学はやめて実家に）１回戻って。

＜32em・28 歳・大卒・男性＞

現在は社会保険労務士の資格も取得したが、就職は難しい状況にあると語っており、将来はあまり見えていないと言う。

（48em）は、小学生の頃から何をしても優れている部分がなく、人間関係に悩んでいた。これを克服しようとがんばって高校を受験したが、失敗してしまった。

その当時の自分の学力で、行けるところならなるべく、高めのところだったんですが、なかなか苦労はしました。中堅校だったんですけれども、何とか受けたんですけれども、残念な結果に終わってしまいました。それで滑りどめで受けていた私立の高校に。*（受験校を決めるときは、ご両親とか先生にご相談なさったんですか？）*しました、やっぱり。今の学力では難しいと言われました。

＜48em・24 歳・大卒・男性＞

高校進学後、病気で学校を休んだ時期があり、心を閉ざすようになったという。高校はやっとのことで卒業し、浪人を経て大学に進学した。大学は工学部に進学し、アルバイトもした。はじめは慣れるのが大変だったが、大学後半になってから友達とも話すようになっていったという。就職には真面目に取り組んだ。

*（就職は？）*それは大学のほうで、３年の夏前ぐらいから就職のガイダンスみたいなことをやってました。*（出席されたんですか？）*。ええ、しました。就職はもう全然わけがわからなかったので。何が何でも就職できないと、ほんとうにお話にならないので。就職したかったです。
パソコンのインターネットの就職サイトみたいなのありますよね、リクナビだとか。そういうのを就職課が教えてくれたので、そこから入って。それを見始めたのは 10 月だか 11 月頭あたりで。なかなか自分のやりたい仕事が見つからなくて。ある日どこかの会社から会社説明会のチラシが来てて。何かやらないと、ということで２月ぐらいから会社の説明会とか行き始めて。２月になってくると何かいろいろと合同会社説明会があるじゃないですか。どこにでも参加するようにして。受ける仕事の種類はさまざまでし

たね。もう入れそうなところだったらどこでも。
大体２月、３月ぐらい。３月ぐらいでもうパソコンのインターネットの仕事探しというのは嫌気が差してきて。４月ぐらいからですかね、やっていて、ちょっと嫌気が差してきたので、就職課のほうに相談して。就職課の求人を見て探すことにしたんです。５月と６月ですね。大体５月ですかね、５月、６月ぐらいに何社か受けて、６月 20 日に内定をいただいたんです。特に希望とかそういうものははっきり言って、最近は就職が厳しいと聞いていたので、もうやりたいことではなく、自分のできそうなことなら何にでも挑戦しようという気持ちでいましたので。ほっとしたという。
６月、２社だったんですけど。１社がもう面接だけだったから、チャンスだと思って。この会社に落ちたらもう就職できないのかなみたいな気持ちで。もう神経がとがってたというか、気持ちが張ってましたね。ほんとうにもうこの会社は入れなかったらどうするのかなというときに、その内定のお電話が来たって親から知らされて。よかったです。ほんと。

＜48em・24 歳・大卒・男性＞

こうして卒業直前まで就職活動をがんばりやっと仕事を得たが、仕事になじめず、半ば首になるようなかたちで離職し、現在は職業訓練中である。しかし訓練を受けている職種での就職は難しいと語っている。

（47em）も大学は当然のように進学した。

（大学は）ああ、もう最初から行こうと思ってたんで。高校に入ってからですかね。結構、当たり前みたいに。わりと当たり前ぐらいの感覚だったんで。周り（の友達の影響）かな、やっぱり。両親は、やりたいことがあったら別に行かなくてもって性格だったんですけど、特にまだやりたいことは見つからないし、とりあえず大学っていうのが最初にあったんで。

＜47em・26 歳・大卒・男性＞

（47em）は、大学卒業後は就職するという強い気持ちを持って、早めに就職活動をスタートした。その努力が報われ、何とか在学中に内定を得ることができた。

洋服が好きだったんで、アパレル１本で業種、業界を絞って、学校の就職課とか情報とか来ますよね。ああいうのはほとんど頼らないで、自分で〇〇学院(服飾系専門学校)のホームページをみたりとか。自分なりにいろいろ自己分析してとか、何かいろいろ本を読んだりしたりとか。
（就職活動は）３年の秋ぐらいですね。（就職をしなきゃって気持ちが）まあ、強かったですね。いや、働くのは当たり前だから。とりあえずぎりぎりで決まって。４年生の２月。

＜47em・26 歳・大卒・男性＞

しかし就職先でがんばって働いたが、早期に離職を余儀なくされた。自発的離職という形をとっているが、解雇に近かったと語っている。離職直後はこのあとまた仕事につけるのかなど不安でいっぱいだったが、若者支援機関を利用し、自分を立て直しつつある。また出身大学の就職部を尋ね、相談もしている。現在は就職活動をはじめようとしているところであ

る。

（8dm）は、大学に入るまで特に問題なく、流れにのってやってきたという。面倒な人間関係や、将来について深く考えることを避けてきた。学力的に大学に行けるとは思っておらず、自分が文化系か理科系かもよくわかっていなかったが、先生に大学への推薦を紹介され、推薦でいける工学部に進学した。

> 多分、（自分は）理科系なんだと思うんですけど、数学をとっているということはそっち…。たまたま、二択でどっちかと言われたら、どっちかに丸をつけると、こっちを選んだ人はこういう教科をとりなさいというところがあるからだと思います。（文科系か理科系か）どっちを選んでも大差ないなと思ってました。大学に行こうということが前提じゃなかったんで。なるべく何も考えたくなかったんで。
> たまたま理系に○つけて出して、周りが「おまえ、何で理系なんだ」。「じゃ、理系やるよ」って。*（理系をとったら大学は推薦で自動的に理系になったと？）*そう。だから、自動的に上がれちゃった。だから、それが決まったときにものすごい悩んで、結局、先延ばしにはするけど、絶対、この何年後かに大変だというのはわかっていて、いっちゃった後がすごい悩んでいた。*（悩んで、でも、大学には進学しちゃった？）*うん。しなかったら、何にもしない状況。
> （どういう学部に行きたいとか）ずうっと持たないで、ここまでこう、16～17まで来て、何かやりたいことを見つけておかなきゃ、どんな仕事をするのかって方針を持たなきゃというのは、周りから聞かれるから持たなきゃというのは思っていて、で、高校３年の秋になってみたら推薦の枠があるんだけどっていって、そっちにね。
> *（将来、何になりたいとか、そういうのは？）*なくて、ただ大学に行けるってふうに考えてなかったんで。大学なんて、そんな簡単に行けるものじゃないって周りが。じゃ、まあ、いいやと。
>
> **＜8dm・24歳・大学中退・男性＞**

この若者は厳しい工学部に進学したために、単位を取れず中退せざるを得なくなった。このあと編集の専門学校に進学し、ライターの卵として修行するかたわら、短期のアルバイトをしている。このままではいけないと感じており、将来を模索中である。

（11dm）は、幼い頃から両親の転勤で、全国を転々としていた。高校時代に両親は海外に転勤するが、本人は残った。ごく当然のように大学を目指すようになる。

> そうですね、このころになってもまだ抜けてなくて、むしろ何となく大学と考えていました。*（ご両親とか学校とかに？）*相談する間もなく。そうですね。普通はやっぱそうですね。
> *（学部とか学科とか？）*そういうところなんかも、要するにつぶしがきくだろうと、法学部に。
>
> **＜11dm・32歳・大学中退・男性＞**

大学を目指して浪人中、友達がなかなかできず、孤立してしまう。やっと大学へ進学したときにはかなり精神的にまいってしまっていた。

大学入学後は大学には行かず、参加していたサークル活動の人間関係も絶え、アルバイトもしていなかった。

> ほんとうに、何ていうのかな、逆に言うとサークルだけ出ていて、学校も出てなくて、だんだんそこら辺でギャップが周りとできて、１年、２年間は楽しかったですけど、だんだんやっぱりサークルのほうも、学校へ行かないということで、だんだんあんまりうまくまわんなくなってきて。
> で、親のほうもまだアメリカいたので、特に何も言わずにいたんですけれども、３年に上がる段になって３年に上がる単位がなかったので、留年すると、親のほうから「学校行ってないのか、おまえ」って。そのころ要するに学校に行っていないと、うちの親の口癖が「20 歳過ぎたら親に養育義務はないんだから」、そういうふうにはよく言われていまして、そうはいっても自分のほうで何を考えるかというと、ごまかしごまかしやって、大学に通っていたいと。その後、大学に行かずに何年間か留年を繰り返していて、中退という形ですね。
> 全部で６年間です。（サークルをやめた後）全く何もしない生活です。本とあと、ゲームですね。今ほんとうに思い出してもよくわからない状況でした。やっぱりどちらかといえば、後ろ向きなことをよく考えていた。
> というか、要するになんていうのかな、時間のことを考えるのではなくて、生きることを考え出すんですよ。自分のことがままならくなると。自分の場合は。要するにこの世の中って何でこうなんだという哲学…。何で人間は生きているだろうとか。哲学系の本ではなくて、ほんとうに小説。そんなに小説は読んでないけど、ただ、短編集かな。阿刀田高とかその辺かな。あと、そうですね、ショートショート。そこら辺を結構読みつつ。あと椎名誠。そんな感じで。要するにただ生きてるのって時間が余っているから、自由になっては本をみたいな感じ。
> *（大学を離れることにしたのは？）*それは、もう一つには、自分の年からいって普通に大学に行って、卒業してというふうな、要するにいろいろと普通だったら乗り越えるべきハードルがありますが、それを全部踏み倒していく段になって、ここまで年とったんならいいやという、その生き方をあきらめたという…。26、7 ですね。*（大学をやめることにしたのは、自分と両親の？）*両方の。何となく、何となくそうだろうと…。
> **＜11dm・32 歳・大学中退・男性＞**

社会とのつながりをなくしてしまったまま、何の見通しもなく大学を離れた。その後アルバイトをはじめたが長続きせず、その理由が自分の対人能力にあることを感じたため、同じ悩みを持つグループに参加するようになった。現在は、アルバイトを続けることができるようになっており、放送大学も利用するなど、社会参加ができるようになっている。

3.1　小括

大学進学者は、大学進学が当然という環境の中で進学している。この層の若者においては、より学校ランクの高い高校や大学に進学したいというアスピレーションがいまだ共有されている。しかし「とりあえず進学」であり、大学を卒業したその先のイメージはないものの、その後は差異が見られる。

希望者のきわめて多いマスコミ系や超大企業を希望し、ほんの少し就職活動をして離脱してしまう早期就職活動断念者、それなりにがんばったが試験に失敗するなどした内定非獲得者、就職するという意気込みで内定を獲得したが、半ば解雇に近い状況で離職した内定獲得

（早期離職）者と、やむを得ず大学を離れた未展望者に分類できる。

大学の就職部、あるいは大学を移行支援機関として利用しているのは、就職したいという気持ちが強い者に限られている。他方、卒業後に、大学の就職部に尋ねて相談する若者もおり、卒業後も移行支援機能を果たしている側面も見られる。こうした卒業後のフォローアップも重要である。

４．学校は移行支援機能を強化できるのか

本章では、若者のインタビューを通じて、学校という移行支援機関が果たす役割について考えるための手がかりを探った。

第一に、高校選択の態度は、高校を離れるときの進路選択およびその後の将来に対する展望と関連が見られた。中学時に高校選択にあたって真剣に考えた者は、高校を離れる時の進路選択においても真剣に取り組む傾向が見られるのである。そして高校を離れるときに進路を真剣に考えた者は、現在移行の危機にあっても、将来への希望や展望を持っている傾向がある。これまで言い古されたことではあるが、進路選択の節目において、進路指導は生徒に対してプレッシャーをかけていく必要がある。

しかしながら第二に、直接的な支援である高校進路指導が支援として機能する余地がある若者は限定されつつあるということである。高校で教育を離れる若者にとっては、学校よりも実際に働くことを重要だと考える傾向が強い。また就職のために校則に従うことを避ける生徒もいる。こうした進路指導を忌避するタイプの生徒には、進路指導の密度を高めても、進路指導が影響を及ぼすことは難しいと考えられる。なおこうしたタイプの生徒の分析は大都市に多く見られるが、次章で詳しく検討されている。高校の進路指導においても、こうした生徒の選択を容認する傾向が見られる（耳塚編 2002）。

しかしたとえ学校が移行支援に果たせる役割が限られてきているとしても、学校自らが移行支援機能を放棄してよいということではない。特に高校においては、利用するしないにかかわらず、学校が移行支援機能を持っていることは認知されている。少なくとも学校という組織は、移行支援において重要な役割を担っているという認識は持つべきである。

他方において、地方の高校生に対しては、高校の進路指導が移行支援としてまだ大きな役割を果たしていることも確認できる。特に労働市場の状況が厳しい地域においては、今後も重要な機能を果たすことが望まれる。ただしどちらの地域においても、高卒就職が狭隘化する中で、高卒者に対する補完的な支援の必要性は増してきている。

第三に、進学率が高まり、中卒や高校中退はもちろん、高校を出てもよい仕事は得にくいという状況が誰の目にも明らかになる中、ますます不利な立場に置かれることになる高卒以下の学歴の若者に対して、高い学歴を獲得させ、就職を有利にするという支援の方向も考えられる。

しかしながら、このインタビューを通じて見える若者は、高校に入学する以前から就職を

希望していたり、働くことは嫌いではないが、勉強するのは好きではないというタイプが多くを占める。上級学校へ進学したとしても、なじめないことも予想される。中等教育まではともかくとして、より高いスキルを獲得させるために高等教育への進学を支援するという支援は、対象者の適用範囲が狭いことも予想される。ただし彼らに、様々な進路の可能性があるという選択肢の情報提供は欠かせない。

第四に、大学に進んだ若者の将来展望の欠如に対する働きかけの必要性である。当然のように進学し、さしたる入学動機がないことはもちろん、就職活動を迎える時期になっても、仕事をするという実感がない高学歴の若者はあまりに多い。また大学の就職部が移行支援として有効に機能するのは、本人に就職するという明確な気持ちがある場合に限られる。ただし卒業後も卒業生が相談に訪れるなど、卒業後のフォローを行っている大学も見られた。

低学歴の若者とは異なり、高学歴の若者は経済的に恵まれているが故に、働くことに対する切実感が薄く、「やりたいこと」をしなくてはならないという強迫観念も強い。高学歴の若者が、自分の希望と現実との折り合いをうまくつけることができるために、カウンセリング機能を持つ機関が今後補完的支援として重要になってくるだろう。

学校が行う包括的支援は今後も重要であり続けることはまちがいない。学校の側にも支援の充実が求められる。しかし学校だけが包括的な支援を担うという時代は終わり、日本においても補完的支援の充実が求められる段階に入ったと言える。

参考文献

苅谷剛彦（1991）『学校・職業・選抜の社会学』東京大学出版会

小杉礼子編（2002）『自由の代償―フリーター』日本労働研究機構

堀有喜衣（2000）「進路指導の実態・評価とその影響」日本労働研究機構『進路決定をめぐる高校生の意識と行動』調査研究報告書№138

耳塚寛明編（2000）『高卒無業者の教育社会学的研究』文部省科学研究費報告書

耳塚寛明編（2003）『高卒無業者の教育社会学的研究（２）』日本学術振興会科学研究費報告書

労働政策研究・研修機構（2004）『諸外国の若者就業支援政策の展開―ドイツとアメリカを中心に』労働政策研究報告書№.１

竹内洋（1995）『日本のメリトクラシー』東京大学出版会

第３章　彼ら・彼女らにとって学校とは何だったのか

１．はじめに

学校の教室を想像してみよう。自分が通った学校、子どもが通っている学校、教職関係者なら自分が勤めている学校、いずれでもよい。幼稚園、小学校、中学校、高校どれをイメージしてもよい。たとえば 35 人の子どもたち（園児・児童・生徒）がいる。その中に、かつての自分自身がいる。教室にいる子どもたちは、その時点で「教室にいる」という点では共通であり、ある意味で平等であるが、それぞれが背負っているもの（社会・経済・文化的背景）には驚くほどの差がある。そして、ほとんどの場合、それは子どもたち自身ではどうしようもないことが多い。一方、学校は児童・生徒を「社会化」する機関である。「あるべき姿」「望ましい態度」など社会のルールやマナーを、教科・科目等の学習、道徳、特別活動、等を通して児童・生徒に身につけさせることは、学校の社会的役割であるといってよい。「あるべき」とか「望ましい」というのは、明らかに価値判断を含んだ表現である。実際の教室場面（教育現場）では、学校が教えようとする価値にある時には消極的に（非社会的な行動として）、ある時には積極的に（反社会的な行動として）、コミットしない・できない子どもたちが存在する。学校が教えようとする価値は、ある層の子どもたちにとっては「当たり前」でもなければ、場合によっては「正しい」ことでさえないのである。この章は、現在正規雇用労働に従事していない（パート・アルバイトとして労働している、または何もしていない）若者に対するヒアリング調査から、彼ら・彼女らにとって「学校とは何だったのか」を明らかにしようとするものである。

２．学校的価値の受容と学校からの離脱

ヒアリング調査のデータに関して、学校的価値をどのように受容し内在化しているか、あるいは受容を拒否し内在化していないか、学校や学校的価値からどのように離脱していったのかを主な視点として整理した。この章では、とくに相対的に学歴が低い者（原則として高等教育を受けていない者）に焦点を当てて考察している。また、ヒアリング・データはその内容はもちろん重要であるが、彼ら・彼女らの「語り」をできるだけ忠実に再現し、引用した。その「語り」のリズムやテンポなども内容と合わせて、経験と想像力を十分に働かせて読者自身の中で「再現」してみてほしい。そのうえで、なぜ彼ら・彼女らが「正規雇用労働に従事していないのか」を考えてほしい。なお、今回のヒアリング調査データは大きく関西地区、首都圏、東北地区、の三つの地域に分けることができる。それぞれの地域の特徴としては、関西地区のヒアリング対象者は中学校卒業後、公立普通科の非進学校（進路多様校）に進み、卒業あるいは中退してそのまま現在の非正規雇用労働従事あるいは就労していない状況になっている者が多く、首都圏は公立・私立普通科高校を経て高等教育機関に進学、卒業あるいは中退した後に現在の状況になっている者が多い。この二つの地域のヒアリング対

象者の差は、高卒後高等教育機関に進学した、あるいはできたかである。進学できたかどうかの背景には、学校に行くことによって得られるメリットを本人と保護者が認知できたかという文化的側面と進学させるだけの家計の余裕という経済的側面、この二つの要因があると思われる。また、関西地区の対象者と比較すると首都圏の対象者は、社会的環境よりも本人自身の要因が強く現在の状況に影響している者が多いという印象がある。東北地区は、高卒を含めた雇用環境の厳しい地域の私立高校専門学科卒業者が調査対象の大部分を占めている。印象としては首都圏に比べると経済的にはかなり厳しいが、学校には適応しており、現在の状況は本人の要因というよりは地域の環境的要因の方が大きいと思われる。

2.1　学校に行きたかったか？（中学校からの高校選択）

まず、今回の調査対象者は「学校に行きたかったのか」を考えてみる。場面としては、中学校卒業時における進路選択「どのようにして進路先（高校）を選んだのか」である。中学校から高校への進学率は最近は大体 97%前後で推移している。「高校へ行くのは当たり前」という意識を、多くの生徒、保護者が持っていると考えられている。実際の高校進学にあたっては、中学校までの学校への適応が規定要因になっている。入学試験で目に見える差となって表れる学力、学校生活への適応の指標、ひいては勤勉さの指標となる出席状況（欠席・遅刻・早退など)、集団生活への適応の一つの指標である特別活動歴（児童会・生徒会活動、クラブ、部活動など）が総合的に、どんな高校へ入学できるかの規定要因になっている。当然のことながら、学力不振、不登校などを含めた多くの欠席は直接的に、積極的に特別活動に参加しなかったことはどちらかといえば間接的に入学できる高校を規定する。18 歳人口の減少に伴って、一般的には大学進学が容易になっており、いわゆる伝統的「進学校」以外からも大学進学は可能になってきている。その中にあって、高校卒業後「進学しない」「進学できない」人、高校に「行かない・行けない」人、高校の途中で「学校を離れる（中退する)」人はどういう人なのかをヒアリング・データから見てみよう。ここでの視点は、彼ら・彼女らがどんな背景をもち、どんな生活をしてきたのか、そもそも「学校に行くことのメリットを認知できたのか」、すなわち学校に適応する価値を持ち得たのか、という点である。

（A）関西地区

関西地区に限ったことではないが､積極的に高校に進学するという気持ちはうかがえない。

> 中学校、行ってなかったんですよ、あんまり学校、全然。中学の時、学校行ってなかったいうのは…特に、「めんどくさい」っていう理由で。中学面白くなかったですね。先生の授業も、やっぱ合わなかった。全然。いい先生おらへんかった。僕の中では。友達は多かったんですけど…。そうですね、中３入ってから「高校行きたいな」思って、ちょとずつ学校行きだしたんですよ、中学校に。さすがに「中卒はいやや」と。〇〇高校選んだのは中学校の先生、「行けんのちゃうか」って、それでチャレンジした。中学校の時は自分がどうなるとか、あんまり考えてないですね。どういう風になりたいとか。全然

ない。

＜37cm・19 歳・高卒・男性＞

高校は行ってないですね。受験もしてない。進学は全く考えてないですね。学校が、まだそのころはそのときで頭でっかちになって、学校というのが何やろう、何しに行ってねんやろうというわけのわからないことを思って、で、もう働こうという。「高校、どうするねん」とかいう話のときに、校長先生が僕んちに校長先生と担任の先生が来てもろうてたんですけど、反抗期で、寝起きも悪かった自分がいたんですよ。学校という何かに縛られたくないという自分が多分あったと思います。学校へ行くということに縛られたくないという…。何か変なこだわりがあってね、学校というところには行きたくなかったんですよ。別に先生がおる、嫌やとか、勉強が嫌やじゃなくて学校という何か大きい何かに自分がとらわれているというか、学校が嫌やという、名前が嫌やというわけのわからないことを言うていたんですけど、多分それは言いわけであって、こじつけであって、学校自体に何か行きたくないというのを感じていたと思うんですけど、でも、あのとき考えていたことは、学校が嫌やったというしか、いまだにちょっとわからないですね。

＜1am・24 歳・中卒・男性＞

私立は絶対に行きたくなかったんですよ。公立に行きたくって。公立でも△△商業に行きたかったけど、中学さぼったから無理やわって言われて…。「今から頑張っても無理やから、ちゃうとこしい」って言われて。でも、女子校だけは絶対嫌やって思ってて。「どっかない？　どっかない？」って先生に言っとって、「ないわ」って。何せ商業科に行ってみたかったんですよ。商業科で何かやってみたいと思って。何か夢あったんかな。行きたかったというか…。

＜12df・20 歳・専門中退・女性＞

*（高校でこんなことをしたいな、高校はどこを行きたいなという展望みたいなのは？）*全然なかったです。

＜17cm・19 歳・定時制高卒・男性＞

あんまり考えてなかったんです。流れるまんまというか。この高校に行きたいなとか、あんまりなかった。高校に入ってもテニスをやりたいなというのはあったんですけど、一応は。この学校を受ける前に、私学１校受けているんですよ。ここ（公立高校）はどうせ落ちるわという感じやったんで、私立の学校でテニスができればいいかなという感じやったんですね。だれかと話したりとか、相談したりとかは、別になかったですね。*（１人で決めた？）*そんな感じです。あんまり友達とかに流されたりとかしないほうがいいかなと思ったんです。担任の先生とかにも相談しなかったです。

＜28cf・19 歳・高卒・女性＞

高校は〇〇高校。近場で、自転車で行ける距離なんで。それが一番のポイントやったから。中学校ではだれにも相談はたぶんしてないと思う。中学校の先生から別に特にアドバイスとかはなかった。塾の先生に相談したり、アドバイスしてもらったりというのはありました。*（制服は結構大きな基準やったんですか？）*そうです。制服はちょっと。

＜29ef・24 歳・短大卒・女性＞

親にもね、「高校だけは出とけ」って言われてたし、自分的にも、まだ働くのは嫌やなというのがあったんで。僕、最初は、わかんないと思うんですけど、〇〇高校に行こうとしてたんですね。でも、すごい遠いんですよ。毎日行くのに、これはだるいなあって思いました。自分の成績から見て、ぎりぎりのところに行きたいじゃないですか。ちょっと背伸びしたかったんです。その頃、塾行ってたんですよ。「じゃ、やってやろう」と思いつつも「結構遠いな」というのもあって、「あ、やっぱ、いいかなあ」って思っちゃいまして。僕んちから△△高が近いっていうのもあるし、成績で入れそうっていうのもあ

ってっていう感じで、友達も結構多かったんで。

＜23cm・21 歳・高卒・男性＞

（通学は）自転車ですよ。10 分くらいで、家から学校まで。もう最終的に選んだのは、高校選んだのは、近いから、みたいな（笑）。高校に行こうっていうのは、もう普通に、自然と。当然行くもんやと。なんか最初はどこにしよう、とか思ってて。まず、あっこんなこと言っていいかわからんけど○○高と△△高はやめとこうと思ったんですよ。その２つはなんかアホって感じなんですよ（笑）。ここととここはなしでって感じで（笑）で、あと、進研ゼミとかで、高校…どこの高校がいいとか書いて、テストで送ったら、何％とか。初めにやったとき、□□高書いたら結構よかったんですよ、70 から 80 くらいあって。あぁ、いけるんちゃうんとか思って。その後書いたらだいぶ下がってたんですけど。大体そういうのんからこの学校考えるようになって。で、もうひとつ最終的に悩んでたって言うか迷ってた高校があって、××商業かな。それが電車で行かなあかんところで、結構遠かったから、迷っちゃって、無理やなって。私は早起きが苦手やし、とか思って。なんかいろいろ本とか買って、制服とかも見て、そこはネクタイやったんですよ。□□高はリボンで。あっそれもちょっと。結局ここ入ってから、制服はイマイチでしたけど。でも□□高は基本的に上は自由なんで、勝手にネクタイつけてもいいし、スカートはいて。後、式の日とか外部のなんかは制服は着なあかんとか。後は全然自由で。Ｔシャツ着ようが、よかったですね。（商業にするか迷ったのは）とにかく前から大学とか、進学することは考えてなかったから、とりあえずなんか就職系のってゆうか。で、高校に来ても文書処理とかやってたし。ワープロとか簿記とかやったし。別に、その、最初ほんとに選択あるんです、だから、これもアホかって言われそうですけど一番楽なやつを全部選んで、楽しようと思ってたんですよ。でも、なんか結局選ぶってなったら、なんかそれも、そんなに楽なやつなんてないし、ちょっとでも何か役に立ちそうなやつを取った方がいいなとか思って。で、その文章処理とか、仕事で活かせそうなんって基準で選んだ。進路決める時ね、お母さんには相談しましたね。言ってくるんですよね、どこにすんのんとか。迷ってるって言ったら、お母さんはどっちかというと××商業の方がいいんちゃうって感じでしたね。まぁ商業なら何っていうか商業ってわかってるじゃないですか。どういうことをするとかも。□□高は総合学科で、たぶんなんもわからんかったから、なんか「う?ん？」って感じやったんかな。最終的には自分で決めた。お父さんには、受かってから、「どこにしたん？」って言われて。だからそんな感じなんですよ。全然何にも言ってけーへんし。言わんし、みたいな。

＜39cf・19 歳・高卒・女性＞

○○高校は女子が多くて、入りやすいっていうのを聞いて、いい学校って先生が言ってて、私は、○○高校あんまりいいと思ってなかったけど、なんかちょっと他の高校が難しかって、入りにくかったから○○高校を選びました。成績面で、厳しかったから。（行きたい高校は）あんまりなかったけど、△△高校行けたらいいなぐらいやったんけど、○○高校でもいっかなぐらいしか思ってなかった。△△高のことは、友達が来てパンフレットを見てて、なんかよさそうやなーって思って。お母さんは、私立はお金かかるからやめとこみたいな、そんな感じ。

＜38cf・18 歳・高卒・女性＞

高校進学するのに○○高校ってあるじゃないですか。中２ぐらいまでの成績やったら行けてたのに、中３になって成績がいきなり落ちて、こんな成績やったら行くところ自体がまずないよって。「でもあんたの夢は看護婦さんでしょ」、もう一回ちゃんとやる気があるんやったら、高校出てもう一回専門学校を勉強してやる道もあるから諦めんとやりなさいって、先生に言ってもらって。性格上、私、結構人とぶつかる性格やから、△△高校の先生はそうゆうのが全くなくてオープンな先生やから、ランクは下げることになるんやけど△△高校受けてみたらどうやって。中学３年生の担任の先生が結構いろいろと相談にのってくれた。

＜22cf・19 歳・高卒・女性＞

中学出て、高校にいこうと。*(誰に相談？)* 先生。で、落ちたから、定時。行きたかったのは○○高校、落ちた。先生は△△高校（を勧めた）。で、遠いから嫌ってゆった。○○高校（を受けたのは）自分が一方的に。△△高校は遠いから嫌と、階段。聞いたというか知ってる。階段長い。*(私立は？)* 受けてない。受けたくなかった。受けても、落ちるような気がした。高校には行こうと思ってたから、□□高校を受けて受かった。*(□□高校に受かって期待するものとかありましたか？)* …。でも、親がどっか行けと。高校には行きたかった。*(□□高校は先生に教えてもらったのかな？)* 多分そう。*(□□高校定時制進学は)* いやいやではない。*(受かったときはうれしかった？)* うん。○○高校がよかったのは、近いから。一番近い高校は××高校。絶対無理。いけるかもしれんなというので、一番近いのが○○高校。

＜6bf・20 歳・定時制高校中退・女性＞

積極的な高校進学の理由を見いだせなかったばかりか、なかには自分の意志というより親の強い希望によって高校に行かせられたという感じの者もいる。

別に、行けるところに。（高校には）行きたいとは思わんかったけど。中学卒業するときに、ほんまは調理師学校に行きたかったけど、「行くんやったら見習いで行け。それじゃなかったら高校行け」って言われたから。お母さんに。

＜3bm・17 歳・高校中退・男性＞

公立に行きたくて、でも行かれへんかった。公立はめちゃやばい、一番あほみたいな○○高校しか無理、そうでなければ専門学校って言われて、お父さんに「○○とかに行くんやったら私立に行っているほうがいい」と言われて、私立も△△と××女子しか、そういうところ言われてんけど、そこも「柄が悪いから、最低でも□□高校にし」と言われて、それで受けた。高校がとりあえず行けるところで、その□□高校も「多分行かれへん」って言われとって、「商業科のほうが入りやすい」と言われて、自分の意思ではなく入った。*(入りやすいというアドバイスは？)* 中学校の担任の先生です。進路で、先生と親との面談のときに公立は無理と言われて、友達もみんな行くと言っていたから、◇◇高校に行きたくて。何でやろう。そこと□□高校は前から知っていて、その◇◇高校に知っている人も行っていたから。しかも、そんなに賢いところじゃなかって、行きたいと思っていた。高校を選んだのは将来の夢とかということではないですね。

＜18cf・20 歳・高卒・女性＞

さらには、友人と一緒ならという動機さえ見受けられる。

（友人の）○○君が中学から一緒なんですけど仲よくて、△△高校へ行くと。それなら俺もそこでいいやという感じで。中学の先生に最もやったらあかんと言われていたやり方で高校を選びました。友達が行くからとか、そんな理由で選んだらあかんよとずっと言っていたんですけど、もうええやと。高校へ行くのもどうでもよかったんですよ。行かんでもいいかなと。何も考えていないですよ。中学生だったので何も思わずに。

＜51em・22 歳・専門学校卒・男性＞

なかには、高校に行くのが当たり前という感じの動機をあげる者もあるが、中学校生活そのものが円滑に送れていたとは言い難く、実態との乖離は大きい。

高校に行くのが当たり前みたいな雰囲気がありましたので。高校には行きたいなということで、徐々に２限目ぐらいから行き始めて。授業にも出だして、テストもちゃんと受

けるようになって、成績が上がったというか、全体的に見たら。（高校は）総合学科というぐらいしか決めていなかったんですけれども…最初から熱心やった友達が、総合学科というのはいろいろなものを選べるとか、いろいろなやつができるところやねんでという話で、何か高校へ行ったらこんなことをやれるのかなとかいう楽しいところばっかりちょっと考えてしまっていたので総合学科に。あと、その当時の生活からいくと、朝の電車に遅刻せず乗ってというんやったら無理やろうなと思ったので、自転車で通えるようなところのほうがいいかなと思いました。私立は全く。家庭の経済的なことでどうせ行けないので、受験料がむだなだけなので受けませんでした。お母さんには、進路のことに関しては相談しませんでした。して、大分失望したので。最後はあんたが決めることやになとか、そういうことばっかり言われたので、そうじゃなくて聞いてほしいのに…。放任過ぎて、ちょっと寂しいなというのがありますけれども。

＜20cf・18 歳・高卒・女性＞

上で見てきたように、関西地区では「とくに行きたい高校はない」状態で、成績によって進学する高校を決定している者がほとんどであることがわかる。その前提となっているのは、「高校卒業後、進学はしない」という進路展望（希望というよりは状況判断としての展望というのが近い印象がある）である。これは「学校に行くことが将来の達成に結びつく」という認識をもたない、あるいはそうした認識が希薄であることを意味している。

（B）首都圏

首都圏では、先に述べたようにヒアリング対象者のなかで高等教育進学者が多いという特徴があるので、限られたデータからではあるが、やはり積極的な高校進学動機はうかがえない。

県立高校の普通科。あんまり学校に行ってない子が入っているところで昼間定時制だったかな。何かそういう感じのやつ。そういうところで、わりと行かない子とかもいて、僕なんか別に普通に話そうと思うと、全然話してくれないとか、おれどうするんだ、おれみたいな、話しかけなければ一言も返事しないやって。すげえそういうのがあって、学校では先生に、とりあえずやらされちゃう感じで、それはちょっとしんどかったなと。

＜5bm・20 歳・高校中退・男性＞

中学３年になって高校に行くときには、一応、第一志望が〇〇大学の附属だったので。入れたんですけど、あとはほんとに…。高校は思いどおりに入った。高校の進学については中学の先生とかには相談なしに、ここに行きますという感じで、おまえなら入れるだろうなと。

＜7cm・24 歳・中退後定時制高卒・男性＞

中学のころ、もう、なんか…。まあ、今もなんでしょうけど、特に、先のことをやっぱり何も考えないで。中学のときの進学っていうのも、高校にみんな当たり前みたいに…。言っちゃえば、大半みんな高校行くっていう感じだから、周りが行くから自分も行くんだなみたいな感じでしたね、やっぱり。そんな感じでした。

＜42cm・24 歳・高卒・男性＞

中学校は、とにかく詰め込み教育時代で、偏差値重視で、最悪の状態で、これも１人の先生のおかげで園芸という農業の道へ行くことになりまして、それから園芸になったんですね。これからの日本は農業だよって、その一言。へええみたいな。ああ、そうなん

だって、じゃ、園芸に。自分的にも興味は持って。もとから土いじりが好きだったから、どろんこ遊びも好きなんで。先生は担任の先生。給食中に言われまして、何にも進路に関係なく。雑談的な感じで。それで高校は園芸科に行こうと決めたんです。公立です。

＜9dm・22 歳・短大中退・男性＞

最初、私は商業高校に行きたいって言ったんですけど、最初はそうだったんですけど、結局、最終的には、テストの点数とか偏差値とかで大体自分のランクに合った普通高校に進みました。何か小さいころ、うちの親は、「大学とかには行かせられないから」って言ってたので、だったら高校を卒業して働くのかなと思っていたんです。

＜31ef・24 歳・短大卒・女性＞

（中学３年の時に）もう偏差値が下がっていったから、選べるところがなくなってきたから、成績で選んだ。県立の普通科。暴走族が入ってきたりとか、別に荒れてはいなかったけど、すごく頭の悪い人たちがいっぱいで。

＜13dm・28 歳・大学中退・男性＞

首都圏でも、高校進学の状況は関西地区と同様に良くも悪くも成績に規定されている。しかし、「学校に行っても仕方がない」という感じは相対的に弱い。

（C）東北地区

東北地区は、他の２つの地区に比べると、成績に規定されてはいるものの、また積極的にとはいえないまでもそれなりに将来のことを考えて進学先を選んでいる。

中学校３年になるとやっぱり進路のこととか高校からまた先のことを考えなくてはいけないんである程度は大学とかは行かなくていいかなと思ってたんで。専門学校とか大学は行かないで高卒で就職しようと思ってここのビジネス科に入ったから。*(早く独立したいとか？)* そういう意味じゃないんですけど、大学とか勉強するのが嫌だった。勉強は好きじゃなかったですね。先生はもっと別な…高い学校とか薦めてくれたんですけど。やっぱり…いろいろ交通の便とかその時点で考えちゃって…電車通学とかは嫌だなとか考えてたんで。*(部活は、野球部を続けたいということは思ってなかったんですか？)* あ…、それはなかったですね。やっぱり…私立に入るとお金がかかってしまうんで。親に迷惑かけちゃいけないという気持ちが強いったら強いですけど、まあ、親は何もいわないんですけど、そうやりたいという事に関しては。それとやっぱり部活・・高校では「部活はしたくないな」って思ってたんです。やっぱ…野球だとどこが強いとか弱いとかあるじゃないですか。やっぱり、強いとこいくと推薦とか頭よくないと入れないところなんで。しょうがないっていえばしょうがないという感じがあったんですけどね。あと、今の学力で確実に受かるとこが良かった。一応普通科だとぜーんぶ普通っていう感じが嫌だったんで…。ビジネス科だといろいろ資格とか取れるんで、そっちの方面でちょっと「色々資格とってみたいな」と思ったんでビジネス科選んだんですけど。*(資格が大事だということは誰かと話して考えた？)* いや、自分で考えましたね。結局結論は自分で出したという感じ。親ともいろいろしゃべって、「もっと別なところがいいんじゃないか」とか、「でもここもいいな」ということで。親は薦めたりはあんまりしなかったですね。自分の主張を第一に考えてくれるんで。親とは結構、しょっちゅう喋ってましたね。はい。

＜43cm・20 歳・高卒・男性＞

中学３年になるまでは、あんまり具体的には。どこの高校に進もうとかいうのも、あんま考えてなかったですし。どこの高校って考え始めたのは、受験に入る頃。２年の夏く

らいから、三者面談があってどうするっていうのがあって、「どうする、高校に進むかどうか」って言う話が一応あって、具体的に話をしたのは３年の夏頃ですかね。どういう方向に進みたいかというのは…。その時は看護師になりたかったんで、それで〇〇高校の方にちょっと「行きたいなー」っていう気持ちはあったんですよ。県内ではそこしかないんで結構…。やっぱ成績面からしても、ちょっと、もう少し頑張んなくてはダメなんじゃないかとか、通学の面からも、ちょっと厳しかったんですよね。電車、乗り継いでいかなくちゃ行けない場所だったんで。看護師って小学校のときも考えたことあります。憧れみたいなものもあったと思いますけど。やっぱこう実際に考えてみると、人が結構だめな方なんですよ。ただ「なれればいいな」って、憧れみたいな感じだったんですけども。で、今度は「美容師もいいかな」って、それはその面談が終わってからですね。それで一応その経営するために、商業の方とかも「学んだ方がいいのかな」と思って。一応商業科のあるところ探して、あの△△高校が私の入る年から総合学科になったんで、そこでも結構学べたからそっちの方も受けたんですけど、ちょっと落ちてしまって。で、こっちの□□高校が受かったもんで、はい。高校決める時って、だいたい自分で決めたって感じですね。親には一応話しだけは聞いてもらって、「自分のことだからやっぱ自分で行きたい所に行って勉強する様に」っていわれて。

＜26cf・20 歳・高卒・女性＞

商業科というのは、中学校の２年生くらいから。周りの友達も結構決まってました。具体的な名前はまだ。*(中学校の先生に相談したとか。その時先生は何かおっしゃってた？)* 自分の行きたい高校を…最終的に決めればいいみたいな。*(高校を決める時誰かに相談したりとかした？)* 親に相談しました。自分の行きたい道だから何もいわない。〇〇高校は第一志望ではなかったんですけど。市立の商業が第一希望。で今の学校、学校生活楽しかったし、まあいいかなと。

＜14cm・19 歳・高卒・女性＞

中学校の先生から就職がいいみたいなこと聞いて、それであーって入った。中学校の時に高校出たら就職しようと思ったのは、１～２年の時はそういうこと考えていなくて３年になってから。志望校決める基準が就職がいいということ。〇〇高校は第一希望で受けたのはここだけです。あんまり不安じゃなかったです。中学校の先生には「たぶん大丈夫だ」といわれていたし。

＜24cf・19 歳・高卒・女性＞

〇〇高校に入りたいと思ったのは、女の子の制服がいいと思って。地元の高校には、ちょっと。中学校の時に電車通学に憧れていたので。学科はビジネス科です。普通科ではなくてビジネス科にしたのは…、ビジネス科でないと入れないと言われて。まあいいかというか…。

＜14cm・19 歳・高卒・男性＞

最初は私、食物関係の方に行きたかったんですけど、でもなんか、就職のこととか考えたら情報処理とかやってたほうがいいのかなと思って、そして、最終的に〇〇高校に。最初は、ほんとは公立に行きたかったんですけど。県立△△高校で、食物みたいのをやろうかなと。そういうコースがあって、そこに入りたかったんですけど、そうすると私立とかけもち、併願で受けるのが難しくて。最終的に商業っていうことで〇〇高校を選んだ。高校に入る時点では、雰囲気的には卒業したら、就職しようと思ってた。もともと〇〇高校って就職率がいいって言ってて、だからやっぱり就職目指してやってましたね。

＜27cf・18 歳・高卒・女性＞

とくにやりたいことはなかったんですよ。姉が〇〇高校の情報処理科に行ったんで、コンピューターを覚えておいたほうがいいかなと思って。ですね。得意科目とか、不得意科目とか、とくにない。まあ。苦手なのは多いですけど。勉強は嫌いです。県立も考え

たけど、やっぱり成績とかで〇〇高校という感じ。

＜19cf・18 歳・高卒・女性＞

東北地区では、中学校から高校へ進学する際の成績の規定力が他の地域に比べて相対的に強い。それは根強い「公立志向」と個人成績のマッチングに拠るからである。さまざまな可能性の中から選択するというよりは、消極的にあるいは消去法で考えていくと「行ける高校が決まってくる」という感じである。

上に示したインタビュー・データは主として中等教育までの学歴の人たちのものである。一部を除き、とくに高校に進学してそのあとのキャリアを展望する姿勢は見えない。これに対して大卒者は、一般的に「高校に進学し、その後大学に進学するのが当たり前である」という意識がうかがえる。代表的な考えを次に示す。

高校に進学するときは、普通科以外に考えていなかったです。高校卒業後は進学しようと思っていました。中学ぐらいから何となく普通に高校に行って、大学に行ってという、一通りの一般的な考え方でした。

＜34ef・24 歳・大卒・女性＞

［小括］

ヒアリングのデータからは、積極的に「高校で学びたい」という意思はほとんど感じられない。そもそも「高校で学ぶこと」に積極的な意義を見いだしていない。ある者にとっては「高校進学は当たり前」であり、特に何かを考えるでもなく、合格できる高校に進学している。これは、高校卒業後無業者（非正規雇用労働に従事する者も含む）となった者は言うに及ばず、高等教育機関に進学した者でもほとんど同じである。多くの場合、欠席・遅刻をせずに学校に通い、たとえテスト前だけであってもそれなりに勉強し、学校でよい成績を修めることが、「良い学校」へ進学したり、「良い仕事」や「やりたい仕事」に就くことにつながるという「学校を通した成功」の認識をもっていない。学校に積極的な意味を見いだせないまま、「自宅に近いから」「自転車で通えるから」「公立で学費が安いから(私立高校に行くほどの経済的な余裕がないから)」等の理由で、「入学可能な」高校に進学した者が多い。こうした入学時の状況では、よほどのことがない限り積極的な高校生活を送ることは無理である。

都市部と地方では差があるが、都市部では小学校・中学校の義務教育の段階で不登校や学業不振など、何らかの適応上の問題を抱えていた者が多い。地方においても、学力不振の問題が多くの場合にみられる。こうした問題の背景には、親の社会・経済階層とその文化が色濃く反映されている。

結局、高校入学以前からの不適応は克服されることなく、進路選択時の不本意な学校選択、場合によっては進学できるかできないかの選択にさえ反映されている。義務教育段階の比較的早い時期から「学校を通した成功物語」にコミットしない・できない若者たちが、学校的

価値、社会が求めていると思われる価値を内在化することなく、学校を離れ、非正規雇用労働に従事したり、場合によっては労働そのものからも疎外された状況になったりしているのである。

2.2 学　　業

ここでは、小学校から高校にまでの学校生活で「学業」にどのように取り組んでいたかを見ることにする。好きな科目・嫌いな科目、成績はどれくらいのものであったか、家庭学習を行っていたか、将来の職業や社会的成功などを考えていたかなどを中心に見てみる。

全般を通してうかがえるのは、基本的に「学校の勉強が好きではない」という意識と家庭で学習する習慣がないことである。ここで取り上げた高等教育機関に進学しなかった者でなくても、こういう意識はうかがえるだろう。しかし、ここに見られる彼ら・彼女らの学校での勉強に対する構えは、学業（学業成績）に代表される「学校的成功」から降りているといえるのではないだろうか。

> 学校は好きでしたけどね。受ける教科は受けて、寝る教科は寝るっていう。やっぱり先生で決まりますね。そうですね。先生嫌いやったら嫌い。「テストだけ頑張ったらええわ」って感じで。
>
> **＜37cm・19 歳・高卒・男性＞**

> 勉強は別に何にも思ってないと思うんです。勉強に対して、については嫌いとかというか、ないんですね。成績は低かったと思いますよ。やったら、まあ、普通ぐらい。やらなかったですね。小学校からやってないですね、あんまり。中学１年生のときは意外と勉強とスポーツに取り組んでいましたね。そのままの普通に授業を受けて、普通にテストを受けてという形で。勉強は結構わかった。成績は意外と普通ぐらいですね。家では勉強やってないですね。
>
> **＜1am・24 歳・中卒・男性＞**

> 高校では頑張ろうと思って。１年のときは上がりたいからクラスの中でも１位になって頑張ってきたし、テストだけじゃなくて、学科が上がるときは基礎的なテストみたいなものがいっぱいあるんですけど、それも頑張って。１年の終わりどころではなくて、もっと前から看護科に入り、看護の仕事につくというふうに夢が昔からあったんですよ。専門学校行ってたときに、勉強が不十分やったから、２年生に上がることができないんですよ。それやったら留年するかやめるか、どっちかみたいになって、絶対嫌やと思って、絶対留年はしたくない。友達が２年生に行って、私がまた１年生。年下の子と一緒になるのが嫌なんですよ。絶対嫌や、それやったらやめると思って、どっちみちこんな学校も行きたくないし、もういいわと思って。
>
> **＜12df・20 歳・専門中退・女性＞**

> （中学は）何か、学校、勉強は嫌いやったんです。一応、静かにはしてた。でも、勉強はほんまに全然しなかったです。何か、すごい反抗期で、何のためにしなあかんのという、そういう反抗がありました。…高校のときの授業とかは楽しくなかったです。*（高校のときの授業とかで印象に残っている授業とかありますか。楽しくない中でも、特にこれは楽しくなかったとか、これはおもしろかったとか？）*家庭科は楽しかったです。体

育も楽しかった。

＜17cm・19 歳・定時制高卒・男性＞

授業はおもろない。勉強は嫌いやけど、ノートだけはちゃんととっといて。成績は悪いと思う。ノートは一応とっとこうかなとか思って。授業中もおもろかったけど、授業としておもろいんやなくて、自分らで勝手に遊ぶからおもろい。席移動して友達としゃべって、全然授業無視して。「静かにせい」そんなん、別に言われたってほっといて、しつこかったらキレて、反対に授業つぶして。

＜3bm・17 歳・高校中退・男性＞

勉強はあんまり得意じゃなかったですよ。やればできるんですよ、結構。でも、勉強自体、嫌いなんで、やろうとしないんですよ。テストの前にちょっとぐらいは。先生が、この辺、出るよと言ったところぐらいは、まあ、勉強しとこうかなぐらいに。（高校でも）勉強はテスト前しかしなかったですね。基本的に、ほんまに勉強するの嫌なんですよ。授業中は、１年のときはちゃんと授業を受けていたんですけど、２年ぐらいから気が抜けて、寝たりとか。先生とかに悪いんですけど、寝たりとか。１年は欠席とか遅刻もせず、寝ずに頑張って授業を聞いて、ノート写すだけですけど、まあ、まじめにやっていたという感じですね、１年のときは。でも、２年生のときから、遅刻もぼちぼち、欠席もぼちぼちみたいな感じで。

＜28cf・19 歳・高卒・女性＞

中学校時代はあんまり勉強面では…全然。やってもできへん子やったという感じ。勉強自体は好きじゃない。わからん子やった。なんか人一倍、あほやったような気がする。家でもやらされたりしてたけど、何かできなかった。頭はよくなかった。高校で、勉強は最下位ぐらい。でも高いお金を出して行っているし。

＜18cf・20 歳・高卒・女性＞

勉強はもう全然。ほんまやったらできないほうじゃなかったと思いますけど。僕、勉強をしたことがないんですよ。中学のときも、高校へ入るときも、高校の勉強も。全く。宿題をこなすだけです。中学のときは、バレーボールのクラブをやっていたんです。それがしんどすぎて帰ったら寝るだけ。高校になってその流れで勉強を全くしなくなってしまって。高校へ入るのももう。

＜51em・22 歳・専門学校卒・男性＞

総合学科、自分で（科目を）選べることは選べたんですけれども、一応、高校には入っちゃったんやし、じゃあ、次、大学も行きたいかなとか思っていたんですね。進学系の授業も一応とっておけへんかったら、あとで自分で勉強というのも無理やから、一応進学も視野に入れて、進学系の科目をとりつつ、少し余ったところで総合学科ならではのやつをとろうと思ったんですね。そうしたら、１科目か２科目かというぐらいしか選べなかったので、中学校のころ思っていたよりは、総合学科らしい科目をたくさんとれたというのはなかったんですけれども、勉強科目ばっかりになってしまった。入れちゃったぞ、高校みたいな感じで、じゃあ、大学も。中学まで勉強せえへんかったから、高校は勉強しようかなと、初めは志高く出たんですけれども。勉強してみて、あんまり力が入っているところは力が入っているけれども、抜けているところは抜けてんねんなと思いました。で、結局そのまま自分の勉強ぐせもつかずに、じゃあ、このときこうやって簡単に乗り切ったらいけるわという感じで、綱渡りで来てしまいました。

＜20cf・18 歳・高卒・女性＞

やっぱ大学行きたいっていうのがあったんで、結構スムーズにやりました。できてました。勉強するのって、別に嫌じゃなかったです。総合学科なんで、自分の好きなものばっかじゃないですか。ほとんど数学と化学とかだったんですけど、楽しかったです。高２の公務員になろうかなあって思ってからっていうのは、結構一生懸命勉強したと自分

では思ってます。

＜23cm・21 歳・高卒・男性＞

数学は中学校上がって、わけわからなくなった。最初の頃ってちょっといけるやんって感じなんです。最初の、ほんのちょっとは、で、だんだん難しくなって、やっぱあかんわって。何かパッて出来たら、あっ楽しいとかって一瞬思うんですけど。もうなんか問題によるんですけどね。大体？やっぱ無理でしたね。簡単なやつとか、ルートの簡単なやつとかはいいんですけど、なんか変な文章の問題とか、食塩水とか、食塩水の何パー（%）とか、もうやめてくれ！…一応ノートは、普通に全部書いてました。テスト１週間くらい前になったら予定でやるんですけど。今日はいいかなぁとかで５日前とかになって（苦笑）。でもその中学校ん時がたまに１週間前にとか、ちゃんとやってましたよ。高校は１日前でしたけどね。
（高校の）文書処理はよかったと思う。簿記は２年からですけど、だいぶ苦しみましたね。…他に資格みたいなやつはワープロ検定。漢字検定。あと、硬筆書写検定とか。あの、ペン字検定とか言われてますね。あと英検も一応あるんですけど、４級か５級かやったような…５級やったと思うんで、履歴書とかには書いてないんですけど。検定にむけての勉強みたいなんはやりましたね。ワープロ検定の前とかも。何回か落ちたりとかしてて、お金ももったいないしってことで、先生にちょっとパソコンの部屋お願いして開けてもらって、ガーってやったりしてました。漢字検定も、先生に漢字のテキストみたいなん貰ってやったりとか。家で、結構ガーって書いてやりましたね。結構目標があって努力するタイプかもしれないですね。

＜39cf・19 歳・高卒・女性＞

小学校は、勉強はあまりできなかったような、偏ってました。国語が好きでした。苦手だったのは理科とか、数学とかそんな。中学校も、そうです。成績は、中学校はあんまり良くはなかったです。友達がいたんで、楽しかって、数学たまに分かったらおもしろいなとかって結構ちょっとだけ一回だけいい点数取れたみたいな感じしか覚えていない。おうちで勉強はしてました。試験前とかには、絶対にしてました。普段は、あまりしないですね。高校の時に漢字検定と英検受けたんですけど、英検落ちました。漢字検定は６級しか取ってないです。始めは慣れていくために６級からって決まってるんですよ。で、６級取って、４級あとちょっとで落ちちゃって。３年生の時なんで、もう取られへんからもうそのままって感じです。英検は２回受けて落ちました。４級です。

＜38cf・18 歳・高卒・女性＞

勉強はしてなかったです、高校入って１年、２年は。看護婦になるねん、というのは言ってたんですけど、行動が全然ついていってなかったん（笑）。専門学校に行くにも、そんなに難しいことではないって思ってたんですよ。高校もすっと入れてから、すっと行けれるかなていう軽いのりでいてたんですよね。「勉強せなあかんよ」ていうのは常に言われてて、数学も大事やよ、化学も大事やよ。でも高校でやる勉強と、また看護学校入ってやる勉強は、全く違うから、高校でできひんかってもそんなに心配するなっていう一言があったんですよ。それを調子に乗って聞いてたら、まず入る時点で無理やったんですね。（笑）甘く見すぎていました、世の中（笑）。高校の時の成績はむっちゃ悪かったですよ。欠点だらけでした。１年の１学期はなかったはず、２学期のごたごたあって、休んだりしてて、わからへん問題とか出てきて。２年が一番サボりがちやったんかな、学校。その別に何かあったというんじゃなくて、学校の友達と一緒に、朝、朝遅刻せえへん時間帯やのに、一緒にマクド行こやいうてマクド行ったりとか。

＜22cf・19 歳・高卒・女性＞

好きな科目は体育。勉強は、ぜんぜんできへん。嫌い。好きじゃない。*（我慢できる科目ありました？）*ない。どれもあまり面白くなかった。小学校のときは、まだ成績は普通。中学になってからかなり悪くなった。中学校の成績はかなりやばい。*（高校進学を念頭においてあせったりとか？）*あせれへんかった。*（全然わかれへん感じ？授業聞いていて。）*

うん。塾とか行ったことない。勉強せえって、お父さんは言わない。勉強ってあんまり言われへんかった。テスト前とかは、妹は言われていたけど、自分は言われへんかった。*（高校のときの勉強とかも面白くない？）面白くない。（成績は？）*よかったと思う。先生はわかりやすくなかったけど、テストがわかりやすかった。*（どういうことなら続けられそうでした？）*面白い勉強。でも勉強嫌いやから。

＜6bf・20 歳・定時制高校中退・女性＞

（中学校では）成績は学年でトップのほうでしたね。それで第一志望の〇〇大学付属に入った。自分の中で、中学３年の 12 月か年を明ける前後から、集中力がなくなってきちゃって、勉強をずっとしてたんで、それがずっと尾を引いちゃってたんですけど、高校時代。何かやる気が出ない。何か糸が切れちゃったみたいで。何か疲れ切ってるような。ずっと勉強ばっかりしてたんで、息切れするのは当然だと思うんですけど、それが、ああ、来たなと。そのころからすごく…。それ（出生に関わること）を高校に入る前に母親から聞かされたのがすごいショックで。未来が見えなくなっちゃったというか。高校のやつらはみんなできるやつばっかだったので、何か今までの自分の世界と違うわけですね。だから、えっ、みんなできるんじゃん、おれやばいじゃんみたいな感じ、おれだめじゃんみたいな、それがずっと、今も続いていますね。

＜7cm・24 歳・中退後定時制高卒・男性＞

学校の偏差値が低かったから、授業のレベルが低かったから、結構補習授業みたいなのを時々やってて、補習授業も出たんだけど、あんまり効果がないっていうかね。だから、みんな予備校に行ったりとかしてそっちのほうで勉強してたっていう感じかな。

＜13dm・28 歳・大学中退・男性＞

学校の中の成績はちょうど真中くらいでしたね。資格なんかもだいたい皆が取るところを取ってる感じ。学校はたまーに遅刻したり休んだりしたくらいですね。欠席は５日～10 日前後くらい。高校時代特に夢みたいなのはなかったですね。ほんとうに平凡に。好きな授業は、やっぱ体育ですかね。体育好きだった、運動神経、んー、どうですかね、いいほうなんですかね。

＜43cm・20 歳・高卒・男性＞

成績は、中学校では真中あたりですかね。小学校では結構上のほうだった。…だんだん勉強しなくなりましたね、中学になったら。好きな勉強は、やっぱ理科ですかね。先生も結構楽しい人でしたね。数学も結構。結構理科系、そうなんです。（高校の）ビジネス科の勉強は自分でも面白いと思った。やっぱパソコンとか結構使ってたんで。そういうの好きなんです。…真面目に勉強したほうでもないですね。高校の時はぜんぜん。もう予習・復習ぜんぜんしなかったですし、宿題がでれば学校で。授業終わったあとに休み時間の間に終わってしまったり。中学校はですね、宿題程度はやってたんですけど、そんなにガリガリ勉強する人でもなかったし、小学校の頃は、もう帰ってすぐ勉強して、終わったらゴロゴロ。あと友達と遊びにいったりとかしてたんですけども。中学校に入ったらしなかったですけど。お母さんも働いてて、いなかったですけど、おばあちゃんがずっとほとんどいたんで。でも「勉強しなさい」とかぜんぜんいわれたことはないですね。なんかこう宿題とかやってても、解いたりするの楽しかったんで、数学とか算数とか。国語とか、やっぱこう悩んだりして、なかなか解けなかったりとか、漢字とかドリルとか好きでしたし、やっぱ宿題は基本的にその時は好きでしたね。小学校のときが一番よく勉強していたかもしれない。

＜26cf・20 歳・高卒・女性＞

成績はクラスで５番。

＜14cm・19 歳・高卒・女性＞

高校は欠席は３年間で 10 日くらい。成績は情報科で１年の時は 10 番くらい、２年の時

15 番、３年の時は５番。頑張って勉強して、後半は勉強楽しいという程ではないけど、頑張った成果が出るから。得意な科目は商業法規とか。商業系の科目が得意。あと就職のことも考えて、「頑張らなきゃなー」って。〇〇高校は授業も多いし、自分がやる気だして頑張れば取れるのも多いし、よかったです。取った資格は６個、簿記・流通経済・情報処理・ワープロとあと情報処理でも協会が違うのとかそれで何個かダブってるのがある。個人的には、あんま勉強してないんだけど、授業とか検定に近づくとみんな真剣に勉強するから。先生も対策みたいなことしてくれて、時間測ってやったり、プリントもらったり。

＜24cf・19 歳・高卒・女性＞

（中学では）成績は悪かったですね。*(部活も学校も真面目に行っていて楽しかったですか？)* 普通でした。その頃に熱中していたものはないです。サッカーも、特には。

＜14cm・19 歳・高卒・男性＞

中学のとき得意科目は、国語と英語だったんです。不得意は数学。国語と英語は高校に入っても割と得意なほうです。*(商業科の科目は？)* パソコンいじってるのは楽しいんですけど、ほかのみんなに比べたら、検定とかあるじゃないですか。あれもぜんぜんとれてないほうだったんで。ちょっと。勉強は嫌いじゃないんですけど、やっぱり数学って何やってもわかんなくて、だからだんだん楽しくなくなるとやらなくなっちゃう。体育は好きなんですけど、運動神経があんまりよくなくて、だから苦手といえば苦手。美術は、中学のときけっこうよかった。

＜27cf・18 歳・高卒・女性＞

〇〇高校に入って、教科によりますけど、英語とかは楽しいなって思えるときもあります。情報処理は合わなかった。パソコンとか。検定やらなきゃいけないものは、やりました。みんなやるっていうか、やらなきゃいけなかったんで、やっただけ。

＜19cf・18 歳・高卒・女性＞

［小括］

「将来に希望をつなぐ」ためには、今の生活の中で相応の成績や実績が必要であるという認識が薄い。とくに都市部の者では「とくに受験勉強のようなことは何もせずに高校に入学した」ので、そもそも「教科・科目の勉強をする」習慣がないことがうかがえる。中学校で学習する知識や技能が身についていない、場合によっては小学校のそれさえあやしいといった学力不振は高校生活で増幅されることはあっても、解消されることはない。さらに、学ぶ姿勢さえも身に付けることなく高校生活を送った彼ら・彼女らが学校を通して身に付けたものはいったい何だったのだろう。すくなくとも、学校が教えようとする価値、生徒からすれば社会に出る際に身に付けておくべき「望ましい価値」を受け入れ、内在化していないことは確かなようである。なかには、ある時期一生懸命に学習に励み、よい成績を取り、希望の学校に入学した者もあるが、それはあとから振り返ってみればむしろ過剰適応ともいえる。こちらも、結局は学校的価値を内在し得なかったことに由来すると考えられる。

2.3　学校生活

中学校での生活、そのあとどちらかといえば「入ってしまった」という感じの高校であるが、彼ら・彼女らの学校での生徒としての生活はどんなものだったのだろうか。学校に行き、

勉強し、部活動等の特別活動に参加するという「学校的」生活習慣は内在化されていたのだろうか？

高校入ってからかなり先生とか重要視？そういう授業は、よう勉強してたんですね、ほんまに。まあノート書いてないですけど、聞いてて話。…学校時代、特に１年生の夏越した時、友達やめましたね、いっぱいやめましたね。「学校おもしろない、やめたい」いうようなことは、僕は全然なっかたです。高校がもし中学みたいやったら、もうやめて、仕事している思いますけど。典型的な高校生活の一日ゆうたら、学校来て寝てって感じですかね。学校で寝て。授業で寝て、バイト行って、晩から朝迄、ベース触ってて、いう感じですかね。ほんで、夏頃から「○○（祭り）」の準備ね、練習、あれ体力、ほんまに、いるもんね。…だからほんまに、祭りの日とかは全然休んだりするの普通でしたね。ほんまに、晩、走ってしんどいから学校休んだり、遅刻したりってのは普通でしたね。起きれないっすからね。朝。申し訳ないっす。高校入った時、一番「面白いな」と感じたのは友達と遊ぶということですね。校則とかは禁止ですけど。ぜんぜん３年間無しでしたからね。遅刻は多いんですけど、休みは３年間で２日くらい。遅刻は計画的にしましたけど。何時まで寝て何時限から行こうかなって。

＜37cm・19 歳・高卒・男性＞

とりあえず朝、先生から電話がかかってきたりとか、友達が迎えに来たりとかで「行かない」というのを伝えて、そこからぶらぶらと違う学校の近くまで行って、で、その学校、違う学校にもそういうやつらがたくさんいて、「おうち、家へ行こうか、おれんちへ行こうか」みたいなので家へ行って漫画を読んだり、いろいろコンビニへ行ったりとか、そんなんですね。

＜1am・24 歳・中卒・男性＞

高校が一番楽しかった。私友達つくるの下手やから、ほんまの友達じゃないと本音話せへんし、そこそこのつき合いしかせえへんから、楽しくないんですよ。中学もそうやってん。思い切りしゃべられへんし、楽しくないんです。だから、しゃべらんから孤立状態みたいで…。（高校で看護コースに進んで）２年で一緒に入った子とすごい気が合うたんですよ。その子とずっと一緒やったからすごい楽しかったんですよ。だから、高校はすごい思い出がいっぱいなんです。…そのクラスは１年から３年まで優勝して賞状もらおう言うてほとんどとってきて、そんなんとかで、みんなで頑張った結晶みたいなものがいっぱいあるから、みんなの温かさとか先生の思いやりとかがすごくいっぱいある。とにかく（専門）学校では先生と顔合わせたくないし、もうすべてがむかついてくるんですよ、学校行くこと自体が。だから、しんどいから普通に理由つけて休んだりとかして、もう行きたないわ、もう顔見るだけでウザイんです。もう初めから…、私も悪かったんですよ。入学してちょっとしてから、髪の毛ツイストとかバーッとやって、で、もう、反抗したれーと思って。

＜12df・20 歳・専門中退・女性＞

学校はちゃんと、中学校はおもしろかったから行っていました。でも、遅刻はしてました（笑）。遅刻は多い。クラスの５割は遅刻していて僕が最後で一番遅い。*（最後って何時ぐらい？）*９時の…。10 時ぐらい、昼とか。２日に１回ぐらい…。

＜17cm・19 歳・定時制高卒・男性＞

高校は１年のときは普通に行っとったけど、２年ぐらいから休みまくって、１学期はまじめで２学期から休むようになって、３学期もほとんど休んで。留年したから。留年したらやめるって決めとったから。*（行かんようになってきたきっかけは？）*だるかったから。行ったらおもろいけど、朝起きるのちょっとだるいし。中学が一緒のやつとかもおったし。小学校はちゃんと行っとって、中学校１年はちゃんと行って、２年はそこそこ行って、３年は、行ったり行かんかったり。それもだるいから。学校行くために起きる

のは面倒くさい。

＜3bm・17 歳・高校中退・男性＞

小学校と中学校と違って、高校って家から遠いじゃないですか。電車に乗ったりとか、朝起きるのに大変やなというのが。朝は大体７時前ぐらいに起きて、朝御飯食べて、用意して、で、８時ぐらいには家を出ないと間に合わないので、８時前には家を出て、電車に乗って、学校まで行く。終わって、で、高１のときに喫茶店でバイトをしてたんで、学校終わったらすぐバイトという感じでしたね。…１年は欠席とか遅刻もせず、寝ずに頑張って授業を聞いて、ノート写すだけですけど、まあ、まじめにやっていたという感じですね、１年のときは。２年生のときから、遅刻もぼちぼち、欠席もぼちぼちみたいな感じで。３年は遅刻魔でしたね。よく昼休みに学校来て、先生とかに、「おまえら、またか」とか言われていましたね。友達と遅刻していたんですよ、一緒に。朝早く、早くといっても 10 時ぐらいなんですけど、それぐらいにぱっと起きて、携帯見たら、友達からメールとか入ってて、まだ学校に行ってない友達が「あんた、もう学校行ってる？私、まだなんやけど」って入ってたから、電話して、「ごめん、今起きた。今から行こうや」とか言って、その友達と行く途中にファミレスとかやっぱりあるじゃないですか。そこに寄って御飯食べて、学校来て。

＜28cf・19 歳・高卒・女性＞

高校はちょっと楽しかったけれども、中学校はそんなに言うほど楽しいところとは思わなかった。印象に残ること、ないですね。商業の勉強は、おもしろくはなかった。普通科のほうがよかったなという感じやった。

＜18cf・20 歳・高卒・女性＞

まじめに学校には行っていませんでしたけれども、あんまり。行ったときに頑張るみたいな感じで。小学校のころは行っていましたけれども、その反動のように中学になるとあんまり行かなくなりましたけれども。中学校生活は、昼夜逆転をしたのをはじめにあんまり学校に行かなくなったんですね。行けなくなったと言ったほうが正確です。起きたころにはちょっと学校の授業時間が６限が終わっていたりとか。きっかけは…家庭内のやつがそろそろ限界に達していたんですか、それかどうしても学校へ行かなあかんというものでもないんかなと勝手なことを思い始めたせいかもしれません。行かなかっても、母親に別にほっぽり出されるようなこととかも特になかったので、ああ、じゃあ、行かんかってもいいんや、とりあえず母親が仕事に行くまでの時間をしのげばどうにかなるみたいな感じでなってしまったものですから。（高校は）授業に出ていても、つまらんというわけでもなかったんですけれども、楽しくもなくというところが多かったので、結局、高校もあんまり出席日数は多くないと言われました。高校自体を振り返ると、めちゃめちゃ楽しかったという感じでもないかもしれませんね。やっぱり足がパンパンになって、すごいはれるぐらいとかになるんですね。バイト終わった後はどうしても。それで、朝起きるのがやっぱりつらくなって、中学校のころとは違って、肉体的な疲れでちょっと朝起きにくくなったりもしましたけれども。多分休みも多かったと。はずです。遅刻に比べるとましやったはずなんですけれども、やっぱり単位がありますので、高校は。その辺は計算して、全部上がりましたけれども。

＜20cf・18 歳・高卒・女性＞

小学校は楽しかったですね。この頃はまだ、勉強は別に嫌いじゃなかったんで。このころ、自分で言うのも何なんですけど、リーダーシップとってるタイプやったんで、役員とかもやってましたし。中学校に入ったあたりから、（勉強は）うざいなあとは思わなかったですけど、あんまし。でも、しなだめやなあっていうのはありましたね。何か、高校に行くための内申とかあるじゃないですか。そういうなんが嫌やったんですよ。でも、なぜか知らないですけど、数学だけはめっちゃ面白かったです。数学だけはすごい楽しかったです。英語はこのころから苦手ですね。高校生活はどうなんですかね。高１は楽しかったですけど、高２、高３はそんなに。クラスに恵まれず。高３ね、知ってる子が

１人しかいなかったんですよ（笑）。遅刻はすごい多かったです。でも欠席は少ないほうだと思う。朝、めっちゃ弱いんですよ（笑）。しかも、微妙な遅刻が多かったんですよ。２分おくれとか。（笑）微妙におくれて。朝のあれ、あるやないですか。朝礼っていうんですか。何か連絡事項とかいって。それの途中でいつも来るんですよ。（笑）ほんと、ちょっとの差なんですけどね。だから１時間目は全然間に合うんですけどみたいな感じですね。

＜23cm・21 歳・高卒・男性＞

勉強は嫌いでした。小学校２年生くらいから。小学校２年生の国語の漢字でつまずき始めて、覚えられへんようになってきて、数学じゃなくて、算数とかも、放課後とか残されたりして。宿題とかは、出されたら小学校ん時はやってた。小５の時の一時期が特別嫌やったけども。そういうのが嫌やから休む、とかっていうのは全然なかったです。遅刻もなかったですね、小学校は。その、のちのちちょっと（笑）。中学校は毎日、だいたい休まずに…遅刻はたまに。１、２年はそんなに大して楽しくなかったかな。１年のときなんかすごい不良みたいな人１人いてて、すっごい荒らしまくるんですよ。女の子なんですよ。最初普通やったのにあるときから、えらいすごい怖いキャラクターになってて、なんか授業も、先生になんか、ガガー！ってゆうし。そうゆう人がおったりして、なんか普通でもなかったですよ。

＜39cf・19 歳・高卒・女性＞

○○高校はよかったです。先生もいい人でなんかちゃんとしてくれてて。初めはちょっと不安なっとったけど、まあまあなんかそれなりに楽しかった。本当に女子が多いです。それはなんでかわからないんだけど、○○高校は女子が多くて女子を取るから有利だよっていうのは先生から聞いて。学校の生活は、まあまあ楽しかったです。*（一番楽しかった時間は？）*休み時間とか、昼休み、ご飯の時間。

＜38cf・18 歳・高卒・女性＞

○○高校にきて先生は良かったんですけど、髪の毛とか入った頃はめちゃくちゃうるさかって、ちょっと茶色かっただけでももう黒染め、黒染めばっかりで何でこんなに規則うるさいねんと。友達ともいろいろあって、もう朝起きられへんようになって行くのがいややと。友達に一方的に無視し始められたんです。…何やねんこれは、と思って。もういらん。じゃまくさい。しんどい。それでもう学校ほとんど休んだり遅刻していったりで。でも、高校行ってない友達とかにそんな話するじゃないですか。それでやめたらあんたの負けやでみたいな事言われて。あ、ほんまやな、負けやな、悔しいよな、そうゆうノリで。…３年間遅刻は多かったです。…学校行かんと、マクド行ったり、カラオケ行ったりとかして、こんな時間や、休もか今日、みたいな、そんなんがいっぱいありました（笑い）。友達は、ただ単に皆そんなんしてましたね。

＜22cf・19 歳・高卒・女性＞

高校は定時制。２年でやめた。○○工業。*（いつ頃辞めました？）*覚えてない。けっこう行ってなかったから。２年生になる前…最初の方は行っていた。３学期はあまりいってない。*（なにかあわなかった？）*夜ってしんどかった。小学校は面白かった。友達がいっぱい。遅刻とか小学校の頃はない。休めへん。中学校のときは、遅刻ばっかり。１年のときはあんまりなかった。２年、３年が遅刻多かった。*（きっかけは？）*ない。なんか行きたくなかった。面白くない。嫌だった。クラスが。気の合う人とかと一緒にならなかった。１年生のときはわりとクラスはよかった。２年も面白かった。３年であんまり仲いい子と一緒になれへんかって。遅刻はしてたけど、ほぼ毎日行っていた。２時間目には必ず出てた。*（朝おきてご飯を食べていた？）*食べるときもあったし、食べなかったときもある。*（高校やめちゃったときはお母さんは残念がってた？）*そんなに。
*（もうちょっとおったほうがいいよとか誰もいわなかったわけですね。将来の相談とか主婦になりたい夢の話とか誰とも話ししないですか？）*はい。

＜6bf・20 歳・定時制高中退・女性＞

小学校のときはあんまり学校に行ってなくて、ほんとうに行ったり行かなかったりを中学校ぐらいは繰り返していたんです。何でなのかなって自分でも、いろんな理由があるんで、それはちょっと…。たとえば体罰がひどくてけがしたこととかあって。○○（地名）は全然ないのでびっくりしたというか。人と一緒に泣いて帰っちゃったりとか、怖くて。そういうのもあったりとか、ただ単に、やっぱりあんまり転勤してくる子が多い場所じゃないから、なじみにくいというか。もとから人見知りが激しかったとかって、ほんとうに理由ってね、いっぱいつけれるんですけど。はい。

＜5bm・20 歳・定時制高中退・男性＞

（高校では）学校そのものは楽しくなかったですね。結局、やめることになったんですね。１年から２年には進級したんだけど、実は２年の５月に母親と別居したというのがあって、そこから余計にはまり込んでいって。その中でずっとやっぱり２年半ぐらいカウンセリングを受けて、安定剤とか睡眠剤とか飲んで。結局、２年から３年に進級できなくて、要するにもう一回２年をやるつもりはあったけれども、やっぱり全然だめでしたね。１年生の後半から思ってましたね。もうやっぱりその時点で燃えるものがないというか、やる気が出るものがない。何しても出てこない。そういう感覚は高校に入る前後ぐらいから持っていました。

＜7cm・24 歳・中退後定時制高卒・男性＞

（高校に入って）やっぱり中学校が一緒だった人があんまり居なかったんですよ、仲がいい人とか、クラスにも１人くらい居たくらいで、で、あとは東北地区の人が殆どだったんでクラスが、知ってる人もいないし、「やっていけるかなー」ってそういう不安はありましたけど、最初はやっぱり。でもすぐ友達もできて、楽しくやってきたんですけど。

＜26cf・20 歳・高卒・女性＞

結構楽しい高校生活でした。高校時代の一日は、朝６時くらいに起きて学校に来て、４時ごろから部活が始まって８時～９時ごろ家に帰りました。部活自体は６時で終わりだったんですけど、自主練習しないと結構きつい。宿題はあんまり出なかった。最初の頃は疲れて寝てしまったけど、だんだん慣れてきて遅くても。休みの日も部活です。休みの日も部活で、９時から３時くらいまで。

＜25cf・18 歳・高卒・女性＞

中学校のときは結構休んだ。１年のときはちょっと休みが多かった。10 日くらい。最初に普通にお腹が痛かったり、風邪ひいたりして１日休んじゃうと次の日も。やる気でないじゃないですか。学校自体は楽しくて「休みなんかいらない」って思ったこともあったんだけど、一回休んじゃうとズルズル。２年のときはもっと行かなかった、行かなかったというよりも、毎日遅刻。優しい先生でそれに甘えて行かなかったから。３年になったら担任が変わって厳しくなって「これは行かなきゃダメだ」と思って。その時は２年に比べたら真面目に行った。中学校の成績は中の下くらい。○○高校受験のために個人的に頑張ったというよりも、学校全体がそういう風に組まれてて、夏休みも毎日学校に行かなくてはならなくて、こなさなくてはならないテキストなんかあったりして、しょうがなくではないけどやってた。恐い先生で。先生に○○高校を薦められて、パソコンで資格とれるのは○○高校だって。(高校の時の生活は)朝は７時ごろに起きて８時ごろ学校に行く。学校終わるのは３時半。まっすぐ家に帰る時もあったし、友達と遊んで。友達と遊ぶというと△△町あたり。買い物とか、何するでもなくウロウロ、ぶらぶらする。休みの日とかは友達と遊ぶ。殆どが△△町で、友達の家の近くとか。

＜24cf・19 歳・高卒・女性＞

*（学校には毎日来ていましたか？）*全然もう。１年生の時はちょっとサボるくらいで、２年生からは来ないほうが多かった。遅刻して、昼からとか。３年生では最初は同じ感じで３学期だけ真面目に休まずに、卒業できないかも知れなかったから。遅刻したとか、休んだとか結構あったから、あまり覚えていません。遅刻は 200 回くらいいくと思いま

す。来ても早く帰るとか。*(早く帰るとか遅刻をするのは眠かったとか疲れたとかいう理由ですか？)* いても勉強しないから。苦手な授業があると帰った。その時の気分で来たり来なかったりで、３年生の最後はこのままでは卒業できないということで毎日来た。

＜14cm・19 歳・高卒・男性＞

［小括］

多くの者が小学校が楽しかったと答えている。それは比較的自由で、教員によるコントロールが緩やかであったためと考えられる。それに対して、多くの者が中学校での生活を規則に縛られ、教員の指導も厳しいことから窮屈であったと感じている。高校は印象が分かれるが、概して「中学校よりはマシ」というところだろうか。中学校は義務教育ということもあり、どうしても「集団」に対する指導を中心にしがちである。学校の重要な機能である「社会化」(socialization) は、集団への適応という形で指導されるので、こうした指導、方向付けは当然といえば当然である。しかし、それは学校的価値が共有されているという前提があって初めて成り立つものであり、そうした価値（究極は学校的価値の受容と内在化が社会生活を円滑に営み、社会的に成功する大きな要素であるということ）を家庭的文化的背景から個人的にも認識せず、したがって内在化もできない彼ら・彼女らには「意味のない厳しさ」と映るのも無理はない。それでも、多くの場合なんとか「我慢」していたのが中学校時代の彼ら・彼女らの実態である。

それに比べると、高校の指導は一部の私立を除くと緩やかである。中学校時代から遅刻や欠席があり、学校生活の「基本的生活習慣」が身についていない者にとっては、ある意味で厳しくないからこそ「学校に足が向いた」というのも実感であろう。今回のヒアリング対象者は、公立の「進路多様校」(非進学校) で学んだケースが多いと思われるが、そこでの生徒指導は緩やかであることが多い。理由の主なものは「中退を防ぐため」である。頭髪、服装、持ち物、喫煙など規則はあるのだが、それを厳格に適用して指導すれば生徒指導上の理由による中退は激増する。たとえば、度重なる喫煙行為で特別指導を受けていた生徒に対して、校長が説諭の際「タバコがやめられないなら、学校を辞めなさい」と言ったら、「じゃあ、学校を辞めます」という返事が返ってきて、「そういうことじゃなくて…」といってその場を収めなければならなかったという、笑えない笑い話があるほどである。逸脱行為が学校に蔓延すると、逸脱行為が逸脱ではなく「あたりまえの行為」になりかねない。そういう状況においては、学校における「規範」が見えにくく規範としての効力を持たなくなる。逆に言えば、規範を無力化し、指導を緩やかにして指導の効力も弱め、「なんでもあり」の状況を作り出しているのが彼ら・彼女らであり、それだからこそ「つまらない」学校生活をなんとか生き延び、多くの場合卒業もできたのである。

しかし、当然のことながら社会全体にも「なんでもあり」の要素はあるものの、学校時代のように規範（社会では法に代表される体系）を無力化することなどできるはずもなく、結局は社会に適応する（労働で言えば正規雇用労働に継続して従事する）ことができず、相対

的に低い位置に（非正規雇用労働市場に）留まっていることになる。その意味では、社会に適応するための手段としての価値意識と行動規範を持つことができずに過ごした学校時代の生活が直接的に現在の生活状況につながっているといえるのではないだろうか。

2.4 先　　生

学校の先生は学校的価値の伝達者である。その職務に忠実であればあるほど、今回のヒアリング調査対象者からは「きびしい」「つまらない」「話がわからない」大人として見られることになる。彼ら・彼女らにとって、学校の先生はどんな存在であったのだろうか。また、先生たちとどのような関係をつくっていたのだろうか。

学校の先生でも結局一番親しくしてる先生は高校の先生。中学校の先生よりも。中学の３年生のときの担任の先生には良くしてもらったんで、それで学校行くようになったんで。

＜37cm・19 歳・高卒・男性＞

学校の先生とかは心配してましたね。今思えば、ものすごい申しわけないという面もあるし、ありがたかったなという面もありますし、いろいろあのとき、ああしていたからこう思える自分もおるんかなみたいなというふうにプラス思考に考えるしかないでしょう。先生の思い出は、うーん、いろいろですね。どこか喫茶店に一緒に連れていってもらったりとか、いろいろ話を聞いてもらいましたね。わかってくれないやつでもなかったですね。わかってくれない人にはもう話をしてませんから、先生。

＜1am・24 歳・中卒・男性＞

すごいいい先生ばかりで、結構…。嫌な先生はいてなかったかな。そういうふうに楽しい時期がずっと小学校…。高校が一番楽しかった。先生とも気軽にしゃべれるし…。

＜12df・20 歳・専門学校中退・女性＞

話できる先生はおったんはおったけど、話したいとも思わへんかったから。好きな先生もおるけど、自分らの学年にはおらんかった。３年間一緒の担任か副担やったから。副担が担任になったり担任が副担になったりで３年間ずっと一緒やったから。普通の教師より、校長や教頭のほうが仲よかったから。話しするんだったら校長、教頭のところ行って。

＜3bm・17 歳・高校中退・男性＞

小学校はそれなりに楽しかった。あんまり楽しくなかったのは、５年６年ですかね。
担任の先生がとにかく嫌いで。すごいえこひいきする先生やったんですよ。そんなんがあって、ものすごい嫌いでした。楽しくなかった。授業とかも全然おもしろくなかったです。その先生やから。その先生、気に入った生徒しか当てたりとかしないんですよ、質問とかでも。ああ、またかよ、みたいな。

＜28cf・19 歳・高卒・女性＞

先生で印象に残っている人は、いっぱいおる。怖かったやつとかむかつくとか、そういう人は覚えている。（笑）いい印象の先生は別に。そんなにいい先生もいなかったから。

＜18cf・20 歳・高卒・女性＞

高校の勉強で歴史とかはおもしろかったですね。社会科いうのは大好きでした。○○先生はクラブの関係もあって、先生もギターを弾くので一緒に遊んだり。やめかけていた

ときに担任の先生と○○先生が来て、また説得しに来たんだろうな、面倒くさいなと思っていたら、ギターを持ってきて、一緒にやらないかって。説得じゃなくて、ギターを一緒に遊びに来たというおもしろい思い出がありますね。部屋にたばこのにおいが充満して、吸い殻がたんまり。ええんちゃうか、別にという感じ。いいんかなと。あと、ここの先生に今いてるかわからないですけど、△△先生という社会科の先生がいたんです。その人みたいなおっさんになりたいなと。何にもやる気のないところが。「おれは頑張るという言葉が嫌いなんだ。頑張らんでいいやないか、別に。だから、頑張れとはおれは言わない」という感じの先生だったんです。「おれもこの仕事を天職と思っていないし、やめるんだったらやめるしな」という感じの。その言葉が強烈に胸に刺さって。多分、個人的にやったと思うんですよ。授業中にはそんなこと言わないですよね。

＜51em・22 歳・専門学校卒・男性＞

よかった先生は、名前は忘れたけど、社会の先生。逆に嫌な先生は、体育の先生。受けてなかった。出てるけど寝てたり。外だったら座って見てたり。*（それで別に文句言わへんの？）*言うけど、友達がやんちゃな子だから。その子と一緒にいてたら、何も。もう言わなくなった。

＜29ef・24 歳・短大卒・女性＞

先生とはわりと仲良かったですね。５年のときとか、漫画とか貸してました。年賀状に「サザエさんありがとう」って書いてたんですよ（笑）そんな感じ。でも、その小４、小５くらいからはちょっとしたイジメチックなんとかありましたよ。みんなローテーションでやられてました。なんかこの子もうそろそろいいんじゃない？って戻って来たら、そういえばあの子あんまりなんか、なんもやられてないな…じゃああの子！みたいな、えらいことなって（笑）。先生はどやろ？知らんかったんかなぁ？先生に相談とかはよくしてましたけどねぇ。あたしの場合は友達と２人で被害にあってて、その友達と２人で、夕方に学校行って、もうなんか嫌やとか（苦笑）そんなことを。ただなんか話してるだけ。（高校で）高校卒業後の就職について、学校の先生とはあんまり相談してないかな。担任の先生とかも。大体自分で決めた。

＜39cf・19 歳・高卒・女性＞

先生との関係は…中学校の先生？うーん、うーんと、あんまりしゃべらないですね。*（親しい先生がいたということは？）*中学校ではあんまり、この先生なんかしゃべりやすいなーとか思って、しゃべるぐらいで、めちゃめちゃ親しいことはない。印象に残っている先生、小学校のときはいた。担任の先生で、いい先生やなみたいな。しゃべったりは、休み時間に時々してるぐらいで、人気者だった。○○高校は、結構いい先生もいたりいなかったり、そんな感じ。卒業する時とか、進路についてなんか言ってましたね。自分が相談しに行ったらちゃんと言ってくれるけど、いろいろとしゃべりかけてきてくれたらいいな、と思うくらいかな？親身になってかかわってきてくれた先生は、担任の先生。

＜38cf・18 歳・高卒・女性＞

あんまり先生としゃべってない。仲のよかった先生も全然おれへん。むかつく先生とかはいっぱいおった。むかつく先生ばっかりやったら学校嫌んなる。

＜4bf・20 歳・高校中退・女性＞

*（印象に残っている先生は？）*小学校４年生の担任。行動も面白い。体育のときに、鉄棒で逆上がりの見本を見せるといってできなかった。それで、これが悪い見本やといった。*（中学では？）*先生？嫌いじゃなかった。普通。

＜6bf・20 歳・定時制高中退・女性＞

中学のときにだんだん勉強のほうがおもしろくなって、学校の勉強よりは塾の勉強のほうが…。塾でいい先生に会いましたね。すごいと思いましたね。塾の先生の方が。学校

の先生は全然。中学のときは（…）しなかったな。反発はしてないですけどね、周りからしてみたらおもしろくない生徒だから。先生とかね。友達と昼休みに遊ぶぐらいで、あまり話さなかったし、勉強はしてたという感じですね。

＜7cm・24 歳・中退後定時制高卒・男性＞

今まで学校の先生で一番話しがわかった先生は、中学３年の担任の先生で女の先生だったんですけど、始めて担任持つ先生で、合唱コンクールになるとその辺の公民館貸しきってみんなで集めてくれたり。今でも最初に出てくる先生って、その先生ですね。進路のときもその先生、結構一緒に考えてくれた。はい。

＜43cm・20 歳・高卒・男性＞

学校の先生とかはやさしかった。

＜25cf・18 歳・高卒・女性＞

［小括］

教員は彼ら･彼女らにとって基本的には学校的価値を伝達しようとする存在と映っている。従って集団に対して規則の遵守を呼びかけたり、実際に厳しく指導に当たる教員ほど彼ら・彼女らからは遠い存在ということになる。「話せる先生」「わかってくれる先生」「良い先生」という評価を得ている先生は、「大勢の生徒の中の一人」としてではなく「一人の生徒」（＊＊さん）として、個の存在として認めて向き合い、「先生らしくなく」接してくれた人物である。実際に教室場面では「うるさいから静かにして…」と生徒全体に呼びかけても静かにはならない。「＊＊さん、こっちを見て、おしゃべりをやめて…」というふうに名前を出さないと自分が注意されていると認めない（気づかないのではない）。名前を出せば出したで「どうしてオレだけ？」「なんでアタシだけなの？みんなにだって注意してよ！」という反応が返ってくることも珍しくない。たとえ逆ギレされてもちゃんと個として教員の側からアプローチすれば、摩擦はあるにしてもある一定の関係をつくることはできる。現在多くの高校で（小学校、中学校はもちろん）生徒指導の難しさが指摘されているが、個に持ち込んで指導すればするほど教員の負担は大きくなる。「みなさん」では済まないからであり、一人一人の生徒の「個」の部分に十分配慮して指導に当たることなどできるはずがないからである。ヒアリング・データからは、「教員らしくない」先生が支持されているのがよくわかるが、そうした教員が「社会化」の機能を十分に伝えているかどうかについては疑問が残る。ただ、彼ら・彼女らに認められ、受け入れられてはじめて「指導」の接点ができることも確かなので、そこから造り上げる生徒指導、ひいては社会化の機能もありうる。

2.5　部活動など

かつての「古き良き時代」において、典型的な高校生活は、試験前には勉強もするが、日常的には部活動や生徒会活動など「仲間」と過ごす活動にかなりの重みがあった。たとえば、1970 年代から 80 年代初頭のテレビ番組では、高校の運動部を舞台にした青春学園ストーリーがそれなりの支持を得ていた。ところが、最近では高校ではとくに非進学校（普通科の進

路多様校）において、部活動の参加者は激減し、多数のメンバーを必要とする部活動は休部や廃部に追い込まれている状況さえある。現在、学校において特別活動の比重は相対的に低下し、学力偏重の傾向はますます強まっていると思われる。その中にあって、今回のヒアリング調査対象者にとって、部活動はどんな意味を持っていたのだろうか。また、彼ら・彼女らは積極的に部活動に参加していたのだろうか。

クラブ活動はサッカー部を。とりあえず、バイトのない日だけ出るっていう。バイトが先、優先ですね。バイトはほんまに３～４回くらいですね。クラブ出来ひん。土・日バイト入れて、平日クラブって感じですね。クラブ入ったんは、まあ高２の祭りの時期からですけど。バイト辞めるじゃないですか。祭りのための体力づくりとしてサッカーをやる。１年の時は何もしてないです。で１年上の先輩がやめて友達１人になったんですよ、サッカー部が。「そな、みんな集めてしよか」いうて、友達ばっかり入れて、サッカー部作って。サッカー部はあったんですよ。でも僕らの上の年で終わってしまって、僕ら同好会から始めましたね。この高校はクラブが、盛んではないですね。みんなバイトばっかりですよ、多分。そっちが一番やと思いますよ。３年生もクラブ、そのままやりました。同好会から最終的にはクラブになったんですけど、もう試合できるくらいの人数はいてました。

＜37cm・19 歳・高卒・男性＞

（中学校のとき）サッカー部はずっと行っていて、途中でラグビー部に、何を血迷ったか、ラグビー部。それは友達が「ラグビー部やったらけんかになるで」みたいな、「けんか、多いで」みたいな話になって、「じゃ、おれ、ラグビー部に入るわ」。何カ月か入って、あっ、これはスポーツやなというのに気づいてサッカー部に戻ったんです。けんかというか、そういうもめ合いがなっていて、いろいろラグビー部のほうがもめ合いが多いでという話を聞いたんです。あっ、そうなんみたいなので、サッカー部はそんなにもめ合いがないぞみたいな。ほな、ラグビー部へ行こうかみたいな、おもろそうやなみたいなんで行ったら全然、これ全然ラグビーやん、これ普通にタックルやん。

＜1am・24 歳・中卒・男性＞

クラブとかは入ってないですね。初めは体操部やって、先輩がごっつ嫌やったんですよ。先輩が何でも下の子にあれしいやって。自分らはだらけてんのに、あれしいやあれしいや言うて。そんなんとかで嫌やったし、やめたら、すごいメンチ切られるんですよ。（笑）やめたんは人間関係で、もうそんなん嫌やなと思って、体操部に入ってやめたというのも、中学校がおもしろくないと感じる面の１つ。

＜12df・20 歳・専門学校中退・女性＞

中学の時はクラブはやってないです。一応、水泳部でしたけど、ぜんぜん。…高校生活は楽しかったです。部活（バレーボール）をしていましたから。

＜17cm・19 歳・定時制高卒・男性＞

高校ではやってない。中学までは野球とサッカー。野球部とサッカー部に両方入って、半分ずつ。１年から２年の途中ぐらいまではサッカー部に入っとって、２年の最後らへんに野球。サッカー部は途中でやめとったから。もともと野球やっとったから。小学校１年ぐらいのときに、地域のリトルリーグに入って、遊びとかでもよう野球とかやっとったから。サッカー部に入ったのは、サッカーもしとったから、小学校のときに。高校のときは、クラブはやろうとも思わなかった。

＜3bm・17 歳・高校中退・男性＞

中学校に入ったら絶対テニス部に入ろうと思って。私は、幼いころから結構、何歳年上

かな、３つ上ぐらいの仲いいお姉ちゃんがいてたんですよ。そのお姉ちゃんがテニスをやっていて、格好いいなと思って。それでテニス部に入った。中学校で楽しかったのは、クラブが一番楽しかったですね。自分が頑張れば試合に出してもらえるし、結構部員が多かったので、試合に出してもらえる人数って決まっていたんですよ。だから、メンバーに選ばれるためには必死に練習しないといけないので。で、必死に頑張ったら、試合に出れるので、やっぱりうれしかったですね。（中学時代テニス部で）初めは我慢してたんですけど、最終的に、ぷちっと切れて、が一って先輩に対して文句言っちゃったんですけど。１年のときに。スカートの丈とかも決まっていたんですよ、クラブの決まりみたいなのがあって。１年生は絶対スカートはひざよりちょっと下みたいな。決められてて、で、ちゃんとそれを守っているのに、「ちょっとスカート短いんちゃう、あんた」とか言われて、しかも、足のふっとい先輩に言われて、「そんなふっとい足見せたってな」とか言って、文句言いましたね、先輩に向かって。

＜28cf・19 歳・高卒・女性＞

クラブはバレーボールをやってた。中学だけです。全然。ほどほどに。別にきっかけはないんですけれども。何かのクラブに入らなあかんかったから。

＜28cf・19 歳・高卒・女性＞

高校は一応バレーボールもやっていましたけど。僕が１年生の２学期に全く来なかった時期があったんです。そのときに僕の友達ばかり集めてバレーボールをやっていたんです。あと３年生の人とばかりと。それで僕がいなくなったら、周りみんなもう…。それで行かなくなって、人数がいなくなって、つぶれてしまった。*（何かあったんですか？）*何かあったんですかね。何もないです。*（それで復活はしはったんですか？）*そうですね。３学期から。中学校のときのバレーボールのクラブは関西地区府内では 16 ですけど。個人的には選抜の全国大会の最終選考まで行きました。一応、高校も推薦が２校きていたんですけど。高いからけりました。先生が初め１校しか教えてくれなかったんです。その理由もあるんですけど、その１校は先輩が言ってくれて推薦してくれたんですよ。そこはスポーツ科がないので勉強しないといけないんです。テストを受けるのに、ほんまの合格点の何％かの点数を絶対にとらないといけない。それで勉強していたんですけど、体もぼろぼろだったので、そこまで勉強して、それでけがしたらどうなるんだろうと。腰をやったり、足をやったり、何回もけがをしていたんですよ。動けなくなったりしていたんで。それで怖くなって、できなくなったら学校をやめなあかんのかな、高い授業料払わせて、やめられへんしな、もうええわ、友達と遊んでいるほうがおもしろいしという感じでやめました。３学期から復帰したけど、クラブには戻っていないですね。

＜51em・22 歳・専門学校卒・男性＞

中学校では軟式テニス。そんなに熱心に取り組んではないです。でも毎日。１年からやってた。３年の引退まで…。高校に入って、クラブは高２からバスケ。友達が入ってて「一緒にやれへん？」て。３年まで。朝練も行ってたし、毎日部活やったかな。でも、そんなに強くない。ほとんど遊びやから。バスケやるんが楽しかった。

＜29ef・24 歳・短大卒・女性＞

（中学では）サッカーやってました。最初から終わりまで。楽しかったですね。充実してましたね。レギュラーでした。でも、最後のほう、めっちゃ人数少なかったですから。最初 25 人ぐらいおったんですけど、最後、もう 15～16 人まで減りました。最初すごかったんです。だから、練習に耐えれないんですかね。走ってばっかなんで、１年間は。*（高校では？）*クラブね、サッカー部入ろうと思ったんですけど、兄貴と同じ高校やったんで、兄貴がおったんです。中学のときも同じやったんですよ。で、兄弟やのに敬語じゃないですか。「先輩」とか言わないとだめなんですよ。それがちょっと、中学のときも耐えれなかったんですけど、高校入ってまでそれ言いたくないなあとか思ってやめました。

＜23cm・21 歳・高卒・男性＞

中学校の時は１年の初めにブラスバンド部。でも、すぐ辞めました、半年で。楽器はクラリネットです。ほんとはドラムとかやりたかったんですけど、もうすでに人が決まってて、しょうがなく。もしパーカッションになってたら続いてたかもしらんし。友達と一緒に入ったのに、その友達はもう全然けーへんし。なんやねん、みたいな。それも全然面白くなかったですね。クラブはそっからは入ってないですね。
高校は最初は何にもやってなくて、１年の終わりらへんに科学部を作ろうってことになって科学部を作りましたね、みんなで。最初、ミョウバンの結晶作ったりとか、なんか銅のやつをバァーって。でも、途中から結構、なんかパンとか作ったり。牛乳パックとか使って、あのほんまにクッキング部みたいな感じじゃないんですよ。ちゃんと牛乳パックにあの、鉄の板みたいなん入れて、電気つけて、それで、出来るとか、ちょっと科学部っぽい。…あんまり最後行ってなかったですけど、一応籍は入ってた、みたいな。あとなんか、手話部とか。手話部も２年の終わりか３年なってから、結構遅めに。みんな友達が入ってて、いっぱい入ってたから、入ろうってゆわれて、10 人から 20 人くらいはいてたかも。チェルノブイリのなんとかコンサートとかに行ったんですよ。２年の時かな。で、手話で“翼をください”とか歌でやったりして。

＜39cf・19 歳・高卒・女性＞

中学校の時はブラスバンド部。１年くらいしかやってない。楽器はトロンボーン。なんかはじめはできて、なんかだんだん難しくなって、わーでけへんわみたいな。ほんとの楽しさが分かる前に行かなくなっちゃった。高校の時は、クラブは入ってなかったです。

＜38cf・18 歳・高卒・女性＞

クラブは、中学校は全く何もやってなかった。

＜22cf・19 歳・高卒・女性＞

中学校のときは卓球やってた。１年のときにやってて、でクビになった。行ってなかったから、やめさせられた。

＜6bf・20 歳・定時制高中退・女性＞

中学校、行ったり行かなかったりだとか、友達とやっていたんですけど、部活に入ろうかなって、自分は通わないから、とりあえず社会人のサッカーに…。*（学校に所属するという感覚がないんですね？）* ないんです。やりたいなら外に。社宅だったんで、工場のサッカー部に、近くの公園などに行ってまざるんです。そこにまざって教えてもらったりしていました。

＜5bm・20 歳・高校中退・男性＞

中学のときサッカーで。中学のときは、友達が進学塾に行ってたんで、僕もそこに入ったんですけど、中学３年間は必死に勉強ばかりしてましたね。本格的に勉強したのは中２、中３ぐらいですけど、中学時代は部活も途中でやめたぐらいだから。高校では部活は、アメフトをちょっとやったりとかしてましたけどね。でも続かなかったですね。精神的にもう荒れてましたから。友達とは結構うまくいってた。

＜7cm・24 歳・中退後定時制高卒・男性＞

関西地区と首都圏では、中学校時代から積極的に部活動に参加して３年間継続するという経験を持った者は少ない。勉強に集中して取り組むわけでもなく、かといって部活動にも積極的に参加するわけでもない、いわば学校的価値にコミットしない生活をしてきたことが部活動への参加の状況からもうかがえる。

一応野球やってたんで小学校・中学校と部活動が一番おもしろかった。一応小学校で野球部があったんで。入って。高校はやってないです。中学まではやってました。中学ま

では部活中心の生活だったですね。楽しかった思い出というとやっぱ部活動ですね。

＜43cm・20 歳・高卒・男性＞

中学校は部活は吹奏楽部に入ってたんです。あのユーフォニュームって金管楽器の大きいので、チューバの小さいの。*(吹奏楽部は結構厳しかったでしょ？)*そうでもなかった。うちの学校結構甘かったっていうか、そんなに優秀なとこでもなかったんで。先生は結構、厳しかったんですけど、やっぱみんな結構サボってたという人もいましたし。まあ厳しい先輩とかいましたけども、だいたいはみんなで。3年間一応入ってましたけど…。（高校では）部活は1年の頃ちょこっとだけ入ってたんですけども、すぐやめてしまって、後はずっと入ってなかったんですけど。最初着付け部にはいったんです。すぐもうやめてしまって、次に新聞部に入ったんですけど、やっぱり1ヵ月くらいでやめてしまって。友達に誘われて入ったというのがあって、それでやっぱりこう、みんなあんまり乗り気じゃなかったというのがあって。で、新聞部はもう3年生が一人しかいなかったんですよ。あと顧問の先生と2人だけで。で1年生が 13 人位入ったんですけど、一気にみんなやめてしまって、それで先生すごく心臓悪くしてしまって1ヵ月くらい入院してしまったんですよ。「あーまずいことしてしまったのかなー」って。「私もやめたい」「私もやめたい」って、ずっと座って並んで、みんな一気にやめてしまったんで、ショックだったのかなって。その後ぜんぜん部活しないですね。

＜26cf・20 歳・高卒・女性＞

中学校の時はバレー部です。3年間続けてました。身体動かすの好き。コーチが厳しくて。コーチって言うのは学校の先生ではなくて、すごい人に頼んでいたんですけど。東北地区県内では有名な人です。頑張って続けて、生徒が1学年で 17 人しかいなくて、なんか友達同士仲よかったです。高校では部活は弓道やってました。結構上下関係とか、結構厳しかったですね。

＜25cf・18 歳・高卒・女性＞

中学校のときはバドミントン。きつかったけど、友達がいっぱいいたから…。結構先輩とか厳しかった。高校ではパソコン部に少しいたくらい。

＜24cf・19 歳・高卒・女性＞

中学のときの部活はサッカー部で、3年間。高校では1年の最初だけサッカー部でした。中学校の時から元々サッカーをやっていたんですが。やめた理由は、ここからグランドが遠すぎて、時間がかかるという事で、はい。*(ずーとサッカーをやっていたのに高校に入ってグランドが遠いという事でやめたのは残念ではなかったですか？）全然。*

＜14cm・19 歳・高卒・男性＞

中学の時は卓球部。高校入ってからは1年生のときに茶道部に入ってたんですけど、やめて、それからは入ってないです。

＜27cf・18 歳・高卒・女性＞

中学校のときはバスケ部です。〇〇高校は女子バスケがなかった。もしあったら、入ってたかもしれません。バスケットけっこう好きでしたね。体動かすのが好きですね。

＜19cf・18 歳・高卒・女性＞

関西地区や首都圏と比べると、東北地区では少なくても中学校まではまじめに部活動に参加していた者が多いといえる。そのなかで先輩や友人、先生ともそれなりに交流して楽しかった思い出ももっている。しかし、高校では積極的に部活動をしたとはいえない。同じ高校出身者で3年間運動部に所属して、部活動の顧問の推薦で技能職として地元で就職できた者もいることから、高卒労働市場が厳しい多くの地域では、3年間部活動を継続したことがあ

る意味では勤勉さの指標として人物保証につながり、それが正規雇用就職できるかどうかのひとつのポイントにもなっているといえるのかもしれない。

［小括］

中学校までは運動部を中心に、積極的に活動していた者も地方では多い。男性はサッカー、女性はテニス、共通のバレーボール経験者が多い。中には相当の成績を修めた者も見られた。その意味では中学校までは強制とも映るような厳しい指導の下で、本意であるか否かを問わず、それなりの学校生活を送っていたともいえる。彼ら・彼女らの中で学校的価値は内在化しているとはいえないが、少なくても表面的にはそれがマイナスの形では現れない程度には適応しているように見えたというところであろうか。

ところが、高校にはいると積極的に部活動に入った者はごく少数である。その主な理由は「アルバイト」である。学校が終わるとすぐにアルバイトに行き、夜まで働く生活では熱心に部活動をするのは不可能である。とくに運動系の団体競技、ブラスバンド、演劇など、多くの人数を必要とする部活動（クラブ）は、入部するものが少ない→アルバイトに時間を取られ毎日部活動に参加しない→練習が成立しない→部全体に活気がなくなる→辞める者・籍だけある者が多くなる→休部･廃部、という悪いプロセスをたどっている学校も少なくない。筆者はかつて公立高校（進路多様校＝非進学校）でバスケットボール部の監督（顧問教員）をしていたが、バスケットボールの５人のメンバーを集めるのも大変だった。いまや都市部の公立高校では部員の数がそろい、それなりの練習ができるのは進学校だけといってもよい状況がある。当然、部活動においても、他の活動における指導と同じように「厳しい」指導はできない。厳しい指導をすれば、部活動だけでなく学校そのものを辞める者がでてくるからである。すくなくとも都市部の高校出身者には「好きなときに好きなことをするために部活動に参加する」意識が見られる。地方では、熱心に部活動をした者も見られた。高卒者に対する求人が比較的多い地域では、あるいは高卒就職者が現在ほど少なくなっていなかった時期には、「高校で３年間部活動に参加して、熱心に取り組み、リーダーもつとめた者」は、求人する企業等が最もほしがる人材であった。おそらく、それは「勤勉で」「礼儀正しく協調性があり（＝人間関係づくりの基本ができている）」「ひとつのことをやり遂げる根気がある」ことを評価していることの反映であると思われる。

いま、地方では高卒正規雇用の求人そのものが十分にはなく、「やりたいこと」にこだわれば「自分にあった求人はない」状況にある。一方では、高卒求職者・その保護者の「地元志向」も強い。自宅から通える範囲で仕事を探すことは、経済的コストを考えれば合理的な選択ともいえるが、仕事を選択する範囲を狭めていることも事実である。その結果、非正規雇用労働でも「自宅から」という選択になるのは、ある意味必然であろう。高卒者の「質の低下」が指摘されることも多いが、高校での学業・部活動など特別活動における達成が「将来の達成に結びつく」という認識を持てるように指導しない限り、またそういう状況になるモ

デルを示して指導しない限り、「質の低下」の問題はクリアされそうにない。「３年間部活動に参加して、熱心に取り組んだ」者は、地方では決して少なくないはずである。そういう者を評価して職業社会に移行させることは学校の、そして社会の使命である。「指示待ち人間などいらない」などという組織の論理の代弁者になるのではなく、今も昔も変わらない「勤勉な労働者」として彼ら・彼女らを育て、移行させていく「あたりまえの」指導が今も求められていると思えてならない。基本は生活の安定のための「就職」指導である。

2.6　友だち

多くの子どもたちにとって、学校は友だちと交流する場でもある。地域の学校に通うことが多い、地方の小学校・中学校では学校の友だちイコール地域の友だちである。今回のヒアリング調査対象者が「今もつきあっている」友だちとしてあげるのは、地元の（地域の）友だちが多い。これは、ある意味では学校の友だちの重みのなさの反映である。学校に行く期間が長くなればなるほど、すなわち学歴が高くなればなるほど、学校での友人の重みが増すのとは対照的である。彼ら・彼女らは「友だち」をどのようにとらえているのだろうか。

友達はたくさん。小学校の時から。小学校からずっと、そっからずっと上がっていって、そやから学校行かんと、みんなで遊んでた。みんな学校、面白なかったと思いますけどね。一緒に遊んでた子らは、徐々に、高校でも、その頃の友達がいっぱい居てますね。

＜37cm・19 歳・高卒・男性＞

遊ぶのもあんまり好きじゃないんですよ。別に友達やから言うて、そんな毎日遊ぶことでもないし、学校で会えるし、学校で話したいこと話したらいいしと思っとった。長時間会ってもしんどいじゃないですか、友達言うても。あえてその場をつくるわけでも…、要らんかなと。あんまり遊びには行かないです。

＜12df・20 歳・専門中退・女性＞

中学校の友達とかはほとんど関係が続いています。*（その人たちは何をしているんですか？）*やっぱりフリーターが多いと思います。普通の社員みたいな形で就職しているというのは少ないと思います。

＜17cm・19 歳・定時制高卒・男性＞

彼氏とかはいましたよ、一応。高校の友達で、彼氏になったとか、バイト先の人とか、ありましたよ。特に印象に残るエピソード、別にないですね。ごく普通に過ごしましたね。

＜28cf・19 歳・高卒・女性＞

友達関係は、まあまあ楽しかったです、はい。

＜38cf・18 歳・高卒・女性＞

中２まではそこそこの成績やった。真ん中ちょっと上ぐらい。それが３年なったら急に悪くなって。友だちが悪かったんやな（笑）。自分が流されやすかったんすね。クラス換えになって、ちょっと悪い子と仲良くなって。上の子とかともいろいろ繋がりができてきて遊び出した。塾もやめて。…遊び友達は、高校とかはほとんど行ってないです。その頃１日の時間の流れは…遅刻いっぱいしてました。３時間目ぐらいから行ってたから 10

時ぐらいに起きるんですね。（笑）ほんでまあ学校は一応行って。で、3時半かぐらいに終わりますよね。そのまま家帰らんと、溜まり場みたいな誰かの家に行って。2日ぐらい帰らへんかったりしてた（笑）。もともとはその人らとも付き合いはあったんですけど、一線自分中でおいていた部分があったんです。中学1年とかからずっと知ってて、その周りの友達はみんなずるずるとそっちへもって行かれててんけど、なんかお母さんに怒られるっていうのが常にあって、お母さんがすごい恐かったんですよ、私。それが急にぷつって切れたんです。…11 月の進路の話があって、私学は1月試験ですよね。そういう話をしゃはってからは勉強をしました。遅いけどしました。グループの子との今までの生活は変えるように。遊ぶことは遊んでたんですけど、そんな遅まで遊ばんと、まあ8時とかで、そんなら私帰るわーみたいな。遅刻とかもなくしましたね。学校行きたいんやったらちゃんとし、そこから見られるから。先生にも言われたし。自分でそう決めて自分で切り替えていきました。自分でもきっちりしようと思ったらできる。

＜22cf・19 歳・高卒・女性＞

友達に関しては全然苦労したことがない。どこへ行ってもそれなりにできるというか。だから、全然友達に関して苦労したことはない。

＜7cm・24 歳・中退後定時制高卒・男性＞

友達と会うっていうのは…、仕事している人は、だいたい土曜日とか日曜日とかが休みなんで。やっぱ日曜日とか遊んだり土曜とか休みの前の日なんかに遊んだり。だいたい高校の友達ですね。職場はやっぱり。年齢違うのもあるんですけど、休みとかも全部バラバラなんで。会うっていう時間なかったですね。高校のときと遊びの内容も変わってないないです。車があるんでちょっと遠出するくらいで。女性との付き合いは、今はないですね。高校時代は付き合ってましたね。結構。もうないですね。高校時代くらいですね。ナンパとかはしないですね。車乗ったりして…機会があれば。ないですね趣味とか。ずっとテレビみて一日終わるくらいですね。

＜43cm・20 歳・高卒・男性＞

付き合っている友達は中学校の友達が多いです。中学校の友達のほうが高校在学中も仲がよかった。休みの日に遊びに行くのも中学校時代の友達との方が多かった。やっぱり付き合い長いし、地元だし。遊ぶときは、川があるんですよ。川で遊んだり。あとは車で映画見に行ったりとかとか。男女関係無く仲いい。高校の頃の友達は部活の友達。高校の頃の部活の友達はみんな進学して、○○とか△△とかに。*（進学したい気持ちは無かったの？）*あります。外国語の専門学校。英語が好きだというほどでもなかったんですけど、やっぱり今から国際化とかって勉強してみたらいいかなって。

＜25cf・18 歳・高卒・女性＞

○○だと遊ぶとこないです。カラオケが多いみたいです。カラオケも沢山はないです。カラオケにずっと…いろいろと、EXILE とか CHEMISTRY とかいっぱいあります。ファミレスはあるけどファミレスにはあまり行かなくて、カラオケ。昨日は友達の家で酒を飲んでいました。東北地区の高校の同級生。仲のいい友達は高校の同級生ですね。ほかは中学校の時の友達がちょっといます。*（自由に使えるお金は今はそんなに沢山はないですよね、カラオケに行くのは大変ですか？）*友達がお金をもっているので。友達におごってもらっています。

＜14cm・19 歳・高卒・男性＞

［小括］

友だちとは何か、という問題は残るが、友だちは学校の友人よりは「地元の」友人のほうと親しくつきあっているようである。学校の友達は特別に親しくなった人を除くと、学校だけのつき合いに留まることが多いように感じられた。これは、社会的アイデンティティとも

関係するが、高学歴になればなるほど、「地域の友人」よりは、同じような学校的価値・社会的価値を共有し、場合によっては社会階層的基盤を同じくする「学校での友人」の重みが増すのとは対照的であると感じられた。

2.7　校外での生活（友だちとのあそび）

都市部では、ある層の高校生たちがアルバイトすることが日常化している。親から小遣いをもらいその中で生活するのではなく、自分で稼いだお金を自分の小遣いとして自由に使うのである。ある意味で、彼ら・彼女らは高校在学中から非正規雇用労働に従事する「労働者」だったのであり、それは取りも直さず一人前の「消費生活者」であったことをも意味する。この節では、彼ら・彼女らの校外での生活を見てみる。

バイト行ったんは、小遣い稼ぐためですね。金使う遊びしか、しなくなりますからね。この年なってきたら。高校生なってきたら。ま、カラオケいったり。この辺遊ぶとこ、ないっすけどね、それくらいしか。まあ、〇〇も行ったりもしますよ。出ますね。高校生なったら、服とかも気つかってきますし、だいぶ金かかるんで。友達たくさんいて、高校の時、わりと多いほうやった思います。ワッと遊びに行く。３年になって△△（スーパー）は、行かへんかったんは、もう、最後くらいちゃんと、真剣に遊ぼうかなと。ちょっとづつ、コツコツお金も貯めてたんで、これ最後使ったろかなて。結局、遊びと服で終わりましたね。金一番注ぎこんだんは服、が第一番。友達も服とか、同じような趣味持って持ってましたね。
また、高校に入ってからバンド始めたんですよ。それで、楽器買うてみたりとかもありましたけどね。僕はベース弾いてましたけど。バンドは友達に「一緒にバンド組もかー」って誘われて。それまでやったこと全然ないです。いきなり。ほんまに、半日以上弾いてましたからね。ベース。それは高１ですね。
…夏頃から「◇◇（祭り）」の準備ね、練習、あれ体力、ほんまに、いるもんね。ほんまに、２日間、走りっぱなしですからね。「走りこみ」ゆうて、１ヵ月、毎日走るんです。町内会で子供会っていうか青年団みたいなもので、頭がおって、仕切ってて。「今日から練習や」いうて。厳しいですよ。でも辞められん。練習って８時～９時以降、仕事やってますから。バイト終わってから、寄り合い行って走って帰ってきて、ベースをみたいな。普通、青年団は高校１年からなんですよ。上は 25 くらいまでです。そこから、また若頭ってなるんですよ。青年団の上の位になるんですよ。若頭って一人ではなくて。若頭グループ。若頭の上は、普通は終わりますけど。

＜37cm・19 歳・高卒・男性＞

友達とは家で遊ぶ。テレビ見たり、ゲームしたりとか、カラオケに行ったりとか。友達と遊んでいることが一番楽しかった。

＜17cm・19 歳・定時制高卒・男性＞

ブラブラしたり、カラオケ行ったり、ゲーセン行ったり、あとは〇〇行ったり。最近は同期のやつとめったに遊んでないけど、大体、先輩。地元で仲よくなった人。昼は遊んでないけど、大体、仕事終わってから夜遊んでる。昼は大体寝てるか、家おるか。たまにパチンコに行って、たまにというか、暇だったらパチンコに行くぐらい。負けるときもあるけど、大体負けても後々ちゃんときっちり。

＜3bm・17 歳・高校中退・男性＞

バイトしていて、お金ができて、それともバイトで友達ができた。ふだんは〇〇とか。買い物とか、カラオケとか。洋服買ったり、くだらんもん買ってみたり。アルバイト始

めて、大体 10 万ぐらい稼いで、やっぱり携帯代とか。携帯代は月１万円ぐらいですね。夏休みとかに入ったらもっと結構かかりますね。２万ぐらい。携帯代と、やっぱり買い物とか、遊びに行くのとか。貯金は、全然そのころ考えてなかったですね。服とか、一番お金かかっているかな。お母さんにめちゃめちゃ怒られる。１回しか着いひんもんばっかやんか、あんた。どれだけ服あると思ってるのって、しょっちゅう怒られていましたね。バーゲンとか行ったら、また欲しくなるんですよ。高校時代、そんな感じですね。

＜28cf・19 歳・高卒・女性＞

高校は友達がおったから楽しかっただけ。別にそれ以外は。友達は△△とか××の子とかが多くて、遠いからあんまり遊びに行くということはなかった。○○とかぐらいまでで。○○に親しい友達がいてました。遊びに行っていたのは、○○の駅の辺とか。遊ぶ場所は学校の帰りに、□□で降りるから●●（商業施設）とか。□□は高いというか、買う服のブランドが決まっていたから、どこに行っても…。☆☆は乗りかえせなあかんから、車がある友達としか行かんかった。□□か、◇◇。服を買うか、ヒサロへ行くか、カラオケへ行くか。（服を買いたいから、もっとバイトを増やしたいとか）そんなんはなかった。高校のときも家は厳しかったから。ご飯をつくって、家を出て、バイトといっても何時間かだし。だからそんなに。

＜18cf・20 歳・高卒・女性＞

高校３年のときにはバンドもほとんどやっていないですね。毎日のように遊んでいました。○○君と毎日のように家でゲームをしたり。２人で楽器鳴らして遊んだり、何てこともない、しようもないことばかりしていました。家の中ばかりですね。外はあんまりお金がないので。バイトもしていないので。ほんまに仲がいいんですね。中３ぐらいからですけど、ほぼ毎日のように顔を合わせて。家も初めは近くだったんですけど、引っ越してちょっと遠くなったんです。それでも５分ぐらい。*（高校３年生のときに家で遊んでいたら、お母さんとかお父さんは当然気がつくでしょう。何も言われなかった？）*何も言われないです。最近聞いた話だと、１年のときにむちゃくちゃじゃないですか。だから、学校も行ってくれていて、家で遊んでいるんやったらまあいいかと思っていたらしいです。

＜51em・22 歳・専門学校卒・男性＞

（アルバイトをしたので）本がたくさん買えるようになったから、友達と遊びに行けるようになったかな、御飯食べに行けるようになったなというのがよかったかな。それが楽しかった。本以外には、ビデオ、映画を見られる回数が増えたのでよかった。どこか遊びに行くのが、やっぱりちょっと遠出もできるようになって、どこでも自転車で行っていたのが電車を使えるようになった。友達は、バイトの子がほうが遊ぶのはちょっと多かったですけれども。○○とか、△△とか、そのあたりぐらいまでですね。たまに遠出して□□へ行ったり。交通費はものすごい痛かったですけれども。でも、そのかわりすごい楽しかった。地元では、あんまりやっぱり携帯を持っていなかったのがすごい痛くて、連絡を全然とれなくて、気軽にやっぱりみんな携帯を持つようになったら、家電になってだれが出るかわからないのが嫌やと言われますので、うちは留守電によくしているんですね、いても。とっさにとれないことがあったりするので。それで留守電になったらみんなすぐ切って、どうしても用事があるときやったら、もう１回文句をちゃんと考えてからかけ直すというようなのがすごく抵抗があるみたいで、それであんまり。意外と、中学のころはあんなに会っていたのに、地元におっても会わないんですね。中学校とか、地元の友達に。今ごろ帰ってきているはずやのになと思いながらも、すれ違うぐらいとかね。

＜20cf・18 歳・高卒・女性＞

遊ぶ場所っていったら、よく行ったのは○○の方とか。△△市内でも結構、遊んだかな。うん、駅の方。なんか××とかあるんですよ。あのへんとか行ったりとか。大体なんか、プリクラとか撮ったりとかそんなんですよね。カラオケとかね。□□とかもたまに行き

ましたね。□□行っても結局プリクラとかとってたり（笑）。このへんにはないプリクラとかもやっぱりあったりとか。別になんも特にしてなかったような。服とかなんか買ったりすんのにお金とかは使ってないですね。

＜39cf・19 歳・高卒・女性＞

映画を見に行ったりとか…近いところとか。場所は○○とか、よく行くところやし、知ってる範囲しかあんまり行かないです。

＜38cf・18 歳・高卒・女性＞

アルバイトして、そのお金は一番は携帯、でも１万ぐらい。今、教習所のローンずっと払ってるんですけど。残った分は貯金に回している。遊びは、車の免許取ってからは範囲は広まって。車の免許取ったのは卒業と同時ぐらい。それ以前は遊びに行く範囲はだいたい自転車で動ける範囲。車は親の車で、あっちこちちょろちょろと。遠いとこやったら、遠くないけど、○○城行くかとか（笑）

＜22cf・19 歳・高卒・女性＞

遊びに行くのは全部徒歩。徒歩か自転車。免許取ったのは 18 なってからやし。バイクの免許持ってなかったし。交通費と自分のご飯代くらいかなぁ。たばこ。お酒は飲んでもおごってもらったし。*(服とかそういうのにお金かけかけるとかない？)* 服こだわらんから。趣味…、ないかなぁ。カラオケぐらいかなぁ。カラオケ楽しいな。毎日行ける。同じ歌歌っててんのんでも楽しい。携帯代とか使うときは使う。一番高かったので８万。平均４～５万。月 12、３万でだから三分の一は携帯代。ほとんど家の光熱費とか家賃、おばあちゃんやってくれてるから。今でも。あんまし家でもご飯うち、作るんじゃないから。昼はコンビニ弁当とかそんなんやけど晩はおばちゃん作ってくれてたり。*(今は遊びに行ったりとかは？)* してる。今は車とか持ってるから。そんなに遠出はせーへんけど。□□の友だちんとことか。友達の家じゃないんやし。だから、家の前でしゃべったりとか。そんな感じかな。

＜4bf・20 歳・高校中退・女性＞

いつも一緒に遊ぶともだちとはカラオケとか。ボーリングも。年は、一緒。小中が一緒だった友達もいてるし、違う子もおる。知り合った子。紹介とか。*(場所はどのあたりに？)*。○○。みんなっていっても、２、３人でしか遊ばないから。△△とかは、あまり。遠いから。*(服どこで買ってる？)* 服屋。□□市はいけへん。めっちゃたまにやったら行くけど。まえは、行ってたけど。自分の車だせへん。友達の車。運転は自分は絶対せえへん。運転嫌いやから。最初のときは楽しかったけど、しんどくなってきた。*(今、バイトしてないけど、遊ぶお金はどうしてるのかな？)* おごってもらってる。*(今やってみたいバイトは？)* 一番やってみたいのはカラオケ。カラオケって 23 時とか、深夜。あんまり遅いのは、お父さんとお母さんが怒る。

＜6bf・20 歳・定時制高中退・女性＞

学校から家に帰るとずっと、もうテレビ見てるかな。あんま遊びに行くことも無かったですけど。○○で離れているからあんまり友達とも遊びに行かなかったですね。○○の中学校ときの友達とは、電車のなかでたまーに会うくらいで、そんなに頻繁に会うわけじゃない。高校の友達とも一緒に遊びにというのはあんまりなかったです。たまに土曜日とか早く終わった日とかは家に寄って遊んだり、どっか遊びにいったりとかはしましたけど。*(すごく深く友達と付き合うほうでもない？)* そうでもなかったですね。クラスに一緒にいて「トイレいかない」っていわれたら、一緒に行く感じだったら一緒に行くという感じでしたね。でも、大体やっぱ高校とか同じ仲いい友達とグループ作ってというのはありましたけども。そんなに外にしょっちゅう遊びに行くという感じではなかったです。今も付き合っている友達もいますけど、そんなにもう頻繁に連絡とったりはしないですね。みんな仕事している。あとはもう大学とかで東京の方に行ってしまったり、遠くは沖縄にいってしまったり。

＜26cf・20 歳・高卒・女性＞

高校時代に熱中していたことは、遊ぶことです。パチンコ。たまに 20 万円くらい勝つこともあります。パチンコの元手は小遣いか、母ちゃんの財布からちょっと抜いたり。気づかれて怒られました。遊んでいたという時間は、友達とパチンコやカラオケ、買い物やゲームセンターはあまり行かない。

＜14cm・19 歳・高卒・男性＞

［小括］

先行研究でも指摘されているように今回のヒアリング調査対象者は、都市部の者は高校入学直後からアルバイトをはじめ、月に４～５万円から 10 万円程度の収入を得ていたこともあり、高校在学中から消費者としては「一人前」であった。友人とターミナル駅などの繁華街に出かけ、とくに洋服などのショッピングを楽しみ、食事をして、カラオケを楽しむ…という一般の社会人と同じような消費生活をしていたことがうかがえる。地方でも同じような傾向はうかがえるものの、アルバイトがないに等しいため、あるいは学校で禁止されていたため、アルバイト収入がほとんどないか少額であるため、都市部の者ほどは消費生活をエンジョイしているとはいえない。また、男性では友人同士自宅に集まりゲームをしたり、楽器をいじったりという「趣味の生活」をしている者もあった。

2.8　アルバイト経験

前節でも触れたが、首都圏や大都市では、ある層の高校生が日常的にアルバイトをしている。彼ら・彼女らは、高校時代にいつ頃から、どんなアルバイトをしていたのであろうか。この節では、高校在学中を中心にアルバイト経験を見てみることにする。

高校の時からバイトをやってました。最初にバイトをしたのは高１の終わりくらいですね。紹介ですね。紹介されて、最初は飲食業になるのかな、○○（スーパー）なんですけど。○○の食品部です。食品を棚に並べたり。…僕「△△（祭り）」に出るんですよ、祭りのときにね。でそこでまた１回辞めたんですけど、でまた、社員さんに「戻ってきてくれ」言われてまた２回目○○でみたいな感じですね。「△△」のときは「△△」があるから「休ませてくれ」いうたんですけどやっぱ「それ迷惑になるかな」考えて「もう辞めさせてくれ」いうたんです。それで「△△」引いてまた２月くらいまでゆっくりしとったんですよ 10 月から。そしたら電話かかってきて「バイト、もう一回やってほしい」見たいな事いわれて。その後は１月に入って半年ぐらいやって、「△△」があって辞めてまた２月からまた入って、また、祭りまでですけどね。２年生になってまた「△△」まで、「△△」は捨てれないですね。その時はそれで辞めて、そこからはもう何もしないですね、高３になってからは。

＜37cm・19 歳・高卒・男性＞

高校時代からずっとアルバイトとかはしていました。高校に入ってすぐです、４月から。駅の中で、喫茶店の募集みたいなのがあるじゃないですか。あれを見て電話して。お金欲しい（笑）。

＜17cm・19 歳・定時制高卒・男性＞

高校に行ってたころは特にアルバイトをしてたということは…１回だけしたけど、すぐやめた。１年のときの夏ぐらい、ポスティング。○○(就職情報誌)か何かに載っとって。金欲しいから。時給（700 円）で２ヵ月ほど働いて、やめようと、おもろくもないし、

だるいし。

＜3bm・17 歳・高校中退・男性＞

高校１年生のとき、喫茶店のバイトを、入学してちょっとしてからかな。友達の紹介で。朝７時前に早く起きて、３時、４時まで勉強して、その後喫茶店でアルバイトして。で、家帰って、まあ、何時ぐらいかな、10 時、11 時ぐらいに家に帰って。バイトは９時ぐらいまでなんですよ。それで、社員さんと御飯を食べに行ったりとか、しゃべったりとかしていて、帰るの遅くなってという感じですね。忙しかったけど、楽しかった。週に２回ぐらい、大体休みをもらって。２回休んで。でも、土日は絶対休みもらえないんですよ。忙しいから、土日は朝から晩までフルで働いてって感じ。…（給料は）普通に 10 万ぐらいはあったかな。夏休みはもうちょっとありました。…学校の友達の紹介で、高校２年生の 10 月ぐらいから。アルバイトが１年半ぐらい。回転寿司は。楽しかったですよ。常連さんとかやっぱりいらっしゃるんですよ。そのお客さんと仲よくとかなったりとかして。たまにそのお客さんから差し入れをもらったりするんですよ。何かおかしとか、ジュースとか、結構もらったりするので。２月から家の仕事をするためにやめたけれども、そういう状況がなかったら続けてました。バイトしていても、逆によかったん違うみたいなのはありますけどね。お客さんとか、年上の人とかと接することによって、言葉づかいとか、あるじゃないですか、あいさつとか、礼儀とかやっぱりちゃんとしないといかんじゃないですか。そういうのが身についていいん違うという感じでしたね。

＜28cf・19 歳・高卒・女性＞

高校在学中は高２の夏ぐらいから日曜日だけ、友達の喫茶店を知り合いのおばちゃんが言ってくれて、休みの日だけバイトをしていたぐらい。お父さんも知っていて、店はすぐ近くだった。知り合いのおばちゃんが、友達というか知っている子の店を言ってくれて。喫茶店だったから、日曜日の朝８時からお昼過ぎぐらいまで。時給は 750 円ぐらいだったかな。月にしたらもう全然。携帯代が払えるぐらい。お金は服とかに、ずっと服がすきやから。月にしたら高校のときのほうが、卒業してからよりもお金を使っていたかなと思う。お父さんからもらったり。何 10 万とかは使っていないけれども、１つの服が高かったような気がするから、２万とか３万の服。

＜18cf・20 歳・高卒・女性＞

学校に行かなかった高１の２学期の間に、バイトですね。知り合いのところでやらせてもらって。学校を休んで。もうそのときはやめる気だったんで。全然何も考えないで、働こうと思って。特殊なやつなんで説明しにくいんですけど、塗装みたいな。普通の塗装屋じゃないんですけど、室内で何か特殊な。お母さんの友達の親戚か何か。お母さんが紹介してくれた。(お母さんは)家でぼうっとしているんだったら働きに行けみたいな感じだったんですね。土日休みで、毎日。給料はよかったですよ。20 万ぐらいくれました、高１で。時給でしたけど。

＜51em・22 歳・専門学校卒・男性＞

バイトは最初は中学校を卒業してすぐ、高校に入る前、春休みの間だけ。単に遊ぶお金が欲しいから。最初に行ったところは工場とかそういう。袋詰。これはお姉ちゃんがバイトしとって、それで、お金が要るから。時給が覚えてなくて、でも１週間ぐらいだけバイトして、もろうた金額は。６万円か７万円。立ち仕事でしんどいのはしんどかったけど、それでこんだけもらえたら何か、まあええかなって。次のアルバイトは高１の夏休みにガソリンスタンド。これも友達が行ってて。夏休みに、ほとんど毎日。ほとんど毎日行って、朝から夕方働いて、そこそこもらってたと思う。夏やったからすごい暑くて嫌やった。毎日早く帰りたかった。次は冬休みの前ぐらい、スーパーのレジかな。これも友達に。時間は夕方の５時から 10 時、ほとんど毎日です。学校行って、そのままの服で行って、制服は向こうで着がえて、上だけ、カッターとかで。月に 10 万はいってたんちゃいますかね。休みの日は朝から終わりまで。とりあえずね、お金欲しかった。

＜29ef・24 歳・短大卒・女性＞

アルバイトは接客業なんですけれども、ファミリーレストラン。高校１年の６月の終わりぐらいに採用が決まりまして、７月ぐらいから本格的に働くようになって、３年生の１月ぐらいまで同じところで続けました。中学校のころ友達やった子がそこで働いていまして、会ったときに「バイトしてる？」とかいう話になったんですね。「一応、探してるねんけど」とかいう話をしたら、「うち、今、やっているところ、人探しやっているで、じゃあ、受けに来たら」とか言われて、その場所も家から近くですので、通えないこともないなと思って、その条件が２つ合いまして、とりあえず面接を受けてみようかなと思って。受かりましたので、そこで続けることになりました。時給は最初は 700 円だったんですけれども、〇〇最低賃金が 703 円に変わって、５円ずつ昇給しまして。最終的には 723 円になりました。…夏休みとか、春休みとか、長い長期休暇のときは週６ぐらいとかで、ゴールデンウィークはびっちり全部とか、そういう感じになりましたけれども。バイトをはじめた理由は、大学にも行きたいかなという、先立つものがなければ無理や、急遽ためられるものではないし、奨学金を借りたとしても、やっぱり返さなあかんし、借りられる額にも限度があるしということで。自分のお小遣いにもなるしなという思いもありましたけれども。一応は貯金目的で始めて、月５万ぐらいだけど、きっちり貯金はしました。

＜20cf・18 歳・高卒・女性＞

バイトは高１のときがスーパーに行ってたんですよ。家の近所です。食品っていってね、品出しとか、売変てわかりますよね。値段とかを、特価とかあるじゃないですか。ああいうのを変えたり。ポップづくりとかやってましたね。高１の５月か６月ぐらいからですね、たしか。で、そこから３ヵ月か４ヵ月しかやってないです。お金たまってきたんで、もういいかなと思って。このころって遊びたいじゃないですか。で、遊ぶお金が欲しかったんです。このバイトは、直接店に電話しましたね。時間としては、平日は何時からやったっけな。４時頃から９時ですね。で、日曜が８時から９時。時給は 700 円ぐらいやったと思うんですよ、たしか。棚卸しんとき、もっとひどいんですよ。朝の８時から 10 時半とか、余裕でやってました。初バイト経験は、めっちゃ楽しいってのはあったんですけど、やっぱ初めて働いたっていうので、しんどいっていうのもありましたね。…１ヵ月だけ友達５人ぐらいで一緒に行ったんですけど、工場内でね、何かポスターあるじゃないですか。普通のポスターを箱に詰めるっていう、内職みたいなバイトなんですね。それを１ヵ月ぐらいずっと延々やってました。短期バイト第２弾は、友達のおやじの工場なんですけどね、豆腐屋なんですよ。そこでね、豆腐の賞味期限あるじゃないですか。あれを打っていくんですよ。何か、機械あるんですね。通したらばたんっていう。それをやってましたね。それも友達４、５人でやってたんですよ（笑）。それも楽しかったですね。もう１個あるんですよ。短期じゃないんですけど。高２の何月だろ、10 月頃かな。お菓子のトラックの積み込みみたいな感じです。…卒業して６月頃までは多分やってましたね。ボーナスがあったんですよ。６月と 12 月。２万円ずつ。

＜23cm・21 歳・高卒・男性＞

高校の時のアルバイトは、たまに。最初にやったのは１年の冬休みの郵便局の年賀状の時期の、郵メイトってやつなんですけど。あれですね。仕分けとか。12 月の 20 日くらいから１月の 10 日ごろまで。時給はいくらやったかな。なんかめっちゃ安かったような気がしますね。700 円あったかな？９時から４時か５時くらい。友達も一緒で、楽しかったですね。年末年始やって６万くらいかな？何かに使ったっていうよりは、携帯のお金にしたとかそんなんかな。…その後は２年の７月だけ、コンビニみたいなところでやったけど、３週間くらいでやめましたね。そこも、友達が行ってて、一緒にやったっていうか、私があとで行って。まぁ時間とかは全然ちゃうんかったんですけど。時給はたぶん 700 円くらい。…次は、また冬休みにあの郵便局ですね。…次は短期で、３月の春休みかな？工場で、イカの流れ作業みたいなんで、生のイカ。機械にガーってやって切ったりとか、タコみたいなやつを包丁でなんか切ったりとか。それは２日でやめました。そこの会社っていうか、そこは結構しんどいから辞める人が多いみたいで、そこの社長とかも、合わなかったら辞めていただいて結構ですのでみたいなことをあらかじめ言ってたから「あぁ、辞めよう」って。それでも結構、２日だけで、１万４千円くらい

はあったんですよね。１日の時間がすごい長かって、９時からなんか６時くらいまでやったかな。そこは求人広告。新聞に入ってるやつ。…学校の授業ある間はアルバイトはほとんどやってないですね。あれは無理でしたね。

＜39cf・19 歳・高卒・女性＞

アルバイトは、したことあります。高校２年の夏休みに魚の加工。それは友達が見つけておもしろそうなのがあるから、行けへんって言われて。あんまり乗り気じゃなかったけど…。時給は 700 円ぐらい。３年生ときは、お団子屋さんでバイト。募集してた張り紙をお母さんが見つけて行ってきたらって言われて、もう１人の人が事情で行けなくなって期間だけ、１週間か２週間お願いしますって言われて。販売みたいな感じかな。作るのもやりました、お団子。作るのは楽しかったけど、販売とかレジとかは全然できなかった。一応続けたけど、続かなかった。

＜38cf・18 歳・高卒・女性＞

バイトは高校１年、もう初めからやってて。おすし屋さんで５時から 10 時まで。カウンターで。昔からよく食べに行ってたおすし屋さんやって、中学卒業するときに行って、バイト何かないかなってみたいな話したら、うちちょうど探してんねんけどけえへんみたいな。近所ですね。時給は平日が 750 円で、日曜祝日が 800 円。週６回で月曜日のみ休み。毎日行ってました。月にしたら７～８万ぐらい。それを高２まで。おすし屋さん、やっぱり全部入ってたらしんどいというので、テスト休みとかももらえなかったんですよ、バイトが私だけというのんで。やっぱり欠点とか出てきたらやばい。で、テストの日、丸々１週間休みほしいとは言わへんけど、休みもらえませんかて言うと、それはしんどいなて言われたんで。それやったら私も、こっからさき卒業していかな困るから、このバイトやめますて言って。で、しばらくバイトしてなかったんですよ。半年ぐらいしてなかって。せえへんかったら、遊びに行くお金もなければ携帯代も払っていかなあかんし。（笑）駅の近くに、オープニングのチラシがバーンて張ってたんですよ。オープニングやったら人間関係も一番初めっからやしやりやすかなーて。高２の時やったから、晩の部だけ 10 時まで。ほんで、高校卒業してから予備校行ったけども、朝も入ってきてバイトのほうが主になっていった。やっぱりお金だな、と。（笑）高１の時からアルバイトして、高校生の時は全部自分のお小遣いになってました。でも卒業してからは家に入れてます。５万ぐらい。自分で判断したのもあるし、やっぱり家に居るんやったら、それなりの事をしてもらわなって。ボランティアではいかへんよ、もう高校卒業させるまではあたし等の仕事やけど、高校卒業してから以降は知らないよってずっと言われてきてたから。

＜22cf・19 歳・高卒・女性＞

バイトは、いろいろやってた。高校行ってた時に、コンビニのバイトやってた。高校入ってすぐくらい。家の近くのコンビニの所に貼ってある張り紙で。高校入ったらバイトをしようと…遊びにお金がほしいから。親からは、小遣いっていうのは決まらんと、ほしい時にはほしいだけもらってたりしてた。高校入ったら自分で稼ごう、親にあげようと思っててん、お金を。お金を渡そうと思っててたんやけど、やっぱし給料こんだけやからあげたらもったいないと思った。（親にお金をわたそうと思ったのは）勝手に親の財布からとったことあったから。ばれるねんけど、いつもごめんなごめんなで許してもらってたから。時給は 725 円くらいかなぁ。週何回やろ。２～３回くらいかな。夕方６時くらいから、10 時くらいかなぁ。続けたのは２週間くらいかなぁ。やめるきっかけは…晩みんな遊んでるから。みんな遊んでるのに自分だけバイトいかなあかん。友達と遊びたいのに遊ばれへんてそんな感じ。（辞めるときは）なんも言わんかった。いかんくなった。給料振り込みやったから、別に会う必要もないし。…こんなんやりたくてやったとかっていうバイトは別にない、全部お金目的やったから。探し方は、友達に聞いたり、新聞の折り込みとか、職安行ったり。タウンページで一件一件募集してますかって調べたり。タオル工場とかプリント会社とか。選ぶ時に自分が基準にしてたのはやっぱお金。求人広告で自分で優先順位をつけるとしたら、工場とかだったら時給で、初めに見るっ

て行ったらスナック系かな。

＜4bf・20 歳・高校中退・女性＞

アルバイトは工場。工場で包装とか、機内食。コンビナート。最初にアルバイトしたのは…ここ以外？覚えてない。*(これまで経験したアルバイトを覚えている限りでいいですから教えてもらえますか？)* すし屋。それは高１。友達の紹介で１週間くらい。やりづらかった。*(100 円の回転寿司？)* 中に入って洗い物。時給は覚えてない。多分 750 円くらい。朝から学校いくまで働いて、で学校に行ってた。朝 10 時から（午後）３時まで。人間関係がうるさかった。「もっと元気よく、声出していけ」と。で、やめてお母さんの職場で、それが機内食。朝８時から４時くらいまで。航空会社の名前のシールを袋にはってた。それは１ヵ月くらい。決まってた。契約で１ヵ月だけ。お母さんにバイトしいよといわれたから。時給は 750 円。*(しんどいと思ったのは？)* ずっと立たされた。次のアルバイトは半年以上たって、１年経ってたかも。覚えてない。*(次やろうと思ったきっかけは何ですか？)* お金がない。遊びにいかれへん。そのあとは…また、工場と思う。それも１週間くらいしかいっていない。時給は 860 円。何かつめていた、箱に。*(時給よかったのに辞めてしまった理由は？)。*なかったんですけど、何かやめてしまった。ここから自転車で 15 分。工場の仕事は友達の紹介。

＜6bf・20 歳・定時制高校中退・女性＞

（高校在学中のアルバイトは）お金が欲しかったから。小遣いが欲しくて。暇だった。最初は、友達の親がそば屋をやっている人で、そこでちょっとバイトをやって、あとスーパーマーケット○○社のスポーツ洋品店とか居酒屋とか。張り紙で。それは冬休みだけだった。○○社のほうは、９月から２月ですね（進級できるかわからなくなってきたとき）。

＜7cm・24 歳・中退後定時制高卒・男性＞

アルバイトを一番始めにしたのは高校１年入ってからすぐ。学校には内緒で。ファミリーレストランで厨房やってました。高校入ったら、バイトしてお金ためて好きなもの買いたいなって。「高校入ったらバイトする」っていう感じは、普通ではないと思うんですけど、部活とかしていなかったんで、時間もったいないなって。週３回くらい休みがあって４日くらい出てました。土・日も出てましたね。土・日は朝からの場合もありましたし、夕方からの場合もあります。普通学校がある日だと５時・６時くらいから９時・10 時くらいまででした。３～４時間。土・日だともう少し入れるんで６時間とか倍になったり。月に５～６万円くらい。夏休みになるとやっぱり８万から９万円になりました。*(それを何に使ってました？)* んー。覚えてないですね。一応欲しいものとか、ＭＤのコンポとか買ったりして、結局は何に使ったかはわからないうちになくなってますね。うちから小遣いは貰ってなかったですね。はい。「いらない」って。…その後は高２年のとき、スーパーマーケットでアルバイトして。それも１年くらい。高校３年ではやっていなかった。就職活動で忙しかったんで。…最初のファミレスは自転車で通ってました 10 分～15 分。二回目のスーパーマーケットはすぐそこで自転車で５分くらい。*(アルバイトを見つけたのは？)* 中学校の時の友達がいたんです、一番最初のとき。… *(世の中のそういう仕組み教えてくれた事なんてありました？)*やっぱりありましたね。「就職厳しいんで頑張れ」ってそういうこといわれました。パートのおばちゃん達とかにですね。

＜43cm・20 歳・高卒・男性＞

高校時代アルバイトしていた。夏休みだけ。飲食店で注文受けたり、ウエートレスみたいな感じ。学校が平日あんまり忙しくないから、夏休みだけ、土日だけっていうのがあったんだけど、なんか先輩がやっててこの○○高校の。土日だけやって平日学校行くともったいなくて学校休むようになるって聞いたから夏休みだけ。これは高校２年生の夏休み。アルバイトしたのはこれだけ。

＜24cf・19 歳・高卒・女性＞

高校の時はアルバイトはしていないです。○○高校では許可をもらわないとできない。しない理由は…めんどうくさかったので。

＜14cm・19 歳・高卒・男性＞

アルバイトは、少し。○○高校は許可制。許可をもらって…。最初にやったアルバイトはファミレスの裏方の方で、サラダ作ったりとか、そういう仕事だったんですけど。食物関係が好きで、作るというのが割と好きですね。そっちを希望したんです。高校２年生のときですね。時給は 650 円くらい。*（アルバイトを始めた理由は？）*やっぱりお金がないからですね。収入的には月に３、４万とかそのくらいにはなった。*（それを仕事にしようとかは思わなかった？）*やっぱり人間関係とか耐えられなさそうというのもあるし、やっぱりやりがいっていうか、楽しいという感じではなかったんで、あんまりやりたいとは思わなかったですね。このアルバイトは２ヵ月くらい。高校３年生のときに、友だちが△△町のほうにいるんですけど、そこで友だちがバイトしてて、ちょっと誘われてやってみたんですけど、そこはあんまり仕事が入らなくて、ちょっとしたらやめちゃいました。それも食物関係。

＜27cf・18 歳・高卒・女性＞

無許可で。高校入ってすぐにやりました。いま働いてるお店のオーナーのちがうコンビニなんですけど、そこで。時給は 650 円です。バイトってすごい入ってたんで。月５、６万、高校１年のときにもらってたんで、まあ遊ぶには十分。そのときには、今みたいに家にいれては、なかったですね。それを１年間やりまして、そのお店がちょっと経営者が変わるってことだったんで、私もやめて、で、半年は何もしてなかったんですけど、そろそろしようかなってことで、ウエイトレスっていうんですか？ファミレス。またバイトしたんですけど、ちょっとそこは合わなかったんで、２ヵ月くらいでやめて、また、同じ、コンビニの方で。コンビニ、仕事自体は好きですけど、楽なんですよ。たぶん、ほかのコンビニよりはけっこう仕事がいっぱいあったと思うんですけど、まあ、仕事自体は掃除とかも好きなんで、全然。苦にはならない。…今の店って、今は時給 650 円。最初の１年生のときは高校生は 650 円からということだったんですよ。で、そこは一回やめて、今の店に入ったときは 620 円からということになったんですよ。で、620 円から、卒業したんで 650 円に。レジとかも好きでしたし。コンビニの仕事はまだやりたいですね、はい。

＜19cf・18 歳・高卒・女性＞

多くの場合、「遊ぶお金のために」アルバイトを始め、継続しているといえるが、東北地区では、家族から与えられた環境（祖母からの小遣いと携帯電話代・洋服代などは親が負担する）で我慢するケースも見られた。

高校時代アルバイトは、ぜんぜんやってなかったです。暇なんです。周りの友達はアルバイトしている人もありましたけど、していない人もいて、それぞれでしたけども。アルバイトしようと思ったことはあったんですよ。でも許可取ったりしなくてはいけなかったし、バイト先どうするのかというのもあって、探すのも探せなかった、というか、見つけられなかったっていうのもあって３年間ずっとしなかったですね。雑誌とかみてコンビニとかに置いてある求人誌とか見たりはしたんですけど。応募はしなかったですね。小遣いは、おばあちゃんから月３千円貰っている程度で、親からはもらっていなかったです。でもお金に困ってるって様なこともなかったです。携帯は親が払ってくれていて。服なんかも親に買ってもらってしまって。

＜26cf・20 歳・高卒・女性＞

［小括］

都市部においては高校入学直後から、場合によっては高校入学前の春休みからアルバイトをはじめた者が多い。地方では、学校の規則が厳しく、許可を得た場合だけにアルバイトをしたケースが多い。アルバイトをはじめた理由は「お金がほしい」が大部分である。

アルバイト労働の内容は男性が現場作業、スーパーの品出しなど、女性は軽作業と接客サービスがその主なものである。多くの場合、アルバイト生活にはそれなりの適応を見せており、お金がもらえるからという真剣さと決められた時間に決められたことをするという労働の基本はアルバイトを通して身につけたと思われる。人間関係も必ずしも円滑にばかりいっているとは言い難いが、それでも学校とは違い、お金を得るためという利益に動機づけられているためか、それなりの関係はつくれているようである。これも、アルバイトの効用のひとつであろう。

もともと働くのがイヤなのではない。というより、働かなければ日常の生活が成り立たないことはイヤというほど身に染みて知っているのである。しかし、枠にはめられる「不自由さ」を嫌い、我慢できず、正規雇用労働という「枠」にはまらない生活をしているのである。彼ら・彼女らはアルバイトを通して、お金を得て、働く世界の基本を身につけ、その一方では使う側の身勝手さを知り、それとそれなりに折り合いを付ける「したたかさ」も身につけたのである。言ってみれば、学校では決して学べない「生活の知恵」（よい意味でも悪い意味でも）をアルバイト経験を通して、高校在学中に身につけたのである。学校的価値、社会に適応する価値意識を受け入れることなく、またそれを内在化していないからこそ、今の生活を不安定であるとは思うものの、それなりに過ごせるのである。こうした傾向は「正規雇用を指向しながらも、労働市場があまりにも厳しく、非正規雇用労働を余儀なくされている」地方では希薄であるが、「選り好みさえしなければ、それなりの雇用はあり得る」首都圏・都市部ではかなり強く見られる。

2.9　進路選択（就職活動など）

多くの者が学校的な価値を受け入れず、勉学に励むわけでもなく、部活動に熱心に参加するわけでもなく、「なんとなく」「それなりに」、場合によっては「好きなように」学校生活を送ったようである。高校進学時に、多くの者が「高卒後、進学しない、できない」あるいは「進学は考えていない」と思って、消極的にではあっても学校を選び、入学したわけであるが、彼ら・彼女らは高校卒業時にどんなふうに進路を考え、どんな活動をしたのだろうか。この節では、彼ら・彼女らの進路に関する行動を見てみることにする。

> 将来どういうふうになりたいなって、ほんまに、何時頃っていうのは全然ないっすね。高校いって、まあ「就職はするんだろなー」と思って。それぐらいですね、ほんまに。職種っていうのが、ほんまに全然なかったんで、仕事選ぶということもできない位でしたね。「どれがいい」というのがないんで。こういう情報が得られるとか、そういうこと

も、もう全然ですね、ほんまに。まあ就職できたらというくらいですね。(就職試験は)受けました。いや、受かってたんですけどね。入社式の日取りとかの情報がなくて、「あったんや」思うんですけど、学校が忘れたのか、僕が忘れたのか分からないですけど。もう、そのまま。就職するときは、いやもう「近いとこ、金、いいとこ」いう位で、僕が自分で決めた所です。(就職しなかったのはその日取りとかで)わけ分からん会社なんですけど。入社してへんけどみたいな。それっきり連絡ないですね。…何ちゅう会社か、僕もわかってないんですよ。工場の機械の部品を作ってる会社ですね。ネジとか。その会社を見つけたんは、学校の案内見て。「もう、ここでええわ」って、近くて、土・日休みでという感じ、ほんまに楽なとこという理由で選びましたけど。入社式、行かへんかったら、1回電話かかって来ましたね、学校から。「あやまりにいこか」とか言われたんですけど、そんな、「あやまって入るぐらいやったら、もう辞めとくわ」って、会社辞めました。「また、一緒に職安行こうか」とか誘ってくれましたけど、さすがに「そんなん自分でする」って。職安行ったことありますよ。何回か、顔出すくらいですけど。
探してて、何か一応出来る仕事があればって考えておったんですけど。で、探してる時に「一緒にバイトしようや」って誘われて、まあ「とりあえずバイトでええわ」と。

＜37cm・19 歳・高卒・男性＞

僕、一応音楽が趣味でやっているんですけど、音楽関係でできたらいいなと。バンドから始まったんですけど、今はもうユニットとしてとりあえずちょっと、去年、おととしまでは活発に動いていたんですけど、最近はちょっとね、また新しい仕事を見つけないといけないということで。ボーカルで、歌ったりする仕事を、もうそれはできればそれを望むんですけども、まあ、そんな甘くないやろうというので、別にそこまではもう考えてないですね、今は。オーディションとかも受けていたんですけど、もうある程度やってきて自分の中での音楽の道というのが見えてきているというか、そんなんで。

＜1am・24 歳・中卒・男性＞

高校を卒業するというときに、料理関係の専門学校に行きたかったんですよ。でも、親に反対されたんですよ。お金かかるじゃないですか。親に、どうせあんた、専門学校に行っても、今みたいにサボるだけやねんから、そんなんやったら行かんほうがいいみたいに言われたんですよ。ほんまに料理の勉強したいんやったら、どこかに、見習いで就職か何かして、勉強して調理師の免許とりなさいという感じ。それもいいかなって思いましたね。働きながら勉強もできるしお金も稼げるし。専門学校に行けなかったということでがっかりしたとか、別になかったですね。どうせ親に反対されるやろうと思っていましたし。３年の終わりぐらいに、やっと、もうしょうがないかなという感じでしたかね。それ以来、回転寿司で賄いをつくったりするぐらいですね。

＜28cf・19 歳・高卒・女性＞

進路を決めるときに、服屋の店員になりたくて、「学校からの就職はせえへん」と、親にも先生にも卒業の大分前から言っていて、それで何もせえへんかったし、お父さんもそのときは別に。めっちゃあほやったから就職もできへんのちゃうかという感じやったし、就職前とかになったら化粧とか服装とかも学校でめっちゃ言われるじゃないですか。
そんなのもうざかったし、就職をする気もなかったし、それは親にも言っていたから特に何をしろとは言われなかった。(服屋は)自分が着るような、そういう系の店で。服が好きやったから、その販売とかを。服屋さんで働くために、別に行動はしていなかった。服屋さんで社員になりたいとかではなくて、服屋さんで働けたらバイトでもいい、若いうちしかできへんしという感じやって。学校からの就職ルートは全く考えなかったです。そんなん、もう見る前から。３年ぐらいになったら、卒業間近でなくても進路のことを聞かれたりするけれども、全然進学する気もなく、就職する気もなく、興味もなかったし。学校から就職するといったら、めっちゃ面倒くさいような感じもあったし、成績が多少関係あるじゃないですか。あまりにもあほやったし、ほんまに。だから。
「後から後悔する」とかは、先生がよく言っていた。それで、就職する気はないとずっと言っていたら、卒業間近になったら短大とかをめっちゃ勧められて、そんなんのほう

がちゃんちゃら行く気はなくて。あとは、勉強にしても身だしなみのことを言われるにしても、「今我慢したらいいねん。卒業したら好きなようにやれんねんから」とか。「やはりちゃんと高校も出て、するんやったら就職したほうがいい」って。服飾関係の専門学校に行くとか、そんなんもなかった。とりあえずバイトとかでいいという感じだったから。

＜18cf・20 歳・高卒・女性＞

（専門学校進学は）最初から決めてたわけじゃないです。あんまり覚えていないんですよ。全然ちゃんとやっていなかったので、もうどうでもいいわみたいな。*(就職するつもりはなかった？)*多分そのときはなかったんでしょうね。建築関係に行きたかったので、そこで大学でもよかったんですけど、行かれへんて言われたんで、なら専門学校でという感じで。先生から行かれへんて。テストに受かれば行けたんでしょうけど、無理だからやめとけと。

＜51em・22 歳・専門学校卒・男性＞

１年生のときは、高校を出てすぐ働きたいと。希望の職種なんかはなくて、とりあえず働きたい。正社員で働きたかった。２年生ぐらいでは専門学校。服が好きやったから、専門的にいろいろ。３年で、大学行こうかなと。もうちょっと遊びたいな、というか、働いたら遊べないなという。みんなが短大とか行くから、そうすると会うのが難しいから。実際に進路を決めはったのは、ぎりぎりやと思う。願書か何かわかんないですけど。夏ぐらいかな。とりあえず推薦で、テストも面接もない。どんな推薦やったかわからん。一応テストはあるけど、デザイン。服飾系やから、ほとんどはデッサンのテストがある。それに国語がつくかつかんかとかで選んでた。*(誰かに相談はされました？)* ううん。なんか、学校に見るやつあるでしょ。大学の何か。それで、適当に見て。

＜29ef・24 歳・短大卒・女性＞

最初僕ね、高１、高２の途中までは、大学行く気満々やったんですね。で、結構家計的にちょっと苦しかったんで、補助金借りてまで大学行くもんじゃないから、そこまでしたいことないしって思って、働こうって思ったんですよ。高２の終わりぐらいまでにはもう働こうって決めて、先生にそのこと伝えたんですね。今までは何ていうんですか、進学ばっかとっていたんで、「それやったらもったいないから、１回公務員受けてみいや」って言われたんです。それで「公務員って何なん」みたいな話を先生として、すごい安定してるとか。そのとき、安定という言葉に弱かったんで、ちょっと乗っちゃったんですね。大学ね、ぶっちゃけ、何ていうんですか、獣医とかそういう関係になりたかったんですけど、学歴的に全然足らないんですけど、でもなりたいのはなりたかったですね。で、それはちょっと家計が苦しいっていうので、就職しようと。高校卒業するときは、公務員、１年間だけ目指してたんですよ。それでその途中で、自分が服好きってことに気づいて、こういう仕事やってみたいと思いまして、変わったんですけど、途中から。

＜23cm・21 歳・高卒・男性＞

自分は、どっちかに進学派か就職派って行くとしたら、その就職派には行くって、それは前から。だいぶ前から。高校３年の夏休みくらいに、そのもしかしたら（専門学校の）体験入学いったんかな。でも、その体験入学行って、やっぱり違うって思った時かな。でも、ほんまに結構迷ってて、９月くらいにはもう、１社受けたような気が。高校のときは結局２社受けました。１社目、その９月くらいに受けたとこは落ちて、次 12 月くらいに受けて。１社目は面接と筆記試験。*(求人票とか見る時の条件は？)*土日休みとか。場所とかも。あんま遠い、遠すぎるとこはちょっと。仕事の内容も、そん時はなんか、ひたすら事務ばっかり探してたような。…結局、学校紹介で、仕事見つけて、就職したんですけど、それはもうやめました。仕事は営業事務でした。

＜39cf・19 歳・高卒・女性＞

２年生の時にバイトして、続けて辞めて、また、えっと学校の求人票を進路指導室に行って、調べて、うん、受けて落ちたから、また再挑戦で自分で探す、自分らで探すっていう、そんな感じです。進学することは、あんまり考えてなかった。専門学校行きたいなーと思って、体験入学行ったぐらい。お花が好きだから園芸の専門学校。なんか友達が行って、じゃ私も行こっかなって。フラワーデザイナー、デザインがすごい楽しそう。遠かったんでやめたんです。めっちゃ遠かったんで。お金的にはまあ普通でした。お母さんは行ったらっていってたけど、場所が実際行ってみて、なんか分かりにくい場所だったので、どうかなーと思って。学校を通した就職の斡旋っていうのは、どういうスケジュールで動いているのかわからないです。

＜38cf・18 歳・高卒・女性＞

卒業してから、だいぶ後に採用が決まった。面接行った時から「働けるの？」って言われて、いきなり採用みたいな感じ。なんかもう働ける？みたいな、「よろしいですか」って、たんたんたんって、うまくいきました。仕事の内容は印刷の点検みたいな。正社員でなく、研修期間があって様子を見て、できそうかできへんか、を向こうの人が決めるみたいな。続けたかったけど、体が続かなくなって、どうしても辞めなくてはならなくなって４日間しかいなかったです。たった４日間。

＜38cf・18 歳・高卒・女性＞

（高校３年のとき）同じクラスの子が看護学校受かったんですよ、推薦枠で受けて。普通より早い時期に看護学校受かって。それで、お尻に火ついて、いろいろ先生に聞きに行ったりとか、いろいろやりだし。秋ぐらい。それでもやりだしたの、めちゃめちゃ遅かったんです。それまでは遊んでたけど、多少は勉強するようになりましたよ。でもまだお尻に火はついてなかった。ほんで〇〇看護学校を受験しました。１月の終わりぐらい。高看はまず無理やと言われてたんですけど、私は。いきなりそんなん無理って言われてて、まあだめもとでいいやん、受けるだけ受けてくるわ、それで受かったらもうけもんやで、ていうて受けにいったんです。んで、落ちました。（笑）準看、受ける受けへんて言うてて、受けるわていうてたのに、準看が卒業式のあとやったんですよね、テストが。卒業した瞬間、看護婦ていうのが、あの、今お金がほしいという現実に変わって。バイトが朝は入ってなかったんですけど、卒業して入れるようになったというんで、毎日働き出して。お金がその時点で初めて自分の手元に 10 万を越えるお金が入るわけじゃないですか。もうそれで納得してしまったんですよね。

＜22cf・19 歳・高卒・女性＞

高校卒業のとき。やっぱり高校在学中に、最初は大学に行こうだとかいう思いも多少あったんですけれども、自分、成績よくなかったし、大学、専門学校、就職って、その３つの進路があるっていうことがわかって、正直、自分、勉強するのが好きじゃなかったから、だから、大学っていっても、どうせ成績よくないし、専門学校っていっても、やっぱり勉強するために行くところだろうし、もう就職しかないと思った。高校卒業する時点で、就職という二文字があったんですけれども、やっぱりその時点で自分が何やっていいかわからないっていうことがあって、そもそもそのときに、自分は親にすがったというか、相談みたいな、ちょっと言ったんですよ。ちょっと就職、仕事といっても、自分は何やっていいかわからないんだけど、どうしたらいいかなみたいな相談を親に持ちかけて、そうしたら、じゃあ、知り合いの土木の会社で仕事あるから、ちょっと行ってみてやってみるかという話になって、最初についたのがこれだったわけです

＜42cm・24 歳・高卒・男性＞

大学が決まったのが高３の夏の終わりですね。これまた専門に行こうって学校に出したんですけど、短大のほうに急に決めたんですけど、めちゃめちゃびっくりされて大変だったんですけど。自己推薦書、あれがありまして、あれにバーッと書いて書類審査で通りました。一応華道部と園芸科ということを聞いて、さらにこのときの学芸会じゃなくて、農業学校だと学校単位で農業クラブってあるんですよ、全国共通の。それの副会長

をやってまして、それが２年ほど響いて。短大自体には興味なかったんです。お花の学校ということで入って。

＜9dm・22 歳・短大中退・男性＞

高校のときにレーシングドライバーになりたくて、でも運転するだけじゃなくて、メカニカルなこともちょっと知りたいからということで、まず、整備士の専門学校に入って、高校を卒業した後ね。そこら辺でいろいろやってみて、車を運転するのもうまくなきゃいけないし、まず一番大事なのはお金がないとだめだということで、うち、サラリーマンだからお金ないから、でもどうしてもそういう車関係の仕事につきたいからということで、じゃ、大学のほうに行って車をつくる側に回ろうと思って、それで大学を受けたんだけど、機械科を落っこっちゃって、短大の電気関係のほうを。*（大学に編入したのはどうして？）* やっぱり大学に行きたかったというのもあったし、大学のほうは科がちょっと変わっちゃうんでね。入りやすい科に。まだ働きたくないというのもあったし。

＜13dm・28 歳・大学中退・男性＞

関西地区、首都圏では学校的価値を受け入れなかったことが、学校を通した「就職」の方向付けにも「のれない」状況を作り出していたと思われる。なかには「正規雇用」で就職できたものも見られるが、短期間で離職している。それなりに「納得して」社会に適応する姿勢がみられるとは言い難い。これとは対照的に、東北地区では少ないながらも学校に届く（場合によっては職安に行って見つけた）求人の中からなんとかして「正規雇用としての就職先を見つけようとする」姿勢が顕著である。後者では、本人の努力不足というよりは明らかに環境的要因が大きいといえる。

就職活動は、夏休みの間に求人票みて、学校推薦をもらって、就職試験に行って…。運送会社、そこだけ受けただけ。試験受けたのは夏休みが終わって９月か 10 月くらいですね。他にも受けてきている人がいるからと言うそういう話はなかったですね。ここでは俺一人しかいかなかったから。*（友達同士で情報交換とかしなかったの？）* は、いろいろありましたね。あそこはいいとか悪いとか、そんなにもなかったですね。*（同じような運送関係行きたい人は？）* いなかったです。サービスとかが多かったですね。*（運送会社って大変そうだって、その時思わなかった？）* 求人票かいてあるのと、ちょっとは違ってくるとは、思ってましたけど。実際やってみるとすごく違ってたんで、ちょっとどころじゃなかったんで。ある程度覚悟はしてたんですけど。

＜43cm・20 歳・高卒・男性＞

３年生になってから「どうするの」って聞かれて、で進学するか就職するか考えた。自分の中ではもう就職してしまいたかったというのが、ありましたね。もう学校これ以上嫌だという、まあそういう部分もありましたけど、やっぱこれ以上、私立に入ったんで、親になんかあんまり経済的負担をかけたくなかったのもあるし。お兄ちゃんにもその時にもう子供いましたから、私が入ってるころには…やっぱ経済的にちょっと余裕がなかったっていうか、親としても就職の方を希望してたというのもあって。親にもはっきり「進学だとお金がかかるから」って、「なるべくなら進学よりも就職の方して欲しい」って言われたんで、自分の中にも就職したいっていう気持ちがあったんで、それには全然反対とか反抗とかしなかったんで。*（専門学校に行かなくても美容師になれるっていうのはどうしてわかったの？）* 先生とかから話を聞いたりして。高校卒業して見習いとして美容室に入って２～３年かけて取るって人もいるんだって聞いて。でも、もしなんか「途中で挫折してしまったりして免許とれなかったら、その間の期間はフリーターとしてしか見られないから」って言われて「考えろ」って言われて考えて。それは３年生に入ってわりと早いうちかな。５月とか６月。就職するとしたら、とりあえずは美容師という

のは考えなかったですね。ほかの何が合ってるのか…、いろいろ考えたんですけど、やっぱよく分からなくて。求人票とかみて「ここ受けたいですけど」っていうと、何かこっちの方がいいっていうか、ここはどういうとこかとか、条件とか色々聞かされて、多分、女は採らないとこだとか。そういうのがあって。結局はもう全然受けないで。１つも受けてないです。はい。それで２月か３月あたりに先生からインターシップの話聞かされて「じゃ受けてみようか」と思い受けて、去年の４月から１年間いたんですけど。〇〇の商工会議所。県の企画で県内のいろんな所から採ってくれないか募集をかけたみたいで。高校卒業するまでに１つも受けなかったのは、いろいろ条件をみて結局だめだろうなって。*(先生はどんなところ薦めてくれたの？)* あったです。はい。お菓子の製造とか薬屋さんとか。薬屋さんは製造ではなく販売ですね。条件というか、それは△△市内だったんですよ、その薬屋さんというのが。通勤のことを考えるとちょっと無理かなっと思って。

＜26cf・20 歳・高卒・女性＞

始めは専門学校に行きたかったんですけど、３年生になってから就職希望になった。卒業したら就職したいと思ってました。就職活動もしました。応募したり、面接受けたりしました。（面接受けたのは）事務系。２～３社。最初９月に受けて、あとは 11 月と３月。事務系の求人は少なかったです。サービスでも良かったんですけど、情報処理で検定とかも受けていたのでそのほうがいいかなと。検定は情報処理技能検定・ワープロ検定・簿記とか。*(求人を選んだのは？)* 先生のほうから。進路指導部の先生から担任の先生。妹が今年この〇〇高校に入学してお金かかるということもあって、お金かかるから就職にしようと考えた。親も「やっぱりお金かかるからもしできれば就職してほしい」って。「残念」とか思いましたけど、やっぱり親の事も考えると、自分で働いて少しずつ入れて、毎月入れたほうがいいかなって。*(家に入れてるのは？)* ２万円くらい。学校が設定してくれた就職説明会とかには出ました。なんか求人が少ないなって。自分で探すというよりは、進路指導の方が聞いてくれて、みんなに紹介するという手はずだったんで自分の希望はあんまり出しませんでした。先生に言われて「じゃあ」って受けに行く感じだったんですけど、自分で行きい所とかもあるんで、自分で決めたかった。*(３月卒業までに就職決まらなくて卒業して、気持ちを入れ替えてアルバイトし始めたんだよね？)* これはやっぱり両親を助けたいと。高校卒業して、最初は就職探してたんですけど。20 歳からってわかってたんで。

＜25cf・18 歳・高卒・女性＞

高校卒業したら就職するつもりで〇〇高校情報科に入りました。高校１年の時から漠然とだけど、途中で進学も考えたんだけど。これってやりたいこともはっきり決まってなくて、中途半端で行ってももう途中で止めちゃいそうだから。夏から秋にかけて、就職が少ないっていうのがわかって、先生から求人票が「今年は一番少ない」って言われてて「進学の事も考えとけ」って言われてて。全体的にも言われたけど、強く言われたのは担任の先生。９月の試験受けようと思って夏季見学とかも行ったんですけど、仕事がはっきり男性っていうわけではないんですけど、仕事がきたらそっちのほうみたいな内容が。履歴書とかも書いてたんですけど途中で止めて。それは印刷会社。印刷オペレーター。でも先生の話だとパソコンでできるっていうことだったんだけど、印刷をするほうで。会社のほうから「事務系だと思ってると違うかもしれないので見学に来ませんか」ということで見学に行ったらちょっと違った。会社見学は９月。結局やめて。その後は（求人が）少ないというのもあって、みんなで探して、殆どみんな自分の会社決まってるから、他は事務系が少ないっていうのもあって、なかった。…９月からあと先生からは何個か紹介されたんですけど、事務じゃないっていうのもあって。そんなに強く「事務じゃなきゃダメ」っていうわけではなかったんだけど、なんか「違う」っていうか「無理かなー」みたいな。ホテルとクリーニングとなんか作るクラスマッチ？なんかで使うＴシャツをやってる会社。やっぱり９月に受けた会社が思ったところと違うということでなんか、こう、やる気がなくなったというか。９月に止めようと取り下げて、専門学校に行こうと思った時もあったんですけど、強く行きたいっていうわけでなく「ゆっく

り探せばいいかなー」って。
先生は９月のがダメですぐに探してくれたんです。卒業する時は、卒業してからのことにあんまり焦りはなくて、自分のやりたいこと見付けようかなって、他に勉強したいの見付けて、「こういう資格がとりたいな」とか思って、卒業する時は、別にそんなに焦っていなかった。（親は）就職で探して、あまり見つからなかったから、「進学も考えたら」ということで「自分のやりたいことやりなさい」って。

＜24cf・19 歳・高卒・女性＞

*（高校時代に何となく就職かなと思っていて何か就きたい仕事はありましたか？）*なかったです。進学志望でもなかったです。もう、勉強したいとは思わなかったです。遊んでいたいと思いました。親からは「就職先をちゃんと探してもらえ」と言われました。高校在学中に就職活動は全然しなかったです。最初は何もする気がなかったので。何もしなくて卒業を迎えた、何も。４月も何もする気がなくて。高校を卒業して５月に就職しました。仕事は清涼飲料水を自動販売機に入れる配達をしました。うちの親父からの紹介です。これは正社員で、土・日が休みで、８時から５時まで、たまに残業がありました。給料は 18 万円くらいです。引かれて 15 万円くらいです。この仕事は 12 月くらいまでです。辞めた理由は、最初はベテランの人の助手席に乗っていたんですが「一人でトラックの運転をしろ」と言われ、やってみたけどまだ免許を取ったばかりだったので危ないと思って。４トントラックです。「辞める」と言った時に親父は「事故られると危ないから、しょうがないか」と…。

＜14cm・19 歳・高卒・男性＞

なんか、学校に求人が来るじゃないですか。それで、ケーキ屋さんとかあったんですけど、倍率がすごく高くて、推薦とかもとれなくて、で、結局受けたところがホテル関係だったんです、全部。でもやっぱ、ホテル関係より飲食関係をやりたくて。だから結局、バイトもこうやって飲食関係を見つけたんです。ホテルの求人は接客ですね。私、初対面の人と話すことっていうのは苦手な方なんですよ。だから心配なとこあったんですけど、でもやっぱり挑戦してみるのもいいかなと思ったし、いろんな人と接してみたいとも思ったんで、ホテルを受けました。ホテルは〇〇市と△△市。住み込みですね。自分でも住み込みでもいいと思ってました。*（親は住み込みについてはどうですか？）*やっぱり朝とか早い仕事だったり、遅くじゃないですか、時間も。だから家から通うよりしっかり住み込みでやったほうがいいかなって。でも、結果的にはホテルは決まんなかったんです。そのあとは、自分で、求人とか見て探そうかと思ったんですけど、なんか結局アルバイトになっちゃって。でもやっぱりできるだけ早めに正社員になりたいと思ってますね。

＜27cf・18 歳・高卒・女性＞

販売とかしたかったんですよ。べつにコンビニじゃなくても、デパートだったりとかスーパーだったりとか。販売の求人は、ちょこっとあったんじゃないですかね、ちょっとよくわかんないんですけど。高校にいる時点でコンビニのほうで働かないかという話が出てたんで、あんまりよくわからないです。就職活動はしていません。会社受けに行ったってことはないです。でも、進学とかを考えるよりも卒業したら働こうと思っていた。

＜19cf・18 歳・高卒・女性＞

［小括］

データから見る限り、東北地方の者を除いて、積極的に就職活動をしたとは言い難い。就職活動に関しては全く何もしなかったか、しても途中で断念したり活動を中止したりして、その時点でしていたアルバイトを当面継続しようと思ったケースが多い。進学した者も、看護師などの職業を念頭に置いた進学のケースも見られるものの、多くの場合、それほど明確

な目的を持って進学しているとは言い難い。都市部では「高校が進学校で大学進学以外の進路が考えにくかったから」「大学進学が当たり前だと思っていたから」といういわば「進学の流れ」にのって進学を決めたケースも多い。逆に都市部でも、地方でも家庭の経済的理由で進学を諦めたケースも多い。高卒労働市場が大きければ求人も相当にあり、進学断念→就職に変更という進路選択も可能だったのだろうが、現在ではそれはできない。最初から就職を希望していてさえも、十分な求人がないのである。従って、よほど強い意志を持って就職活動をした者以外は、当然のようにフリーターなど非正規雇用労働に組み込まれていくことになるのである。就職を希望していた者も、進学を希望していた者も十分な進路探索活動をしていない。そのことが現在の仕事に向かう姿勢にも反映されており、積極的に求職活動をしているとはいえない。

2.10　働くことに関する意識

学校を通した社会への移行に関する価値を内在化していないと思われる彼ら･彼女らは「働くこと」に関してどんなふうに考えているのだろうか。また、学校生活やアルバイトを通して何を考え、何を見たのだろうか。この節では、彼ら・彼女らの「働くことについての考え」を見てみることにする。

> 今はバンドばっかりなんですよ。だから仕事も今探す気ありませんし。もう今、曲が何曲かできて、もうそろそろかな。ちょっと遅いんですけどね、スタート。今、それが一番楽しいですね。今、バイトやめて正社員なろうかなとは全然思わないです。バイトだけで全然大丈夫なんで。
>
> ＜37cm・19 歳・高卒・男性＞

> 仕事は中学の先生が、「あんた、ほな、どうするのん」みたいな感じで、先生が用意してくれた就職の資料をもとに卒業してガソリンスタンドに入社したんです。卒業式が済んだ後に面接を受けて、通い始めたのは４月の後半ぐらいかもしれないですね。正社員で入ったんですね。６ヵ月ぐらい続いたと思います。給料は 16 万ぐらいですね。朝の８時から５時ぐらいまでやったと思います。休みは日曜日やったかな。きつかったですね。朝早く起きるということが。でも、半年、休まず、遅刻もなしに続きました。給料は意外と何に使ったんかよう覚えてないですけど、ものすごいうれしかったですね。
> やっぱり社長というか、店舗の上の一番偉いさんの人ともめて辞めたんですけど、やっぱり言い方が結構かちんときて、人間関係が一番難しかったですね。上の人との。そのときの中学卒業しての僕ですから、まだとげとげしい部分もあって、ささいなことでもまともに受けて反発してしまうという時期の自分やったんで、今、言われてもそんなに大したことないことなんやろうけど、あのとき感じたのは、何でそんなに偉そうやねんみたいな感じでしたね。ほかの職場の人とはうまくやってました。やっぱり年が近いというのもありましたし。働きたいというか、おもしろかったと思います。多分通っていて仕事をやって、いろいろ講習とかを受けて、あっ、おもしろいなって多分感じたと思うんです。作業とかしていて、こんなんでお金をもらえるのんという、これぐらいでお金をもらえるのんみたいな。どういうことをやって、えっ、こんなんをやってお金をもらえるんやみたいな。16 万円は家には入れてないですね。多分銀行にはずっと貯めていたと思うんですけど。気がついたらなくなってました。(笑)
> 一番初めは覚えているんですよ。そのインパクトがあるからね、ガソリンスタンドというのは覚えているんですけど、その後、もうぎょうさん面接やら行って、受かったのに

行ってないとかありますから、そういうのを全部含めたらもういっぱいあるんですよ。

＜1am・24 歳・中卒・男性＞

就職というと、ずっとやるというイメージがあるから、それはそんなに。全然わからんまますぐにしていいものかと。これがやりたいということがなかったら…。結構あったように思います。いっぱい、そういう感じ。

＜17cm・19 歳・定時制高卒・男性＞

今は正職になったほうがちょっと高いけど、このまま続けとったら時給が上がったらバイトのほうが。時間的に考えたら、金は少ないけどバイトのほうが金もらえてるから。今、正社員になっても半日働いて 12、3 万円くらい。正社員になったら時間が長くなる。正社員になったらというか、バイトもやけど、それはそいつ次第やから。そいつがどんだけできるかやから。店長の話では、今、もし社員になって４、５年勤めたら、そのころには 20 何万円はいってるって言ってるけど、それを考えたらそれでいいかもしらんけど、４、５年も続けるかどうかもわからんから、確信できてからのほうがええかなって。やっとって、ちょっとの間続けて続けれそうやったらやってみようかなと。バイトはどこまででも制限あるから。時給は幾ら上がっても 1,000 円までやから。時間も、バイトやとそんな働かれへんから。

＜3bm・17 歳・高校中退・男性＞

高校を卒業しても、別にそんな急いで就職することもないかなという感じですね。結構求人とかが少ない時期やったんで、そんな焦って就職しても、自分のやりたくない仕事とかやったら、すぐ辞めちゃうと思うので、それやったら気長に探したほうがいいかなと。

＜28cf・19 歳・高卒・女性＞

バイトをやって明るくはなった。自分の性格。いろんな人と会って話しして。その前はすごい人見知りするし、どっちかというとあんま喋らない子やったから。変わり出したんは、スーパーのレジなんかでやり出してからです。

＜29ef・24 歳・短大卒・女性＞

仕事をやってみて（バイトとして）初めのほうは、失敗ばっかりしていたのであまり触れたくないんですけれども。仕事になれてきて、それなりにそういうお客さんと接する楽しさというのもありましたけれども、しょせんアルバイトはアルバイトやなという思いがするときは、忙しいときにひしひしと感じましたけれどもね。アルバイトは、ある程度は自分の判断でできますけれども、自分の判断でお客さんをこういうふうに入れてとか、そういうのとか、この料理から持っていくというところまで見えますけれども、やっぱり店長が与える指示とは違うんですよ。店長は店全体を見てそういうふうに動かしますし、外に出ているほうのウエートレスですと、受け持ち担当が大体決まっていたんです。忙しくなると変動はするんですけれども。それの大幅な切りかえのところとかは、やっぱりずっとこの仕事を見ている人やねんなというようなところがありましたから、そういう判断を見ていますと。

＜20cf・18 歳・高卒・女性＞

できるだけ早いうちに正社員として就職したいですね。早ければ早いほどいいんですけど。アルバイトの仕事と正社員、確実に責任感は違います。服飾関係で、バイトと社員って、やってる仕事はほとんど同じなんですよ。それは前のところ行っててもわかりますし、何が違うかって言われたら、責任感全く違いますから。バイトのミスは社員のミスです。ずっと気楽な立場におるのも嫌なんで。そんな責任感とか負わされてみたいじゃないですか。自分のミスは自分のミスじゃないですか。他人に押しつけるとかそんなんはしたくないんで。ステップアップもしていきたいんで。バイトやったらバイトどまりじゃないですか。でも正社員やったら、店長になったりバイヤーになったりって、ス

テップアップどんどんしていけるんで。

＜23cm・21 歳・高卒・男性＞

具体的にこんな仕事がいいなとかっていうのは、一応考えてました。販売は、あんまり好きじゃないんでやめとこーって。他にはあんまりわからない、思いつかないです。あまり喋らなくて、なんかこつこつとしていく仕事にしようと思って。なんか事務とか絶対難しいしできへんから。率先力がない。今のところ自分に合って働けるバイト先。*(見通しは？)* わからないです。*(就職情報誌は？)* 買わないです。雑誌とか。私は家から近い方が、いいんです。

＜38cf・18 歳・高卒・女性＞

*(自分に足りないかなと思うことは？)*足りないもの、根性。*(それを身につけたいとか、私は変わりたいとかいうのは？)* わからへん。*(面接は長い間いってないの？)* 最近は行ってない。電話して行ってないことが多い。面倒くさくなって。行くこと自体がめんどくさい。チラシ見て、月２回くらい電話してる。*(普段ひまじゃない？)* 暇じゃない。*(何している？)* 遊んでる。友達も働いてない。暇は嫌い。

＜6bf・20 歳・定時制高中退・女性＞

今年はホームヘルパー２級を取ったんです。資格とか。12 万ぐらいかかった。３ヵ月ぐらいで取った。ちょっと秤にかけたんですね。自分の適性とか、自分と合うのか。まあ、合わないなと思って。今の塾の仕事もそうなんですけど、人と関わる事は好きなんですよ。ただ、濃過ぎるとだめなんですよ。要するに眠れなくなったりとか、僕自身が。子供とか、例えば老人ホームに勤めたとして、多分考えちゃうんですね。僕は気に入られているとかね、やっぱり意識しちゃって。そこが、仕事でも結構引きずっちゃうほうなんですよ。だから、そういう人とかもそうだし、例えば何か言われるとしゅんとしたりとか、引きずっちゃうタイプなんで、それで結構寝つきが悪かったり、もともとそうなんですよ。老人ホームとかに行ったりすると、いやあ、これはまずいなと。精神的に逆にこっちが真面目に考え過ぎちゃって、仕事として割り切れない、そういうようなことを自分の中で感じちゃってちょっと苦しいなとか。

＜7cm・24 歳・中退後定時制高卒・男性＞

以前言われたのは、「おまえは今、あれがやりたい、これがやりたいって言っている場合じゃないだろう」とかって言われたんですけれども、僕が今、感じているというか、思っているのは、確実にこれはやりたくないっていう仕事は、正直、僕はあるんですよ。それは当然省きたいし、やりたくはないし、勤めたいとは思わないし。でも、自分が何やろうかなって、今、思い悩んでいるというか、考えているとか、そんな感じでは正直ありますね。向いていないというか、やってみようと思わないものはやっぱりあるんです、どうしても。それは絶対やりたくはないし、そこで働こうとも思っていないし。

＜42cm・24 歳・高卒・男性＞

(いろいろなアルバイトを短期で替わっているのは？) お金っていうよりも経験が欲しいので。

＜9dm・22 歳・短大中退・男性＞

（運送会社に正社員就職して一番辛かったのは）やっぱ朝５時とか６時に起きて、夜遅く、またつぎの日も早く起きてということが続くと身体がだんだん持たなくなってくるんです。でも「やっぱりみんなやっていることだから」って我慢してたんですけど、やっぱり辛いなって。…同年代の人は１人いました。18 歳の人が。でもその人は入って２～３ヵ月くらいで辞めちゃって。…８時半から５時半だったはずなのに早出・早出・早出と…。荷物が多いときは少しやっぱり早く来たりしてましたね。店ごとに何時までに来てくれといわれると、こういう周りでやると間に合わないから、やっぱ早く出ないといけないとか。だいたい他の人の意見もやはり聞いて、「早くでたほうがいいんじゃない

か」って、自分で決めて。やっぱお金が良かったんですね。普通 18 歳でもらえる人の倍以上貰ってたんじゃないかと思います。28 万くらい貰ってました。辞めたのは寝る時間も無くなっちゃったというとこが。辞めたのは今年の１月です。一応、やっぱり仕事に就かなくちゃとは思ってるんですけど、やっぱり前回のことがあったんで慎重に選んでいると、したい仕事が見つからないんです。今はもう「お金じゃない」みたいな感じ。働いたお金は、半分くらいうちに入れてました。一応自分でも貯金してたし、親にやった分で余ったら「貯金しといて」とか、そういうことしてました。今もまだ残高はある。やりたくないっていうのはもう運送会社、もうやりたくない。特にやってみたいとやってみてもいいなというのは今のところないですね。接客業とかいうのはあんまりしたくないんです。もの作ったりとか、どっちかといったらそうですね。やっぱり１年はたたないうちに、やりたいというのはありますね。あんまり長くなると、今度は本当に働きたくなくなったりするとあれなんで。本当に職種選ばなければ一応いっぱいあるんで、企業の方からも。やってみようと思えばあるような気はするんですけど、実際面接とかいったらどうなのかなと言うようなこと考えると、「やっぱり難しいのかな」って、選んでいるのが逆に「贅沢なのかな」とも思います。

＜43cm・20 歳・高卒・男性＞

（インターンシップの収入は）一応８万～９万位だったんですが家の方には３万円ずつ入れてました。あと残りは自分でガソリン代とか携帯の方とかで殆どは貯金してたようなもんで。あんまり使わないほうですね。目的があって貯めているわけでもないんですけど、一応将来のためっていうか。
*（もう、美容師とか看護師とか資格のある仕事に対する憧れなんかはないの？）*ないですね。*（今、これをなんとかしたいとか、変わりたいとかの気持ちはないの？）*そんなにはないですね。今すぐどうにかしなきゃいけないと、いう状況でもないですし。*（あなたにとって仕事とは何ですか？）*生活していくために、必要なお金が入ってくる為の手段っていうか、なのかな。*（仕事で自己実現したいって言う人もいるけど？）*そういうことを、特に思ったりもしないですし、会社のためにしなきゃいけないという気持ちもないですし、どっちかというと自分のためですかね。食べていく手段です。

＜26cf・20 歳・高卒・女性＞

今のホテルの宴会サービスって仕事は楽しい。お客様から「有難うございました」と言われたり、あと先輩の人達から「結構、仕事覚えてきたね」とか。結構、若い人が多い。（アルバイトは）専門学校の人が多いけど、一緒に遊びに行ったり飲みにいったりはしないです。週６回のシフト制は、早めに予定書いといてそれで、課長とかが入れてくれる。休みは月曜とか、火曜。土、日は混みますね。日曜は結婚式とかが入ってるんで。
*（具体的な仕事はどんなことするの？）*宴会の料理出したりとか、下げたりとか、飲み物の補充とか。*（ホテルで働いてるってかっこいい感じ？）*はい。*（仕事ってどういうものかってイメージがある？）*仕事は働いてお金をもらう。*（仕事でこう自己実現したいみたいなこと言う人もいるけど、そういう意見に対して何か思うことある？）*ないです。賛成します。

＜25cf・18 歳・高卒・女性＞

*（仕事をするってどんなイメージがあるの？）*お金を貰えて、決まりがあるというか、キチンとしなければいけない。バイトか正社員かにはこだわらない。仕事を探す時にこだわるのは時間帯。あんまり離れないで、家から。20 歳くらいまでには正社員になりたい。なるべくなら事務職がいいけど、あんまりこだわらない。20 歳までの間に何をやっていたかが問題で、自分のやりたいこと見つけてなんか資格とりたいな。雑誌なんか見ていると、企画なんかであるみたいな「20 歳で考えること」みたいなことがあるからそんなの読んでたり、「こういう仕事してます」みたいなのを読んで「自分に何があうのかな」と思ったりしている。医療事務みたいなのを…。パソコンが使えるのと、医療だったら今から、高齢化だから利用する人も増えるかな。医療事務というのは専門学校もあるし、友達のお姉ちゃんが医療事務の資格を通信でとったって聞いて「通信でやろうか

な」って。

＜24cf・19 歳・高卒・女性＞

これまでに憧れた職業は特にないです。将来にどういう職業に就こうという夢もないです。仕事はマメに探してはいるのですけど、なかなか見つからなくて。職安にはあるにはあるのですが、したいものがなくて。仕事は特には決まっていないです。*(仕事を選ぶポイントはありますか？)* 給料と土日が休みがいいです。内容にこだわりは…ちょっとだけありますが、サービス業だけはしたくないです。できないと思う。接客というサービス業は苦手という感じです。サービス業の求人は結構ありましたね。それ以外の求人はあまりない。*(仕事をするというのはどういうイメージでしたか？)* お金をもらえていいかなと。*(「今、何をしている？」と聞かれたら、「フリーター」と言いますか？)*「何もしていない」と。コンビニでアルバイトとかしたくはないです。接客がイヤなんです。*(それで今はお小遣いに困ったりしないですか？)* しますね。友達にたまに仕事を紹介してもらってます。（建築現場の）鳶です。（鳶の仕事そのものというより）下で材料を運ぶ仕事です。*(今の生活をずっと続けていきたい？それとももう止めたい？)* 止めたいですね。ずっと家にいるより、仕事をしていた方が面白いかなと思います。

＜14cm・19 歳・高卒・男性＞

(アルバイトをしてよかったこと・イヤだったことは？) やっぱ職場って人間関係すごい大事じゃないですか。入ったときからすごいみんなやさしくしてくれて、で、やっぱり自分の仕事をすごいまかされるじゃないですか。で、自分ができないと、みんなに迷惑をかけてしまうってのがすごい分かったんですよ。で、すごい責任感もでてきて、そういう面ですごいよかったなと思いますね。あんまり、その、お店の店長とかの方が、自分やほかの人たちからあんまり好かれてなくて。どっちかというと、嫌われてる。ちょっと態度とかがえらそう、言い方とかがきつかったり。バイトのときも家に３万出してたんですよ。だから正社員で月 15 万とか稼いでたら、もうちょっと多く出すと思うんですけど。

＜27cf・18 歳・高卒・女性＞

今は、家に３万いれてます。*(今のコンビのを辞めることになったのは？)* 人間関係。もともとそのお店のオーナーがいるんですけど、その人がすごい人なんですよ。有名な会社で偉かった人が、その会社からコンビニが独立。そのコンビニ、２店舗もってるんですけど、経営することになってて。すごいやっぱり頑張ってきた人なんで、私たちにもすごい求めて、仕事で、すごい求めてくるんですけど、やっぱりそれに私は頑張ったんですけど、それに応えられなかったっていう形なんですよ。仕事、その人自体は、別に失敗することは、誰にでもあるからいいんですけど、そのあとの考え方だったりして、やっぱりそのあとが問題だっていうんですよ。そのほかにもやっぱり、24 時間営業だし、自分の任されている仕事がありますし、そういうところにもっと責任をもってほしかったっていうことですので。でもそれに応えられなかったみたいで、シフト、やっぱりまだバイトっていう形で、時給なんですけど、期待はしてたけど、応えられないみたいだからってことで、うん、減らされることになったんですよ、時間を、バイト時間を。だと、給料のほうも半分くらいになっちゃうんで、それではやっぱり家の方もきついし。辞めてもいいって言われたんですけど。やっぱり収入の方もきついだろうから、もしうちで収入が足りないんだったら、ほかのところに行ってくれてもかまわないからってことで。それ言われたとき、なんかちょっと、えーって感じになりましたね。超びっくりしました。

＜19cf・18 歳・高卒・女性＞

［小括］

「働くのがイヤ」という感じではないが、かといって「働いていないと落ち着かない」というほど仕事に積極的になってもいない。イヤじゃないことを「それなりに」、あまり枠をは

められずにやれるなら働こうか…というところだろうか。逆に言えば、働く場がそれなりにあれば働けるのが今回の調査対象者である。意識としては「生活するためのお金を稼ぐために労働する」というのがほとんどである。若者に対して「自分を知り」、「やりたいことをさがせ」ということは結構だが、それを追求すればするほど就職は困難になる。仕事は個人にあわせて存在するわけではないからである。それよりは働く世界をリアルに体験することで「自分にもできることはある」ということに気づかせ、そのできることの中から仕事にすることを選ぶ、あるいは仕事につなげることのほうが大切なのではないだろうか。

2.11　職業観・フリーター観

前節では、働くことについての意識をみたが、現在正規雇用労働に従事していない彼ら・彼女らは雇用形態をどのようにとらえているのだろうか。また、仕事や働くことに関して何らかのこだわりはあるのだろうか。さらに、フリーターであることやフリーターになることをどう考えているのだろうか。この節では、それらに注目して見ていくことにする。

会社ゆうか、特に希望というかこだわり、そんなん全然ないですね。「働く事が、きついから嫌や」とかそんなことは全然ないですね。だから現場仕事でも、全然いいんです。

＜37cm・19 歳・高卒・男性＞

将来、どんな仕事をしようかな、こんなふうになりたないなとか、何かそういうようなものは全然なかったです。

＜17cm・19 歳・定時制高卒・男性＞

（フリーターをやっている男性については）別にいいん違うみたいな感じですね。何となく、仕方なく、フリーターになったという人がいたら、真面目に自分のやりたいことを考えて、そっちに進んだほうがいいんちゃうとかはやっぱり思いますけど。自分のやりたいことがあってフリーターしている人は、いいん違うかなと。

＜28cf・19 歳・高卒・女性＞

正社員は、保証とか。お金の面に対して、決まってる金額をちゃんと貰えるし、ボーナスも貰えるし、そういうところはいいけど、そんなにやりたいことじゃないと、仕事しててもいやいや、やりがいがなさそう。自由、時間もあんまりなさそうな気がする。自分の時間。残業もあるし。アルバイトだったら自分の時間でやりたいこととかできるし。お金は少ないけど。自分のやりたいことが確実にできるし。

＜29ef・24 歳・短大卒・女性＞

（就職の選考に落ちて）自分の将来のことも考えなあかんしなと。事故か病気か何かで早く死んじゃうかもしれへんけれども、長生きもするかもしらんねんからって。そうやって自分でうまいこと人生設計を立てて生活はしていけるんかなと思ったので、やっぱりある程度の型があるところを求めて、ちょっと安定志向で考えて、別に自分の人生やねんから、それでもいいんちゃうとか、別にアウトローというか、自分で会社を立てる人とか、そういうのをつくる人ばっかりが偉いわけじゃちゃうねんでという感じだったから。自分で考えて…。

＜20cf・18 歳・高卒・女性＞

公務員試験２回落ちてるじゃないですか。もう、これは自分の天職じゃないなあと思っ

てしまったんですよ。

＜23cm・21 歳・高卒・男性＞

別にもとから正社員にこだわってたわけじゃないし、正社員になると余計に受かりにくそうやし。ということで、あんまり。まずはパート・アルバイトでっていう感じやな。*（正社員で働きたいなという希望みたいなのはあります？）*あんまりないです、全然かも。*（結婚相手の男性がフリーターの人やったらどう？）*それなりにフリーターでもそれなりに稼ぎがあったら、全然問題なし。

＜39cf・19 歳・高卒・女性＞

正社員、パートってこだわらないで、とにかく自分がしたい仕事があったら、入れたらラッキーぐらいしか思ってない。はじめから正社員っていったら（仕事が）少なくなるから、あんましそういうのは考えないでパートでもバイトでもいいと。人と接するのは苦手なんで、自分が向いてる仕事があればいいな。特にこれっていうのはないです。正社員っていうのもあんまり考えてないです。

＜38cf・18 歳・高卒・女性＞

働くんやったら、ちゃんと社員になりなさい、ていうか、保険がちゃんとついているところに行きなさいっていうのは、ずーと、ずーと今までずーとずっと言われてきてたんですけど。社員になって、10 万そこらの給料になるんやったら、フリーターで入ってて 20 万以上もらって保険自分で払っていくほうが、私はいいって言い切ったんです。

＜22cf・19 歳・高卒・女性＞

正職とアルバイトの違いは…お金かな。正職やったら一定してるし。休みもいろいろいっぱいあって。パートやったら週２日ともう１日で、時間給っていうところかな。その違いは。正職に出来ればなりたいかな。仕事ももっとやること増えるし。*（高卒資格がいるんやったら、例えば定時に行って単位をちゃんととるとか？）*半年くらい前までそう思ってたんやけど、やっぱりしんどいかなぁっていうのがあるかなぁ。親に言うたことあったんやけど、自分が続けられるときに行きって。*（資格っていうのかなぁ。高卒っていうのもある意味資格やねんけど、こんなことをやってみたいなぁってことありますｐ ）*別にないかなぁ。将来的にぜんぜん考えてへんなぁ。

＜4bf・20 歳・高校中退・女性＞

（正社員にチャレンジとか考えたこと）ないです。…社員ってどう違うの？別にアルバイトでもお金もらえるし、そんな大して変わらない。お母さんはずっとパート。
*（今したいことがありますか？）*パソコン。*（パソコンができたら仕事がとれそう？）*はい。今、使えるパソコンはない。学校とかで少しさわったことはある。*（パソコンの学校に通ってみようかなという気は？）*ある。お金かかれへんかったらいい。あるって妹が言ってるから。無料で教える。そういうところあったら、行って見ようと思ってる。*（場所とか調べてあるの？）*調べてない。妹に聞いといてって言ってる。*（パソコンの資格とったら仕事できるという話は誰かに聞いたのかな？）*みんな。事務員ができる。*（実際にやってるような人って知ってる？）*ない。*（事務員が自分に向いてると思うの？とくに思わない？）*はい。*（自分に向いてると思うことあるかな？）*楽な仕事。ずっと立ってない仕事とか。時間の短い仕事とか。朝早くない仕事とか。*（接客とかも向いてるとは思わない？）*うん。*（いろいろやってみて、自分にあうものを探してみようという気は？）*ある。
*（何か仕事やってよかったことはありましたか？）*全部、つらくてしんどかった。*（仕事場で友達ができたとかはありましたか？）*ない。*（働いていて何かよかったという経験は？）*ない。*（仕事したいと思う？）*うん。お金の面。*（趣味みたいなものは？）*趣味、ビリヤード。

＜6bf・20 歳・定時制高中退・女性＞

生活は、今、親に世話になっているけど、それは大体僕の中でも 26 歳とか一応区切っ

て、それまでには、とりあえずまあ何とか。お金を入れてその後、家にいるかどうかわからないけど、安定はさせたいなという。これはどうなることやら。ただ、まだ全然、どこまで続けられるか。やっぱり正社員というか、あるいは食える額、生活していく、将来が見通せる場所に行ったほうがいいのかなとすごく迷いますね。

＜5bm・20 歳・定時制高中退・男性＞

自分は子供は今、大変だ、持ちたくないなと。そういう気持ちですね。だから、そんなに稼げなくてもいいかなと。そうだと思うんですけど。だから極端な話、いや、一生フリーターで生きていけるんだったらそれもありかなとか思うときもあるから。

＜7cm・24 歳・中退後定時制高卒・男性＞

ちょっと前までは正社員になることが一番だという考えだったんですけれども、最近はほんとうに、今やっていることがお金にならなくても、将来自分のためになることだったらやっておいたほうがいいと思う、というのが今の考えです。とりあえず正社員を目指しますが…。でも、ちょっと揺らぎつつありますけれども。やりたいことが見つかってそれが正社員という形だったら、それはそっちのほうがいいと思うんですけれども。難しいですね。この間、久しぶりに会った友人が、幼稚園の保母さんをやっていたんですけれども、他にやりたいことがあって辞めて、今はアルバイトをしながらそっちの勉強をしているんです。その子がすごく楽しそうで、影響は大きかったですね。

＜34ef・24 歳・大卒・女性＞

正規の職に就いて、就くというよりも、机に向かって鉛筆とか持ってガーッとやる職業は絶対に向いてないんですね。基本的に自分の足で歩いて経験して、人を知って、それで稼ぐ。プラスアルファとしてでもいいんですけど。多分、正規には一生つかないですね。一応的には正規につかないですね。職種的には自営になってしまうんで。*(雇用されて働くということはしないつもり？)* はい。雇用して相手を使うことはあると思うけれども、僕はないですね。

＜9dm・22 歳・短大中退・男性＞

やっぱりちゃんと正社員についたほうがいいんだろうとは思うんですけど、でも別にパートとかバイトでもいいかなと思うときも…。正規の職は、やっぱり安定している。パートやアルバイトでは、自分の時間が持てるし…。パートでもフルタイムでも、保険とかちゃんと完備しているんだったら、そんなに正社員と変わらないのかなって気もする。*(仕事が見つかれば正社員になりたいですか？)* それはまだはっきりわからないんですね。働ければいい、結婚ですとか、おうちにいるほうがいいなって思うんですけど。

＜31ef・24 歳・短大卒・女性＞

通勤時間 30 分までならいいんだけど。もっと近いところがあるんならもっと近いところ。通勤は渋滞に巻き込まれると、動かないとね。もう事故なんかが、あったりなんかすると全然動かなくて。この前も発砲事件とかがあって、警察とかが検問してたりして動かなくて、もう焦っちゃって。余裕もって出てるはずなんですけど、ギリギリに着いてしまうことが多くて。*(他の条件は？)* まあフルタイムで、給料はもらえたら手取りで 15 万くらいもらえたらいいなと思いますけど。あとは社会保険。保険がちゃんとしたところに入りたいし。正社員のほうがいい。やっぱ他の仕事って、事務以外の仕事をしたことがないので。自分にそれが合っているかどうかわからないし。今の仕事だって、まだ期間がはっきりわかんないんですよ。いつまでなるか。急にもう「今月まで」とかってふうに、いきなりいわれたりすると「来月からどうしたらいいのか」というのはありますけど。*(自分がちょっと努力すればどっか正社員があるかなと言う気持ちありますか？)* 探してあるのかな。高卒というので資格とかなんか検定とか持ってても、高卒より大卒のほうがいいって企業がいいます。企業の試験受けたのはこの３月で２社ですね。紹介だけです。面接の３件目が、今、行ってるところで、そこは受かって、前はだめ。それはホテルだったんですよ。で、なんか売店。事務だと思ったんですよ。それで行っ

たら売店の方の販売だというので。「話、違うんじゃないか」、言われたのと違ったんですよね。もうあっちから「事務では採らないから、他の所探したほうが、いいんじゃないか」と言われて。もう一つは製造だった、やっぱ事務の方がよかったということがあって。*(3年後とかちょっと先のことどう思ってます？)*あんまり考えていない。やっぱ。東北地区って給料も低いって聞きましたけど。それ考えたら、なんか「他県に出て仕事探した方がいいのかな」って思ったりするんですけど、住む所とか家賃のこと考えたりすると、地元にいて自分の家から通ってたほうがまだいいのかなと思ったりもしますし。

＜26cf・20歳・高卒・女性＞

*(20*歳になった時にどういう仕事選びたいとか考えてることある？）やっぱり事務かサービス業。*(アルバイトと正社員って違う？)* 違います。正社員だと上の仕事ができる。放送みたいな、ホテルの中で放送、音楽を流す。バイトはそういうのはあんまり。宴会の中で音楽を流したりとか、話す時は切ったり。*(全体の動き見てるという感じかな？)* はい。仕事の内容はだいたい同じだけど、ちょっと違います。いろんなことをするって感じ。*(正社員のほうが安定しているという人もいるけど、どっちかというと仕事の内容のほうが気になる？)* はい。やっぱりお金のこともありますけど、バイトだと仕事が入ってるときと入ってないときと差が出るんで、正社員は安定しているんで、親を安心させるためには正社員になった方がいいかなと思って。宴会がない時とかは入れない。

＜25cf・18歳・高卒・女性＞

お金は少なくてもいい、少なくても良くないけど、ある程度持ってる、持ってるじゃなくてもいいけど、何にもしてないのは、自分はいえないけど「ダメかな」って思う。今はまだいいと思うけど、もうちょっと20とか23歳になったら働いていたほうがいいと思う。それは女も男も関係なく、今は別に自分がそうだからではないけど、今はまだ遊んでてもいいかなと思うけど、アルバイトでもいいけど、もうちょっと大きくなったらちゃんと仕事したほうがいいと思う。

＜24cf・19歳・高卒・女性＞

バイトはしたくないです。正社員です。*(正社員でなければアルバイトをするより仕事を探して無職でいる方がいい？)* はい。バイトすると、そのままずっとバイトでいきそうなので。*(アルバイトと正社員のイメージを教えてください？)*アルバイトは小遣い稼ぎ、正社員は自分でやっていける。アルバイトは簡単な仕事で、正社員は専門的な仕事だと思います。やはり正社員になりたいですね。*(周りの友達は正社員とアルバイトを気にしていない感じですか？)* 気にしていないです。*(正社員にこだわるのは？)* 正社員だとずっとそこでやっていけるから。

＜14cm・19歳・高卒・男性＞

その仕事にすごいやりがいを感じて、自分で続けたいと思ったらやっていきたいですね。やっぱり子どもが小さいうちに、自分が働いて世話できないとかなっちゃうと子どもがかわいそうじゃないですか。やっぱ家に余裕があるんだったら、働かなくてもいい余裕があるんだったら、できるだけ子どもの面倒はある程度子どもが大きくなるまで見たいですね。

＜27cf・18歳・高卒・女性＞

［小括］

多くの者にとって「こだわり」がない。仕事の内容に多少の好き嫌い、やりたい、やりたくないはあるにしても、本質的なこだわりはない。これは、もともと確固とした職業に対する展望がないためであり、また今までの経験から選択肢は限られているという一種の「諦め」にも似た意識がその背景にあると思われる。就業形態に関しても「正規雇用」は安定してい

て良いとは思うものの、絶対に正規雇用でなければならないというほどのこだわりももっていない、あるいはもてない。まさに「食うために働く」のであり、その内容は希望としてはそれなりにはあるものの、許容範囲は比較的広い。これは、大卒者などの高等教育機関卒業者のこだわりと対照的である。多くの高校生は進学校以外に在籍しているのであり、こうした意識はむしろ多数派のものである。ここでも必要なのは、たとえ有期でも正規雇用労働をする経験であり､それを通したごく普通の労働者としてのエートスの涵養ではないだろうか。

2.12　学生時代の将来展望

結局、彼ら・彼女らは学校を通じて将来展望を持ち得たのだろうか。この節では回顧データではあるが、学生時代にどんな将来展望を持ったのかを見てみることにする。

何になりたかったんやろうな。あんまり覚えてないですね。何になりたかったとかは。多分警察官とかやったと思いますけどね。警察官というよりも、多分漫画とかをよく見ていたんで、その主人公というか、ヒーロー的存在になりたかったというのはありますね。全然正義感なかったんですけどね。

＜1am・24 歳・中卒・男性＞

（高卒後は）卒業して２年ぐらいは適当にバイトをして、２年ぐらいたったら結婚して専業主婦になってと思ってた。高校のときから思っていた。そのときに彼氏がおったわけでもないからそんなんは考えていないけれども、そのうちに彼氏もできてみたいな、適当にというか。子供も早いうちに産もうと思っていた。２人ぐらい。高校ぐらいではこういうイメージがはっきりあった。とりあえず、早くに子供を産んで、若いお母さんになりたくて。今思うんは、若いうちに産んでいたら子供が大きくなってもそんなに年が離れていなくて、買い物とかも一緒に行ったりしたいと思う。中学校のときにもそれなりに結婚願望はあった。結婚したら専業主婦って決めてる。結婚してお金に困って生活が苦しいんやったら、多分働かな、パートとかをすると思う。でも、子供がおらんかったら働いていてもいいけれども、子供がおったら家におりたい。別に豊かじゃなくてもいい。人並みでいい。…今のカラオケのバイトが決まる前までは、卒業してから服屋で働いたり、やめたりして、大きい会社で働いているオフィスレディーにあこがれた。多分、結婚はもうできへんやろうなと思ってきたのもある。これはマジバナで結婚はできなそうやし。それで、事務というか、大きい会社で働いている人とかを見たら、やっぱり…。バイトでいいと思っていたのは、そのうち結婚すると思っていたからやし、結婚できへんと思ったら働かなあかんし、いい年してバイトっていややんか。何か、スーツを着た女にあこがれる。

＜18cf・20 歳・高卒・女性＞

年代と家族構成によるんですけれども。若いときは 30 になる前ぐらいまでですかね、それぐらいまでやったら、どっちにしろ夢追い型と定職につけないタイプ、正社員になれてもトラブルを起こしてやめてしまうタイプやったら、夢追い型やったら、そろそろもう身を固めなあかんのんちゃうかなとは思うんです。やっぱり人生一人で生きていかなあかんようになるじゃないですか。そうやって生きていくんですけれども、でも、定職についてだめな、これもあかん、これもあかんと、ちょっと嫌やからやめてしまうとかというタイプの人に対しては、構わせえへんから、最後に痛みを見てもそれは自業自得やでという感じのような気がするんですね。そこで何でその人が勤め上げられへんのやというので、それは周りが悪いからやと言うんだけど、じゃあ、その人も自分で食べていく道を探さへんかったらあかんのちゃうかなと思うんです、どうしても。周りが悪い悪い言うていたって仕方ないんやし。ついていないんやったら、自分で農業のほうに

行ってもいいしみたいな。やっぱり食べて、寝て、それはしなあかんからみたいな。*（結婚相手がフリーター？）*想像つかない？何となく、定職が続けられへんという人やったとしても、もし好きになった人やったらというのかどうかわからないんですけれども、どうしようもなくなったら、じゃあ、私が食べる分もあるしなと。別に、そのかわり結婚するかどうかわかりません。そのままずっと平行線でつかず離れずで暮らしていくかもしれません。この人とやったら一緒にいて気持ちがいいからという感じで、つき合う人の密度が濃い目のつき合う人という感じでずっと続けていくかもしれませんし、子供が生まれたら別なんでしょうけど。子供が生まれたらフリーターはちょっと困る。自分がガツンと働くようになるなとは思いますね。自分一人でも育てられるようにしようと思う、子供を。

＜20cf・18 歳・高卒・女性＞

小学校低学年とかは漫画家になりたいとか言ってましたね。でも、結構小学校とか中学校とかは、あの、夢を聞かれるのがすごく嫌やったんですよ。別になんか、「誰もがこれになりたいって思ってるわけでもないじゃないかい」とか思ってて、結構しらけてた人やったんですよ、私は。で、なんか絶対あるじゃないですか、夢。なんか、将来の夢は？とかね。べつに、普通にただたんに働いてて普通に何になるとかでもなく、やりたい人だっておるしとかって思って、そんな感じたってんですよね。まさにそんな感じになってんのかなぁと（笑）。

＜39cf・19 歳・高卒・女性＞

小学校の時は、看護婦。ずっと私は看護婦になりたいて思ってて。小学校の低学年から、幼稚園の時もアルバムに書いてるぐらい。家によく遊び来てた親の友達が看護婦さんやって、その話をずっと聞いていたのも多少あると思うんですけど。産婦人科で働いてたみたいで、その人。すごく赤ちゃん可愛いよ、とか聞いてて。中学生ぐらいになってきたら、給料がいいとか、そういう理由で看護婦になりたいなって思って。

＜22cf・19 歳・高卒・女性＞

*（小さい頃、何か夢のようなものはありましたか？）*有名になりたかった。テレビに出たかった。歌手。歌手は最近まで、中学生まで思ってた。*（誰か、好きで歌詞を覚えて歌手とかある？）*忘れた。歌好き。*（音楽は得意やったん？）*嫌い。*（歌手としてデビューしたてみたいなという夢をもっていた？）*友達にも言われた。歌手の事務所とか紹介するって。一回言われたことある。オーディション受けたりしたらいいねんとか、めっちゃ言われた。それは最近。オーディション受けようかなとは、思えへん。中学校のときは、オーディションとか受けてみたいと思ってたけど…。なんとなくなりたいなと。将来は、主婦をやりたい。*（働いてなくて家におって、子ども育てているという感じ？）*微妙。

＜6bf・20 歳・定時制高中退・女性＞

一番最初は電車の運転手になりたかったです。その後、プロ野球選手ですかね。小学校の高学年ぐらいかな、プロ野球選手。（中学校では）勉強オンリー、しましたね。中３のときは特に。僕はやっぱり特殊だったと思いますね。周りから見られてました。優等生。やっぱり家が状態が状態だったし（母親が慢性疾患）うちの父親が高校を出ていわゆる中小企業に勤めているわけで、中学のときなんか、一流大学、一流企業に入れば一生安泰だって、僕はそういう意味で大学に進学したかったんです。あくまでも一流大学、一流企業、その道でしたね。特に職業とかいうんじゃなくて。

＜7cm・24 歳・中退後定時制高卒・男性＞

一応、で、コンピュター関係選んだのが、兄貴が東京でやってるんですよ、コンピュター関係。〇〇区の△△システムズっていう会社でやってるんですけどね。やっぱり兄貴に憧れてっていうか一応兄貴からコンピューター教えてもらって面白いなあって思ったんで。一応８歳離れてるんですけど年が。東京で頑張ってるんですけど。僕自身は地元

にずっといたいと、早くから思ってた。地元がいいと思ったのは中学３年から高校にかけてですね。中学３年の時、高校のビジネス科決めたりする時にもう東京まで行くことを考えずに自分のなかでは、ここで仕事するという気持ちがあった。どうしても出てしまうと、頼れる友達とかずっと仲良かった友達とか、また一から友達になったりしたり、また親からも離れるというと親とも電話でしかできないんで、やっぱあって話さないとダメな部分とかもあると思うんで出たくないなと。地元、親とか友達とかそういう人間関係から離れたくないって…。*（お兄さんがいるだけに東京に行こうと思えば行けるよね？）*行きたくないですね。親のことが心配…それもないんですけど、やっぱり地元が一番。親は（東京に）行けとも残れとも言わない。

＜43cm・20 歳・高卒・男性＞

美容師になりたいとか看護婦になりたいとか、そういうのは大体こう、夢としてはありましたけど、具体的にどうしたらいいのかというのは、そういうのまでは全く考えてない、なかったですね。進学とかそういうことは考えてなかったですね。

＜26cf・20 歳・高卒・女性＞

［小括］

客観的には疑問が残るが、学校に通っているころには、多くの者にそれなりの「将来展望」のようなものはあった。男性の場合はバンド活動をしたいとか、女性の場合は結婚と関連することが多い。いずれも、将来の「生活」に関わる展望ではあるが、職業や働くこととの関連は薄いと思われる。

2.13　学校に関して思っていること

積極的に学校にかかわった経験がない者が多いせいか、学校に対する思いを聞くことはほとんどできなかった。この節では、学校に関して思っていることを見てみることにする。

もう５年前から思っているんですけど、学校へ行って、もっと遊んだらよかったとか、そういう面が見えてくるじゃないですか。周りは遊んでいるっぽい雰囲気が出てたりとか、学校へ行っていたらまだ甘えれる部分もあるんやろうなというのが。友達が意外と「あしたから休みや」、「何の休みなん」みたいな感じですけどね、「春休み」とか「この間、試験を受けたからちょっと当分休みやねん」とか、「そんなんあるのん」みたいな。中学は中学で休みがありますけど、まさかそんな長い休みが、しかも、僕、働いていて毎日毎日仕事へ行っていて、忘れるじゃないですか、前の仕事の休みとか。学校へ行っている子は、高校へ行っている子は行っている子で、それまで一生懸命学校へ行って、やっと休みやという感覚かもしれないですけど、僕からしたら毎日行って、休みなんかないじゃないですか。そのときにふっと、「ああ、やっと休みや」と言われても「えっ、そうなん」みたいな、「休み、あるのん」みたいな。高校へ行っておけばよかったなというのは、休みがええなということですね。これから高校に入り直す、定時制とかは、ないです。何か今はないですね。この先また、やっぱり行っときゃよかったと思うと思うんですよ、絶対に。でも、今はないです。今、前を振り返って、ああ、行っときゃよかったかなと思う自分がいてるから、やっぱりこの先もいてるやろうなという。

＜1am・24 歳・中卒・男性＞

学校がもっと自由だったらよかった。

＜18cf・20 歳・高卒・女性＞

もっと外から働いている人が来てしゃべるというのも聞かせてあげたほうがいい感じが

する。僕が高校にいるときには思わなかったんですけど、でも、就職するときに、例えばこういう面談のときに、しゃべるのは先生じゃないですか。でも、先生は大学を出て、バイトはしていたかもしれないけど、社会のことを知らないじゃないですか。その人に社会人になったらという話をされても、今考えたらむかつくなと。あんたらは社会を知らんわ、社会に出たことがあるのかと。やっぱり実際に働いている人間と働いていない人間は違うと思う。給料をちゃんとくれへんとか、残業をつけられへんとか、そんな話は先生は知らないわけじゃないですか。就職が来たら、その紙どおりじゃないにせよ、それに近いものやと思って、それしかわからないじゃないですか。でも、卒業生は苦情を言わないじゃないですか、自分の会社のことを。だから、社会に出たらアルバイト気分で残業をいっぱいつけたりもできないし、きれいごとばかりじゃないし、上から押しつけられれば嫌なことでもせなあかんしということを知らずにみんな就職していくわけじゃないですか。こんなに給料くれるんや、残業もこんなにつくんだ、勤務次第…。でも、実際そんなわけじゃないじゃないですか。残業をさせられるし、勤務時間外に働かされたり、休憩時間だというのに働かされたり、そんなんばかりなのに、きれいごとすぎるかな、ちょっと。

＜51em・22 歳・専門学校卒・男性＞

［小括］

「学校がもっと自由だったらよかった。」＜18cf・20 歳・高卒・女性＞に代表されるように、結局は彼ら・彼女らにとって学校は自分たちを容れる窮屈な「器」でしかない。もちろん、積極的に入りたくて入っているわけではない。しかし多くの生徒がそうであるように、彼ら・彼女らもまた「みんなが行くから」学校に行っていたのである。基本的な生活習慣が身についていなかったり、乱れたりすることに起因する不登校やさまざまな不適応を経験しながらも、多くは高校を卒業しているのである。将来の「夢」の実現のために「学校に行き」、相応の成績を修めてさらに進学するとか、正規雇用労働者として就職するなどといった「学校をひとつのステップとしてとらえ、利用する」という発想を持ち合わせていない。都市部ではこうした傾向が顕著であり、地方では表面的には不適応を起こすケースは少ないものの、その心性には共通のものを感じた。それは言い方を変えれば「学校的価値を受け入れていない」ことであり「学校の存在価値を認識していない」ことである。したがって当然のように「学校に通ったことの恩恵」を受けていない。おそらく、彼ら・彼女らの親や兄弟姉妹たちもその多くは学校に行ったことによる社会的恩恵を享受していない。その多くが「学校があるから行った」「学校に合格したので通ってみた」のであり積極的意味は見いだしていない。高校に進学しなかった者、中退してしまった者の幾人かが、現状の不利益の原因を探したとき、学校的価値を受け入れられなかったことに思い当たり、「もっとちゃんと学校生活を送っておけばよかった」と回想するのである。

３．まとめと提言

彼ら・彼女らにとって「学校とは何だったのか」を考えるとき、全体からうかがえるのは消極的な「居場所」としての学校のイメージである。とくに行きたくて行っているとはいえない学校、部活動をはじめ何かに没頭することもない学校生活、授業が楽しいわけでもなく、

かといってどうしてもやりたいことがあるという理由で中退するというほどでもない。これは最初から学校の積極的機能を認知していない、できないことの反映である。「学校に行く理由もなく、授業はつまらないものの辞める理由もない」ので、ただ何となく通い、友人と過ごすことで時間をつぶし、夕方からはアルバイト労働に従事する。こうした生活は「進学校」では決してみられないものである。「居場所」を超えた学校の意味があったかと考えると、厳しいものがある。というのは、彼ら・彼女らは家庭や地域といった文化的な背景に裏付けられた価値意識さらにはエートスを持ち、それらは学校が望ましいとして教えようとする価値と相容れない面も多い。学校の重要な機能のひとつに「社会化」があることは繰り返し述べてきたが、少なくとも今回のヒアリング対象者に関しては、この「社会化」の機能を十分に果たしているとは言い難い。その端的な現れが「学校」から「社会」（職業社会・労働社会）へ円滑に移行していない、できていないことであると思われる。要するに、一般的な高校からの進路分化のシステムに乗ることをせずに、あるいはできずに、元々もっていた階層文化に規定された行動が優先されているのである。言い方を換えれば、そうした一般的な生徒、その多くは上層ホワイトカラー的な価値システム、それを反映した学校の社会化の機能にコミットせずに「降りてしまっている」といえるのではないだろうか。

この章では、主に高卒以下の学歴の若者のヒアリングデータを中心にみているが、彼ら・彼女らに共通するのは「とくに目的もなく、将来に希望をつなぐわけでもなく、将来の希望に応じてというよりは学業成績によって規定された」高校に進学して（あるいは進学せず）、都市部では入学直後からアルバイトに従事する生活である。その意味では彼ら・彼女らはすでに中学校卒業直後、多くの場合高校生になったとたんに、非正規雇用労働者としての生活をはじめていたということができる。アルバイトに関しては都市部と地方では大きな差がある。これは非正規労働市場の規模の違いを反映している。地方ではアルバイトさえも十分になく、あるいは校則で禁止されていたために、「親に迷惑をかけたくない」と思いながら漠然と高校生活を送っている。「将来に夢を持ち、少しでもそれに近づくために進学し、高校生活を充実させるとともにさらに上級の学校、できれば威信の高い大学等への入学を目指して学業に励む」という、いわばホワイトカラー的な価値意識はうかがえないし、おそらくはもっていない。それよりは、家庭の、その多くは親の生活から好むと好まざるとを問わずに受け継いだ文化に行動が規定されている。それは「いま」を最優先する価値であり、文化である。「夢」や「希望」という約束されない、不確定な目標よりは、またその実現のために「我慢」したり「努力」したりすることを要求される目標よりは、「いま」目の前にある「リアルな」、「我慢」や「努力」を条件にしない現実にコミットするのである。

結局、彼ら・彼女らは「学校」に行って、そこをある時期の（在学期間の）「居場所」にしていたが、学校が教えようとした価値に触れはしたものの、受け入れ内在化できなかったのである。

こうしたことをふまえて相対的に低い学歴の若者の社会への円滑な移行に関して以下の提

言をしたい。

① 公共の職業教育機関の受け入れの拡大

かつての職業訓練校（技術専門校）のような経済的負担の軽い職業訓練機関で、卒業後職に就けない者、職に就こうと迷っている者の教育機会を拡充する。場合によっては中高年者と一緒でも良い。ただ「働け」といっても「何をしたらよいかわからない」という答えが返ってくるだけだから、スキルを身につけ、そこから将来を展望する方向付けを学校、職業紹介機関、職業訓練機関が連携して行うことが求められている。いろいろな意味での自己責任を強調する声は強者の論理であり、生まれたときからの格差を覆い隠す論理になりかねない。就業機会の不平等・不均衡に目を向け、劣位にある者に対して手厚い施策をしない限り社会の安定はあり得ないとさえ思える。

② アルバイト労働の評価～働く世界の認識を深める

1998 年の学校教育法および関連法規の改正で「校外での学修」を高校の単位として認めることが可能になった。もちろん手続き的な難しさも承知しているが、日常的に多くの生徒がアルバイトをしている高校では、アルバイトを原則禁止したり黙認するのではなく、学校に取り込む工夫をしても良いのではないか。インターンシップ（就業体験）も重要ではあるが、アルバイトは生徒たちが日常に行っている真剣でリアルな「労働体験」である。学校では必ずしも十分に教えられない「働く生活」自体を、またそのエートスを、アルバイト先と連携して「教育」するのである。言ってみれば、学校教育をアルバイト労働体験で補うのである。リアルな労働体験を学校教育の視点で再構成して彼ら・彼女らに提示し、その上でより安定した、キャリア形成の展望を持てる職業生活ひいては社会生活への方向付けをすることが必要であると思われる。

③ 若年労働者のワークシェアリングの試み

今、緊急に求められているのは若者を受け入れ、働かせる「場」である。働く「場」があれば、彼ら・彼女らはきちんと働ける。将来展望や生活設計もできるだろう。現にかなり劣悪な労働条件下の労働も経験してきて、それなりの労働に対する見方はあるのである。現在の社会経済状勢下では、彼ら・彼女らに働く「場」を十分に用意できないことは容易に想像がつく。しかし、実際に体験してみなければわからないのが彼ら・彼女らであり、その機会は多いほどいい。少数のいわば「勝ち組」にだけそうした機会を与えるのではなく、より多くの人に機会を与えることこそ大切なのではないか。地方でヒアリングしていると、就職に関して特定の「伝統校」「有力校」だけに求人が偏る傾向が顕著に感じられる。そこで、ワークシェアリングの発想が今こそ求められ、実行されるべきだと思う。モデルとなるのは沖縄である。沖縄は伝統的に失業率が高いが、賃金から見ると正規雇用と非正規雇用の格差が相対的に小さい。富が一部の者に重点的に配分されるよりは、多くの者がそこそこに働くことを通して富を得るシステムこそ目指すべきものなのではないだろうか。このシステムの存在を学校教育を通して伝えたとき、大きな夢を描かせることは難しくなるかもしれない。しか

し、逆に学校を通した成功物語のストーリーから「降りる」ものも少なくなるだろう。なぜなら、「みんながそこそこ」の生活は、現実そのものであるからである。

引用・参考文献

青木紀編著（2003）『現代日本の「見えない」貧困』明石書店

耳塚寛明編（2000）『高卒無業者の教育社会学的研究』文部省科学研究費報告書

耳塚寛明編（2003）『高卒無業者の教育社会学的研究（２）』日本学術振興会科学研究費報告書

長須正明編（2001）『フリーター』学習研究社

第４章　家族・親族状況からみた移行

１．はじめに

本章は、移行の困難に直面している若者の家庭・親族状況がどのようなものかを明らかにする。ここで家庭・親族を扱う課題は２つある。第一の課題は、主に学校教育段階において、家庭は子どもの職業への移行に対して、どのような役割を果たしているか、それとも果たしていないのか実態をみることである。学校への適応、学業の達成において、家庭環境の影響は大きい。学校で学ぶことに強い関心をもち、経済的にもそれが可能な家庭環境で育つかどうかによって大きな差が生じ、中学あるいは高校が終了する頃には、大きな開きが生じている。第２章２でも記述されているように、近年まで日本では「メリトクラシーの大衆化状況」（苅谷　1995）が特徴であった。しかし近年では大都市進路多様校における「脱学校化」傾向が指摘されている。この傾向は、親の子どもに対する養育・教育観と密接に関係している。それは学校で子どもが成果をあげることの有効性を親が信じ、動機付け、生活指導、経済的援助をするかどうかに現れる。このことと、学校における移行支援（企業の新規一括採用制度に対応）とは見事に一体化していたのである。新規一括採用制度が有効に働かなかった層（無業者・フリーター）の増加は、家庭のメリトクラシーの変容と関係しているのだろうか。このような面に着目してみていくことが第一の課題である。

第二の課題は、移行の困難に直面している若者に対して、家庭はどのような役割を果たしているのかという点である。全般的に、成人期への移行が長期化していることが近年の特徴であるが、新規一括採用の流れに乗れなかった者または乗らなかった者は、移行期がよりいっそう長期化し、かつジグザグな経路となっている。完全な自立に到達するまでの半分依存・半分自立の不安定な時期を支えるものとして、家庭（とくに親）の存在は以前にも増して大きな意味合いを持っていることが国内外の先行研究で指摘されている。そこには日本に特有の事情もある。新卒採用を前提にしてきた日本では、そこからこぼれた部分への就労支援策はきわめて未発達で、個人とその家族（親）の個人責任に委ねられてきたのである。そこで本章では、実際に“個人責任”がどのように果たされているのか、それとも果たされていないのかをみていく。長期化する教育・訓練のための費用負担、安定した収入に至らない段階での経済的援助、教育・職業選択その他、移行期を成功裏に乗り切るために、親にどの程度の情報提供・助言、資金援助の力量があるかどうかによって、移行期の様相は異なったものになるであろう。不安定な状態を物心ともに支えてくれる親や身内があるかどうかが非常に大きな条件であり、その点で若者の格差は大きいだろう。

本章では、移行期の困難に直面している者が、過去から現在までどのような家族環境と親子関係をもっているのか、そのことがフリーターという状況とどのような関係をもっているのかをみていく。２で、家族史と家族構成をおさえる。３で、親の職業とライフスタイルをみる。４で、過去から現在までの家計状況をおさえ、親子の経済関係がどのようなものであ

るのかをおさえる。５で、親のしつけ・養育態度・子どもへの期待がどのようなものであったのかをみる。６で、親子関係のありようを、会話・行動・情緒関係からみる。７で、将来のくらしに対して、また、結婚や家族形成に対して、どのような期待と展望をもっているのかをまとめる。

２．家族史と現在の家族構成

成人期への移行の時期は､就職､結婚その他の理由で親の家から他出していく時期である。その際、親をはじめとする家庭の状況いかんが、移行のありさまに影響を及ぼしている。無業あるいは非典型雇用の状態にある対象者は、親と同居する者が圧倒的に多い。彼ら・彼女らは、どのような家族史をたどり、誰とくらしているのだろうか。

2.1　親の離婚・再婚・死別

対象者のなかには、親の離婚・再婚・死別を経験している者が多い。離婚（51 人中８人)、再婚（３人)、死別（７人）で、その結果、母子家庭が９人、父子家庭が４人と、高い割合を占めている。また、義理の親子関係（２人)、未婚の母（１人）もいる。離婚や死別は、早期に経験している者が多い。

地域的にみると、関西は、親の離婚・再婚・死別のために欠損家族や複雑な構成の家族が多い。首都圏も、欠損家族を含んでいるが、そうでない家族の方が割合としては多い。東北は、欠損家族がなく、むしろ祖父母を含む三世代家族が多い。

（1am）は、保育所の頃両親が離婚して祖母に育てられるが、小学４年の時祖母が亡くなり、間もなく父親が再婚したごたごたで学校で勉強する意欲を失っていった。

（両親が離婚したのは）僕が保育所のときですから。何歳やろうな、あれ。何歳やったかな。年長さんかな。

＜1am・24 歳・中卒・男性＞

ほんまのおとんは別れて、義理のおとんが死んで、で、今まで来てん。*（近所に親戚は多い？）*親戚はおるけど、親戚になったほうが別れたりして親戚じゃなくなったり。ここの地域の親戚とはあんまりつき合いしない。一緒の団地におじいちゃんの妹がおるからその人ぐらいで、ほかは別に大した親戚づき合いはしない。

＜3bm・17 歳・高校中退・男性＞

*（血のつながった兄弟が３人、お母さんが違う兄弟が３人ですか？）*はい。

＜17cm・19 歳・定時制高卒・男性＞

*（お父さんと別居？）*お父さんだけ。*（お母さんと一緒に。引っ越したのはそれが理由？）*その理由ですね。*（お父さんはまだ〇〇市に？）*居てるかどうかも、分からないくらいに。*（お母さんとお父さんとの連絡は？）*全然、連絡とってないんで。*（じゃあ、お母さんと２人で？）*と、あと兄貴がおるんで。

＜37cm・19 歳・高卒・男性＞

*（再婚は最近？）*僕が小学校の５年生か６年生ぐらいのとき。*（最初のお父さんとは?）*離婚ですね。

＜40cm・19 歳・高卒・男性＞

*（お父さんは、お亡くなりに？）*いや…離婚ですかね。ちっちゃいとき。幼稚園くらいかな？*（記憶にはある？）*お父さんがいたこと？はい。

＜46cf・19 歳・高卒・女性＞

2.2　親役割の代替と多様な家族形態

複雑な家族史をたどった結果、多様な家族形態がみられる。当然、実の両親に代わって親役割を果たす者が必要となる。その際、祖母はしばしば親に代わる重要な役割を果たしている。女性の場合は、親に代わって家事の手伝いを小さい頃からやっている者もみられる。（17cm）のように家庭の複雑な事情から、祖母の家と親の家を行き来している者もいる。

*（家族はお父さんとおばあちゃんですか？）*そうですね。僕と、気がついたらおばあちゃんが家に来ていたんですよ。*（兄弟は?）*そのときはいてなかったんですけど、（再婚して、下の）子が３人いていますね、弟が。

＜1am・24 歳・中卒・男性＞

*（再婚するまでおばあちゃんの家でずっと育てられていたと？）*そうです。*（幾つぐらいまで？）*それは小学校１～２年のときまで。*（お母さん、お父さんと？）*１回、住み出したんですけど、合わなくて戻りました。*（血のつながった兄弟は？）*上にいますけど、全然別に暮らしているんで。いないです。僕の産んだお母さんのところに。*（１人だけお父さんのもと、おばあちゃんのところに残った？）*そういう感じ。

＜17cm・19 歳・定時制高卒・男性＞

○○市ではお母さんも一緒に住んでいて、離婚してお父さんと、お兄ちゃんと、弟と。*（家のことはだれがしてはったの？）*家のことは、一応私が。小学校の小さいときにアパートから９号館に引っ越して、そこは狭くって、小学校の６年ぐらいのときに今住んでいる広い部屋に引っ越して、そこから家でご飯をつくるようになった。それまではおばあちゃんちで、手伝いといっても食器を洗ったりぐらいで、引っ越してから、小学校６年から中１のときぐらいからご飯をつくったり…。

＜18cf・20 歳・高卒・女性＞

10 代で子どもを出産した（4bf）は、子どもの養育に対する自覚がなく、祖母に親代わりをしてもらっている。（4bf）は、自分自身が母子家庭で育っており、祖母・父・本人・子どもの同居の時期もあった。（4bf）は小学校時代から勉強がまったく苦手であった。両親はパチンコ狂いで、仕事が終わるとパチンコ店に直行して家には帰ってこないありさまだった。親に料理を作ってもらったことがほとんどないという。彼女は、中学時代から遅刻・欠席が多く、高校１年の一学期で中退している。

私、親と別居してるんですよ。*（独立してるんですか？）*私子供いてるんで。*（今一緒に住んではるのは？）*はい、子供とふたりで。*（実家にいたわけですね？　その時はね？）*うん、そうそう。産んでからは。ほんでまぁ父親おらんから母子家庭とかもらうのに、親と別居せなもらわれへんて言われて。住所が違うとこにないと母子家庭のお金もらわ

れへんってことになって、で、今住んでるとこに移ったんやけど。１年半くらいはもうその子から見たらひいばあちゃんと一緒に住んでて。おばあちゃん、お父さんの親と一緒に３人で住んでて。泊りに来てもらってもう住んでるって状態になって。１年半くらい続いたんかなぁ。んでようやく子どもがちょっと大きくなって、ってゆーか２歳ぐらいになってから、もうおばあちゃんにはべったりなんやけど、うちも落ち着いたから、子ども見るようになったっていうか多少見るようになった。*（それまではおばあちゃんが）*うちの家来て住んでる状態で、ずっとご飯作って子どものミルク作ってくれてたり。母乳じゃなかったから。いつも夜おきてミルク作ってくれて。（中略）おばあちゃんも、なんで歳いってからこんなしんどい目みなあかんてずーっと言ってた。今はもうそういうの聞けへんけど。

＜4bf・20 歳・高校中退・女性＞

いっぽう、東北のケースは、三世代家族が多く、欠損家族はない。（26cf）のような家族が多い。

おばあちゃん、元気ですね。*（家事も）*やります。畑も持ってるんで、畑もおばあちゃん１人でやってますね。*（今、お母さんと三姉妹で住んでらっしゃるんだ。）*

＜26cf・20 歳・高卒・女性＞

2.3　家族周期上の困難

対象者は、家族周期のステージからすると、祖父母の死、きょうだいの結婚あるいは仕事による他出などを経験する時期にある。このステージの課題をスムーズに通過することは移行期の重要な条件であるが、それがうまく運ばず、重大な困難に遭遇する者もいる。（50em）は、長期にわたる祖父母の介護後、両親があいついで病気で倒れ、母親は死亡している。（50em）の例は、後でみるように、借金、経済的苦難、不和なども重なり、不幸にも本人は移行の時期にそれらの重圧を一身に負わざるをえない状況に立たされ、就職どころではなかったのである。

そうですね。姉は結婚して、東京のほうでだんなと暮らしているので、今は私と父と母と祖母の４人暮らしです。

＜2am・22 歳・中卒・男性＞

*（で、ご家族構成としては、そのときは、お父さんとお母さんと、お姉さんが２人いらっしゃって？）*それは、家庭教師の先生。*（そうか、あなたはお姉さん１人だ？）*はい。*（お姉さん１人で、何歳年上なの？）*４つ。*（であと、おじいちゃんが一緒に暮らしてたの？）*はい。*（おばあちゃん…。おじいちゃん、おばあちゃんと一緒だったのね？）*ええ。*（で、おばあちゃんが先に亡くなったんだっけ？）*はい。小学校でいじめられているときに、亡くなりました。*（そのころに、おばあちゃんが亡くなったんだ。で、おじいちゃんが亡くなったのは、もっとずっと後で、看病疲れでお母さんが亡くなったんだから…？）*３年前です。*（じゃあ、ほんとに立て続けだね。おじいさんが亡くなって…。）*母親が亡くなって、で、姉もいなくなって。*（お姉さんは、これは結婚して…？）*結婚していなくなった、死んだんじゃない。今から言えば、もう５年ぐらい頑張って、やっと倒れたっていう感じですごいね。*（そんなに頑張ってたんだ。）*はい。*（じゃあ、昼と夜と両方、２つ仕事を持ってみたいな？）*２つこなしてた。すごいね。*（頑張ってたんだ、お父さんは？）*これは、世のおやじたちに聞かせてやりたいぐらいだね、ほん

とうに。*（じゃあ、昔持ってたお父さんへのわだかまりが随分変わったんだね？）*見方は変わったね。*（やっぱり大人になったせいもあるのかな？）*何か子供のことにはちょっと無関心だったから、気にもとめてなかったんだけど、高校のときに、離婚するかしないかという話が出てきて、姉もおれも、離婚していいよって母親に言ったんだけど、おれの進路が、おれの就職がって言って、離婚しなかった。*（じゃあ、お母さん、我慢したの？）*何で自分のためにやらないんだって。*（お母さんとしては我慢して、離婚やめたの？）*したいけど、向こうが嫌だというのもあったし。そんなにしたくないんだったら、おれたちが無理やりしてやるみたいな感じで。もう父親が帰ってきたら、「出てけ、出てけ」って。*（別居してたの？　帰ってきたって、別に別居してたわけではないの？）*もう中学のころからずっと別居してたっていうか、別居だよね、ほんとに。帰ってきたくなかったって言ってたから。

＜50em・25 歳・専門卒・男性＞

2.4　小括

家族史と現在の家族構成は、親の職歴や経済状態と密接に関係している。この後でみていくように、離婚・再婚は、不安定な職業や借金問題と結合していることが少なくない。また、家族周期上で遭遇する看病や介護などの困難な課題が、学業のつまずきや就職活動への障害になることがある。

３．親の職業とライフスタイル

親の職業は、子どもの職業選択に何らかの影響を及ぼすと思われる。それは２つの面をもつであろう。

第１に、親は子どもにとって職業モデルである。親の職業上のライフスタイルと職業意識が子どもに反映する。親が職業のうえでしっかりした基盤をもち、子どもに情報を与えたり助言できる場合は、フリーターをしながらも見通しを失わず将来設計をたてることが可能となっている。反対に親にその力がないと、子どもは目先の選択をし、経済的な余裕がないこともあって、刹那的な選択をしがちである。また、親が非典型雇用者であれば、フリーターへの親和性があるだろう。もっとも親のようにはなりたくない、という意識も働くであろうが、どこに分かれ目があるのだろうか。第２に、親の職業は地域経済を反映するが、それが同時に子どもにも反映する。地域経済の衰退は親子双方に影響を及ぼし、とくに弱い社会階層の親子を直撃すると指摘されている（ジョーンズ・ウォーレス 1996）。

3.1　親の職業は雑多な不安定就労

低学歴の親の職業は、零細自営業、作業員、ダンプやトラック運転手、飲食店、その他の不安定就業で、離転職数も多い。自営業を廃業して、アルバイトをしている者もいる。両親が揃っている場合でも、母親が専業主婦でいる者は少数である。親の仕事について明確な知識をもっていないことも特徴といってよかろう。このような傾向は、関西の事例に特徴的にみられる。

*（お母さんの仕事は？）*今はたこ焼きじゃないです。今は休業してるんですよ。もうちょっとしたら始めるんですけど。ちょっと休んどって。今は違う仕事ですね。だから、晩御飯はあまり一緒に食べれるときがない。お母さん仕事行ってるから、私暇やから家

の掃除とか、家事はほとんどやってますね、私が。お父さんの仕事はトラックだったんです、初め。お父さんは病気持ちやったんで、ちょっと仕事を休んどって、それまでは店で養っとったんです。いろいろ支給がもらえるじゃないですか。それで養っとったりしとって…。お父さんはそこからちょっと体がましになってきたから、水道局というか、いろいろどこか回って工事…。ようわからへんけど、柱を立てていくみたいな仕事…。何て言ったらええんやろ。*（建築の現場？）*そうですね。

＜12df・20 歳・専門中退・女性＞

（17cm）は、親の離婚・再婚を経験している。親の職業に関してはほとんど知らない状態である。そのことの影響もあってか、定時制高校を卒業する際、就職に関してはまったく何もしていない。在学中のアルバイトを続けていくことしか考えていない。（18cf）も在学中就職に関して何もやっていない。「バイトでいいと思っていたし、何年も働かんわ、２年くらいしたら結婚していると思って…。卒業して２年ぐらいは適当にバイトして、２年ぐらいたったら結婚して専業主婦になってと思った」といっている。（6bf）は、父親の借金で家計が苦しいため、子どもが働くことを期待している。定時制高校に行きながら種々のアルバイトをしていたが、夜が辛くて退学し、その後もさまざまなアルバイトを続けていて、正社員になる気はまったくない。お金さえもらえればアルバイトでかまわないと思っている。

*（お父さんとお母さんはお仕事は？）*はい、多分しています。*（お父さんは？）*何をしているかは全然知らない。*（お父さんもお母さんは家にあまりいない？）*はい。

＜17cm・19 歳・定時制高卒・男性＞

*（お父さんの仕事は？）*バイトみたいな感じの。もともと自営業をやっていたんですけど、それがあかんようになって。建築屋みたいな。*（雇われて？）*そうです。*（職種は？）*建築になるんでしょうか。僕も聞いたことがないんで。

＜51em・22 歳・専門卒・男性＞

（お父さんの）仕事はダンプカーの運転をしている。*（そのダンプカーは？）*はい、自分の。*（独立してやっているの？）*どうなんだろう。会社に入っているのかな。あまりはっきりはわからない。

＜18cf・20 歳・高卒・女性＞

*（お父さんお仕事は？）*仕事？　お父さんは掃除。ホテル内の掃除。○○市。*（ホテルに雇われている？）*ホテルに雇われているという感じなのかな。*（ずっとそのお仕事ですか？）*まだ１年はたってない。その前は運送やってた。*（運送会社？）*個人の。軽トラ。５年くらいやってた。その前。ドーナッツ売ってた。…テキヤみたいなん。お祭りじゃなくて、いつも、スーパーとかを回って。いろんなところ行って。作って。*（ドーナッツの仕事は長かった？）*そんな長くなかった。*（小さいときお父さん何をしてはった？）*わからへん。工場に行っていた。

＜6bf・20 歳・定時制高校中退・女性＞

おとんは中卒なんです。中学卒業して車の整備をやってて、18 ぐらいで自衛隊にかわって、ずっと自衛隊です。*（その後はずっと？）*自衛隊でと思いますよ。僕も入ってないのでわからないんですけど。自衛隊は引っ越し多いって言ってました。僕も何回か引っ越ししてますね。

＜41cm・22 歳・高卒・男性＞

3.2　減収・倒産・解雇

近年の不況は対象者の親に少なからず影響を及ぼしている。もともと低学歴の不安定な職業従事者であったために、不況の影響をもろに蒙っているのである。自営業を廃業したり、賃金の低下を経験している者もいる。会社倒産の不安を感じている者もいる。仕事上の怪我、病気を経験している者もいる。それは直ちに解雇や減収につながるのである。

親の学歴は、中卒、高卒である。(40cm) の父親は、小学５年の時、母が再婚した相手で、地方から出てきて高校定時制を出ている。正社員でトラックの運転をしてきたが、心筋梗塞で倒れた後、復帰している。しかし倒産の危険を感じている。(26cf) の父親はトラックの事故で大怪我をし、解雇された。そのため、(26cf) は家計を察して進学を断念して、パート仕事をしている。

> *(お父さんは正規職員？)* そうですね。*(給料は？)* 今、下がってきてますね。不景気言うて。トラックでも配達するのが減ってきてるみたいなんですよ。それで、最初トレーラーって乗ってたんですよ。わかります？ *(でっかいやつ？)* そう、でっかいやつ。免許はいっぱい持ってますね。危険物とかいろんな。でも、トレーラーから 10 トンぐらいのトラックになったんですけどね。*(長距離？)* いや、長距離じゃないです。近場ですね。*(最近、仕事減ったと？)* 言うてますね。会社がぶっつぶれるかもしらん、言うてますね。
>
> **＜40cm・19 歳・高卒・男性＞**

> *(お父さんの学歴は？)* お父さんのですか。お父さんは何か、田舎が○○なんですよ。そっから中学ぐらいのときにお姉ちゃんとお父さんと弟で３人で暮らし始めたんですね。*(○○で？)* △△市で。こっち出てきて。*(集団就職？)* いや。で、高校のときに夜間に行きながら働いとったみたいな言うてんですよ。夜間も３年ぐらいでやめたみたいな。
>
> **＜40cm・19 歳・高卒・男性＞**

> *(お父さんはずっと同じとこに勤めているの？)* いえ、今の会社は２年目くらいですかね。前、働いていた所で、運送会社だったんですけども、大きな事故起してしまって、怪我して 1 ヵ月くらいもう仕事ないっていうか、「連絡するまで来なくていいから」って言われて、で、1 ヵ月経ってもぜんぜんなんの連絡もなくて、こっちが辞めさせられた様な状態だったんですよ。*(運送会社って、トラックの運転手だったの。ちょうど2年前っていうと、あなたが就職する頃。専門学校の話、考えないでもなかったとき親から「就職してくれ」って言われた時って、お父さんが大変だったとき？)*。はい。
>
> **＜26cf・20 歳・高卒･女性＞**

3.3　きょうだいの職業

対象者のきょうだいも無業、非典型雇用であることがめずらしくない。それは、親の職業の影響であるとともに、きょうだいのフリーター化が、モデルとして他のきょうだいにも何らかの影響を及ぼしていると思われる。地域全体の不況をきょうだいがともに蒙っている場合もある。(12df) (18cf) (51em) は、きょうだいもフリーターあるいは無業の状態にある。(51em) は、親と別居して同棲している。バンドで身を立てようとしている。彼の弟は無業者だが、弟のことは親もあきらめているという。(35em) の例からわかるのは、きょうだい

の間でも、学校卒業年によって雇用市場の状況が異なり、近年卒業した者ほど、不況の影響をもろに蒙っていることである。

お姉ちゃんはもう学校卒業してるからアルバイト行ってるんですよ。

＜12df・20 歳・専門中退卒・女性＞

*（弟は高校を卒業して…？）*はい。就職はしていなくてバイトを。今は探しているみたいだけれども。今は多分、何もしていない。*（弟は、なぜ就職しなかった？）*学校からはもうするとかと言っててんけど、何でやろう。何かいいところがないとか、そんなことを言っていて、自分で探すみたいな感じだった。そのときは普通にバイトをしとったから、多分、そんなに焦って就職をしなくてもバイトがあったから、と思うんだけど、今はやめたから。*（どんなバイト？）*飲食店。居酒屋さんです。*（ずっとやっていたの？）*高校時代です。

＜18cf・20 歳・高卒・女性＞

（弟は）何もしていないです。高校も出ていないです。*（中卒？　中学は○○中学校？）*そうです。*（弟は中卒からアルバイトとか？）*いや、何もしていないです。一応高校はここに行っていたんですけど、途中でやめて、専門学校へ行くといって専門学校へ行って、やめて。*（途中で？）*そうですね。*（専門学校は？）*ゲームとかのクリエーターの学校。*（弟は全くのフリーター？）*パチプロをやっているらしいですけど、僕よりお金を持っていますね。この間家へ行ったら、箱の中に 70 万ぐらいお金があって、何やこれという感じのお金を持っています。*（パチンコだけで？）*信じられないでしょう。でもほんまにそうなんですよ。*（パチンコ歴は長い？）*いや、そんなことはないはずですよ。

＜51em・22 歳・専門卒・男性＞

そうですね。何か姉が２人まだ家にいて、結構家にいるほうで、あまり出てけとかは。*（お姉さん２人が４こと７こ違いという。それで、お２人もまだ未婚でいらっしゃるんですか？）*そうですね。*（で、うちにいて、お２人はどっかで働いていらっしゃる？）*１人が○○のほうで働いていて、もう１人は派遣で近くで。*（２人とも大学…？）*短大ですね、２人とも。*（短大で、すぐ就職して？）*そうですね。*（○○とかは、じゃあ、ずっと同じところに働いている？）*そうですね、それが上の姉なんです。多分、バブルのちょうどぎりぎりか、ちょっと経過したぐらいで、まだ就職状態がいい。下の姉は、もう最低最悪というか、質も落ちたかなと。*（そういう意味じゃあ、お姉さんは比較的大企業の、ある意味、いいところに入れた？）*そのときは、そうなんですね。何かボーナスは１年目が一番よかったって言ってましたけど。

＜35em・25 歳・大卒・男性＞

3.4　夫妻共働き・一家総働き

関西・東北の対象者の場合、世帯主の賃金が高くないため、夫妻共働き、あるいは一家総働きで家計を維持するのが一般的である。一人あたりの賃金は、一家の生計を維持するには足りないが、賃金のもちよりによって生計を維持することは可能なのである。子どものアルバイト収入も、家計にとって不可欠の収入である。高卒後、スムーズに定職に就く事ができた時代には、この家族周期段階は、家計にとって「栄華の峠」（鈴木栄太郎 1944）であった。子どもの教育期間が終わり、まだ現役の親と、働き始めた子どもの収入を合算すると、生涯でもっとも余裕のある経済状況となったのである。しかし、近年の雇用悪化のなかでは、子どもの収入は、「栄華の峠」をもたらすには脆弱すぎるのである。

（43cm）（24cf）（27cf）（25cf）は、東北のケースである。職種は雑多であるが、夫妻共働きである。（25cf）は、この地域ではかなり職業的安定性の高いケースといえよう。東北の三世代家族の場合、祖父母が農業をはじめとする自営業をやっていることも少なくない。いっぽう、関西の場合は、より雑多な不安定職種の組み合わせであり、専業主婦はほとんどみられない。

*（両親ともお仕事ですか？）*はい。両方とも仕事してます。パチンコ屋さんの店員なんです。*（パチンコ屋さんって結構夫婦でやるもんね。じゃご夫婦だと少しは融通が利く？）*。はい。一応親父の方が、主任という関係なんで一緒の休みは取ってるみたいですが。

＜43cm・20 歳・高卒・男性＞

*（曳き前って言われてるんだ。24cf さんが小さい時から自営の曳き前士なの？）*おじいちゃんの時から。*（お母さんは、24cf さんが小さい頃からやってらっしゃるの？）*。ヤクルトの配達。最初は美容師だったんだけど、日曜休めないから転職して。

＜24cf・19 歳・高卒・女性＞

(お母さんは)農協の方で野菜の選別作業みたいのをやってますね。(月)15、6 万くらい稼いでるのかな。父は塗装の方をやってますね。

＜27cf・18 歳・高卒・女性＞

*（お父さんは高校を卒業して警察官になられて、お母さんは専業主婦ですか？）*看護婦です。

＜25cf・19 歳・高卒・男性＞

3.5　再就職型

首都圏では、専業主婦をやったのち再就職をしている母親が、とくに高学歴層に多い。再就職の理由の第一は、子どもの教育費のためである。低学歴層の場合は、関西・東北と同様に、共働き・総働きである。

（2am）は、不登校のため中卒後はフリースクールへ通った。教育熱心な環境で、姉は大学卒である。フリースクールの費用がかさみ、姉の教育費とも重なり、家計が逼迫するという時期があった。この頃から母親は再就職して働いている。（8dm）は、親もきょうだいも大卒で、本人は大学が合わず中退し、その後専門学校に入った。進学するのがあたりまえの家庭環境で、教育費は家計にとって避けられない費目であった。

父は定年退職して、今は配達のアルバイトのようなことをやっているみたいです。今、ちょうど 60 ぐらい、61 かな。（定年退職は）多分、58 のころだと思います。年金はまだもらってないと思います。母は今、58 か 9 ですね。会社で事務のようなことをやっていますけど、やはり肩たたきにあってるらしいです。ずっと勤めていたわけではなくて、結婚するまでそこの会社で働いていて、結婚してやめて、それでずっと専業主婦のようなことをやっていたんですけれども、姉がちょうど大学に入る２年とか１年前ぐらいのときに、とにかくお金が必要になったと思うんで、昔の会社に行って事務のようなことをやるので働かせてくれるということで働いているんだと。一応、月給制みたいですね。厚生年金には入っているらしいんですけど、時期が短いので、もらえる額は少ないと…。

*（フルタイムの正社員？）*そうらしいですね。

＜2am・22 歳・中卒・男性＞

*（8dm さんはご家族は？）*両親と弟が。*（弟さんがいらっしゃるんだ。）*はい。今、大学生。*（ご一緒に住んでらっしゃるの？）*はい。父はずっと同じ会社で、大学出てから同じところに。最初、会社の本社みたいなところに入って、それから本社から出向。それからまた最近、別な会社に、また関連会社に異動してサラリーマン。*（お母さんは専業主婦？　パートか何かなさっているの？）*結婚してからぐらいかな、弟が小学校に上がったらちょっと働くって言っていたら、たまたま近所の会社に、そこから来てくれって言われて、税金のこととかあるから、ぎりぎりのところで？時間だけということで、ちょうど半分ぐらいの時間におさまるような働き方。

＜8dm・24 歳・大学中退・男性＞

3.6　小括

低学歴層の親の職業は、非正規の不安定雇用、あるいは自営業など雑多の職種である。そのうえ、近年の不況の影響を蒙って、減収したり、いつ仕事を失うかという不安をかかえた状態にある。きょうだいの職業も似たり寄ったりである。このような家庭では一家総働きが一般的となっている。ひとり分の収入は多くはないが、持ち寄れば家計は安定するのである。いっぽう、高学歴層においては、子どもの教育にお金をかけるのは当然とされているが、父親の収入だけでは果たすことができず、母親の再就職（パート）は教育費を賄うために避けられない状態である。

４．家計状況と親子の経済関係

対象者の家庭の経済状況には当然のことながら違いがある。関西のケースの多くは、親の不安定な就労に規定されて低所得である。東北のケースも高卒後子どもを進学させる余裕がない。一方、首都圏のケースは経済的には進学させる余裕のある家庭が多い。家計状況によって、親子の経済関係は異なったものになる。親が低所得で家計に余裕がない場合は、親から子どもへの経済援助は早いうちに打ち切られ、逆に、家計援助を要求される場合もある。他方、親が高所得であれば、親から子どもへの経済援助の期間は長くなり、高等教育費用をはじめ、日常の金銭援助、車の購入、旅行、資格取得のための費用にいたるまで、親の援助が続く傾向がある。これらの実態をみていこう。

4.1　逼迫した家計状況

低所得家庭の場合、子どもは家計に余裕がないことを、小さい頃から認識している。これらのケースは、高校時代から本格的にアルバイトしているが、それは、「こづかいは自分で稼ぐもの」と自覚しているからである。彼ら・彼女らは、親に依存することができないだけでなく、不和、放任、病気、借金などを体験し、親の理不尽な横暴にもさらされている。このような環境にあっては、自力で稼ぐことは貧困からわずかでも脱出し、親から解放される手段なのである。高校時代にアルバイト収入の一部を家計に入れている者もいる。いったんア

ルバイトを開始すると、親に経済的に頼る（こづかいをもらう）段階は終了したと親子双方で認識するようである。

（17cm）は父親の事故、（37cm）は父親が博打に興じて家計を放置、（23cm）は長い年月を借金に追われる家計、（51em）は家業の長期衰退、（6bf）は父親の会社の経営不振、（50em）は父親が商売に失敗して借金返済に追われ、（21cm）は父親の死亡に加えて、母親の精神病からくる生活破綻者的なライフスタイルによって辛苦をなめてきた。子どもはそのような環境を甘んじて受けるしかない。彼らは、遅くとも高校時代から、アルバイトをやらなければ満足に暮らせない状況に置かれてきた。

*（お父さんは仕事について家で話されます？）*会社がつぶれる。つぶれてはないけど。*（お父さんの金銭面について、お母さんから聞いたことがある？）*ある、愚痴ってた。*（お父さんと話は？）*せえへん。ちょっとしかしゃべれへん。嫌い。*（お母さんとは頻繁にしゃべる？）*うん。

＜6bf・20 歳・定時制高校中退・女性＞

（家の経済的な状況）は、よくないとは思います。*（苦労した思い出は？）*小学校５年ぐらいのときに、お父さんが車で事故を。それですごい大けがをしたんで、さっぱり仕事してないとかいう時期が多分何年間かあったと思うんです。

＜17cm・19 歳・定時制高卒・男性＞

お金がなかったですね。ほとんど博打に使ってたんで、お父。競馬・麻雀が一番ですね。それが原因で。*（お金は？）*全部自分のもん。*（で、それが出て行かへんかったら、そんなに、ほんまは苦しいなかった？）*そうですね。お母んの収入だけでやってた感じですね。全然、入ってなかったらしいです。*（しんどかったんですか？）*そうですね。

＜37cm・19 歳・高卒・男性＞

*（家が経済的に苦しいと思い始めたのは？）*あのね、ぶっちゃけた話ね、いつ頃かなあ、小学生の頃から、結構借金あったんですよ。借金の額が 1,000 万ぐらいあったんですけど、それを返しながらやってたんですね。返しながらでも結構生活とか普通にできてたんで、かなり給料がよかったんですけど、高２とかの時にはもう返し終わってたんですけど、それでも生活ちょっと苦しかったんですよ。だから、絶対そんな余裕ないじゃないですか。かなり給料も落ちてるんで。そういうこと思うと、やっぱ（上の学校へは）行けないですよ。

＜23cm・21 歳・高卒・男性＞

*（経済的に苦しかったのは、お父さんが亡くなってから？）*そうです。自営業やったから、収入が一気になくなるわけやし、いろいろあった。*（家は？）*借家です。家とかには興味はなかったみたいで、買わんかったっておかんは言ってました。買ってたらよかったなとかいう話ししたんです。

＜45cm・24 歳・高卒・男性＞

*（そうすると、お父さんが亡くなったあとお母さんが１人で働いてという形になったんですか？）*それが、そう簡単にうまくいかない。働いてないんです。*（そうすると、何か保護を受けるとか、そういうような形なんですか？）*その手もあったと思うけど、お母さんの母が戦争経験者ですので、パンの支給とかあっても、おなかすかしていても捨てちゃうような人だったんですね。*（ああ、そうなんだ。そういうものは受けたくないというタイプだったのね？）*人の意見かもしれませんけど、ちょっと他人事のようで、自分の身内の人をけなすとおれの恥にもなるからそこまで言いたくないんですけど、た

だ、プライドの高さが悪いほうに出たことは確かですね。母も母で、プライドは高くて、おれから見ると、我を張るのもいいんだけど、ただ、責任を全うできる範囲内でやってくれるんだったらだれも文句言いません。でも、やっぱり勤めてもらえていないわけですね。我だけを押し通すという人だったですね。そういうことがあるんです。*（そうすると、かなり収入がない状態で、ぎりぎり生活するような感じだったんでしょうか？）*一応買い出しとは僕が行かされていたんですけれども。
（お父さんが亡くなる前後から、家計はかなり厳しい状態になってしまった。家計のほうは、もうお父さんが倒れられて入院されていると、かなり厳しくなってきていたんですね、この頃から。）

＜21cm・31 歳・高卒・男性＞

*（家の暮し向きは？）*店を畳むというよりも、おじいちゃんがもうあかんようになってしまったんです。仕事は来るんですけど、小さい仕事でしんどいばかりだから、親戚のおじさんとかもやっていたんですけど、だれか息子らが継ぐんであれば機械を入れてやるけれども、やらんのだったら入れたら借金だけ残るからやれへんしという感じ。でも、小学校、中学校ぐらいのときに「やるか」と聞かれて、僕は何も考えていないから「やらないよ」と言って、「それならやめようか」となったんです。だから、ずっと貧乏ですけど、そんな急激に借金まみれにというわけではなかった。（中略）（生活は）多分平均だったんでしょうね。自分らがそんな暮らしばっかりしていたから、僕らにそういうふうにしたくなかったんでしょうね。だから、子供にはわからんようにしていたんだと思います。

＜51em・22 歳・専門卒・男性＞

*（ちなみに、お父さんはどんな仕事をされてるんですか？）*清掃業だと思う。*（若いころは違う仕事ね？）*いろいろやってたみたい。*（いろんな仕事してたの？）*はい。*（借金つくっちゃってから、ほんとにあっちこっちで手当たり次第に仕事してきたっていう？）*だって、飲み屋とかやって、借金つくっちゃって。*（そうか。）*飲み屋を結果的にやったのは、違う人間なんだけど、その人間が空き巣で逮捕されちゃって。で、そのことをずっと隠してたの、おれたちに。母親のぐあいが悪くなったっていって。で、２ヵ月たって逮捕されたって言われて、何、それって感じだよね。母親もびっくりしたけど。何か去年あたりも、その人が何か前の職場あたりでおやじが何かやったって悪口を流したらしくて、おやじが回って、そんなことはないって。*（言って歩いたの？）*うん。腐れ縁結んじゃったって感じかな。*（何かお父さんもじゃあ、結構苦労してるんだね。）*そうね。とりつかれちゃって。*（ちょっとお父さんの学歴とか聞いてもいいですか？）*大学行ったらしいよ。*（大学行って、卒業されてる。）*借金ばっかりしてる田舎っぺじゃなくなったっていう感じですね。*（そうなの。昔はそんな感じだったの？）*借金３度もやったの。*（何かやっぱり仕事をしようかなっていう感じだった？）*帰ってこなかったときに、お金を使ったらしいのね。*（なるほどね。そのときの借金で、ちょっと首が回らないみたいになっちゃったんだ。）*そうね、母はそう言ってたかな。何でいつ、何で自分が使ってもいないのに、こんな借金を払い続けなきゃならないんだろうと。*（お父さんがその借金があるから、頑張ってるんだ。）*頑張ったんじゃないの。真意はわからないけど。*（それで、２人とも、結局先にお父さんが倒れて、病気になって、それからお母さんもぐあいが悪くなって、で、２人とも入院しちゃった。）*

＜50em・25 歳・専門卒・男性＞

4.2　こづかいとまかない費

前段で紹介した極端な貧困のなかで育ったケース以外でも、余裕のない家計状況で育った場合は、自分のこづかいは自分で稼ぐという自覚を高校生段階でもっている。高校時代のアルバイトは関西・首都圏では広く普及しており、それをこづかいにあてている。このようなケースの場合、学卒後の仕事も、高校時代のアルバイトと本質的に異なるものとは位置付け

られていない。また､在学中もその後も、日常のこづかいだけでなく、（17cm）のように、車の免許取得など、特別な支出を自分でまかなっているケースもある。さらに、収入の一部を親に渡している者もいる。それは少額とはいえ、親にとっては不可欠の収入となっている。

（17cm）は、親の離婚・再婚・死別を経験し、複雑な家族関係のなかで、実家と祖母の家を行き来して暮してきた。親に頼れないばかりか、早い時期からまかない費を求められ、さらには定時制高校の奨学金さえ親のものになってしまうという状態であった。（21cm）は、母子家庭で、精神病の母親をかかえて、中学時代から自分のお金でまかなわねばならない状況にあった。（41cm）（1am）は中学卒業後は、親の家においてもらう以外は親に頼ることのできない状況であった。（4bf）の場合も、パチンコに興じて家庭を放置している両親のもとで、早くから親に頼れないことを察して行動してきた。

（親の家と祖母の家を行き来している。高校の時のアルバイトの月８万ぐらいは）家にいるのが長いときは家にちょっとお金を入れて、おばあちゃんちのほうに多かったらおばあちゃんちのほうに持って帰る。*（お小遣いは？）*僕は全然ですよ。*（月決めでもろうたりしてるわけではなく？）*はい。*（言ったらくれるの？）*おばあちゃんにもらってました。（笑）*（お金を家に入れているのは？）*それは何か…。善意…。何か、普通に…。（友達と）は、あんまりそういう話はしてない。（*お世話になっているから、何がしかを入れておかないと、と自分で思って入れ続けている？）*はい。（おばあちゃんは）ありがとう、うれしいわとか。だけど、もう（親の）家には全然入れてない。*（今まで、たくさん家にいたときは、今のお母さんに渡すの？）*はい。*（車の免許のお金は全部、自分で出した？）*はい。*（奨学金については？）*でも、僕は、奨学金いうのは全部親が持ってるんです。だから、何なんって思うんです。（笑）わからんけど。*（奨学金がお父さんとお母さんのお小遣いみたいに見える？）*そうですね。*（その使い道は何に？）*授業料は知れてるし。だけど、何か聞けない。（笑）

＜17㎝・19 歳・定時制高卒・男性＞

*（アルバイトで稼いだお金はどんなふうに使っていたの？例えば自分の食事とかなんか、そういうこと？）*食事、洗濯、あとおふろ。自分の役割。家庭内の役割がその洗濯、おふろ。人のはやらないけど、自分のだけなんですけど。あと、洋服買ったり、そんな感じです。*（待って待って、洗濯、おふろと言ったのは、自分用でふだんも家でするという話？　それともクリーニング代金なの？）*コインランドリー代です、ごめんなさい。*（あっ、コインランドリー代ね。なるほど。）*おふろは、故障してて直さないから銭湯まで行っていたんです。*（ああ、なるほど、そういうことなんだ。食事というのは、朝とか晩も含めてという意味なの？　そのころ、ちなみにお母さんは御飯の支度とかしない状態だったの？）*支度はしていました。一応インスタントラーメン５コ入りのやつを１袋テーブルの上に置いてくれて、つくりなさいという感じなんです。御飯は、ノリとオカカをつけて、自分が食べるような御飯は出してくれました。*（そのぐらいの食事だけを用意してくれるという、そういう感じだったのかな？）*はい。*（それ以外のものは自分で買って食べる？）*そうです。*（そういうような家庭環境になったのは、もう随分前からなの？　中学のころからはずっとそんな感じだったの？そうすると、あなたが高校に進学するころというのは、もうご長男、次男の方も社会人になっていましたよね？）*そうです。*（もうそれぞれ就職されていた？）*一応はしていましたけれども、あちこち転々としていたということはありました。一番上の兄は私立の高校へ行ってけど、中退してしまったんで、もう一度学校に行き直そうということで、夜学に通っていました。僕が高１ぐらいからだったんですけど、４年間通っていたんです。２番目の兄はいろい

ろな仕事をしていました。営業所でやったり、工場で働いたりもした。警備の仕事も…。

＜21cm・31 歳・高卒・男性＞

*（高校時代はお小遣いとかって親からもらったりしてたの？）*ないですね。高校入ってから全く何ももらわないです。御飯もらうだけです。

＜41cm・22 歳・高卒・男性＞

お小遣いはだんだんと親に対して言うのも、親が働いているお金でそんなん何かというのがありましたし、自分の金ではないんやぞという感じです。お金をもらっても、これはお父さんが働いてくれたお金やから、自分で働いてやったお金じゃないという。気を使うんですよ、「お金をちょうだい」と言うのも。

＜1am・24 歳・中卒・男性＞

*（高校時代のバイトは？）*家にお金入れようと思って。中学卒業する前から、高校入ったらバイトしてやって。ずっと言われてて。うん、するって言ってて。家にお金ちょっとでも入れてほしいけど、みたいな話をお母さんがしてて、わかったって。

＜46cf・19 歳・高卒・女性＞

*（それはなんでバイトをしようと？）*遊びに行くお金がほしいから。*（お金ほしいなぁと。親から小遣いをもらってたりとかは？）*小遣いっていうのは決まらんと、ほしい時にはほしいだけもらってたりしてた。*（高校入ったら自分で稼ごうとそういうことですよね？）*そうそう。*（親からもらうのは悪いとかそういう感じ？　それとも自分でもう高校生だからって？）*親にあげようと思ってて ん。お金を。思っててたんやけど、やっぱし給料こんだけやからあげたらもったいないと思った。*（親にお金をわたそうと思ったのは何でそんなことを思ったんでしょう？）*勝手に親の財布からとったことあったから。*（それは渡そうじゃなくて返そうかな（笑））*でもばれるねんけど、いつもごめんなごめんなで許してもらってたから。

＜4bf・20 歳・高校中退・女性＞

これらのケースほど家計が困難でない場合は、高校が終了した段階で、たとえ進学した場合でも、アルバイト収入を家計に入れているのは当然と認識するようになる。その金額は１万円から３万円程度であるが、この金額は彼らの収入額からみて限度なのであろう。親やきょうだいから、出すようにとはっきり言われている場合もあるが、言われない場合でも、本人はそうすべきであることを自覚している。それだけ家の経済事情を察しているのである。専門学校へ行っている場合も、親に頼れるのは授業料だけという状態である。収入が少ないので親からまかない費を免除されている場合もあるが、収入が増えれば入れなければならないと本人は自覚している。親にまかない費を入れるかどうかは、当人の年齢も関係していると思われる。17 歳の（3bm）は、今のところ親から免除されている。しかし、高校を卒業すると払うのが当然となるようである。（16cf）（39cf）のように、収入が少ないため免除されることもある。

*（アルバイトをやろうと思ったきっかけは何ですか？）*お金がない。*（それまでは、自分のお小遣いはどうしてましたか？）*お母さんにもらってた。*（免許をとったのは？）*18 歳のとき。（車は）中古で買ったから。20 万円くらい。*（お母さんにもらっていたお金を貯めていたのかな？）*貯めてた。去年買った。

＜6bf・20 歳・定時制高校中退・女性＞

*（家に金を入れているか？）*してない。しろとは言われてるけど、そこまで余裕ないから。遊びに使う金しかないから。でも、（親は家に入れろと）本気では言ってない。

＜3bm・17 歳・高校中退・男性＞

*（就職するとき、学校の先生とかが？）*いやもう「近いとこ、金、いいとこ」いう位で、僕が自分で決めた所です。*（家から小遣いは？）*もうバイト始めてからは、ほんとに貰ってないですけど。*（二重取りは？）*そこまで、できなかったです。ほんまに。（お金は今）ちょっとだけですけど、家には入れるようにしてますけど。*（お兄さんは働いて、家に入れてはる。当然やね。それまでは結構大変ですよ？）*そうですね、兄貴が卒業するまでは。*（そんなん、見てきてはるから、ちゃんとアルバイトのお金入れてはるんや？）*ほんまに、それぐらいはしとかんと。*（アルバイトしてはって、そのお金は今、なんぼか家に入れて、後は生活費はまあ飯くわしてもらったりするから、あとはもう自分の小遣いで？）*そうですね。*（さっき言わはった 10 万円ちょっとやな、家に何ぼくらい入れてはるの？）*３万円。

＜37cm・19 歳・高卒・男性＞

*（さっき経済的に苦しいといっていたけど、そんなに経済的に苦しいとは思えないけど、それだけみんな働いたら？）*いや、厳しい。いろいろ入ってまして。いろいろあって厳しい。はい、かなり。*(家にもお金入れたりする？)*してます。*（いくらくらい？）*家には３万。

＜19cf・18 歳・高卒・女性＞

はい、妹が今年ここの高校に入学してお金がかかるということもあって。*（妹さん、この４月から入っているの。これは 25cf さんがお金がかかるから就職しようと考えたの？ご両親は？）*はい、親も「やっぱりお金がかかるからできれば就職してほしい」って。*（その時なんか「残念」とか気持ちあった？）*はい。*（もし何か利用できるような奨学金とかあったら利用していきたいとか？）*思いましたけど、やっぱり親のことも考えると、自分で働いて少しずつ入れて、毎月入れた方がいいかなって。*（ご両親想いだね。収入のどれくらいを家に入れているの？）*２万円くらい。*（今はご両親から小遣いもらっていないの？）*もらっていません。*（貯金するのは目標があるの？）*一人暮ししたいのと親を旅行に行かせてあげたいと思っている。*（えらいそうなんだ。自分の旅行じゃなくて親に旅行なの。自分は？）*自分もしたいんですけど、親。*（親に旅行に生かせてあげたい？ 25cf さん海外に住みたいっていっていたけど。お母さんはいってきたことあるの？）*ないんです。

＜25cf・18 歳・高卒・女性＞

*（今、幾らか入れてる？）*は、入れてないです。（両親は）初めのほうは言ってたんですけど、お金がない、お金がないって言ってたら、言わなくなって。

＜16cf・24 歳・高卒・女性＞

うん。それに結構、友達とか月に４万家にいれろとか言われてる人いてるみたいなんですけど、私もそのほうがいいのかなとか思って、何万かとか考えてて、何か家の人に言われるかなとか思ったんですよ。その、お母さんとかには言われへんくても、お姉ちゃんとかに「あんた家にお金入れや」とか言われんのかなとか思って、あぁ、じゃあ２、３万とかって考えてたんですけど、誰も何も言わんから、全部自分のものみたいな（笑）

＜39cf・19 歳・高卒・女性＞

（働いていたお金は）半分くらいうちに入れていました。*（半分くらい入れてた。すごいね。それでもまだ普通の人くらい残る。それで貯金していたんだ？）*。一応自分でも貯金していたし、親にやった分で余ったら「貯金しといて」とか、そういうことしていました。

＜43cm・20 歳・高卒・男性＞

（専門学校の頃）学費とかは、さすがにお母さんに払っとってもらったけど、そのほかの面では、ほとんど自分で払っとったし、それが当たり前かなと思っとった。アルバイトしてお金あるんやったら、携帯代も払うのが当たり前やし、服とかもわざわざ出してもらう必要ないから、自分でそういうのは考えて…。お父さんは、そんなに、あんまりうるさく言わないほうです。*（専門学校の頃、お小遣いをもらったり…？）*しないですよ。もうアルバイトしたら――携帯を持ちたかったんです。それでアルバイトして、全部携帯代も自分で払っとったし、アルバイトしてから、自分のことは自分でやっとったから。*（生活費をお母さんに家計のために渡したりとかありましたか？）*一応私も言うたんですよ、お母さんに。「支給しようか」言うて。*（初めのアルバイトのとき？）*そうですね。一番初めの○○のアルバイトするときも、「ちょっと足そうか」とか言うてみたけど、「もうそんなんいいから。自分のお金やから自分でとって大事に扱い。貯金するんやったら貯金したり。大丈夫やから」って言って。

＜12df・20 歳・専門中退卒・女性＞

（楽器購入時に、親から借りたお金は）一応返した。でも、そんなにいいのは買っていない。２万円か３万円で。*（親にお金を返したというのは、アルバイトをしてた？）*いや、月のお小遣いをちょっとづつ残したり、たまっていたのもたまっていたので、あとちょっと借りただけ。だからちょっとだけ返して。

＜51em・22 歳・専門卒・男性＞

4.3　家計事情から進学を断念

高卒後、大学や専門学校へ進学するのが、家計の状況からして困難なケースがある。(2am) は、不登校後に通ったフリースクールの費用がかさみ、専門学校への進学が経済的に苦しいため断念したと語っている。(1am) は、ミュージッシャンになるためのオーディションで上京するのを経済的理由から断念した。(28cf) (23cm) (45cm) のように親からはっきりとは言われない場合でも、本人が状況を理解して進学を断念している。(26cf) のように親から明言された者もいる。

（フリースクールの最後の１年間ぐらいは）毎月東京まで通って、すごい定期がかかるんです、学割きかないし。それで、親の経済状況のほうが悪くなったので、交通費を節約するために行かないでアルバイトをしていたりとかです。*（フリースクールを卒業ということは、20 歳までいれるんだからいてもいいんだけど、でも、19 歳になるときにやめたんでしょ？）*そうです。所属してるだけで月謝がかかるんです。あまり行かなくなるんだからこれ以上親に負担かけちゃ悪いなと。あと、同年代ぐらいの友達がその時期にみんな一斉にやめてて。（そういうお金を出していくのはある程度無理だなと）その当時から普通に思ってましたね。フリースクールを卒業するときに専門学校はどうかなとか思ったりして、どういうところがあるかなと調べてみたんですけど、どこも何百万とお金がかかるので、自分でそれをとるのは大変だし、親に頼んでも出ないからなと思っていたので、とりあえずアルバイトをして、かといって、自分はこうなろうとか将来設計とかを描けられないし、お金が欲しいときはアルバイトをやって、お金をためればいいんですけど、そこまで踏み込んでお金を自分にというのは…*（経済状態が悪くなったというのは？）*フリースクールに行っていることで、定期代とか列車とかで月間 10 万円ぐらいかかって、それですごく親に負担を強いたのが大きいのかなと反省していますけども。*（突然、何かがあって悪くなったのではなくて？）*言われました。とにかくお金がないからフリースクールをやめなさいと、それははっきり言われました。（フリースクールをやめる）１年前ぐらいに言われて、わかった、やめるけど、もう１年だけ行かせてくれと言って、行く日をすごく減らして、交通費をかからないようにしたり、アルバイトをしながら…。*（じわじわと…？）*むしばんでいきました。

＜2am・22 歳・中卒・男性＞

*（東京に出るなんていうふうな思いは？）*東京に出るですか。（向こうのプロジェクトの先生に）「出てこい」と言われましたけど、「もうお金がない」と言うたんです。言い切ったんです。「もうプロになるんやったら東京に出てきなさい」。「お金がないです。もう無理です」。僕は何回か行っていたんです。オーディションのために歌いにプロデューサーの前で歌いに行っていたんですけど、もうそれで尽きたんです、交通費もあれですから。そんなんをおやじに最近言ったら怒られました。「おまえ、それは行っとかなあかん。それはお父さんに言うたらええんと違うんか」と言われたんですけど、そんなんむちゃくちゃでしょう。だって、学校のあれも払ってもらっているし、そういうのを何ぼ甘えというても、僕、16 から働いて仕事のちょっとしかまだわかってないですけど、大変ということを学んだわけですし、そんなん今さらおやじに甘えろと言うたり、もうこれ以上は言われへんやろうという自分の中で、これ以上おやじにはもう言えませんよみたいな。

＜1am・24 歳・中卒・男性＞

料理関係の専門学校に行きたかったんですよ。でも、親に反対されたんですよ。お金かかるじゃないですか。そのころ、おばあちゃんち、建てかえか何かしたんかな。で、その家のローンも払っているのもあるしというので、親にやっぱり悪いなというのもあったから、行くのやめたんですよ。

＜28cf・19 歳・高卒・女性＞

最初僕ね、高１、高２の途中までは、大学行く気満々やったんですね。で、結構家計的にちょっと苦しかったんで、補助金借りてまで大学行くもんじゃないから、そこまでしたいことないしって思って、働こうって思ったんですよ。*（お母さんから家計が苦しいと直接話があったか？）*うーん、直接っていうか、何ていうんですか、おやじがタクシーの運ちゃんなんですよ。でね、このころたしかめっちゃ不景気だったんですよ。で、すごい給料とか減ってね、言われるまでもなく自分でわかってたんで。*（状況見て？）*うん。親に甘えてられへんなあ。今、甘えてるんですけど（笑）。そのときは、何かそんな正義感がめっちゃあったんで、進学はあきらめましたけど。

＜23cm・21 歳・高卒・男性＞

*（高校に入ってもずっと就職希望？）*そうですね。専門学校行きたかったけど、経済的に無理やったから、そこまで考えんと就職しようと。（ＣＡＤの使い方講習会は）お金はすごく…、何割か返ってくるみたいです。きついなと思って。母子家庭やし。（親に）頼れたら絶対行ってると思うんです。あと、自分でバイトしながら生活できたらいいじゃないですか。

＜45cm・24 歳・高卒・男性＞

まあそういう部分もありましたけど、やっぱこれ以上、私立に入ったんで、親になんかあんまり経済的負担をかけたくなかったのもあるし。お兄ちゃんにもその頃すでに、子供いましたから、私が入っているころには…。やっぱ経済的にちょっと余裕がなかったっていうか、親としても就職の方を希望してたというのもあって。*（それは言葉としてちゃんといわれたの。親も「就職してほしい、いいんじゃない」とはっきり言われた？）*はい。「進学だとお金がかかるから」って、「なるべくなら進学よりも就職の方してほしい」っていわれたんで、自分の中にも就職したいっていう気持ちがあったんで、それには全然反対とか反抗とかしなかったんで。

＜26cf・20 歳・高卒・女性＞

（39cf）（24cf）は、親は進学をしてもよいといっていたが、本人が進学の効用とそれによって失うお金を天秤にかけて進学をやめた例もある。一方、（35em）は大卒後、ワーキングホリディで海外へ行くにあたって、費用を親から「借りた」例である。親に経済力があり、

大学卒業後も体験や学習を経済的に援助できる親と、高校進学や専門学校進学もままならない親とがいるのである。

> 貧乏じゃないですよ。（生活は苦しく）ないです。どっちかっていうとお母さんは、あたしが迷ってたら、大学行ったら？とか言うような感じでしたけどね。お金はまぁあったみたいですけど、なんかやっぱり何百万とかガクッと減るとか考えたらなんか、やっぱどうも行きたいとも思われへんし。*（授業料、結構するし？）*そういうとこは別にいいって言ってたんですけど、別にめちゃめちゃ行きたいわけでもないのに行くのもなんかなぁと思って。
>
> **＜39cf・19 歳・高卒・女性＞**

> でも、下の弟ふたりが「進学したい」みたいなこといってたから、それも少し考えて、もう専門学校はいいかなって。*（あ、ちょっと遠慮したっていうか。２人だもんね。）*ちょっと大変かかる、ね。*（ご両親は専門学校に行きたいんだったら費用は出してあげるっていう話だったの？）*多分。詳しくはそういう話はしてないけど、「やりたいことしなさい」っていうことはそうかなって。
>
> **＜24cf・19 歳・高卒・女性＞**

> *（今年の１月から。で、ニュージーランドに 10 月から行くまで、卒業して、しばらくそのパチンコ屋でバイトして、お金稼いでってこと？）*金稼いで、そうですね。*（それで、ニュージーランドに？）*でも、全然足りなかったので、親に借りたんですけど、ちょっと行く前に借りて。ちょっと用があって、最初、２月ぐらいに行く予定だったんですけれども、時期を早めて。
>
> **＜35em・25 歳・大卒・男性＞**

4.4　小括

関西のケースは、家計が苦しく、高校時代もアルバイトで自分のこづかいを工面しているのが特徴である。なかには、親に数万円を渡していた者もいる。親には頼れないという自覚が早いうちからあり、高学歴層に比べると、経済的には早期に自立しているともいえよう。高卒後、進学する経済的余裕はない。卒業後は、収入の一部を親に渡している。親のなかには、お金さえ入れば、職業形態は何でもよいとする者もいて、子どもの就職に関心がない。このような家庭環境の反映で、長期的な見通しをもって職業選択をしたり生活設計を立てることよりも、当面お金が入ることを優先させ、刹那的にアルバイトを重ねるという傾向がみられる。

東北のケースは、地域経済の悪化の影響で、親たちの就業条件もよくない。勤め先の倒産、リストラ、減収などが家計を悪化させている。その結果、高卒後進学させる余裕がない。就職口がない場合でも、オールタナティブとして子どもに進学の道をとらせる経済的余裕がない。職業的知識やスキルを引き上げるために学校へ行かせるだけの資力がないまま放置せざるをえない状況がある。関西や首都圏と比べ、高校生のアルバイト機会は限られているうえに、高校生のアルバイトは大都市ほど一般的ではなく、高校は原則として禁止している。そのため、関西のように、早期に親から経済的に自立するという動きはない。

一方、首都圏では、子どもの教育に対する関心が高く、大学進学があたりまえの環境で育

っている。進学が経済的に可能である点は関西・東北と大きな違いであるが、それでも教育費負担を乗り切るために、母親がパートで働くことは一般的である。アルバイトは大学に入ってから開始されているが、その収入はこづかい源として不可欠となっている。就職難に直面して、さらに職業能力を高めるために、専門学校等に行って資格をとろうとする傾向も強く、親がかりは期間はますます長期化している。

５．親のしつけ・養育態度・子どもへの期待

学校時代の学業への姿勢は、親の教育方針・養育態度が関係している。同様に職業選択、その後の職場への適応においても、それまでの期間に子どもの職業選択に関して親がとってきた姿勢・態度と無関係ではない。また、生活設計に関しても同様の指摘ができる。

関西の場合、子どもに対する親の態度は無関心と放任という特徴をもっている。進学や就職に際して、そのことに関心を払って子どもと話し合ったり助言したりすることがない。親からは「なにもいわれなかった」が特徴である。概して、親から何かを期待されたという経験がない状態で育ってきたため、職業選択においても、とくにやりたいことがない状態である。しかし、「やりたいことがない」ことを悩むこともない点が、大卒フリーターと異なる点である。結局、「お金さえ入れば、何をやってもかまわない」という認識がある。東北の場合は、子どもの進路に無関心というわけではないが、学校での業績に期待をしているというわけでもない。地元で就職できればそれでよいという意識であるが、その就職口が乏しく、従来のような地元志向のライフスタイルを完結することが困難な実態がある。

首都圏の高学歴の親は、高卒後の進学を当然と考えており、学校での業績に対する強い期待がある。親がサラリーマンだからそれ以外の職業選択を考えたことがないという者も多い。家庭にも学校にも、大学に行くのは当然という雰囲気があり、親の期待は時には圧迫となり、悩みとなり、親子間の葛藤を生じている。教育に関する競争的環境のなかでは、時として「なぜ学ぶのか」「学んでどうするのか」を考えることなくやみくもに勉強することになり、いざ就職という時点で躓く原因となっている。親子関係に関しては、子どもに寛大で理解をしようとする親が多く、コミュニケーションによって事を進めようとする点で関西、東北とは異なっている。就職難でフリーターになっている子どもに対しては、プレッシャーをかけまいとする配慮や思いやりがあるが、時に不安をのぞかせている。親が就職難に立ち向かう子どもによりそって情報収集をし、それとなく子どもの後押しをしている例もある。

5.1　学業に関する親の態度

低学歴層の場合、勉学に関しても職業選択に関しても、親の期待がおどろくほど少ない。本人は、子どもの頃から親に何かを期待されたという記憶がない。父親とはコミュニケーションがほとんどない。また、日常的なしつけに関しても、「なにもいわない」親が多い。そうでない場合は、一方的な叱責というやりかたで、子どもは親を恐れて口をつぐんでいる。学

卒時の就職に関しても、親は「何もいわない」「お金さえ入れば何もいうことはない」という態度である。

5.1.1　子どもの学業への無関心

（4bf）は親から勉強に関して何かいわれた記憶がない。（6bf）（38cf）もそれに近い。（4bf）の両親はパチンコ狂いで、食事すら作ってくれたことがない。

> *（両親は勉強についてなんか言ってましたか？）*ゆってたんかなぁ。*（記憶にない？）*全然記憶にない。*（両親は口やかましく、しつけとか言わなかった？）*うん。*（好きにやらしてた？）*ほったらかしっていったほうがいいんかなぁ。（お兄ちゃんに対してもほったらかし？）そんな感じかなぁ。たぶん。両親パチンコ好きやねんなぁ。だから仕事終わったら*（パチンコ？）*あんまし相手にされた記憶もないし。
>
> **＜4bf・高校中退・20 歳・女性＞**

> *（親は、学業に関して何か言いませんでしたか？）*塾は言わへんかった。勉強せえっていう。お父さんは言わない。*（お母さんからは？）*でも、勉強ってあんまり言われへんかった。
>
> **＜6bf・20 歳・定時制高校中退・女性＞**

> *（小学校中学校の頃、お母さんから勉強面では何か言われてましたか？）*うーん、あんまり、言われなかったと思います。*（記憶にない？）*うん、あんまり勉強のことは、あんまり言わなかった。*（将来のことについては？）*うーん、なんか、うーんと、とりあえず、なんか自分が、まあ、できる仕事があったら、なんかそれやったらいいんじゃないみたいなそんな感じ、かな。
>
> **＜38cf･18 歳・高卒・女性＞**

（46cf）は、父親と離別。母親から「高校だけは出るように」といわれている。小中学を通して勉強が得意ではなかったが、高校は行くものとして、なんとなく進学している。

> （高校に行くことは）それは決めてた。行っとかなあかんかなみたいな。（お母さんから）一応言われた。高校行くんかって。行っとかなあかんやろって言われて、うん。そうやなあって。*（高校を決めた時お母さんからアドバイスがありましたか？）*お母さん何も言わない人なんですよ。決めるときとかでも好きにしいやっていっつも。
>
> **＜46cf・19 歳・高卒・女性＞**

（12df）の親は、親が勉強することを子どもに勧め、きちんとした方針で子どもに臨んでいる。たとえば、「うちのところ結構厳しいんですよ。高校でもいくんやったらちゃんと行き。アルバイトしとったら集中できへんから、それは高校卒業してから行き」といわれてアルバイトをしていない。関西のケースのなかではめずらしい方である。

> お父さんもお母さんも高校行ってないんかな、家庭状況とかでいろいろ。昔やからあんまり裕福じゃないから、「高校だけは出て。その後は自分で決めたらいいし、大学行くんやったら大学行ったらええし。その後は自分で好きなようにやったらええで」って言うとったりしとった。
>
> **＜12df・20 歳・専門中退・女性＞**

5.1.2　進学へのあきらめと無関心

関西では、専門学校へ進学したのは（12df）一人しかいない。進学への期待が低いのは、それまでの学校生活において勉強が不得意であったり、怠学傾向が著しかったからという背景がある。専門学校に進んだ（12df）も、授業についていくことができないことを、親にも納得されて中退している。(28cf）は高校までの怠学が著しかったため、親は進学を認めなかった。このような場合、高学歴層と違うのは、進学に対する親の強い願望がみられないことである。

> そうですね。卒業したら専門学校に行きたいなという感じ。でも、親に、どうせあんた、専門学校に行っても、今みたいにサボるだけやねんから、そんなんやったら行かんほうがいいみたいに言われたんですよ。ほんまに料理の勉強したいんやったら、どこかに、見習いで就職か何かして、勉強して調理師の免許とりなさいという感じ。
>
> **＜28cf・19 歳・高卒・女性＞**

> *（お母さんに進路のことについて十分相談したんですか？）*そうですね、１回やめて、やめたって言っても、専門学校行ってたときに、勉強が不十分やったから、２年生に上がることができないんですよ。それやったら留年するかやめるか、どっちかみたいになって、絶対嫌やと思って、絶対留年はしたくない。友達が２年生に行って、私がまた１年生。年下の子と一緒になるのが嫌なんですよ。絶対嫌や、それやったらやめると思って、どっちみちこんな学校も行きたくないし、もういいわと思って、もうやめて、お母さんともいろいろ話して、「もうそれやったらやめていいよ」って言うてくれたし…。
>
> **＜12df・20 歳・専門中退・女性＞**

5.1.3　大学進学が前提の家庭環境

関西、東北と比較すると、首都圏では大学進学があたりまえとなっている。大学へ進学して、よりよい職業に就くという人生コースを親は勧めている。子どもはそのような親の期待を受止めて励んだり、プレッシャーを感じて悩んだりしている。親、きょうだい、親族、そして学校や地域全体が、教育を通して身を立てていくという価値観をもっている様は、先の関西、東北と大きく隔たっている。

（2am）は、学歴に対する期待の強い家庭環境で育ち、姉も大学を卒業している。しかし、中学１年から学校に居場所がないと感じるようになり、いじめもあって不登校になり、２年間の不登校の後、フリースクールへ通っている。(30ef）は、高校進学で不本意に女子高校へ進学したが、本人の意思に反して高校で附属短大コースに入れられたため、それに従わず放送関係の専門学校への進学を選んだ。(35em）も、大学進学が当然という環境のなかで育ち、塾や家庭教師の指導も受けている。大学卒業後、1 年間ワーキングホリディを利用してニュージーランドへ行ったが、その費用の一部は親に出してもらっている。

> 自分がそういう経験だったから、子供にはすごく大学まで行ってほしいとか言っているみたいです。ただ、姉にはすごくお金をかけたりとか…。家庭の状況というより、その

ころは世間がそういうふうになっていたから…。子供は小学校に行って、エスカレーター式に学校…、その教室みたいなのができていた。*（おばさんというのは？）*父親の妹にあたりますね。東京に住んでいまして、建築系の高校を出て、建築系の会社に勤めて、女性ですが、今、課長をやっているとか何とか…。*（とても心配してくれてるね？）*そうですね、当時は。今はすごくうるさく言われるので、いいかげんやめてくださいと言ったんです。あまりうるさく言わないように言いました。心配してくれたのは悪かったなと思わないこともないですね。小学生のうちはまあまあまでしょうかね。成績だけはよかったから。*（お父さんの期待があったんだ？）*そうでしたね。申しわけない気がしますけれども。（小学生の頃、友達で「君は高校行くの、僕は行きたくない」と言った人がいて）今でも記憶に残っているから、かなりセンセーショナルだったんですね。姉がいて、姉がもう普通にそれなりに優等生で、大学まで行って結婚してますから、そういう姉の生き方みたいなものが自分の中にあって、圧迫していたのがあったようなものかもしれないですね。漠然と普通に生きるのはつまらなそうだなとは思っていたみたいですね。

＜2am・22 歳・中卒・男性＞

特に何も言わないで、むしろ私のほうが変に思い悩むというか、きっとこう思ってるんだろうなという、プレッシャーはありましたね。あまり私、親から言われているので、自分にあまり必要ないものは多分聞いてないかもしれないんですけど、うるさいなみたいな感じ。もしかしたら大丈夫と言ってくれてるのかもしれないですけど、でもそんなにあまりわあって言うタイプではないんです。*（親は基本的には好きなことやらせてあげようという感じ？）*だと思います。

＜30ef・24 歳・技術専門卒・女性＞

*（それって、高校生のときもそうだったの？）*高校のときも…。*（高校のときもまだずっとおばあちゃん子だったの？）*大学行く、進学というのは、もううちでは当たり前だったと思うんで、自分もそう思ってたし親もそう思っているんで、浪人したときは、何とか浪人させてくださいっていうふうには言ったけど、親も大学進学は当たり前だろうみたいな感じだったんで、適当に浪人させてもらって。（中略）でも、高校のときは塾に行ってなかったから、夜は親と話しとかしたんですけど。だから、生き物を扱うというか、植物だから、そんな休みなんか取れるわけもないしというんで、もうほんとにずっとおばあちゃんで、もうおばあちゃん子だったんですけど、それが大学２年の春に死んじゃって。それから、すごい考え方が変わったというか、何か就職とかも、大学卒業したら就職しなきゃいけないのかなみたいな疑問を感じるようになって。祖母の死と事故ですね。やっぱりすごい大学入ったときも、おばあちゃんが喜んでくれたし、そういうのもあったのかなという…。*（進学についてなんかは、ちゃんと話をしてたの。そのころちょっと多分、親に反抗的だとおっしゃったけど？）*でも、反抗的ではあったけど、その時ってやっぱり、高校進学して大学行って、で、ある程度名前のある企業に入るというのがイメージとしてあったんで、当たり前のようにやって…。*（そのことについては、親と話し合いもしたのかな？ どこの高校受けるのか）*そんなしなかったとは思うけど。まあ、姉も行った高校だったんですけど。

＜35em・25 歳・大卒・男性＞

5.2　就職に関する親の態度

5.2.1　子どもの就職への関心

関西の中卒、高校中退、高卒者をみると、親は就職に関して、子どもに何かを語るということがない。（1am）（17cm）は、日頃から父親と会話をしたことがない状態で、就職の話などする関係ではない。（18cf）は、親が子どもを「めちゃあほだったから就職もできへんのちゃうか」と感じているように、子どもに関して匙を投げている。どの例をみても、親が就職

に関して何もいわない状態にある。職業に向けて子どもを社会化する力が家庭にはないのである。

*（高校へ行って、その先どんな仕事についてほしいとか、そんな期待は聞いたことがありますか？）*ないですね、あんまり。おばあちゃんが死んで、おやじと２人っきりになって、そこからまた再婚になるという話で、そこからもうおやじと会話がなかったです、ずっと。

＜1am・24 歳・中卒・男性＞

*（お母さんは口うるさく言いますか？）*別に何も言えへん。きっちりしたことせえとは言うけど、それ以外は別に口には出してけえへん。*（お母さんからの将来への期待は？）*自分の好きなように。*（でも、調理師学校より、見習いに行けとお母さんから言われたと？）*それは、専門学校行っても意味ないから、そんなんに行くんやったら…。もしそんなんしてんやったら見習いで行ったほうが役に立つからそっちに行けって。それがしたいんやったら。

＜3bm・17 歳・高校中退・男性＞

*（高校を卒業するとき、お父さんお母さんから話はなかったんですか？）*そうです。「一応探しや」、それぐらい。「わかった」とか。*（正社員のような仕事を？）*があったらいいなというか…。お父さんとは全然しゃべらない。ちっちゃいときから。何かしゃべられへん。怖いというのはあんまりないけど、お父さんとしゃべれないんです。

＜17cm・19 歳・定時制高卒・男性＞

*（将来はこうなってほしいといった話は？）*別に。「高校はちゃんと卒業して」とは言われていたけれども。進路を決めるときに、服屋の店員になりたくて、「学校からの就職はせえへん」と、親にも先生にも卒業の大分前から言っていて、それで何もせえへんかったし、お父さんもそのときは別に。めっちゃあほやったから就職もできへんのちゃうかという感じやったし、就職前とかになったら化粧とか服装とかも学校でめっちゃ言われるじゃないですか。だから、そんなのもうざかったし、就職をする気もなかったし、それは親にも言っていたから特に何をしろとは言われなかった。

＜18cf・20 歳・高卒・女性＞

*（就職についてお姉さんから助言は？）*うーん、あんまり。短大行ってもあんま意味なかったとか言ってましたけどね。まだ若いから行けるとかなんか。

＜39cf・19 歳・高卒・女性＞

*（具体的な仕事については？）*ない、な、この仕事をしてほしいとか、そんなんとか、ですか？それは全然ないです。*（仕事はするもんだよ、っていう感じ？）*うんうん、そうです。*（お嫁さんに行きなさいとかは？）*そんなことは、うん、あまり言わない。*（今の状態についてお母さんはなんかいってます？）*や、い、言ってないです。*（今後のことについては？）*あんまり、言われてないですね。なんか就職、いいのあった？みたいな。*（今までで仕事の話をお母さんとしたことは？）*覚えてないです、はい。*（本人が気にしてるの、よくわかってるからかな？）*さぁーどうやろ。

＜38cf・18 歳・高卒・女性＞

*（さっきのあれかな 20 歳くらいまでに就職してくれたらいいって感じ。結構親にああしなさい、こうしなさいって言われることあった？）*なかったです。

＜25cf・18 歳・高卒・女性＞

5.2.2　親のとまどい・圧力・助言

安定した仕事に就いていない子どもに対して、親はどのような態度をとっているだろうか。子どもがフリーターでいることを非難し、定職に就くことを強く勧める親がいる。その役割をきょうだいが果たしている場合もある。いっぽう、ほとんど何もいわない親もいる。

（45cm）は、工業高校に行きたかったが親に反対されて普通高校へ行ったために勉学意欲を無くし、卒業後も兄の会社でアルバイトをしている。大手に就職することを願ってきた親に、「人生の負け組み」だとなじられている。（41cm）は、最初は調理師をやめて定職についていないことを容認されていたが、時間が経つにつれて親の態度が変わり、厳しく攻め立てられる状況にある。（51em）は離家して同棲中であり、ミュージシャンを目指してフリーターをしているが、今後いっさいの責任を自分でとるよう、親から言い渡されている。

*（親は例えばどんなことを？）*１回就職してるから、フリーターじゃ情けないとか。それぞれみんな、妹は美容師の道に進んでそれなりに目標持ってやってるけど、あんたには目標がないって。（中略）もっと大きい会社で、うち来いや、そんだけ売るんやったらうち来てくれみたいなのがあって。おまえは人生の負け組やって言われます。負け組とかって。別に負け組でええよって。人生楽しかったらええもんとかって言って。*（お兄さんからは）*むちゃくちゃ言われます。一緒のところで働いているじゃないですか。そんなんで就職できるの？それで通るかって。しようもないとこやったと思うんやけど。*（高校のときの就職を探す条件は？）*大きいところ入りなさいという。親が。大手入りなさいって結構言いますやん。*（つぶれなさそうな？）*そうです。（中略）〇〇高行きたくなかったんです。*（何で？）*僕はこっち系を進みたかったですから。でも、工業高校ってすごい親からしたら、あんまりいけてなくっぽくないですか。*（普通科のほうが？）*その時代、まだ普通科行ってほしいというのが。工業高校というのは普通科行けなくて…。イメージが。今だったら工業高校、手に職つけて。だから、僕も初め工業高校行きたいって言うたけど、普通科行きなさいって。その時点で僕はもう終わってしまった。*（建築関係に進みたいとお母さんに話はした？）*してないです。

＜45cm・24 歳・高卒・男性＞

*（お父さん、お母さんは仕事について？）*最初は全然言わなかったんです。調理師見習いやめて、ゴロゴロしとけって言われて、ガードマンやってて。そろそろ決めよーみたいなことを言われ出したのが、倉庫に決まる前です。その辺で倉庫決めてやめたときも、夜とか遊びに行ってんのとか、朝方帰って来たのが続けて見られたりすると言われます。そんなら貸さんぞみたいなことを言われましたからね。

＜41cm・22 歳・高卒・男性＞

<u>現在、親と別居して同棲中。</u>*（バンドのことをお父さん・お母さんは何も言わない？）*そうですね。バイトをちゃんとやりながら…。高校のときのが効いているんでしょうね、きつく言えないというのが。いつも言われるのが、一緒に暮らして、お金を送ったり、そんなのは全くいらんから、自分らは自分らでやってくれという感じで言われました。私らも私らでやるし、迷惑をかけへんし迷惑をかけるなよという感じで。それでも別に仲が悪いわけではなくて、彼女と２人で遊びに行ったりもしたりしているので、仲はいいですけど何も言われない。働くんやったら働いたらいいし、働けへんなら働けへんでいい。何でもいいけど自分らでやれと言われたんです。

＜51em・22 歳・専門卒・男性＞

（26cf）は、家計に余裕がないため進学できず、希望する職種は求人がないため、パート

で働いている。親は、「こんな時代だからしかたない」と納得せざるをえない。（43cm）は高卒後、４月から運送会社に正社員として入るが、朝６時から夜中近い勤務で、１月に退社を余儀なくされた。その後はいい仕事がみつかっていない。親は子どもの厳しい就職事情を寛容に受けとめるしかない状況にある。

> *（でも「勉強しなさい」とか言われた？）*ぜんぜん言われたことはないですね。*（そうするとお母さんは、今のあなたのことみて何か不安に思ってらっしゃる？）*どうなんですかね。やっぱ「正社員のところで働いてもらいたい」というのはあるみたいですけど。とりあえず仕事があれば、「今はいいかな」っていう感じですかね、こんな時代ですから。*（何か決める時、お母さん達はその話したことについて、何か意見を言ってくれるの？）*あんまり言わないですね。*（「自分で考えればいいよ」っていう感じ。）*
>
> **＜26cf・20 歳・高卒・女性＞**

> 薦めたりはあんまりしなかったですね。自分の主張を第一に考えてくれるんで。*（あーそうね。じゃ親御さんと話ができるんだ。中学くらいの男の子って、親と喋らない子が多いじゃない。）*あー結構、しょっちゅう喋ってましたね。はい。（中略）やっぱりそこは「早く仕事しろ」って言う。*（それは、はっきり言うのね。「いいかげん仕事探してるの」とか、どんな言い方するの？）*そんなきつくはないですけど、はい、「早く探したほうがいいよ」とか。軽い感じで。*（親も別に東京に行けとも言わない、残れとも言ない、好きなようにしていいよって？）*行けとも残れとも言わない。
>
> **＜43cm・20 歳・高卒・男性＞**

（16cf）は、卒業後のことを何も考えないまま、卒業して、そのままアルバイト続けて 24 歳になっている。「ゆっくり考えればいいかなって。行きたいところも特になかった。…（進学して）そのままやめちゃってももったいないし、行くならもっと定まってから行った方がいいかなみたいな…」という意識だった。親はもともと進学を強く勧めてきたが本人はその気にならなかった。その後も親は毎年進学を勧め、資格をとることなどをアドバイスしているが、以前ほどは言わなくなっている。しかし本人は、25 歳を前にして定職に就きたいと意欲をみせている。（14cm）も、高校卒業時点で、やりたいと思うものがなかった。数ヵ月後に親のつてで正社員になるが、仕事が合わずやめて８ヵ月になる。親は定職に就くことを強く勧めている。本人も、適当な仕事があれば、正社員になりたいと思っている。（16cf）も（14cm）も、学卒時には就職するだけの意識に達していなかった。親は定職に就いていて、経済的には安定しており、子どもが定職に就くことを終始期待し、必要なお金は出す気があり、助言もしている。このようなケースの場合、時間がかかっても、やがては定職に就きたいと自覚するようになっている。

> *（お父さんが定年になる前に何とかしてくれと？）*あ、言ってました。でも、それもだんだん言わなくなってきて。*（のらりくらりしてると、何かあんまり言わなくなった？）*うん。*（あんまりうるさく言う？）*そんな感じでは…。*（正社員になろうと思ったとき、資格をとろうかと考えたことは？）*一回パソコンの何か資格を取っといたほうがいいって親に言われて、思ったんですけど、でも実際何か学校で学ぶより、働いてやったほうがという。学習時間をやるんだったら、働いているとこで覚えたほうが、身につくよう

な気がして。*（お母さんは自分の娘に専門的な仕事についてほしいとかは？）*そうですね。そういう看護系とかそういう系じゃなくても、資格は持っといたほうがいいよって、結構言われる。*（パソコンの資格とか）*お母さんが、「何か持っといたほうがいいから」って。*（お母さんはやっぱり言う？）*「何がいいかな」って。（笑）これっていうのがないので、そこまで何か、取りに行こうとかまで…。*（今の状況について両親は？）*卒業して、３年ぐらいはずっと冬ぐらいになると「進学しな」って。短大とかって持ってくるんです。買ってきたよって。「見ない、見ない」っていう感じなんですけど、最近は、「結婚しないの？」って。ずっと続けるなら続けなさいみたいな感じで。

＜16cf・24 歳・高卒・女性＞

もう、勉強したいとは思わなかったです。*（じゃ、働きたいと？）*遊んでいたいと思いました。（中略）かなり、うるさいです。*（自動車整備工の専門学校はお金がかかると思うのだけど、もっと強い気持ちになったら行ける可能性はありますか？）*はい、両親が出してくれるので。*（ご両親は、「専門学校へ行ったら」というような話が出ることはありますか？）*はい、「行きたいのなら出すから」と。*（お父さんは厳しいですか？）*厳しい方ですね。*（今は、「就職しろ」とかうるさくおっしゃいますか？）*はい、「出ていけ」と。*（同じ警察官になってほしいとか、こういう仕事に就いてほしいとか？）*雇用保険にちゃんと入っているようなところに就職しろと。*（お母さんは具体的に何かおっしゃいますか？）*とりあえず、バイトでも何でも「どこでもいいから働け」と言います。*（お父さんは正社員になってほしいのね？）*ですね。

＜14cm・19 歳・高卒・男性＞

（30ef）は、映像関係の専門学校を卒業して、映像・音響関係の仕事をしてきたが、どれも不安定なアルバイトで、期待したような定職に就くことができないでいる。就職２年後に母親が病気で倒れたため、彼女が看護をしなければならず仕事をやめた。こうして長いブランクを経た後、再びアルバイトとして再開したところである。親は高学歴で、子どもの希望に対して理解はあり、辛抱強く見守っている。（35em）は、大学卒業後、ワークンギホリデイでニュージーランドに１年間行き、帰国後、アルバイトをしている。定職に就きたいという気持ちが強くあり、相談員に相談したり、情報を収集しているところである。どんな仕事でもいいという気持ちではなく､納得のいく仕事に就きたいという気持ちが強いのであるが、親は、基本的には寛大に見守っている。親の気持ちを姉が代弁しているということであろうか。

それで、結局１年近く。何も仕事しなくて。お母さん自体はそんなにずっと入院してたわけではないんですけど、やっぱりすごい心配で仕事はできなかったです。それでそろそろ大丈夫かなみたいな感じで、就職しなくちゃいけないんだけど、とりあえず最初からそんなうまくできるわけがないから、前行ってた、その人のバイトで、ちょうど友達から電話がかかってきて、人手が足りないんだけど、補助とってきてくれるかなと言われて、それじゃというので、それから現在に至っています。*（今の状況について）*お母さんはもうあきらめてるというか、なんか変なことで頑固で、やっぱり負けたくないというのありますので。お母さんはそれは言ってもむだでしょみたいな感じ。お父さんもはなから、だめだみたいなふうには思ってはないんですけど、社員には早くなってほしいとは思ってる。

＜30ef・24 歳・専門卒・女性＞

*（それでも、別に、居心地が悪いわけではない？）*上の姉にはめったに合わないんで。

親もそこまでは言わない。父が酔っぱらったときに、ちょっと。母もたまには、「早くしなさい」ぐらいは言うけど。*（全体としては、理解のある家族っていう感じですね。）*理解のある家庭ですね。*（でも、心配していることはよくわかるから、伝わってきている？）*そうですね。*（お姉さんとかから、何か言われない？）*すごいですよ。特に上の姉がすごいきつい性格なんで、すごい言われますね。下の姉にも何かちくちくは言われるけれども。*（そうでしょうね。ずっと職場に入ってやってらっしゃるだろうから、やっぱり強い。やり続けられないと。それに　お姉さんが、働けというのですね？）*もちろん、働けって。*（正社員に早くなって、早く大人になれみたいな。）*そうですね。

＜35em・25 歳・大卒・男性＞

5.3　日常生活における親の態度

学業や就職に対する親の態度をみてきたが、学業や就職以外の日常生活において、親は子どもにどのような態度をとっているだろうか。とくに、家庭において守るべきルールやしつけに関してどうだっただろうか。

5.3.1　無方針と放任

学業や就職においてみられた無関心や放任という態度は、当然、日常生活においてもみられるものである。（17cm）は、離婚・再婚した親の家と祖母の家を行き来してくらしていて、親とは感情の点でのコミュニケーションの点でも断絶に近い状態である。（6bf）は父母が不仲で、父親のことを嫌い会話がない。（4bf）は両親がパチンコに興じている。

*（お父さんとお母さんは厳しいんですか？）*全然。勝手にしろっていう感じです。*（放任で？）*はい。*（幼い頃からしたいことをすればいいと言われてた？）*全然ないです。

＜17cm・19 歳・定時制高校卒・男性＞

*（小学校のときとか、おうちで教えてくれたりとかそういうことはなかったですか？）*うん。*（しつけのことで何かよく言われたことがありますか？）*しつけ？　あまり言われない。覚えていない。*（しかられるようなことはしなかった？）*してた。お父さんは全然言わない。*（お母さんは何やったときに言われた？）*万引き。万引きのときは、お父さんにも怒られた。*（お父さんはお兄ちゃんには怒る？）*ううん。*（お母さんから将来の期待などの話はありますか？）*ない。*（小さい頃から？）*覚えてない。

＜6bf・20 歳・定時制高校中退・女性＞

お母さんは、学校の給食の仕事が終わったらすぐパチンコ行ったりとか。*（お母さんもあんまり家にいなかった？）*うん。帰っていてる形跡はほとんどない。

＜4bf・20 歳・高校中退・女性＞

*（お母さんちゃんと支援して。支援ってへんだな、もうそれでいいやと？）*ですね、ほんまに。全然何にも言わないんで。*（元々、お母さんあんまりうるさくない？）*そうですね、何も言わん人です。

＜37cm・19 歳・高卒・男性＞

いっぽう、（43cm）は、親と十分に話ができる状態にあり、そのような関係を通して、自分の主張を親が尊重してくれていると感じている。

薦めたりはあんまりしなかったですね。自分の主張を第一に考えてくれるんで。*（あーそうね。じゃ親御さんと話ができるんだ。中学くらいの男の子って、親と喋らない子が多いじゃない？）*あー結構、しょっちゅう喋ってましたね。はい。（中略）やっぱりそこは「早く仕事しろ」って言う。*（それは、はっきり言うのね。「いいかげん仕事探してるの」とか、どんな言い方するの？）*そんなきつくはないですけど、はい、「早く探したほうがいいよ」とか。軽い感じで。*（親も別に東京に行けとも言ない、残れとも言わない、好きなようにしていいよって？）*行けとも残れとも言わない。

＜43cm・20 歳・高卒・男性＞

5.3.2　厳格な方針やルール

東北では、（19cf）のように、門限が決められている家庭が多い。（16cf）は、親が日常的に、勉強のことや行動に関して明確な指導をしていた例である。

厳しいです、かもしれない。あ、しつけの方はどうだかわかんないですけど、まあ、門限があったりとか、そういう意味では厳しいですけど。*（門限があるの。あったじゃなくて、今もあるの？）*あります。*（門限って何時？）*８時です。*（へえー。それちゃんと守ってるの？）*まあ、ぴったりには帰れませんけど、８時前後で帰ってます。

＜19cf・18 歳・高卒・女性＞

*（両親のしつけとか、高校の時は何と？）*はい。学校はちゃんと行きなさいって、結構怒られたんです。めげなかった。（笑）「行くよ」って、行かなくて。*（割と口出しする感じ？）*うん。高校のときは結構うるさかった。*（何をしたらいいのか迷っているとき、だれに相談をしてるの？）*相談とかしない。（自分で）考える。（彼とか友達とか両親とか）あんまり相談とかしないで、自分で情報を集めて。

＜16cf・24 歳・高卒・女性＞

5.4　小括

低学歴層の親は、子どもの学業・就職に対して無関心で、放任に近い状態がある。学校での業績に無関心であり、職業選択に関しても無頓着である。お金が入ればそれでよい、という感覚がある。親子の間に意思疎通のない家庭があり、時には一方的な叱責で事を解決しようとして、子どもの反発をかっている。これらの家庭は、子どもを職業へといざなうという点で、子どもの社会化機能を果たしているとはいえない。いっぽう、首都圏の高学歴層においては､大学教育を受けることが自明の前提となっている｡教育に関する親の関心と期待は、前述の低学歴層とは対照的である。しかし、教育と比較すると、職業に関して親が日頃子どもに示してきたことは少なく､｢正社員になった方がいい｣などの一般的助言に留まっている。なかには、親の不仲、離婚、病気その他が生涯となって、学校から仕事へのスムーズな移行ができないケースもある。

６．親子の会話・行動・情緒的絆

ここでは、親子がどのような関係にあるのかを会話・共有時間・情緒的絆などの側面からみていく。

6.1　親子の会話・食事・同伴行動

6.1.1　意思疎通のない親子関係

関西の場合、先にみたとおり、親子の経済関係でみると、対象者の多くは早期に親から経済的に自立する傾向がみられる。相互作用の点では、家族間のコミュニケーションがない家庭、とくに父親との断絶が目立つ。

（3bm）は母子家庭であるが、親子・きょうだいの間に会話はほとんどないという。学校時代から放任の状態で、高校の三者面談に母親が来たこともなかった。（39cf）の父親は、子どもに対して言葉をかけることがほとんどない。それでも、高卒後就職した会社が自分には合わなくてやめたいと悩んでいた時、父親から、「なんかすごい泣けるメールがきてしまって」、それははげましのメールだった。めったに言葉をかわさない父子だが、このことは印象的な出来事で、今でも思い出すと泣けてくるという。（4bf）は、両親が仕事の後はパチンコ屋にいりびたりで、放置に近い状態だった。

> *(お母さんとは話しする？)*せえへん。ずっと自分の部屋におるから。*(弟とは話しする？)*別の部屋。だから、弟ともしゃべれへん。だから、弟が学校行くときはもう寝てるし、帰ってくるころにはバイト行ってるし、帰ってきたら、大体寝てるし。
>
> **＜3bm・17 歳・高校中退・男性＞**

> （お父さんとは）仲良くないです。ほとんどしゃべらないですね。*(嫌いだから？)*もともとちっちゃい頃からそんなにしゃべらなかったですけどね。なんか大体同じ部屋に、部屋がこうあって、真ん中がふすまなんですよ。で、こっちにもテレビあるし、こっちにもテレビあって、もう、いっしょに見るとか絶対ないし。だからこっちとこっちで、同じテレビがかかってて、別々で見てる感じ。電気代もったいないけど、でも、一緒に見るとかあり得へん。*(なぜ？)*えー？あり得へん。なんかもう自然と。なんかちょっとした他人みたいな感じ。なんかちっちゃい頃から。*(お母さんとは？)*いっしょになんかスーパーとか行ったりはするけど、基本的にはあんまりしゃべらんかな。
>
> **＜39cf・19 歳・高卒・女性＞**

> *(お父さんとは、あまりかまってくれなかった？)*うん。あんまなかった。寝るのが一緒なくらいかなぁ。だから、○○から帰って、家におることは全然なかったかな。*(お父さんが？)*いや、お父さんは仕事で遅くなるけど、仕事終わってから家に一度帰ってくることがなくてそのまま直接パチンコいったり、けっこう飲みに行ったりとか。
>
> **＜4bf・20 歳・高校中退・女性＞**

6.1.2　意思疎通のある親子関係

（1am）（12df）（19cf）（14cm）は、親子の関係が良好で、コミュニケーションが十分にある例である。この関係は、ずっと続いてきたものとばかりはいえない。例えば、（1am）の場合、まったく言葉をかわさない時期もあったが、ある年齢に達してから、素直に話しのできる関係に転じている。

> *(中学ぐらいの暮らしぶりとは、卒業してバンドをやり始めて？)*もう全然違いますね。親子の会話がものすごいできていますから、今。
>
> **＜1am・24 歳・中卒・男性＞**

*（今も家族で食卓囲むってことが多い？）*そうですね。*（お炊事とかは？）*最近私ですね。*（弟さんは反抗期とかではないですか。一緒に食卓に座って？）*普通ですよ。ただ御飯に関してはうるさいですね。「水多過ぎ。ぐちゃぐちゃ」。めちゃうるさい。「これ味薄い。塩」。薄味なんですよ。文句ばっかり。

＜12df・20 歳・専門中退・女性＞

家にいるときは、あんまり 1 人でいる時間ってないんですよ。1 人でいるよりも、家にいれば誰かいるんで、お母さんといたり、ばあちゃんとしゃべってたり。そっちのほうが多いですよね。*（お姉さんとかと話すことはありますか？）*あります。けっこうしゃべります。*（きょうだいは割と？）*仲いいです。

＜19cf・18 歳・高卒・女性＞

*（家族とはよく喋りますか？）*はい、喋ります。

＜14cm・19 歳・高卒・男性＞

6.2　親子の対立・葛藤

（4bf）（28cf）（22cf）の例は、放任・無関心と、強硬な抑圧の入り混じった親の態度を示している。親子間に言葉による話し合いがない状態で、ある出来事（たとえば夜遊び）に対する一方的な叱責と、それに対する子どもの反発という関係である。

*（そういう風な家出したり、友達んとこ泊めてもらったりってことをお父さんやお母さんはなんか怒られたりとかそういうのはなかったかな？　それとももう好きにしてって？）*ごっつい怒られたかな。ごっつい怒られて、その怒られたのがむかついて出て行く。*（たまに帰ってきたらまた怒られてってそういう？）*そう。最終的には親もあきらめた。言っても一緒やわって。

＜4bf・20 歳・高校中退・女性＞

門限とかめっちゃ厳しかったっすよ。破りまくっていましたけど。めちゃめちゃ怒られましたね。何言っても怒られるんで。ひたすら終わるまでじっと、すみませんみたいな感じでしたね。

＜28cf・19 歳・高卒・女性）＞

ぼこぼこにしばかれました。それの繰り返しで。しばかれるから出て行く、また引きずり戻される、またしばかれる、の。お父さんは、そのあんまり一緒にいてる時間がないから、ほんでそんなにしゃべらへんかったから中学の時には、どっちかというと。今となってはしゃべるけど。だから、もう、そないに頭ごなしに、ま、怒ってけえへんし。理由とかもお父さんは、聞いてくれるけど、お母さんは、あのなって言うた時点で、もう、手飛んできてて…（笑）。人の話しいっこも聞いてくれへんから、お母さん恐い。

＜22cf・19 歳・高卒・女性＞

（10df）は、弁護士になる夢をもって法学部に入ったが、勉強しない大学の雰囲気に嫌気がさして退学し、心のバランスを崩して現在に至っている。下記のインタビューからは、多少過保護ぎみとはいえ、親の心労が読み取れる。

*（20 歳前後で大学辞めて、心のバランス崩して？）*そうですね。いろんな所に行って、人と話して、一応、女の子だから危ないんです。親が心配するんです、変な男の人につけられたとか、実際にヤクザの人に目をつけられたりとか、別にだれかの所に泊まって

いるとかじゃなくて、目をつけられたとか、親はすごく心配だったんです。結構大変でしたね、何事もなくてよかったんです。家出もしましたね。１日で見つかったんです。格好悪いって言われました。「20 歳過ぎて、家出して１日で帰って来ないでよ」って。結局、いい子で来ちゃっているから、たばこくださいとか言って一番軽いのを買うんですよ。で、家出するんです。で、保護されて。
*（大学は辞めず、そのまま籍だけ置いておくという事も？）*考えたんですけど、うちの場合、非情ですから、「お金を払わないよ、行かないんだったら」。
そんなことはしてくれたし、習い事もさせてくれたんですが。（英語教室、専門学校も行き、海外に行く話もなくはなくて。しかし）「歳いくつ？」とか、資金の面とかでも大学に行ってないから行かせてあげようという気持ちがあったらしいんですけど。*（両親のほうから？）*でも､体の方が心配で。変なムシがついたら困るとか。

＜10df・28 歳・大学中退・女性＞

（8dm）は、大学工学部に進学するが勉強についていけず、中退した。その後専門学校へ入学するまでの期間アルバイトをするが､「面倒な人間関係を避けてきた」ためか、いろいろと失敗を重ね、大学進学を望んでいた父親との間に葛藤が生じる。（21cm）は家庭内不和と父親の死亡、母親の精神病、という環境のなかで、自分自身うつ状態になりひきこもりを経験する。

何ていい人なんだろう、見ず知らずの他人のことまで話しかけてくれてと思って泣きながら聞いていて、家に帰って、父がいたから、「こんなこと言ってくれる人がいるんだよ」って言ったら、「何だ人のうちのことも知らずに」って今度は逆に切れる、そこでせめて、「我慢が足りないとか、もうちょっとしっかりやれと言われるならいいけど、うちのことを知らないくせに」とかっていうことになって。「そんなにいろいろよく言ってくれた人がいたのに」と言ったんだけど。大学でも人を怒らせて、また人…。

＜8dm・24 歳・大学中退・男性＞

中学の１年生というのは、ちょうど親に一番甘えたい時期なんだそうですね。それで、僕は僕で親を失ったこと以前に、どちらかというと、精神病に、例えると、うつ病がついちゃったかもしれません。仮にそうだったとして、要因として挙げられるのは、父親を失ったこと以前に、父、母、長男、次男、三男の本人、僕を含めた家庭内不和が大きく影を落としていたと思われますね。お恥ずかしいながら、父と母は大変仲が悪く、僕が生まれる前から、父が帰宅をすると決まって言い合いをしていて、既に離婚の話も出ていたんですよ、僕が生まれる前に。（中略）僕のような家族構成というのは極端な例じゃないですか、あるかもしれないんです、あんまりいいほうじゃなくて。悲嘆に暮れる日があって、これといって勉強に精進したわけでもなく、部活もやらないで、学校が終わってすぐに家に帰るような、帰宅部と言うんですか、というのをやっていて、家へ帰っても、今で言うところの引きこもり君になっていたんです。今の引きこもり君というのはパソコンがあるから外部との連絡をとれるけれども、部屋でほんとうに１人でいて、親とも話さないじゃないですか、という感じなんだけど。*（今はもう親御さん達の家とは殆ど交流がないという事ですか？）*あんましないですね。*（向こうもあまりこちらに電話してくるとか、関心を持っていないみたいですか？）*俺が妨げたというのも多少なくはないのですけども。*（お兄さんとお母さんが一緒についてくると。そういう意味じゃお母さんの事はお兄さんに任せておけばいいし、という感じですか？）*人の家庭の事なんてそういう風に見えますか。言えない事の方が多いんで、そう思っていただければ。

＜21cm・31 歳・高卒・男性＞

（35em）（10df）の例は、経済的にも家族関係のうえでも恵まれた環境にあったことを表している。

ちっちゃいころからおばあちゃん子だったんですよ。両親が共働きで、うち、お花屋さんを両親がやっているんですけど、もうとにかく全然、僕はおばあちゃんに任せっきりみたいな感じで、保育園からもうずっとおばあちゃん子だって、だから塾とか行ってるときも、おばあちゃんがくれたご飯を食べて行ってみたいな感じで。もう親とはあんまり会わないぐらい。（中略）優しかったですね。しかも、何ていうのか、始めての長男だったし、内孫って言うのかな――だったから、すごいかわいがられて育ってきましたね。おばあちゃんと大体。

＜35em・25 歳・大卒・男性＞

兄が２人で、私なので、末っ子なので。*（可愛がられて？）*そうですね、蝶よ花よって、自分で言うなって感じ。

＜10df・28 歳・大学中退・女性＞

6.3　親との同居と離家

定職に就いていない対象者のほとんどは、親と同居している。その状態を彼ら・彼女らはどのように感じているだろうか。親の家から出て独立したいという意識はないだろうか。

6.3.1　同居のままでよい

（45cm）（3bm）は、お金がかかるから今は無理だと考えている。しかし、離家したいという強い願望があるわけではない。年齢に着目すると、24 歳の（45cm）はひとり暮しに強いあこがれを持っていたが、今ではそれほどでもなくなっている。いっぽう、17 歳の（3bm）は今の状態に違和感をもってはいない。家を出るにしてもずっと先にことと考えている。

ひとり暮らししたいのは、若い頃はしょっちゅう。今はもう家でいいかなって。*（どの辺が？）*何かと便利です。*（ひとり暮らししたら家賃とかは？）*要らないです。してみたいのもありますよ。お金もらってたらできるかもわからないけど、結構しんどいかも。*（金をたんまり稼ぐようになったらひとり暮らしでも？）*やっぱりお金でしょう。

＜45cm・24 歳・高卒・男性＞

ひとり暮らししたらお金がかかるから、ある程度稼いで、ひとり暮らしができるぐらいの金がたまるまでは家で。*（お金が入るようになったら出ようという感じ？）*出ようかなとは思うけど、別にそんな焦りはせえへん。

＜3bm・17 歳・高校中退・男性＞

6.3.2　お金ができたら離家したい

（25cf）（14cm）は、離家することを強く望んでいる。しかしお金がないので今は無理だと感じている。（25cf）はすでに、家を出るためにお金を貯めている。

今は無い。いずれ○○県から出たいっていう感じ。地元から出たいです。*（これは一人暮らしをしたいっていうこと？）*はい。*（これはいずれっていうのは具体的にいつぐら*

*いに出たいってあるのかな？）*やっぱりお金がないとだめなんで貯めてから。*（その頃別に結婚してたりとかは考えてない？）*思わない。*（あんまり考えたことない。将来こういう家庭をもちたいというイメージはない？）*ないです。

＜25cf・18 歳・高卒・女性＞

*（一人暮らしはしたいですか？）*はい。*（一人暮らしのイメージはどんな感じですか？）*けっこう自由で好きな事ができる。*（14cm さんには家を出たい理由があるのですか？）*理由はないけど、一人暮らしをしたいです。*（今は、自由ではないという感覚があるのですか？）*それはないけど、家に誰もいない方がいいかなと。*（孤独が好きなの？）*はい。家で親父とかと居たくないので。

＜14cm・19 歳・高卒・男性＞

6.3.3　ずっと親の近くにいたい

（12df）（46cf）は母子家庭、（1am）は再婚家庭である。親の将来を案じ、自分の責任を自覚して、近くにいたいと感じている。

（将来）私的には、自分の親と住みたいんですよ。お母さんが一人やから。お母さんと住んで。*（弟さんもお姉さんも、親と一緒に住もうと考えて？）*多分ないと思いますよ。弟は絶対ないですね。

＜12df・20 歳・専門中退・女性＞

*（住むんだったら近く、それとも遠く？）*近くですね。親からあまり遠く離れたくないというのもありますね、まだこの世にいる限りは。

＜1am・24 歳・中卒・男性＞

一人暮らししたいけど、お母さんあんまり若くないからあんまり放っとかれへんから。不健康とかじゃないけど、やっぱりしんどいかなぁと思って。

＜46cf・19 歳・高卒・女性＞

6.4　親に対する感情

家庭環境に恵まれず、親の放任や理不尽を経験してきた（23cm）は、親を否定する気持ちをもっている。いっぽう、（35em）（2am）は、ジグザグな生き方を寛大に許してくれ、金銭的にも援助をしてくれた親に対する感謝とともに、親の将来に責任を感じている。

*（理想の大人は？）*身近…、そうですね。いてなかったですね。おやじのようにはならんとこうとは思ってました。*（何で？）*さっきも言いましたけど、借金、かなり多かったんですよ。*（何の借金？）*わかんないです。おやじのようにはなりたくない。*（お父さんの職業が嫌？）*そういうのはないですけど。ただ、おやじの性格的に、あまり尊敬できなかったんです。中途半端なんですよ。そういう面においては、兄のほうが信用というか、尊敬してたんですね、おやじよりは。

＜23cm・21 歳・高卒・男性＞

とにかくお金がなかったから、今もないし、最初の職場も家から通える範囲でと考えるぐらい家にいようと思ってたから、どうしてもやりたい仕事が遠いんだったら。ただ、すごい経済的とか、家にいるのは楽なんですけど、やっぱり共働きだし、家のこととかも子供の僕たちがやらなきゃいけないところもいっぱいあるし、まるまる１年いなかったんで、ちょっと感謝というか、親に恩返ししたいとか。*（ご両親は、どう考えている*

*んでしょうかね。今、多分、すごく心配してるでしょう。で、何とか正社員になってほしいと思っているのかな？）*今はなかったですね。すごいやっぱり、１年間家を出て、ニュージーランド行ってると、すごい親の愛は多分わかったし、すごい感謝はしてるし、そのときに、お金のありがたみとか、友達の大切さとか、すごいニュージーランドで感じたから、やっぱり帰ってきたから、全然親と接する態度も変わったと思うし、今は就職の問題がなければ、うまくいっていると思うし、そこまですごい家にいたくないと思うほど言われるわけでもないしって感じで。

＜35em・25 歳・大卒・男性＞

（今後のことは）逆に養わなければいけない立場になりそうな気はしていますし、年金生活にそのうちなっちゃうんでしょうし。さんざん世話になっていますから、何とかしたいですね。でも、すごく成功して、収入が多い分にはいいんですけど、親は養わなければいけないんでしょうね。多分、姉が面倒を見ないと思うので。見ないというか、向こうの結婚した相手のほうの親の面倒も見なければいけなくなるので、うちの父親、母親は見なきゃいけないと思ってます。

＜2am・22 歳・中卒・男性＞

6.5　早すぎる妊娠・出産

早すぎる妊娠・出産を経験した３人は、いづれも家庭環境に問題をもっている。（4bf）は両親がパチンコ狂で「あんまし相手にされた記憶もないし」という。（22cf）は、高校時代に怠学傾向のグループと接触して、「急にぷつっていったんです」という状態になった。彼女の両親も若い頃、学校では相当の「悪」で、警察に補導されたこともある。（46cf）は小さい頃親が離婚して母子家庭である。学校時代、勉強はまったく苦手であった。高校入学前から、母親にアルバイトをしてほしいといわれている。母親は、勉強に関してもしつけに関しても「何にもいわない人なんですよ。決めるときとかでも好きにしいやっていつも」*（ほんなら躾とかでもそんなにうるさく言わはる人ではないん？）*「けっこうほっとかれますね」という人である。彼女達は、（4bf）の表現でいえば、「まわりの子らが産んでいるから産んでみたいみたいなノリ」の感覚で妊娠・出産している。

*（そういう風な家出したり、友達んとこ泊めてもらったりってことをお父さんやお母さんはなんか怒られたりとかそういうのはなかったかな？　それとももう好きにしてって？）*ごっつい怒られたかな。ごっつい怒られて、その怒られたのがむかついて出て行く。*（たまに帰ってきたらまた怒られてってそういう？）*そう。最終的には親もあきらめた。言っても一緒やわって。（中略）16 のときかな。友達の紹介で付き合った子がおって、ほんでその付き合った子の子どもをお腹にはらんでしまって、まぁ産む前に別れたんやけど。んで産んだと。17 歳の５月くらいかなぁ。５月に子ども産んだと。だから子どもも別になんていうんかなぁ、ノリで産んだみたいな感じがあって。まわりの子らが産んでるから産みたいみたいなノリがあって。実際産んでみたらなんで産んだんやろとか。こいつがおるから遊びに行かれへんとかなって。そんなんあって家出とか。ま、３時間に一回とか泣くやんか子どもって。

＜4bf・20 歳・高校中退・女性＞

（卒業して、予備校は途中で止めて、ずっと）アルバイト。（手をけがしてやめて）それと、結婚するていう話が出てたんで、（大笑い）子ども、子どもができて、できちゃったになる、て言ってて。で、話も全部進んでて、先月先々月進んでて、うまい具合に行きそうな時に手けがして。で、ま、そのレントゲンとかバシバシとらなあかんし、仕

事もせなあかんてなって…今回はまだ若いんやし、ていうんで、お腹の子には悪いんやけど諦めなさい、て言われて…。で、子どもおろして、ま、結婚の話は延びてしまった、と。(笑い)。いろいろあるので…。

＜22cf・19 歳・高卒・女性＞

(アルバイトしていた期間は？) 2ヵ月くらいかな。子供を堕ろして、それで手術するのに、辞めなしゃーないから。立ち仕事はしたらあかんって。*(お母さんも？)* 知ってる。びっくりしてた。*(子どもが出来た時の彼氏は？)* 5つ上の人。お母さんつながり。お母さんがパートしてたところのバイトの人。飲み会につれていかれて、そのときに知り合いになった。*(すぐ付き合いだした？)* けっこうすぐ。

＜46cf・19 歳・高卒・女性＞

6.6　小括

意思疎通のある親子関係とそうでない親子関係がある。関西の低所得家庭には、意思疎通のない親子関係が多くみられる。早すぎる妊娠や出産もそれと密接な関係がある。首都圏においても、家族内の複雑な関係の重荷を背負った例がある。それらの重荷は、職業選択や職場への定着において、何らかの障害となっている。

離家に関しては、不安定な就業状態からいって、親の家を出ることは経済的には無理というのが実情である。離家に関する願望は、必ずしも強いとはいえない。現状では無理と諦めているという面もあるが、親と同居することに特別の問題があるわけではないというのも理由となっている。

7．今後の予定と将来イメージ

将来のくらしをどのようにイメージし、どのような予定をたてているのだろうか。とくに、仕事に関するメドと、結婚して家庭をもつことに関するメドをみていく。

7.1　これからの予定

ニュージーランドのワーキングホリディから帰ってきた（35em）は、就職したいと真剣に考えている。25 歳という自分の年齢を強く意識しており、「ふらふらしているのはまずいかな」という感覚をもっている。22 歳の（2am）は、25 歳には正社員として安定したいと望み、それまでにアパレル産業での経験を積んでおきたいと考えている。いっぽう、25 歳の（50em）は、複雑な家庭事情のなかで、昨年父母があいつで倒れ、母親は死亡した。それらの仕事がすべて彼の肩にかぶさったまま、25 歳を迎えて、心身ともに憔悴し先はみえない。

まず、親を安心させてあげたいというのもあるし、でもちょっと考えて、浪人までさせてもらって大学行かせてもらって、その後、パチンコ屋でバイトして1年間海外まで行かせてもらって、帰ってきてまたバイトって、すごい親に悪い感じがするし、何か親を安心させてあげたいというのもあるし、あとは、何か社会的な信用っていうか、24 まではそこまでは考えてなくて、25 になってから何か突然、ふらふらしてるのは、まずいかなって。責任というか信用というか。

＜35em・25 歳・大卒・男性＞

３年後は、経済的に自立していたいですね。正社員、できればどこかの社員待遇で働いて、月給 20 万円程度でいいので、そういうところで働いて、ひとり暮らしとかして、仕事していない暇な時間にスキルアップのために勉強していたいとか思いますね。

＜2am・22 歳・中卒・男性＞

*（25 歳くらいの将来展望は？）*25 ですか。自分のビジョンとしてはですね、アパレル関係って安定した職業ではないじゃないですか。不況とかにめっちゃ左右されますし。だから、25 まではアパレルを続けたいんですよ。自分の好きな仕事をね。25 歳超えたら、もうそろそろ結婚とか考えてるんで、安定した職業につきたいっていうふうには思ってるんです。それがどんな形で、どんな仕事であれ。

＜23cm・21 歳・高卒・男性＞

*（もうほんとに、今までも命をかけてきたんだけど、今度、ちょっと命かけ過ぎちゃって、今度、自分の番になっちゃったから。そうね、おじいさんと母親は、自分の身がわりになったって感じかな？）*そんな気持ちがするんだ。で、今度来るんだとしたら、今度、自分だから、悔いのないように。母親の影響で、ちょっと寿命が大体どれぐらいかわかったし。*（自分の？）*うん。自分もきっとがんになる。で、多分、50 幾つぐらいしか生きれない。*（そう思ってるの？）*母親がそれで死んだからよ。*（お母さんと同じような道をたどりそうな気がしてるの？）*うん。で、男性だから、多分それはもっと早く来る。

＜50em・25 歳・専門卒・男性＞

7.2　将来のイメージ

将来の生活レベルに関しては期待水準は決して高くない。（24cf）は、「一戸建てとかにはこだわらない」と表現し、（19cf）は「普通でいい」「お金がないとか言わなくてすむくらい」と言い、（2am）は、「お金があればいいとは思わなくて、とにかく生活を第一にして、たまにちょっとおいしいものをたべれたりとか」と言う。

一戸建てとかはあまりこだわらないけど、緑が欲しいというかガーデニングとか、そういう雑誌とかが家にあってそういうのいいな。

＜24cf・19 歳・高卒・女性＞

*（19cf さん的には将来、今よりはリッチな生活をしたいとか？）*もちろん思います。そりゃ、リッチにこしたことはないんだろうけど。いまは、まあ、いますから、あんまりそんな言えないですけど。*（どの程度の生活をしたい？）*普通でいいですね。*（あんまり金がないとか言わなくて済むくらい？）はい。（2 人で働けば大丈夫じゃない？）*たぶん、何とか。

＜19cf･18 歳・高卒・女性＞

結婚ですか。経済的にそれが可能ならしたいとは思いますけど…。私の親が 38 と 36 で年取ってた子供なので、遅れるといろいろ子供に対してコミュニケーションとか元気がなくなったり、あとは体力的につらいんだろうと思ったので、子供を産むんだったら少なくとも 20 代のうちには産みたいなと。それはそうです。年とって定年退職するころに、大学がどうとか就職活動でお金が要るとかなったら、とてもじゃないけど大変ですから。早いうちにつくっておかないと、子供のほうも大変になるから。（中略）稼ぎが多い分にはすごくいいですけれども、お金さえあればいいとは思わなくて、とにかく生活を第一にして、たまにちょっとおいしいものを食べれたりとか、いいものを買ったりとか、そういったことができればいいかなと。

＜2am・22 歳・中卒・男性＞

7.3　結婚に対するイメージ

男性の場合は、現状では結婚はできないと考えている。結婚志向が強いというわけではないが、もしできれば「自分はよくやった」と評価できるだろうという認識がある。結婚した場合は、共働きする以外はありえないという認識。一方女性の方は、結婚する場合は、相手の職種は問わないが不安定なフリーターではダメだという認識がある。専業主婦志向もあるが、それは職業に対して展望をもてないからである。しかし専業主婦の実現可能性は低い。

7.3.1　女性の場合

高卒以下の女性たちは、男性フリーターを結婚対象としては全面的に否定している。不安定で生活できないというのが理由である。暮していける収入があることが大切であり、職種は何でもよいというのが、彼女達の考え方の特徴である。その点で、男性観はきわめて現実的である。いっぽう、専業主婦になりたいと明確に言っているのは（39cf）だけである。ただし､結婚しても働きたいという場合でも､自己実現としての職業という意識はみられない。仕事自体にこだわりをみせているのは、映像関係の仕事をしている（30ef）だけである。

> *ガーデニング*ができる家がいい。*（専業主婦になってたりとかそういうのない？）*子供は欲しいけど、ある程度大きくなったら、仕事はしたい。*（フリーターとか無職の人と結婚しようと思う？）*無理。無理だと思う。*（どうして？）*生活していけない。*（24cf さんが高給取りになってて食べさせて上げるっていうこともできると思うけど）*高給取り。ないね。*（彼がプータローみたいだったら。そんなのは彼にしない？）*無理。
>
> **＜24cf・19 歳・高卒・女性＞**

> *（結婚したら、仕事はどうしたい？）*続けたいですね、続けられるなら。*（子供が生まれたら？）*たら、やめる。*（育児休暇とか？）*まだ考えたことがない。
>
> **＜16cf・24 歳・高卒・女性＞**

> *（専業主婦で豊かな暮らしをさせてくれる男はなかなかいないと思うよ。）*別に豊かじゃなくてもいい。人並みでいい。結婚したら町内に住みたいぐらいの勢いやねんか。お父さんはおるし、おばあちゃんも１人で住んでいるし。だから、別に町内でもいい。一軒家に住みたいとか、オートロックのマンションに住みたいとかはない。家があればいい。*（団地でいいわけだ？）*うん、別に全然。
>
> **＜18cf・20 歳・高卒・女性＞**

> （結婚相手が）フリーターは無理。フリーターは、やで。無理。安定していないから。別に社員とかじゃなくても、普通にとびとか鉄筋の仕事をしている人でもいいねんけど、男でフリーターというのはいやや。ちゃんとしてよと思う。
>
> **＜18cf・20 歳・高卒・女性＞**

> *（結婚願望は強い？）*あっでも、その、あんまり働くこととか言ったら好きじゃないじゃないですか。専業主婦はいいなぁとか思いますけどね。*（結婚相手がフリーターなら？）*うーん、それなりにその、フリーターでもそれなりに稼ぎがあったら、全然。*（問題なし？）*うん。
>
> **＜39cf・19 歳・高卒・女性＞**

> *（結婚については？）*いやー何も考えてないです。*（希望は？）*あまり考えてないかも

しれない、です。*(仕事やめて専業主婦とか？)* うーん、全然そんな、考えないです。*(結婚しても仕事続けるとか？)* あまりそういうことは考えないんで、全然わからないです。うーん、今後のことが。*(結婚はしたい？)* うーん、別に、いやーあんまり結婚したいとか、したいなーとか、思わないです。思わない。ほんとに何も考えてない。

＜38cf・18 歳・高卒・女性＞

(結婚相手の仕事は？) こだわりはないですけど、やっぱりでも、子どもが出来てきたりしたら、フリーターやったら、決まった定額のお金が入ってけえへんわけで、そんな楽じゃないでしょ。(笑) それに何時いらんわて言われるかわからないでしょ。フリーターやったら。もう明日から来なくていいよ、ていう。

＜22cf・19 歳・高卒・女性＞

(アルバイトで食べてる人にすごく素敵な人が現れた。どうする？) お金あるん？*(月、なんぼ以上稼いでくる人ならいいの？)* 30 万。*(仕事の種類とか希望はないですね？)* うん *(学歴とかは？)* なんでもいい。フリーターは嫌。*(正社員やったら、何の仕事しててもも別に平気？)* うん。*(建築現場で働いている人でもＯＫ？)* 土方とか、そういう系が好き。やってる人が。たくましい。医者は嫌。なんか、嫌。

＜6bf・20 歳・定時制高校中退・女性＞

結婚は早いうちにしたいという気はあります。*(将来結婚したら専業主婦になりたい？)* いや、それは全然思ってないですけど。*(まあ、パート・正社員にこだわらず働いていきたい？)* はい。*(専業主婦になりたいって気は？)* ないです。*(自分で食べていかなくてはと、そこまで思っていない？)* ないですね。だからぜんぜん焦りとかもないですね。

＜26cf・20 歳・高卒・女性＞

(自分としては結婚は？) そうですね。とりあえずちょっとした就職をしているわけじゃないので、仕事をちゃんとしてみたいというのがあります。そっちのほうが強いですね。(中略) 子供は今、かわいいと思うんですけど、欲しいとは思わないですね。とりあえずもうちょっと自分で遊びたいというか。もうちょっと子供の前に自分にお金を使いたい気持ちが強いです。自分のためにお金を使って、どっか旅行に行ったりとか、そういうことはしたい。車が欲しいとか。そういうのを一応した後に子供にお金をかけたいといったらあれですけど、そういうふうには考えています。*(５年後、３年後は？)* 仕事していたいです。５年後は 30 になるんですね。結婚はできてたらいいなと思いますけど、それなりに、仕事はどうだかわからないけど、仕事をやめたとしても、好きなことに関して趣味として何かやってたいというのはありますね。(仕事) 続けていたいんですけど、多分。もし家庭を持ってたとしたら、両立はできないような気がする。(業界の人で、女性で両立している人) なんか見てても、いないらしい。やっぱり時間も。ずっとそれにというの、思わないです。最終的には自分の趣味ぐらいですね。*(結婚しないでいきたいということでもない？)* そうですね。

＜30ef・24 歳・技術専門卒・女性＞

7.3.2　男性の場合

20 歳台前半で、フリーターである男性にとって、結婚は夢のまた夢という状態である。フリーターである限り、結婚して家庭をもつことは無理という認識をもっている。とくに高卒男性は結婚の可能性に関して自己評価が低い。

(結婚願望は) ないですね。ほんまないですね。*(何歳までにはとか？)* 全くないですね。できたら、すげぇなおれってなりますね。*(結婚するとなったら、自分はアルバイトということは？)* それはないですね。もし結婚してくれって言われても、自信がない

んで無理って言います。自信がないことはできないですから。

＜41cm・22 歳・高卒・男性＞

（彼女から）言われますね。結婚してくれよって。彼女は年上で 27 なので。そうですね、厳しいです。だから、何年間と考えへんように。そうそう、過ぎたから。またそれを彼女に言われるんですよ。あと何年やるのって。１回うそをついてしまっているわけじゃないですか、３年と言って。だから、いや、わからへんって。でも結婚するかは別やと。

＜51em・22 歳・専門卒・男性＞

結婚は、ぶっちゃけ早くしたいですね。今は絶対できないですけど。子どもがすごい欲しいんです。かわいいじゃないですか。*（結婚相手に望むことは？）*僕は、結婚した相手がやりたいことをやってほしいですね。そんなストレスとか、自分が言ったことに対して持ってほしくない。*（結婚は、今は？）*無理ですね。確実に無理。社員になって１年とかでも多分無理ですね。貯金がないじゃないですか。養っていけるっていう自信が持ててからですね。

＜23cm・21 歳・高卒・男性＞

（45cm）も、結婚に懐疑的である。フリーターの状態では無理であるし、たとえ正社員になっても結婚による経済的重圧の方を感じている。男が家計を支えるという結婚像は完全に否定している。

（結婚について）今、彼女はいてないですけど、彼女いてる人でも、結婚とか話出るけどさって、考えたら今の給料で無理やとか言ってて、やっていけるんかなって。無理やろうって。*（正社員で働いてても？）*そうそう。よう考えてみーや言われて。おれ 20 何万もらってるやんとかって。そこからやで、家賃払ってやで何やかんや支払って、残らへんやんみたいな。まだ遊びたいというのもあるから違いますかね。これで遊ぶ金はないわけやんみたいな。結婚していいことはないやろかみたいな。何で結婚すんねやろうとかいう話もありますよ。何をもって結婚すんねんの、みずからしんどい思いをするのにみたいな。*（結婚相手に求めるものは？）*その状況によるの違いますか。２人でおって、たまたま結婚したけど、まだ自分がやりたいことがあったら、お互い働いて、倍の収入になるわけですから、そんなら２人でいろいろ遊びに行ったりとか…。その中でも、もういいかないうときに子供ができたら…。（結婚後の家事育児について）その間にある程度のお金をためてたら。男は月 100 万ぐらい稼いでたら別に働かなくてもいいじゃないですか。夢のような世界でしょう。この少ない給料の中からどう生活するかという。どうなるかもわからないでしょう。でっかい会社にいてもつぶれるわけやし。

＜45cm・24 歳・高卒・男性＞

いっぽう、（35em）は、結婚はしたいがそれよりも前に、前回のニュージーランド行きとは違って、帰国後のこともしっかり計画して海外へ行きたいと考えている。（8dm）のように、結婚はしたいとは思うが絶対しなければならないとは思っていない者もいる。

すごい結婚はしたいし、子供も欲しいと思うんですけど、やりたいこともまだ…。もう一回海外行きたいと思って、それができるかどうかはわからないんですけど、やっぱり次、海外に行くんだったら、今回みたいなちょっとじゃないけど、何か帰ってきてからのことは何も考えずに、就職が何だろうみたいな感じで行っちゃったらどうしようもないし、お金をためるんだったら、バイトでもたまるかもしれないけど、もし海外に行っ

て帰ってきても、何かちゃんとできるというふうになったら、もう一回行きたいなっていうのはある。

＜35em・25 歳・大卒・男性＞

*（何年かたつと結婚する人も出てくると思うんですけど、結婚したいとかいう気持ちはありますか、家庭を持ちたいとか？）*そうですね、できればしたいですけど。*（子供もいればいたほうが…？）*これから結婚しない人のほうが増えて、その流れが、そっちに乗っかる可能性は今の段階では。

＜8dm・24 歳・大学中退・男性＞

7.4　小括

中・高卒フリーター層の将来のくらしに関する夢は、「ふつうにくらしていかれればいい」とささやかである。結婚に対する女性の見通しは現実的で、フリーターの男性を受け入れようとはしない。重要なのは安定した収入であり、職種はいとわない。

大卒フリーター層の場合も、将来の夢はやはりささやかといえるものである。ただ、低学歴層と異なるのは、職業を通した自己実現へのこだわりがあることである。25 歳くらいをメドに、親に対する感謝と責任を認識するのは、それだけ親に多くのことをしてもらってきたことを自覚しているからであろう。

８．まとめ

中・高卒フリーター層と大卒フリーター層との間には違いがあるので、それぞれについて分析からみえるものを整理しておく。

8.1　中・高卒フリーター層の家族・親族状況の特徴

若者にみられる一般的な傾向としては、成人期への移行のプロセスが長期化し、親への依存の時期が長くなっている。しかし、この調査の対象者のうちの中卒・高校中退、高卒者をみる限り、高学歴者と同じような意味で親への依存期が長期化しているとは必ずしもいえない。高校在学時にすでに親からこづかいをもらう段階を終了し、自分のアルバイト収入でまかなう者が少なくない。わずかとはいえ家計にお金を入れていたり、食べ物など基本的なものの購入を自力でやらざるをえない者すらいる。ひとたびアルバイトが始まると、親からの経済的自立の一歩が始まり、後戻りすることはなくなる。彼らは、離婚と再婚、病気、死別、借金、貧困などをかかえた複雑な家庭環境のなかでくらしていることからして、経済的に自立できること（＝親に頼らなくてよくなること）は、自分の尊厳を守り、悪条件から見を守るための最有力条件なのである。ところが近年の問題は、自立への開始が早いにもかかわらず、不安定な雇用、少ない収入などに規定されて、親からの完全な自立を達成するのに長期間を要するばかりか、達成すること自体もおぼつかないような状況になっていることである。親の家から出て独立してくらしたいと願いながらも、収入が少なくて親の家を出られない者の方が圧倒的に多い。それゆえ当然、結婚して自分の家庭をもつメドが立たない者が少なくな

い。

8.1.1　大都市の事例にみられる特徴

将来に対する期待水準は低く、ばくぜんとしたイメージしかもっていない。男性は、フリーターのままでは結婚できないと感じている。さらにいえば、たとえフリーターを脱したとしても「妻子を養う」というような段階に達するとは信じていない。専業主婦をもつことは“夢“でしかないと認識している。結婚したら共働きを期待している。いっぽう、女性の考え方はきわめて現実的である。フリーターとは結婚できないとみている。彼女たちの評価基準は、「安定した収入があって、お金がないという苦労をしないこと」である。職種は何でもかまわない。いずれにしても、一定の時間軸に添って生活設計があるという状態ではない。

このようなタイプは、欧米諸国で指摘されているように、もっとも社会的排除に陥りやすい典型といえよう。家庭環境のなかに、職業生活への準備をさせる条件がないため、当座の現金が入ればそれでよいという意識をもってしまう。その点では、正規雇用よりアルバイトの方が合理的と考えるのである。親子の貧困の連鎖を断ち切るためには、彼ら・彼女らの生活の全体像に対応した支援が必要で、単に仕事を与えれば解決できるというものではないだろう。職業教育や訓練とならんで生活設計や生活経営に関する教育や情報提供が必要だろう。

8.1.2　地方の事例にみられる特徴

地域経済の衰退が中・高卒層の状態を悪化させている。若年者の雇用があった時代なら、当然仕事について働いていたであろう高卒者が、中途半端な仕事と家庭と地域の限定された生活空間で暮している。大都市ほどこづかいを稼ぐ機会がないため自由になるお金も少ない。このことも行動範囲を制約することになっている。このように、働く場が十分にない地方では、職歴を積み、また社会人としての経験を積み重ねるべき年齢の若者が、社会的文化的に貧弱な環境に閉じ込められた状態に置かれてしまう。職域の拡大をはじめ、その他の分野においても、地元にとどまった若者の参加を促し、発達を保障する必要がある。

8.2　高学歴フリーター層の家族・親族状況の特徴

関西、東北の中・高卒フリーター層と比較すると、首都圏高学歴フリーター層は、大学進学があたりまえの環境で育ってきたことに大きな違いがある。前者の親たちが、子どもの学業に対してほとんど無関心であったのに対して、ここでの親たちは教育に対する関心が高く、子どもにかける期待が高く、子どもに教育費をかけてきている。それゆえに、学校での失敗は、職業選択の過程にも負の影響を及ぼしがちである。いっぽう、「やりたいこと重視」の子育てが、子どもの全能感を高め、夢と現実のギャップを拡大し、なかなか仕事につく決心のできない若者を生み出している。

就職難に直面してフリーターにならざるを得なかった子どもに対して、親は気遣いをみせ、

厳しい言動を抑制している。子どもは親に「もうしわけない」と感じ、「早く自立したい」とあせりを感じている。きょうだいともにフリーターの場合もある。これらの家庭での葛藤は軽視できないものがある。それが爆発するケースも予想できる。

就職難を乗り切るために、資格試験、専門学校、進路替えが試みられている。その過程で少なからず費用を捻出する必要があるが、この費用が出せるかどうかは、親の経済力にかかっている。しかし、その費用がはたして有効性のあるものかどうか不明のものも少なくない。かけた費用に対する効果という点からみて、無駄な金銭を使っているのではないかと疑わしい事例もある。

8.3　おわりに

社会階層の違いにかかわらず、フリーター期間が長くなるにしたがって、将来に対する悲観的意識が生まれる。自分自身の家庭をもつことも自明とはいえない。低い所得水準では親との同居生活が 30 代に及ぶ可能性がある。もし一人暮しをすれば、最低生活に近い状態になるだろう。

現状では、安定した職業に就くまでのプロセスが、本人と親の個人的責任と努力に委ねられているため、親に経済力と見識があればその援助によって脱出できるだろうが、そうでない場合は、先の見えない迷路にはまり込んでしまっている。こうした状況を打開するためには、公共的な支援機関を設置し、学校、家庭と連携を取りながら、求職活動のための支援をしていく必要があるだろう。若年者雇用の創出はいうまでもない。また、年齢段階に応じた職業教育が、生活設計・生活経営教育と並行的に行われるべきことは、先述したとおりである。

引用文献

苅谷剛彦（1995）『大衆教育社会のゆくえ』中公新書
ジョーンズ・ウォーレス著（1996）『若者はなぜ大人になれないのか』新評論
Gill Jones（2002）*The Youth Divide*, Joseph Rowntree Foundation
宮本みち子（2004）『ポスト青年期と親子戦略』勁草書房
鈴木栄太郎（1944）『日本農村社会学原理』日本評論社

第５章　ソーシャル・ネットワークと移行

若者はどのようなソーシャル・ネットワークの網の目の中で移行期を経験するのであろうか。それはどのようなプロセスなのか。ひいては、どのような要素が移行期の支援という意味で有効に働くのだろうか。ソーシャル・ネットワーク[1]の重要性は、１）それが若者へ様々な具体的また精神的サポートを供給し、２）また若者が種々の判断や決断を行う際の幅広い材料を提供してくれる点にある。どのようなソーシャル・ネットワークが有効な支援となりうるかについては、今回の調査はインタビュー時点で移行期の「困難な」状況にある者を協力者としたため、なにが有効に働いたかという点での分析は不可能であった。インタビュー時点での困難な状況は、「これまでのソーシャル・ネットワークによる支援は十分ではなかった」という理解になるからである。（この点については、「何が移行期における成功−移行の達成」なのかという、幅広い議論が必要となる。）今回の分析では「このようなものが有効／有意義であった」という結論は引き出せない。が、「何が欠けているのか」「このようなタイプのソーシャル・ネットワークが、必要なのではないか」という指摘のレベルでの分析を試みる。

１．移行期を中心としてみるソーシャル・ネットワーク

それぞれの若者が、多様なソーシャル・ネットワークの中で学校経験を経て、仕事を中心とする生活への移行を始める。ソーシャル・ネットワークはライフステージの推移により変化していくが、この移行期は、ほとんどの者にとって 10 年以上をこえる学校を通じたネットワークが影をうすめ、若者の生活する場が大きく変化する時期でもある。若者の移行期を全体的に理解する重要さは近年ますます強調されてきており、そのためには、若者を中心に、前章に含まれていた学校、職場、家庭も含め、さらに交友関係、地域でのつながりを含めた全体的なソーシャル・ネットワークを、インタビューのデータからマッピングすることが必要とされた。そしてそれにより、いくつかのパターンが浮かび上がってきた。この項では、移行期のソーシャル・ネットワークはどのように変化していき、若者はそれをどのように経験するのかについて考察し、いくつかのパターンを描き出すことを目的とする。また、はじめの２項では若者のライフステージの変化に伴うソーシャル・ネットワークの変化を浮かび上がらせるため、これまでの章とは異なり、幾人かの若者のライフコースの一部を概観する。

---

[1] 「ソーシャル・ネットワーク」は様々なニュアンスで用いられることばであるが、ここではネットワーキングする（動詞としての network）という能動的なものでなく、「お互いに関連しあいながらひとつのシステムとして働く、数多くの人々や機関（の存在）」という意味にもっとも近い。この章で用いる「若者のソーシャル・ネットワーク」は、多くの人々が関連しあいながら網目状に存在する、若者の日々の生活の場／生活世界」というふうに意味付ける。

1.1　縮小していくネットワーク

就職したての頃は（学校時代の友だちとつきあっていた）。だんだん過ぎていくうちに専門学校の友だちは専門学校の友だちと遊ぶようになるんですね。そいでもう遊んではいないですね。

〈43cm・19 歳・高卒・男性〉

明らかに注目を必要とするものとしてまず初めにあげなければならないのは、学校の在学時代に存在した様々なネットワークやそれを築く「可能性」が、卒業後または中退後顕著に減少するという点である。学校を通じての同学年または学年をまたいだ友人関係はもとより、重要な関係になりうるそこでの年長者（教師・関係者）とのつながり、学校がもたらすソーシャル・ネットワークの拡張の可能性（クラブ活動、イベント他）など、何かの機関に属することによるソーシャル・ネットワークの「躍動化」面での恩恵は、多くの若者に存在した。が、いったんそこを離れ、次の機関（職場も含む）への所属が途切れた場合、それまで表面化／問題化していなかった「躍動化」は大きな課題となってくる。縮小していくソーシャル・ネットワークの問題は、個人の社会的発達の機会を減少させ、自信を失わせたり現在の状況へのやる気を減退させ、不活性化へと結びつくようにみられる。

冒頭のように語ったこの東北地方の 19 歳の男性（表５－１）は、小中学校は野球部で活発に活動し、上のレベルの高校を薦められたが家から近い公立校に進学、資格がとれるかと考えビジネス科を選ぶ。アルバイトをしながら高校生活を過ごし、就職について考える時期を迎える。コンピュータ関係の仕事が希望だったが、専門学校をでなければならないということであきらめ、夏休みに仕事の内容はこだわらず求人票で週休２日制・保険のあるところを自分で探す。

専門学校いってもやっぱお金かかるじゃないですか。アルバイトとかして、お金だしたりするのもいやだなと。

専門学校いくと、結局は今度は全部自分で仕事探さないといけないんで。２年後に就職難がなくならないというのもないんで。そう考えると専門学校いくんだったら、そこの会社で２年間がんばって少しでも差がつけられたらいいかなって思ったんだけど。

このような意欲で望んだ仕事は、１ヵ月の助手の経験の後、突然困難さを増してくる。

求人票書いてあるのと、ちょっとは違ってくるとは、思ってましたけど。実際やってみるとすごく違ってたんで、ちょっとどころじゃなかったんで。ある程度覚悟はしてたんですけど。

長時間労働（朝５、６時から夜 12 時すぎまでなど）で、夜 10 時 11 時は普通という毎日が続く。

表５－１　移行期のライフコース概観　＜43cm＞

（19 歳・高卒・男性）

それぞれの場でのできごと・活動・つながり（概観）

(歳)	学校	仕事	家族	その他 （友人、地域など）
14 15	野球部で活発に活動 先生とはよく話すほう		勉強しろというタイプの親ではなかった 親とはよく話し、進路についても相談する 「自分の主張を第一に考えてくれる」	小･中と野球部楽しかった
16 17 18	公立普通高校ビジネス科入学 成績は「中の中」 まじめに登校 ワープロ検定や簿記資格取得 高校時代の夢はなし「ほんとうに平凡に」 楽しく過ごせた 「３年間早く過ぎた」	ファミリーレストランでアルバイト（１年） スーパーマーケットでアルバイト（１年） 運送会社の求人を調べる。 夏休みあけ、運送会社を受ける 自動車教習所へ通う（運転が好き） トラックでの運送の仕事に決まる	小遣いはもらわず 親にも相談 「自分が頑張れるならやってみなさい」 親は、車を運転する仕事で、一応心配する	友だちのいる職場で、楽しかった 友だちと家でゲームをしたり､街へいって買い物やぶらついたり 友だちは多い 友だちはだいたい就職
19	学校と行き来はなく、今回のインタビューのことで突然電話をもらった	トラックの運転。１ヵ月助手 10 ヵ月後退職。たまに求人表を見に行く ずっとテレビ見て１日終わるくらい	自由にさせてもらったので、親に恩返ししたい 親「そんなにきついんだったら、やめていいよ」 親「早くさがしたほうがいいよ」	職場では､休みがバラバラで同僚と会う時間はなかった 仕事について情報交換する友人はいない

（ずいぶん頑張ってきたけど、一番辛かったというのはどういうことですか？）
やっぱ朝５時とか６時に起きて、夜遅く、また次の日も早く起きてということが続くと、身体がだんだんもたなくなってくるんです。でも「やっぱりみんなやっていることだから」って我慢してたんですけど、やっぱり辛いなって。

職場では周りはほとんど年上で、１人いた 18 歳の社員は入って２～３ヵ月くらいでやめ

てしまう。菓子配送の仕事は、「直接」時間を強制されるような長時間労働というより、これだけの仕事をこなすためにはこれだけの時間が必要という、自ら計画をたて責任をもって終えるような自律的働き方だったことは、記してしておくべきだろう。

> 店ごとに何時までに来てくれといわれると、こういう周りでやると間に合わないから、やっぱ早く出ないといけないとか。*（それは自分で決めるわけ？）*はい、だいたいほかの人の意見もやはり聞いて、「早く出たほうがいいんじゃないか」って。ありましたね。

結局、身体がもたなくなり、10ヵ月後に退職する。その会社には過去に同じ高校から５人入社しているが、彼[2]の入社時には１人しかおらず、退職時にはその１人もすでに辞めてしまっていた。

その後６ヵ月、インタビュー時点では、まだ前職のショックともいえるものが残っているように思われた。

> いちおう、やっぱり仕事につかなくちゃとは思ってるんですけど、前回のことがあったんで慎重に選んでいると、したい仕事が見つからないんです。*（求人票とか見に行ったりするの？）*ほんと、たまーにですね。ハローワークで。もう、すぐコンピュータのとこ行って、ペッペッと 10 分から 20 分くらい見たら帰ってくる感じですね。

このような経緯をへて、現在はおもに家で過ごすという状況になっている。

> *（その間、どんなふうに過ごしているの？ やめた当初は疲れちゃってたから寝てばっかりかもしれないけど。）*ほんとにもうダラダラしてますね。（…）なーんにもしてないですね。テレビ見てゲームしたり本読んだりで終わっちゃいます。
>
> **〈43cm・19 歳・高卒・男性〉**

厳しい労働経験になった前職をやめたあと、限られた友人との交流のほかは、このようにおもに自宅を中心に１人で過ごすことが多い。

そして、現在の慎重な、消極的とみることもできる気持ちのありようについて、以下のように表現した。

> *（じゃあ今のところこう何かこういう機会があればやるのになということはない？例えばただでコンピュータ教えてくれるところがあれば行ってみようかなとか。）*ほんとうにきっかけですね、もう。ホントにきっかけが何かあれば多分。自分が何か来て「あ、これだ」と思えばやると思うんですけど、何かが来ても、なんとも思わなければ、何もしないですね。

以上のように、この男性の学校期からの様子の変化を概観してみると、現在の彼の生活の

---

[2] 三人称については、「彼（ら）」「彼女（ら）」、そして「彼ら彼女ら」を意味するものとしての「かれら」を用いる。

様子が、人との関わりの幅広さの面でも、経験の深さという面でも非常に限られたものであることが浮かび上がってくる。志望だったコンピュータ関係の仕事はあきらめたが、進路を決める際には、「（専門学校へ行かなくても）会社で２年間がんばって少しでも差がつけられたらいいかなって思った」という。このような意欲が、初めての正規雇用の就業体験のあと、低レベルの状態にあるといえよう。縮小感がみられる現在の状況は、さらに縮小していくのか、またはまだある意味で前職からの回復期にあり、時期がくればみずから視野を広げあらたな経験を得るために活発に動きだすのかは、時を待たなければわからない。が、一つ確かなのは、それはほとんど「本人しだい」であるという状況であろう。後者への道筋により近づけるための何らかの働きかけは存在しない。概観をみても明らかなように、学校からの働きかけはなく家族の働きかけは限られ、仕事の世界に関してはハローワークでの限られた求職活動という形しかなく、彼自身が閉ざしている印象もうける。そして友人との交流も限られ、その他のソーシャル・ネットワークからの可能性も、現在のところ閉ざされている。

同じく東北地方に住む、高校卒業後２年目の女性も、アルバイトをしながら求職活動をしているが、ソーシャル・ネットワークの縮小がみられる。友人とのつきあいがほとんどなくなり、一方、新たな経験を広げるような活動はみられない。

> *（今もつきあっている友だちっています？）*いますけど、そんなにもう頻繁に連絡とったりはしないですね。*（みんな仕事している？）*はい。後はもう大学とかで東京の方に行ってしまったり、遠くは沖縄に行ってしまったり。
>
> *（おつきあいしている人はどんな人なの？）*あんまりないですね。*（２時半にバイトが終わったら暇じゃない？）*暇、暇ですねもう。誰か遊び相手探すか、それか、お兄ちゃん結婚してて子どもいるんで子どもと一緒に遊んであげたりとか、親戚がそっちの方に遊びにいったりとか。*（高校時代の友人で残っている人は何人くらい？）*のは、なんだろ５～６人ですかね。*（その人たちはたまに会うくらい。その人たちと何か一緒にすることもないか？）*ないですね。やっぱ時間帯とかも合わないことが多いみたいです。
>
> （電車で１時間くらいの距離の大学に通っている友人との交流について。）
> *（その友だちとは、会うことというのは、そう、しょっちゅう会うわけでなくて、月に一度くらい？）*ないですね。月に一回もないです。*（電話とかメールとかも？）*ないです。*（ふだんこう何か一緒に遊ぶという友だちはいないんだ。）*いないですね。
> *（じゃあ２時に終わってなにしてるの？）*もう帰ってきてお風呂入ってご飯食べて、遊んでるっていうか、姪（幼児）と遊んだりとか、テレビ見てたり。
>
> **＜26cf　20 歳　高卒　女性＞**

卒業後３ヵ月の時点でインタビューを受けた、同じく東北地方に住む 19 歳の女性は、地域の雇用状況が厳しく「ゆっくり探して」いる間に卒業を迎え、以来求職中である。彼女はまだ専門学校に行っている高校時代の友人との交流も多く、「友だち」が今の生活の中心と話す。

> *（今、自分の生活の中で中心にあることって？）*友だちかな。*（「友だちとの付き合い」*

*っていうのは、今日は、ハローワーク。友だちといくの？）*１人でいったことない。*（1人でははいりづらいかな？）*んー、あと、向こうが車もってるから、送ってくれたりするから結果的というか友だちから誘われると、「あー行く」。自分ではふんぎりがつかない。

〈24cf・19 歳・高卒・女性〉

まだ卒業後間もなく、専門学校・求職中両方の友人との交友がその生活の中心だが、上の例にあるように、専門学校の友人がその対象から離れていくことも考えられる。学校、仕事の場でのソーシャル・ネットワークをもたないこの女性のリソースは、求職期間が長引くにしたがいさらに狭まっていくことが予想できる。

また、このようなプロセスは地方だけではなく、都市部の移行期以前からのソーシャル・ネットワークが希薄な若者にもあらわれる。極端な例だが、様々な困難な状況に加え、祖母や母の死を経験した若者は、そのショックもあり外部との交流を断ち、孤独感からエネルギーが枯渇してしまった自らの状況を語った。母親の看病に専念していた時期の後（インタビュー時）：

ほんとうは、今すぐ死にたい気分だけどね。ほんとに、「寂しすぎて死ぬ」の意味がわかる。ほんとに寂しいと死にたくなるもの。（…）半年ぐらい、ほんとに人との交信を断ってたから。

＜50em・25 歳・専門卒・男性＞

現在の時点では、このような状況の把握と対応の必要性の認識が十分でなく、若者は個人のリソース（学校時代の友人、家族や親族）で対処していくしかない状況といえよう。リソースのない者は、長期化により孤立に近い状態になりうることもあり、自己不信、あきらめを深め、重要課題である求職活動や自分を高めるための活動が困難になっていくと思われる。学校・これまでの求職支援関連機関の他に、若者がそのソーシャル・ネットワークを維持するのみでなく、新たに豊かにできる場所・機会（活動）が存在することが必要となってこよう。幅広さ・豊かさを求めるためには、そこは就業中の若者も含めたさまざまな若者が利用する、多様性をもった場であることが望ましいのではないだろうか。また、学校を離れることがそのまま直接活動の停止にむすびつかないような活動が、在学中から必要だと思われる。例えばスポーツや演劇などの活動も、学校・家庭とは別の、第三の場での若者のそのような活動を社会が資金面その他バックアップしていくことは、重要ではないだろうか。その計画実施については、スウェーデンやイギリスの例に見られるように、既存の青少年センターなどの活用に限らず若者自身のニーズを基にし利用したくなるものになるよう、革新的なアイデアも含め、計画段階から若者の参加・関与を前提に進められるべきであろう。これは特に、再活性化が必要とされる地域にとって重要と思われる。地元に残る若者を新たな推進力を地域にもたらす可能性として捉え、そのためにも学校を離れ次の所属をもたない若者が不活発・消極的・現実追従的な存在となり、地域から「誰でもない者（nobody）」として放置さ

れることのないようにしなければならないだろう。

1.2　閉じたソーシャル・ネットワーク

この縮小していくネットワークのもうひとつのパターンは、学校から離れ縮小していくという点では同様であるが、「閉じた」ネットワークの印象が非常に強いパターンである。上の縮小していくネットワークのケースの場合、地理的距離と地方という要素によりどちらかというと「孤立」という印象が感じられるが、この場合、都市部の人口も多く距離的移動も比較的容易な状況の中で「閉じた」という印象が強く感じられる。このような「閉じた」ソーシャル・ネットワークの一例は、学業の面で成功した経験をあまりもたない、都市部の高校中退または高校卒業後に学校を離れ労働市場へと入っていった若者にみられた。また、いくつかまたは多くの短期マニュアル労働やサービス業での仕事を経験している者である。若者は公的職業紹介所や求人誌、友人を通じての求職活動をする一方、主に自らと同じような状況（就業中の者も多いが、長期にわたる、または長期にわたってコミットしているものかどうかは不明である)の友人の輪の中での情報交換とリラックスのための時間を過ごしている。

ここで一例としてあげる、現在 22 歳でピザ配達のアルバイトをしている男性（表５－２）は、高校斡旋による〇〇料理店の調理師見習いの正規雇用についた。中学１年の夏休みに野球部に入ったのがきっかけで、小学校時代、「(いい）点数をとったら野球の道具を買ってもらえるのでがんばって（いた)」勉強を、全くしなくなり遊び回るようになる。中３の担任が「すごくいい人」で、何とか高校に入れようとしてくれ、毎日放課後先生に教えてもらい、中１のドリルからやり直す。が、かろうじて入った高校での勉強のレベルの低さにがっかりし、「現実逃避」の状態で過ごす。高校での就職斡旋では、世間をなめてるから家を出るようにと親に言われていたので、「寮付き」という条件を第一に１つ目の求人に決め、働きはじめる。

長時間労働の職場（6:30am～10:00pm）であることも理由であったが、自分がほんとうにやりたいことだったのかという考えが昔の友人との再会によって押さえきれなくなり、転勤の話をきっかけに辞めることを決意する

> 初めての就職で、大事なことも全くちゃんと考えてなくて、その１年半ぐらいでやっと気づき出した時に、ちょうどタイミングでそう言われたんで。…考えだしたときに、あっやらんわってすぐわかったんです。…〇〇（他府県）に行けと言われる前に、一回ここ（高校）に呼ばれたんです。ここの２年生の子に、就職している人、専門学校の人、フリーターの人というのを何人か呼ばれてしゃべったときに、久しぶりに仲よかった友だちと会って、その子がバイトしながらですけど、ものすごい自分のやりたいことをやってて、楽しそうにみえて、ああ、いいなと思ってた矢先に〇〇に行けと言われたんで、胸はって「いや」と言いました。

表５－２　移行期のライフコース概観　＜41cm＞

（22 才・高校卒・男性）

それぞれの場でのできごと・活動・つながり（概観）

(歳)	学校（learning）	仕事	家族など	その他（友人、地域）
11	成績中の上			野球を始め、頑張る
13 14 15	中１の夏休みから、全く勉強しなくなる 中３の担任に励まされ、勉強をやりなおす		かたい両親（「ぼくだけおかしいと親戚中に言われる」）	中１の夏休みに野球部にはいる。野球部のともだちと遊び回る
16 17 18	高校へ何とか入学 レベルが低く、勉強したという感じではない 「現実逃避の子だった」	回転寿司で１ヵ月バイト（給料未払いと聞き、やめる） スキー用具店でバイト（接客）	親は就職する時は家を出るように言う	高校ではあまり遊び回らず 家で友人とゲームや、街をぶらつく クラスの友人とスノーボードをしにいく
19 20 21 22 23	学校へ一度話をしに行く（就職した者として在校生に） 調理師を辞めた時、一度だけ学校へいく（進路指導の先生はやめていた。職員室でごろごろ）	調理師見習い（学校斡旋、〇〇料理店） １年半後、転勤の話をきっかけに退職 ３、４ヵ月後、友人の誘いで工事現場のガードマン ガードマンを辞める 倉庫（職安経由。配達、出荷入荷、商品管理） 10 ヵ月後退職 以前と同じガードマンの仕事につく ガードマンを辞める 「ごろごろ」生活 求職活動 ピザ配達（6 ヵ月） 同時に職安で求職活動	会社の寮で暮らしはじめる 辞める前しばらくは、ほとんど恋人の部屋で住む 退職後親に知れ、実家に連れ戻される	職場の人と仕事のあと夜遊ぶ 学校時代の友人とはほとんど会わず ３ー４ヵ月後友人に電話し、仕事をみつける 20 代は友人と２人のみで、あとは「おじいちゃんばっかり」 バンドを始める（しばらくして解散）

辞めた直後は、厳しい親もゆっくり過ごせというほど消耗していたようであり。その間、友人との連絡やその他の人との行き来もほとんどなかった。

（料理屋をやめて）３ヵ月か４ヵ月ごろごろしてました。起きなかったです。トイレと風呂と飯以外。…ゆっくりする時間がなかったんで、（親に）ごろごろしとけって言われたんです。（…）*（ほんまにごろごろしてたわけ？）*いざ帰ってきたら、地元の友だちの携帯とかもわかんなくなってたんで。

しばらくして友人に連絡を取り、正規雇用退職後、一つめの仕事を得る。

*（ほとんど家にいたの？）*そうですね、ものすごく太ったんでやばいと思って。何かで友だちの番号を知って、おれ、今、プーやねんって言ったら、なら、おれが行ってるところ来いみたいな、ガードマンですけど、軽トラで〇〇市まで行ってやっとんねん。やるかみたいな感じで、２人で（通勤のために）軽トラ乗ってやってたんです。（…）その子は高卒でたぶんずっとやってたと思うんです。

この工事現場のガードマン派遣会社（個人経営と思われる）の社長が「暴力団」に関係しているようで、恐くてやめたいと思い続け、仕事探しをしながら数ヵ月働き、職安で正社員の仕事を得て、やめる。が、その仕事（家族経営の〇〇卸売り関係、倉庫での業務）も、取引先が相次いで倒産し会社の将来を非常に不安に感じる中で、遅刻などで叱責されたのを契機にやめ、「もどってこい」と言われていた前のガードマンの仕事にもどる。10ヵ月継続後、一緒に通っていた友人がやめ、通勤手段（車）がなくなったのでやめる（彼は通勤電車の人いきれに弱く、体調が悪くなってしまう）。こうして再び失業状態となる。しばらく「ごろごろとした」あと、ある友人の就職で焦りを感じ求職活動を活発にするようになるが、その内容はこれまでと同様、職安での個人的な探索であった。

そこで友だちが急に就職が決まっちゃったんで、もうびっくりして、ここで僕もちゃんと毎日のように職安行って、ここで決めたろうと思ったんです。で、挫折ですね。挫折して、ちょっと残ったお金を食いつぶす生活。

*（その挫折というのは、ええのがなかったんですね？）*はい。もう次はやめることができないので、仕事が厳しいとかじゃなくて、一生できる、まかせていいんかなというところを選びたかったんで、厳しさはある程度やったから経験あるんでそういうでかいところは何か資格がいったり、面接はやってくれない状態で、何個か受けても落ちたりで、２・３ヵ月ちょっとすねてましたね。

そして、再び友人を通じて偶然にアルバイト先をみつける。

お金なくなってどうしようとなった時に、夜中に吉牛食べてたんです。中学校の友だちに会って、「久しぶり、今なにしてるんじゃ」とか言って、「プーやっとんねん」「プー」「何かないねん」、そしたら、その子がピザをやってたんで、「来るか」って言われて、「行きます」。それで今のピザ屋をやっているかたちです。今でもちょこちょこ探してるん

です。

職安に行きながら続ける彼の求職活動は、ガイダンス・相談を伴わない、自身のこれまでの経験と知識をもとにしたもので、彼の話からは前途はふさがっているかのような印象を受ける。希望の職種ははっきりしておらず、この状況の中で前進するためには資格が必要ということを理解しながらも、そのための道筋を描くことはできない。

> *(ガードマンやめて、何か仕事決めたろうって探した仕事ちゅうのは、職種的にはどんな仕事ですか？)* とりあえず将来いけそうなピンきりいきました。職種とか関係無しに、そこそこの給与で…。基本は倉庫系と言うか、土・日休みでというのを探してましたけど、ちょっといけるかな、将来安心だなと思うようなところだったら多少、休みとかお金が少なくてもと思ってたんですけど、そういうのを見て、資格ですね、免許とか。*(どんな資格がいいんですか？)* フォークリフトを運転できるとか―入って覚えさせてくれたらすぐやれる自信もあるんですけど―書いてたり。あと大卒とか、未経験者オーケーって書いてても、いざ職安に電話してもらったら、今、経験者の面接が何人か予定あるから、やめといた方がいいですよとか言われて。(…)　面接は携帯屋さんと倉庫と、こういうネジとか工具をつくって売っているようなところも受けた気がします。

このような状態が半年以上続き、インタビュー当時は彼なりにこれまでの経験をふりかえって、今の状況を納得しようとしているかのようにみられた。

> (面接を受けたことが) ものすごい遠い過去みたいで、あれなんです。焦らんと、これというのがみつかるまでもうええかと思ったら落ち着きました。焦ったらろくなこと起きんということがわかりました。

この男性の経験は、正規雇用の経験やアルバイトがこれからの仕事に結びつかない、そして新たな仕事を「前進」に結びつけてみつけることができず、当座の仕事を自らのこれまでの同質的なソーシャル・ネットワークの中で見い出していくことを繰り返すプロセスを表わしている。この間、高校からの初職に関するフォローアップはなく、職安からのガイダンス的なアプローチは存在しない。その状況は、彼自身がどこにそれを求めてよいのか、求めること自体認められているのかと思っているかのようである。まるで、仕事というものは自らの力のみで見つけていくものである–という前提をもっているかのようである。そして、それは彼の限られたソーシャル・ネットワークを使ってなされるしかない状況となっている。その求職のプロセスは、学校・仕事関連のつながりをもたず、さらに求職に関しての家族を通じての具体的サポートもないなか、その他つまり彼の交友関係に頼らざるをえない。それは彼と似た状況の友人を意味し、そこからの仕事への道筋は、皆無ではないが非常に限られていると思われる。現在の状況は、停滞感がみられ、これを変化させる何かはみえてこない。

もうひとりの、関西の都市部に住む 19 歳の男性の語ったことばも、この停滞感を現わしているように思われる。定時制高校を卒業し、在校時からの「飲み屋」のバイトと地域の老人ホームでの宿直のバイトをしながら、あまり積極的でない求職活動を続けている。

(やりたい仕事が) みつけられない。*(情報源みたいなのはあります？)* 全然ないですね。今は今しか見ていない。*(何か新しいので探そうとしているとかいう？)* 全然ないですね。*(新聞の折り込みで見つけてもなかなか？)* はい。

〈17cm・19 歳・定時制高卒・男性〉

同居している父とは不仲ではないが、顔をあわすことが会っても話をすることはなく、父と再婚した義理の母とはまったく話をしない。宿直のバイトも、１人で夜を過ごす仕事である。このような状況の中で、アルバイト先の年輩客が多いバータイプの「飲み屋」のカウンター越しの会話を聞くことが、彼にとっての情報源でもあり、その意味で、彼の希薄になっているソーシャル・ネットワークのひとつの大事な部分となっているといえよう。そして彼はその中で、情報を得るだけでなく、(ある程度守られた環境の中で) これまでの経験の中でできなかったコミュニケーション・スキルを育てるという課題をこなしているといえよう。そして、それを自ら認識していることに、個人的な成長も感じられる。

(アルバイトはしてはったんやね。何かよかったということとか、おもしろかったということとか、嫌やったこととか、何かあります？ 自分のためになったなとか、お金意外に…。) 今行ってる飲み屋さんのバイトやったら話とかもするじゃないですか。世間話とかして勉強になるじゃないですか、いろいろ。*(お客さんはけっこう、そんな話をいろいろしてくれるんですね？)* はい。人の話はよく聞きやって、マスターにいわれて、聞いていたら、ああ、そうなんだって。会話のキャッチボールを聞いているだけでも勉強になるじゃないですか。話を聞くというのは。(…) あんまり仲良くない人としゃべるのって難しいじゃないですか。話すのって、難しくないですか。それで、そういうので勉強になる。*(そういうのは、そんなに得意な方じゃなかったんだ。)* 全然。しゃべるのは全然苦手やったので。*(それはよかったですね。)* はい。

＜同上＞

ただ、ここから次のステップへと進む道筋が、上記にあるように、彼にとっては「全然」みえていないようであり、また、それをサポートする何かの存在もない。

さらに、関西都市圏に住む 19 歳の女性（46cf）で、高校卒業後正規社員として美容院で働きながら、美容の職業訓練校に通っていたが、１年後美容院の仕事をやめ、その後訓練校を続けながらアルバイトを始める。この女性の語ることばは、彼女にとって友人を通じて新しいバイトを見つけることが難しくない状況をよく表していよう。

(今は美容院もやめられて、職業訓練校行って、晩はアルバイト？) はい。
(このアルバイトはどうやって探さはったん？) ○○さん（親しい友人）に聞いたんですよ。「行くねんけど」言われて、ほんなら行こかなーって言って。

(それはどんな仕事してはるん？) 接客。*(このバイトはどうですか？ やっぱり人間関係とかありますよね。やっぱ。)* なんかあんまり馴染めてないから。馴染む気がない、と思いますね。多分。人間その気になれば何でもできると思うから。あんまり、んー、なんか。*(ああそれは、第一印象であんまり雰囲気…?)* なんか店の感じがあんまり好きじゃない。…なんかいっこいっこが細かすぎて、ちょっと。料理とかその、することすることに何分、って時間が決められてて、(笑) 個人差とかあるからやっぱりそんなん

とかがよく分かれへんくて。*（それは何店舗もチェーン展開してるようなお店ですか？）*そうですね。*（ほんなら、時間守られへんかったら、なんかあるん？ 小言うるさいっていうか。）*（笑）あんまり聞いてないんですけど。*（しばらくは続ける？）*でも、もう新しいとこ、みつけたんで。宅急便の受付仕事。*（で、もうじきにそっちに？）*（笑）でもあんまりやめると、やめ癖がつくからあんまりよくないなって思うんですけど、やっぱり中途半端にしたくないし。*（これはどうやって探してきはったん？）*友だちに聞いた。*（友だちが働いてるとこっていうんじゃなくて？）*短期のバイトなんですよ、それ。だから一緒に行かへん？って言われて。夏１ヵ月ぐらい。*（あんまりやめるとやめ癖がつくっていくのは誰に言われた？ お父さんとか、お母さんとか。）*いや、なんかそんな気がするなあって。

この女性は、職業訓練校での生活がこの時点では中心となっているが、将来正規雇用が得られなかった場合、同様の状況にある友人などを通じてのアルバイトが生活の中心になる可能性もあろう。そうなった場合、外からの働きかけがない場合は、上述の閉じたサイクルになってしまう可能性もあると思われる。

また、その他の例として、カラオケのバイトのきっかけについて、

*（先に紹介してくれた友だちはどういうともだちやった？）*幼稚園から高校まで、ずっと一緒だった子なんで。*（その子もバイトしていた？）*ですね。「人数足らんから、誰か呼んで」っていわれて、僕が行った。

＜37cm・19 歳・高卒・男性＞

このようなプロセスの仕事の変遷と求職の努力は閉じられたサイクルになりがちであり、このサイクルは、まさに OECD レポート(2000)をはじめとする海外での若者の移行期に関する研究が、社会的対処を必要とする問題と指摘した状況である。この男性の例に見られるように、本人は何とかこの状況を変えたいと考えているが、若者のもっている限られたソーシャル・ネットワークはこれを可能にするものではなく、また、若者の仕事の世界での前進の道筋が見えるようにするものでもない。一方で、安定した仕事への希望は強い。厳しさは大丈夫なので、「一生できる、まかせていいんかなというところを選びたい」（41cm、22 歳、高校卒）という求職の方針は、彼が自分はそのような可能性をもった仕事につくために準備が十分でないことを認識していないことを表していよう。そのための準備（スキルや資格の取得、第一歩となる職業経験など）という第一段階なくしては、現在それは不可能な場合が多い。が、そのことに関して建設的なアドバイスを提供し、つぎのステップを共に考える人・場は、彼の生活の中に存在していないのである。

豊かなソーシャル・ネットワークの必要性

地域の労働市場の状況が、若者が失業と就業を繰り返す状況、または職場でのソーシャル・ネットワークが作られにくい状況を予想させる場合、若者のソーシャル・ネットワークは学校から離れると家族と学校時代の友人という範囲に狭まってしまうことを予想するのは、難しくない。さらに、それさえも薄らいでいく場合、またはもともと大きな存在ではなかっ

た場合、求職中に外に出ていく機会さえも少なくなっていく。これは、都市部でも同様であろう。

> やっぱり家にいるとストレスが残念ながら、そういうこともあるので、なんとか外にでようとは思っていますけど。いまの悩みとしまして、やっぱりプライベートでいわゆるそういう人たちがいないということですね。それが今一番の悩みかもしれないですね。(…) ほんとにそれが何とかなれば少しよくなって、ほかのことも円滑にやれると思うんですけど。(この男性は、以前から交友関係が少ない。)
>
> **＜48em・24 歳・大卒・男性＞**

若年就労支援現場レポート（工藤、2004）は、若者のある程度豊かなソーシャル・ネットワークは、就業継続のために重要な役割を果たすことを報告している。それはまた、前向きな求職活動、失業と就業を繰り返す状況の精神的な支えとなるといえよう。長期化する移行期の若者に、何らかの形でこのニーズが満たされるような支援が必要となる。

同世代を中心とした同質的つながりの存在は、若者に一息つき気分転換する場所と時間を与えているという点で重要である。また、閉じたネットワークの１つめの例にあげた（41cm）男性の場合、困難な労働の状況や先の見通しの見えない中で継続中の初職を辞める大きなきっかけとなったのは、高校時代の友人の「ちがう働き方」に、あるショックのようなものを受けたためであり、それまでの仕事のありようを考えると、一概にマイナスの決断とはいえないと思われる。さらに一番最近の意欲的な求職活動を触発したのも、親しい友人の正規雇用への移行であった。このように、若者に決断のきっかけを与えたり、新たな意欲を与えたりするという意味で、近い存在である同世代の友人の存在は重要である。

一方でここでみられる状況は、このような就業と失業を行ったり来たりしている状態の者にとって、これまでの枠を超えたソーシャル・ネットワークの広がりを得ることが困難であることを示している。また、そのような自らの意思も活性化されていないと思われる。視野の広がり、新たな見方の獲得などによる個人的発達の機会、そしてそれによる職業面での新たな可能性が非常に限られてくるのである。求職活動によって得られた仕事もこれまでのものと大きな違いがなく、長期継続の意欲や見通しが得られにくいだけでなく、職場を通じてのソーシャル・ネットワークの広がりとそれを通じての前進も得られにくい。若者は「これ以上やっても同じ」というようなあきらめとまだあきらめたくないという気持ちの葛藤の中で、「停滞している」という感じもみられる。このような若者も、ソーシャル・ネットワークの躍動化が必要であるが、かれらの「場所と機会」は、上のものとは異なったアプローチが必要であろう。１つには、都市部という特徴もあり、このタイプの若者はある程度の数の若者との交友関係が保たれており、仮に場所と機会が存在したとしても「自分には関係のないもの」として、利用されずに見過ごされる可能性が大きいと思われる。かれらのニーズを重視した「場所と機会」が必要であると共に、提供側のアウトリーチも含めた人と人との活動的な関わりを通してかれらを「場所と機会」にガイドするといった積極的アプローチも必要

となってこよう。

また、最後になるが重要な点として、就業支援機関のスタッフが、若者のソーシャル・ネットワークの中のひとつの重要な存在になることは、このような状況の若者にとって大きな意味をもってくると思われる。スタッフ側の意識の面でのそのようなアプローチが望まれよう。さらにそのような関係は、若者が仕事についてからも、仕事上の相談ができる存在として継続されるべきであろう。縮小していくネットワークの１人めの例としてみた若者の場合、初職での与えられた環境の中で、どのように働き続けることが「成功」へつながったのか、それへの答えは難しい。運転の仕事での彼のような長時間労働の疲労の蓄積が危険であることは、明らかであろう。この時点で、彼のソーシャル・ネットワークにこのような不安や疑問を理解し、雇用側に対して、彼の継続の努力が可能となるような何らかの対応を打診だけでもできる存在がいたら、退職後の彼のダメージはこれほどでなかったのかもしれない。彼の置かれた状況が困難なのは決してすべて彼の責任でなく、「仕事」の面での改善も必要であるということ確認し何らかの対応を試み、また若者の努力を認識する機会を提供するのは、若者が「次の一歩」をふみ出すために重要なことであろう。

1.3　拡張を求めるソーシャル・ネットワーク

もう一つの非常に異なったパターンとして浮かび上がってきたのは、ここで拡張志向のソーシャル・ネットワークと名づけたものである。すでに述べた縮小していくソーシャル・ネットワークからみると、肯定的な状況にあるといえよう。これは例えば、いく人かの若年者対象就業支援機関の利用者にみられたもので、「もっといろいろな人に会って、様々なことを知って、たくさんのことを学びたい」といったニーズを感じている状況である。小学校を含めたさまざまな、そしてしばしば困難であった学校経験、かれらなりの仕事の経験を経て、長い模索の時期の後自らのこのようなニーズを感じ、そのニーズを満たすために活発に動いている、また動こうとしている。

塾と就業支援機関でのアルバイトをしている 24 歳の男性は、農業などのさまざまな短期の仕事を経験した後、現在の支援機関でのアルバイトの仕事を続けたいと思っている。直感的な仕事とのめぐりあいをしてきたと感じており、このようなめぐりあいを得られるソーシャル・ネットワークの存在を重要視している。

> 塾は、行きつけの喫茶店のマスターからやってみないって。そういう人とのつながりって、やっぱり大事にしてるから。
>
> **＜7㎝・24 歳・中退後定時制高卒・男性＞**

現在の相談関連機関の仕事に関連して、

> （某テレビ局）で取り上げているのを見まして、テレビを見て直感的に、あっ、○○さ

んなら何か話しがあいそうだって、直感的に。実際そうだったんですけど。それで会いに来て。直感的に感じましたね。

*（ここで、ちょっと関心の向くままに動いてみたら、それもいいかなと？）*いいかなという感じですね。１年ぐらいこういう仕事とか、いろんなところへ行っていろんな人とつながりをもつ中で、また新しいものをみいだせるんじゃないかなと。そうですね。１年ぐらい、もう少しかかるでしょうか。

この仕事はほんとうにようやくチャンスがめぐってきたなっていう感じで。とりあえずこの仕事をやって。まあ、自分なりに暇な時とか、何かのシンポジウムとかいろいろなところにいったりして、友だち作って、ネットワークをつくってっていう感じですね。

年上の方とももっとつきあいたいと思います、男女とも。いろいろ学びたいなと思うし。

彼は、ロール・モデルとでもいうべき存在が中学高校の友人のなかに存在し、それをひとつの道しるべにしていると思われる。

自分の道とかを自分の手でつかみたい。僕の友だちとかってけっこう、まじめな人とか素直な人で、何かに打ち込んでいるとか、目指すものがあるので、そういう人がけっこう多いんで、自分も何かを見つけたいと。

塾の仕事を通した経験からこどものことがいやになっており、将来のこどもを含めた家族での生活は想定されていない。そのため、「今はぜんぜん、お金を稼ぎたいとかってあんまり思わなくて、最低限生活できるお金を稼いで」という背景もある。

このような状態は、幅広い経験を提供するという意味で肯定的に捉えられるべきであり、仕事を日常生活の射程にいれながら、積極的に可能性を高めていくプロセスと見ることができよう。

また、首都圏に住む 20 歳の男性は、３年後のことについて次のように語った。

*（３年後どうなっていくのとかあります？）*自分がどうなんだろう。お金の面でいうと難しいんだけど、もっと成長していたいとか、もっといろんなことにこうなりたい、うまくできるようになりたいとか、例えばコミュニケーションでも、自分の納得する形ってあるわけじゃない、話し方なり、人との接し方だとか。そういう目標はありますけど。

＜5bm・20 歳・定時制高中退・男性＞

この男性は、小学後期から断続的に学校に登校しなくなり高校を中退、音楽学校を経て現在 NPO 団体の非常勤スタッフと他のいくつかのアルバイトに従事している。これらのアルバイトも自分で様々な団体の活動や集まりに参加し、その中で自ら探し得たものであり、行動的な男性である。今の活動を３年後も続けたいが自立したいという思いも強い。

*（例えばこういうふうになりたいという理想の人とかはいる？）*そのときそのときですよね。僕の周りですごい人がいるんです、結構。やっぱり、あっ、カッコいいなと思って、同じふうにはできないけど、自分なりの何かというのは伸ばしていけたらいいなと。

*（今の活動で食べられるようになったらいいなと一応考えていて、今の仕事をしていく中で、自分には人格面じゃなくて、こういう能力が足りないと思うことってあります？）*僕、全面的に足りないです。必死で伸ばす一方でしかなくて。

*（何かの勉強をしてみようという？）*いろんな勉強をしてみたいですね、時間があれば。例えば僕、写真好きで、カメラ、一眼レフ、そういうのの勉強とか、あとホントいろんなことですよね。政治のこととかも勉強してみたいなと思っているし、いろんなことをやりたいなとは思うけど、時間がとれないという。*（そうだね、これだけやっていたらね。）*いろいろやっていたら全部だめになっちゃう。（…）（現在関係しているNPO）関係のを読んで、あと好きな本を読んでて終わっちゃう。いろんな勉強はすごくしたい。

＜同上＞

一方、このようなパターンに入ると思われるが、長期にわたり様々な活動を行き来し続け、次のステップといえるものにたどり着かないケースがあることも、付け加えなければならない。この女性（10df・28歳・大学中退）には、精神的な健康を害しているというハンディキャップが存在するという背景があるが、宗教団体、ボランティア、英語に関係する集まりや平和運動などへの参加など、ソーシャル・ネットワーク拡張志向が、様々なリソースを作り出すプロセスになるというより、彼女にとって消耗的な意味をもっているようなケースとみられる。

ソーシャル・ネットワークを拡張させ、それによりさらに経験を広げ学び続けることで移行期における課題を乗り越え成長していこうというプロセスを、あるていど順調に進ませるために何らかのサポートが必要であるのか、それともここまでたどり着けば各人がそれぞれの形での目的地にたどりつけるのか、今回のデータからはその答えはでてこない。が、それぞれが試行錯誤で進みたどり着ける者はよいが、そうでない場合、また時間がかかり過ぎ失望したり、その過程でのなんらかの障害によってせっかくの積極的活動が挫折したり、またはその「プロセスの中にいる」ことに適応し過ぎ、何かを決断して仕事としてコミットしていくことが先延ばしになりすぎたりといった懸念が、浮かんでくる。これは、高学歴の若者の移行期長期化のパターンとの類似性からであろう。もちろん、すでに述べた上の二つのソーシャル・ネットワークのパターンに比較すると、かれらの活動は多くの可能性をはらんでおり、肯定的に捉えるべきであるのはいうまでもない。しかし、移行の長期化は本人も含め周りの者に様々な有形無形の負担がかかる状況となることが多い。

*（今はもう何とか独立しなきゃみたいな、そういう気持ちはあるんだ？）*ええ。*（今、積極的に情報収集したりして歩いているんだから。）*そうですね。やっぱりちょっと家にいると気まずいんですね。*（気まずい？）*今、妹のほうも家にいるし、妹も実は派遣の会社なんかでちょっと仕事を探しているんです。きょうはたまたま家にいて、どっちみちここにくる予定はあったんですけれども、やっぱりいびられたりすると家にはいづらいですね。*（いびられちゃうの？ 妹さんかな。）*妹、けっこう口が…。*（きついんだ。一番きついのは妹？ お母さんはそんなにいわないでしょう。）*妹ですかね。今ちょっと妹のほうがけっこうきつく言う。

＜36em・25歳・大卒・男性＞

親からのプレッシャーが少ない場合でも、上のように兄弟姉妹からのプレッシャーを受けていた者は、少なくない。このようなプレッシャーが、何か突出して困難なできごとに見舞われた際に、若者がそのショックに耐えられず無謀な決断をしたりするひとつの基調となる可能性があろう。（イギリスの場合、その結果は出奔そしてホームレス化の危険となる。）しかるべき時期に拡張したソーシャル・ネットワーク経験で得たプラスをもとに、次のステップ（たとえば、何かにコミットする段階など）に向かってのステップがなされることも、望まれるのではないだろうか。また、外からの働きかけとしては、たとえば何らかの形で段階をおって責任のある仕事を増やすなどの形で前進させる意識も重要ではないだろうか。ほとんどの者は様々な機会を得て成熟に向かうだろう。が、上記の女性の例に見られるように、明らかに介入が必要なケースもある。

ソーシャル・ネットワークの拡大に焦点を当てている者が、どのようなプロセスを経て、「仕事」の面でどのような結果へとつながっていくのかについては、今回は「まだつながっていない」者のみを対象としたためにそれについての十分なデータは得られていず、この点での分析は不可能である。が、このような支援機関の拡大に伴ってここでみるパターンはより多く表面化してくることも予想され、また「ひきこもり傾向」と呼ばれる経験をもつ若者の多さも、このようなケースへの有効な支援の重要性を示している。このような若者が、第一になによりもソーシャル・ネットワーク拡大を求めているという状況の中で、それはどのように有意義な結果へと結びついていくのか、そのプロセスはどのようなものか。結びつかないとしたら、どうしたらこのような状況がプラスになるように支援できるのか、かれらの成功を確かなものにするために提供可能な支援があるのか。これらの疑問に答えるためには、このようなソーシャル・ネットワーク拡大のニーズを強くもち活動している若者のフォローアップが重要になってくるだろう。これらを少しでも把握し知識として提供していくことは、若者へ移行期における発達・前進のひとつの具体的ルートを示すことができるだけでなく、同様の問題をもつ移行期を控えたより若い世代とその親、長期にわたって成人した若者を支えている親にとっても、重要な情報となると思われる。

２.「もう一つの選択」のためのソーシャル・ネットワークの必要性

若者は自分の将来について、また現在の生活に関してさまざまな物事を考え、選択や判断を下していく。そのプロセスを理解するというのが、今回の調査の一つの目的であった。移行期に関して非常に重要な影響を与える学校・学習からの離脱の際、その判断の拠り所（準拠枠）の大きなひとつとなるのは、「友人」と思われる。「そういう人をたくさん知っている」ということからくる安心感のようなものが、若者にゴーサインを出すことが多いのではないだろうか。このことを強く知らされたきっかけは、10 代で未婚のまま出産を控えている女性のことばであった（ID 番号は伏せる）。生まれてくるこどもの父親とは結婚・同居の予定はなく、継続していたアルバイトも家人の世話などでやめ、主に自宅で過ごしている。子ども

を産むことについての不安にどのように対応しているかを知ろうとした質問に対して、「不安はべつにない」と答えた。その理由を尋ねる質問には、そのような友だちをたくさん知ってるから、そういう状況でちゃんと頑張ってる友だちがけっこういるから、と説明する。もちろんそれだけがすべてではないであろう。が、同様のことをやってきた（やっている）友だちがいる、だから自分も大丈夫だという根拠からくる安心感は、決して小さくないように思われた。それをすることによるプラスやマイナスについては分からないが、とりあえず、みんなやってるから大丈夫、やってみたい。これと同様の説明が、もう一人の女性からもなされた。

> 16（歳）の時かな。友だちの紹介でつきあった子がおって、ほんでそのつきあった子のこどもをお腹にはらんでしまって、まあ産む前に別れたんやけど。んで産んだと。17 の５月くらいかなぁ。だから子どもも別になんていうんかなぁ、ノリで産んだみたいな感じがあって。まわりの子らが産んでるから産みたいみたいなノリがあって。実際産んでみたら、なんで産んだんやろとか。こいつがおるから遊びにいかれへんとかなって。そんなんあって家出とか。ま、３時間に１回とか泣くやんか、子どもって。
>
> **＜4bf・20 歳・高校中退・女性＞**

この「周りが皆やってるから大丈夫」という安心感は、学校や学習を通して前進していくというコースから早い時期に離れていった若者が、その時期を振り返って語ったことばにも、みてとることができる。

> 中学校、行ってなかったんですよ、あんまり学校、全然。（…）*（友だちはたくさん。小学校の頃は？）*そうですね。そのころも多かったんですけど。*（小学校からずっと？）*はい。そっからずっと上がっていって。そやから学校行かんと、みんなで遊んでた。*（高校入った時、何が一番「おもしろいな」と感じた？）*友だちと遊ぶということですね。*（中学の時は？）*学校いかんと遊んでただけなんですけど。（…）中学の３年生の時の担任の先生にはよくしてもらったんで、それで学校いくようになったんで。
>
> **＜37cm・19 歳・高卒・男性＞**

> *（野球部に入って勉強するのがいやになったというのは何で？）*そういうふうな子と友だちになると、勉強せんでええかなと思っちゃったり。小学校と中１の最初は勉強もそこそこできる子だったんです。野球にのめりこんでいくと、いろんな悪い子と遊ぶのが楽しくなってきて、流されていった感じです。中１の夏休みから全く、ほんとうに全くといっていいほど勉強はやってないです。テストの前の日に友だちに教えてもらう。それで 10 何点。
>
> **＜41cm・22 歳・高卒・男性＞**

（41cm）の男性は、中学１年の夏休みにバレー部から「すごい悪い子ばっかりやった」野球部に移り、小学校時代がんばっていた勉強を全くしなくなり遊び回るようになった。自身がふりかえり、「流されていった」と表現するその理由からは、多くの友人と行動を共にし、その中での自らの行動に対する安心感が、それに対する疑問をある程度封じ込めていたような様子がうけとれる。

また、看護師になりたいという希望を早くからもっていた以下の女性（22cf、19 歳、高卒）も「流される」というように表現したが、彼女の状況は「流される」ことを「選んだ」ようすがよりみてとれる。さらに、実際に学業・学校から離れる前の「引力／重力」にも似た存在について語られた。これに対抗するものとして、母親の厳しい態度があったが、あるきっかけで彼女は「流される」ことを選ぶ。

中３になって成績がめちゃくちゃいきなりなり落ちて、ほんでこんな成績やったら行くところ自体がまずないよって。「でも、あんたの夢は看護婦さんでしょ」「そうや。」もう一回ちゃんとやる気があるんだったら…あきらめんとやりなさいって、先生に言ってもらって。*（中２年まではそこそこの成績やったのにという、そこそこて？）*真ん中ちょっと上ぐらい。*（それが何で３年になったら急に？）友だち*が悪かったんやな(笑)。自分が流されやすかったんすね。*（友だちていうのは？）*最初は小学校の友だちとずっと遊んでたんですけど、違う小学校からもいっぱい集まるじゃないですか。で、クラスかえとかなって、こうちょっと悪い子と仲良くなって。上の子とかともいろいろつながりができてきて。

（中３一学期終わりの進路に関する親・教師・本人の面談に関係して）
*（でも看護婦になりたいというのは、もう、その時はとんでいた？）*残ってはいて…。行きたいていうのも自分では言いたかったんですけど…。もういかないからいいんですよ、もうこの子こんなんやし、みたいな感じで、親もあきらめモードがだいぶ入ってたんですよ。*（もう７月ぐらいで。ほなよっぽど急激な変化やったんですね？）*かなり急激で…。

*（でもお母さん、びっくりしゃはったんちゃいますの。それまで塾行って…。中学２年生まで塾とかざーっとやってて、〇〇さん個人としては、…ある意味でなんか糸がぷつんと切れたみたいな感じやったんですか？）*もともとその人ら（注）とも付き合いはあったんですけど、一線自分の中でおいていた部分があったんです。急に付き合いだしたんじゃなくって、こうずっとあって…。
（注：同じ中学からの５人ぐらいと年上のすでに中学を卒業して高校へ行っていない者、10 人ぐらいのグループ）

*（知ってたんはもう中学１年とかから…？）*うん、ずっと知ってて、その周りの友だちはみんなずるずるとそっちへもっていかれててんけど、なんかお母さんに怒られるっていうのが常にあって…。髪の毛染めたい、でもお母さんに怒られる、ピアスの穴あけたい、でもお母さんに怒られる…。お母さんがすごい恐かったんですよ、私。（…）*（それがほな切れてしもたわけですか？）*急にぷつっていったんです。なんか、もう…。つきあった子がきっかけでそうなったと思うんですよ。男の子。

高校に入ってからは、「晩、別にバイトしてたぐらいで、遊びに行くことはなかった」が、２年生からさぼりがちになる。そこでもまた語られた理由は、皆がしていたというものである。

２年が一番さぼりがちやったんかな、学校。その別に何かあったというんじゃなくて…。学校の友だちと一緒に、あの、朝、朝遅刻せえへん時間帯やのに、一緒にマクド行こうや、ていうてマクドいったりとか。（…）カラオケいったりとかして、あ、こんな時間や、休もか今日、みたいな…。そんなんがいっぱいありました。*（それはまたそんな友だちがおったわけ？）*おった…。ただ単に皆そんなんして。してましたね。

＜22cf・19 歳・高卒・女性＞

このような時点で、個人のソーシャル・ネットワークの中のある一部分の重要性が大きく突出した形になりそれが多くの説明にみられる「皆がしていた」につながるのだろう。そして、親や学校など他の部分が影響を与えることが非常に困難になるようである。この時期が若者の早期の経験の「一時期」であるケースが少なくないにも関わらず、後の若者の軌道に与えるその影響は深刻であり、移行期へのダイレクトな影響は明白である。（41cm）の男性の場合、この中学時代の学習／学校からの離脱は、彼なりにおとなしくすごした高校時代をもってしても取り戻せない結果を残したと思われる。何とか高校に行かせようという中学３年時の担任の助けを得て、毎日放課後残って中１からのドリルをこなし、かろうじて高校に合格する。が、入った高校での勉強のレベルの低さから意欲をなくし、学業面そして将来を考えるという意味では漫然とした高校生活を送り、全体の生活態度も極端ではないが、前向きのものではない。この男性が大きく学校・学業から離れていったのは、主に中１の夏から中２の終わりまでだったが、この時期がもたらした影響は本人の想像以上に大きかったと思われる。(22cf)の女性を見ると、離脱へ流そうとする引力に対して踏みこたえている時期は、きっと本人の中にいろいろな考えがよぎったと思われる。その中で、「みなしている」、だから安心という「安心感」に基づく選択が、実際には移行期でのありようからみると非常に「危険」な選択であった。

このような若者にセカンド・チャンスを準備することももちろん重要である。今回の調査ではそのようなパターンのデータは含まれていなかったが、実際に自らの力や周りの援助を得て、様々な形で順調な移行期を経ている若者も存在するであろう。が、移行期支援という観点、そしてソーシャル・ネットワークという視点からは、このような選択を考える時の若者が、離脱ではないもう一つの選択をできる基盤となるソーシャル・ネットワークをもつことを支援することが必要ではないか。このような選択に向かう際、かれらの判断が準拠する枠が非常に限られ狭くなり、その中で安心感を得て離脱を選ぶプロセスに、何らかの形で影響を与え、それではないもう一つの選択ができるような準拠枠を若者が作り出しておくことが必要と思われる。離脱の選択には複数の要素が関係しあっており、その主要因の指摘は難しいことが多い。社会構造的、個人の状況的要素があり、すでに学校を中心として多くの取り組みがなされていよう。移行期の面からも、この問題に対する取り組みの重要性を強調したい。

また、この重要な岐路でこのような影響を与えられるのは、若者のソーシャル・ネットワークの中でかれら自身が重要と認識する存在であり、教条的メッセージやそれを提供する存在ではないだろうと思われる。限られたデータであり、また離脱の危険が大きい時期より後の時期（インタビュー時）にあたるが、若者が生き方のモデルについて語ったことばのほとんどは、それは、遠い憧れの存在でなく、若者が実際にかかわりをもったことのある存在であることが多いことを示している。

*（こういう人いいなとか、こういう人になってみたいとかいう人いる？ こういう人に憧れるとか。）*友だちが海外にいってるんですよ。英語の勉強。今はアイルランドに１ヵ月くらいいて、ノルウェーに行ってそれで学校に入る。*（どこがかっこいい？）*行動力っていうか。全部自分でお金ためて行って。アルバイトしてずっとお金ためてたみたいで。すごいな。学費もだし。考えることも人と違う、個性的っていうか。そういうのがいいなって。

＜24cf・19 歳・高卒・女性＞

*（今、自分で、ああいう生き方がいいなと思うとか、ほかにも何人かそういう自分にとって影響力があるというか、こういう生き方いいなという人がいますか？）*まず父親ですね。なれないかもしれないけど、ああいういわゆる中小企業のサラリーマンとして、リストラにあいながらも、ずっとやっぱり。かっこいいなと思いますね。

＜7cm・24 歳・中退後定時制高卒・男性＞

それがどのような存在かは、個人によってまたその時期によって異なると思われる。より若い時期では、憧れの対象、親しく近い存在、尊敬の対象など、さまざまな関係が考えられる。今回のデータは、重要な岐路で影響を与えられなかったというケースが主であったため、この点についての分析はできない。どのようなソーシャル・ネットワークの中の存在が、この将来の移行期に大きな影響をもたらす選択をする際、有意義な形で存在し働くことができるのか―この点についてのさらなる追求には、今回とは異なったグループの協力者が必要となるだろう。

ただ一点、今回のデータがはっきりと示しているのは、離脱する時期が中学期にすでに多く、これはこの「もう一つの選択のためのソーシャル・ネットワークつくり」が小学校期になされる必要を示している。離脱の選択をこども・若者が「意識する」時に、もう一つの視点や考えかたを提供する準拠枠をもち、将来に大きな困難をもたらす選択でないもう一つの選択をできるようなソーシャル・ネットワーク作りが必要であろう。これは特に地域的に、または個別の事情で離脱の危険が大きいこどもにとっては、小学校期の特別なニーズとして認識されるべきであろう。

３．実際のサポートを提供する地域のソーシャル・ネットワーク

関西のある地域では、地域の公共機関での仕事が求職中の若者に提供されることがなされている。それは１年を期限とした短期契約であるが、若者がその期間、ある意味で「守られ」「成長するための」時間・場所・心理的スペースを提供する役割を果たしているように思われる。

この女性は高校卒業後、学校側の学生の生活態度に対する方針とのぶつかり合いで看護学校を辞め、地域の公共機関での○○会（学童保育）での、１年契約のアルバイトの仕事を得た。

そうですね。春休みとかになると、いろいろあるんですよ。キャンプとか、子どもたちと交流みたいな。そういうのもあるし、だから夏休みとかやったらもう丸１日ずっとで

ないとダメなんですよ。そんなんでも苦にならなかったですね、おもしろかったから。職場もいい人ばっかりやったし、行くのが楽しかったから。

〈12df・20 歳・高卒・女性〉

彼女はもう一度看護学校の試験を受けることにし、このようにアルバイトをしながら（当時はビアホールでもバイトを続けていた時期がある）受験のための勉強を続けた。そして、職場でのそれに対する支援は、彼女にとって大きな力となったようである。

このアルバイトしてなかったら、何しとったやろな。多分、ぼーっと過ごしてるだけで、お母さんに「何か決めや」とか言われてるだけで終わってたかもしれん。だから、あんねんけどそれに向かおうっていう気には、…。向かっていけへんかったと思う。こんなんとかいいねんけどなあって思うだけで終わってたかもしれん。

みんな（職場の人たち）、私のことだけじゃないけど、いろいろ言うてくれるんですよ。「こんなところもあるで」とか、看護の学校とかでも「ここ、どう？」とか。いっぱいアドバイスとかくれたりするし。

＜同上＞

この公共機関での仕事は、前任で働いていた人が彼女の高校の同期で、その前任者が職員に彼女のことを紹介し、家に直接電話がかかってきたという経緯で始めたアルバイトであった。これは、地域のそのような制度と偶然も大きいが彼女のソーシャル・ネットワークがもたらした仕事であり、それは同時に彼女にとって、もう一度自分を立て直し再度挑戦するエネルギーとそのための支援を提供する新たなソーシャル・ネットワーク（職場のスタッフ）の獲得を同時にもたらしたといえよう。

このような機会も、状況によっては十分その機能を果たせない場合もある。同様の仕事を得たこの男性は、父親の関係で本人もその存在が知られていることがきっかけで、声をかけられた。だが、その機会を生かせるための基盤をもっていなかったように思われる。

17 か 18 の時、○○会の（バイトを）。*（これは誰の紹介で？）*これは地域の知っているおじさんというのか。１年間。*（ここはしっくりきたんですか？）*その当時の年齢の時はしっくりはきてたんですけど、起きれないという最大のミスがあって、あんまり行けてなかったですね。*（何時からの仕事？）*朝９時から５時ぐらいですね。*（けっこう早いんだね。じゃ、これも続けようと思ったら続けられた？）*そうですね、でも、それも多分１年か２年の契約やったと思うんで。（*じゃ、続けられたけどやめたのか、「もうやめて」と言われたのかといったら？）*「やめて」という感じですね。*（それは勤務状態が悪かったから？）*そうですね、あまりにも。

＜1am・24 歳・中卒・男性＞

また、この男性は、仕事は異なるが再び公共機関の仕事を得る。

今は一応アルバイトという形で１年間の契約で。*（この４月からですか？）*去年の４月からもう１年とちょっとたっていますけど、また新しい仕事を探さないけないという状況に。

*（今までやってきた、この 1 年間の仕事について聞かせてください。どんなお仕事なんですか？）*モップかけて、モップかけて、モップかけるみたいなことですね（笑）。言うたら体育館の窓ふきとか、中の清掃ですね。

彼の二度めの公共機関の仕事のきっかけについては：

*（ここはだれか紹介があったんですか？）*ここはまたの○○会のバイトの時みたいに、同じ人が「やらへんか」みたいな、○○さんという人に声をかけていただいて。*（音楽の専門学校に行っている時に専門学校を出たらどうしようかなとかいうことは考えてなかったですか？）*どうしようかなとは考えましたけど、見えないんですよ。どうしようかなってずっと。*（その時に考えたのは？）*その時にぱっといつもくるものですから。こんなんせえへんか、こんなんせえへんかと。とりあえずどうしようかな、ああ、行きますみたいな。*（仕事のお誘いというのは結構あるのかな？）結構ありますね。言うてくれはる人が結構いてまして。（それはどんな人？親戚。）*親戚じゃないです。地域のおっちゃん、おばちゃんとかが「今、どないしているの」と言うので、「いや、こないこないで、歌、頑張ってます」と言うので、「仕事はどないしてんのん。いっぺん今度こんなんやってみたらどうや」と言うので、そこから話が。

*（例えば○○の掃除の仕事とか、そういうことだけじゃなく、いろいろな町工場とかそういう仕事の話も入ってくるのかな？）*入ってこないですね。外は。外はあんまり入ってこないですけど。*（こういう公的な機関の仕事？）*はい、多分その間、やりもって違う、外へ出ていく仕事をみつけやというふうに多分言うてくれていると思うんですけど。

*（それは地域の人が特に○○さんのことを気にかけてということなの？ それともここにいる若い人たちには。）*そうですね。若い子らに目を向けてくれているという大人の上の人らと思います。

彼のこの二つの経験は、このような地域のサポートを有効に生かすためには、ある程度の当人の基盤が必要であるということ、また、仕事の内容によってはこのような機会の重要な一面である「人」との関わりが十分でなく、若者を「支援する」という意味では十分な結果を伴うことができない可能性を示していよう。

もう１人、同じく公共機関での仕事を得た女性（4bf、20 歳、高校中退）の例は、将来の方向性には具体的に結びつかなかったが、その仕事の中での個人の成長の可能性を感じさせた。彼女は、高校１年で中退し、その後アルバイト（スナック、食品加工工場、ペットボトルの検品など）を経験しながら 17 歳でシングル・マザーになる。現在は本人の祖母に同居でこどもの世話をしてもらっていながら、働いている。

*（こどもが２歳くらいになって落ち着いた時にここの○○会でバイトをしだしたってことですかね？）*そうそう、落ち着いた時に、お父さんが○○会で仕事せーへんかって言ってきて、で、アルバイトじゃなくて一生になるかもしれへんでって言うから、ほんじゃ働くわって。*（アルバイトですよね？）*パート。

彼女の仕事に関する話は、仕事場での「しんどい」経験についてだが、それまでのバイトを語っていた様子とは異なり、その仕事を通じてのある「成長」を感じさせるものだった。

仕事上の子どもたちの安全やそれに対する親からの苦情について、また職場での尊敬の対象であった人に対して、仕事の内容（社会の変化に子どもたちへのアプローチが対応していないのではないかという疑問）に関して尊敬していいのかわからなくなっているという内容である。このようなことを語るとき、インタビューの他の部分とはトーンが異なり、他のバイトについての話ではでてこなかった、分析的な説明がなされた。

しかし、彼女はこの職場から、親しいまたはサポートとなる関係を得ることはできないでいるようである。

> んで、けっこう男の人が多いから、男の人とは、普通の友だち感覚でしゃべったりっていうのがあんまりなくて。仕事面だけで。*（仕事でのつきあいにとどまる？）*そう。仕事意外のことはあんまり話さないみたいな。けっこう役所の人やから、仲良くなったなって思ったらもう異動するから。まぁうちらはずーっとなんやけど。周りがかわっていくから。また一から仲良くなってっていうのはしんどいなぁ。

だが、以下の彼女のことばは、この仕事を経験し、限界は感じながらも以前よりは将来について前向きに向き合おうとしている様子を感じさせる。

> *（1年ちょっとやってみてもうすっかり慣れて？）*うん。けっこう慣れてる。*（どうですか？ このまま続けて。）*いけそう。*（じゃあ特に、何か問題が発生せんかぎりやってみようかなって？）*そうそう。だから、うわべだけでやめたいって思ったことはあったけど本心ではないかなぁ。まだ、プータローの子もまだ友だちのなかにはおるんやし。で、好き勝手遊んでる子もおるから、そーゆー生活に戻りたいなって思う時がある。*（でも本心ではまぁそーゆーのもまぁいいけど…？）*そうそう。やっぱりやめたらこの先。何したらええやろかとか。子どももおるし。*（じゃあわりと今の仕事は自分に合ってる？）*合ってんのかなぁ。*（最初はお父さんの紹介で一生の仕事になるかもしれんでってことでしたけど、パートから正職にかわるってことはないんですか？）*ない。*（なんか試験受けて、そういう？）*その前に、高校卒業していないし、資格とか多分とられへんと思うけど。

以上の例は、短期でもこのような就業の機会は、それをいかせる状況にある者にとっては、大きな転機となりうることを示していよう。一方、生活面での体制作りなどの基盤が整っていないなど、それを活かせない状況の者にとっては、この機会を有効に活かすためのもう一つのアクティブなサポートが必要となろう。（1 am）の男性は、幼少時に両親が離別、主に祖母に育てられるが、その祖母が 10 歳の時に他界し、その後小学校を休むようになる。そのころのことについて：

> *（お父さん、お母さんからの期待というのは何かありました？）*そのころの、うーん、おやじも多分忙しかったんやろうし、僕、おばあちゃん子なんですよ。（…）おやじも忙しい仕事なんで、おばあちゃんといろいろコミュニケーションというか、とっていて、それまでは内弁慶やったんですよ。おばあちゃんが 4 年生の時に亡くなったんですよ。そこから多分やる気がなくなったんでしょうね、学校へ行く気もなくなったというか。

インタビューの端々から状況をみていくと、祖母が死亡したのち新しい家族との関係は確立されず、新たな家族が増え、家での生活が彼にとって非常に困難であった様子がうかがわれる。そして、そのまま中学でも学業から離れたまま、地域の友人とのさまざまな遊びを中心に過ごし、中卒で働き始める。このような男性が 17・18 歳の時点で地域での若者支援を目的とした就労の機会を得た時、その機会を意味のあるものとするためには、若者を長い間知っている地域ならではの若者のライフヒストリーを理解したサポートが、鍵となってくるのではないだろうか。サポートにも限界があり、すべてのニーズを満たすことはもちろん不可能である。が、このような貴重な機会を少しでも活かせるような方法を考えていくことは、大きな意味をもっていると思われる。

４．まとめ

移行期および若者を全体的に理解するために、かれらのソーシャル・ネットワークとその変化の理解は重要である。インタビューの限られた時間の中で、そのすべてを語ってもらうのは不可能であるが、限られたデータの中でマッピングを試み、その中でいくつかのパターンとそれに伴う問題が浮かび上がってきた

移行期のソーシャル・ネットワークのパターンとしてまず浮かび上がってきたのは、学校を離れた後の若者のソーシャル・ネットワークの縮小である。地方に在住する若者の場合、卒業後次の新たなソーシャル・ネットワークを提供する所属をもたないこと、そしてそれに加え求職活動が順調に前進しないことにより、若者が徐々に孤立していくような状況がみられた。それは、直接・間接的に若者の活力を低減させ、幅広い人との関わりや多様な経験を提供し個人の発達をもたらす機会をせばめ、重要課題である求職活動に前向きに取り組む意欲を弱めていく。このような若者が、新たな活力を得、長期に及ぶかもしれない移行期に前向きに取り組んでいくためには、若者がそのソーシャル・ネットワークを維持するのみでなく、新たに豊かにできる場所・機会（活動）が存在することが必要となってこよう。

また、同様の縮小化は都市部でも起こるが、この場合地理的な距離の近さと交通の便利さなどにより、友人との交流は前者より活発である。が、仕事の提供や情報交換も含めたこのような交流は、短期就業中の同じような状況の友人が多く、そのネットワークは閉じている印象が強い。次のステップを求めながらも、その手がかりはかれらのソーシャル・ネットワークの中から得られず、短期就業を繰り返すパターンが多い。このような孤立を感じない閉じたソーシャル・ネットワークをもつ若者に関しては、新たなネットワークを得られる場の必要性のみでなく、そこへ積極的に結びつけるためのアウトリーチ的方策が必要であろう。さらに、就業支援機関のスタッフが、若者のソーシャル・ネットワークの中のひとつの重要な存在になることは非常に大きな意味をもつと思われる。スタッフの意識面でのそのようなアプローチが望まれよう。

またこれらと対照的に、ソーシャル・ネットワークの拡張を活発に求め、そこから前進し

ていこうとする若者が存在する。過去の学校や職場での困難な経験を経て、かれらなりにその経験を消化し、状況を打開するために積極的に活動している。が、一方このような活動が、仕事の面でも個人の発達の面でもプラスに結びつかないのではないかと思われる者もいる。このようなソーシャル・ネットワークの拡張を通じて前進していこうとしている若者の成功を確かなものにするための何らかの支援が必要なのかどうか、そうであるとしたらどのような支援があるのか、フォローアップによる継続した調査が必要であると思われる。

判断や状況の理解の準拠枠を提供するものとしてのソーシャル・ネットワークという点で浮かび上がってきたのは、さかのぼって学校／学習から離脱していく時期の若者の状況である。その時点で、離脱を促す力をもつソーシャル・ネットワークの存在が大きくなり、「みんなしている」からという「安心感」が、移行期の視点から見ると非常に「危険」な選択を若者に選ばせている。このような若者がもう一つの選択をできる準拠枠を提供するソーシャル・ネットワークづくりが、離脱の危険が多い時期（中学校期）の前に必要である。地域的、また個人的状況が将来の離脱の危険が大きいことを示している場合、これは小学校期の特別なニーズとして取り組まれることが望まれる。

最後に、公的機関での有期雇用を若者の地域のソーシャル・ネットワークを通じて提供する制度は、若者にとってある意味で「守られた」環境で自らのこれからの仕事について考える時間と場を提供している。ある者はつまずきから自らを立ち直らせ、仕事の面で新しい目標をはっきりさせそれに向かって努力する機会を得たり、またある者は目標が見えないながらも、自分の状況を立ち止まって考え、落ち着いた仕事の環境からの個人的成長を得ているようすがうかがえる。一方、このような貴重な機会も、若者の側の基盤（たとえば生活リズムの自律など）がなかったり、若者の成長を促す大きな要素である、そこでの「人」との交流の少ない仕事であったりする場合、若者がこの機会を生かせる可能性が少なくなる。このような場合には、就業機会の提供に加え、この機会を活かすためにもう一歩若者を支援しガイドするというアプローチが必要と思われる。

引用文献

OECD（2000）*From Initial Education to Working Life: Making transitions work*, Paris: OECD.

工藤　啓（2004）『若年就労支援現場レポート No.2 (unpublished report)』 東京: NPO 育て上げネット.

終章　職業への移行が困難な若者の背景を考える

１．はじめに

第１章から第５章まで、職業への移行が困難な若者の実態とその背景にあるものを、51のケース記録をもとにそれぞれ異なる角度から考えてきた。序章に記したとおり本調査は未だ続行中であり、この報告書は中間段階での暫定的なとりまとめではあるが、最後にここまでの分析を整理しておきたい。

調査のねらいは、学校から職業への移行が困難な若者（＝無業・失業・フリーター）の中でも、積極的に就職先探しをするようなタイプでなく、これまでの就業支援施策をうまく使っていない「意欲」の低い若者たちの実態を把握し、その行動の背景となっている要因を分析することであった。そもそもこの調査は、移行がスムーズに行われている若者との比較を織り込んだ調査ではないため、各章でとりあげたそれぞれのケースが抱える学校や家庭などの問題が、移行を困難にする決定的要因であるか否かという因果を測ることはできない。たとえば、ケースうち幾人かは厳しい家計のもとにあり、進学をあきらめ、あるいは、高校在学中からアルバイトが生活の中心を占め、なかにはそこから家計に貢献することを求められていた。しかし、こうした状況にある若者のすべてが、職業への移行に失敗しているわけではない。そうした意味で、ここで整理した移行の困難度の高い若者の背景にある事情は、あくまでも要因のひとつとなっていることが推測されるだけである。しかし、その事情を掘り起こし議論の俎上に乗せること、さらに、掘り起こした事情の相互の関連を整理してパターンわけができれば、彼らについての理解を進め、その因果の連鎖を解くための政策の立案に貢献しうるのではないか。

そうした視点から、この章はこれまでの各章で明らかにされた事情の相互の関連を整理し、移行の困難度の高い若者を理解するために、彼らの事情のパターン分けを試みることにする。

２．移行困難な若者の事情の整理

第１章から第５章までの各章では、ごく簡単には、次のような移行困難な若者の事情が抽出された。

第１章では、学校から職業への移行プロセスのどの段階でどのような障壁があって、正社員での就業から離れていくのかをとりあげた。若者たちは、高校非進学、学校中退、卒業時に就職活動をしない、就職できない、早期離職、離職・離学後のアルバイト選択など、いくつかの段階で、正社員就業への経路から離れていった。この正社員就業の経路からの離脱の段階ごとに本人の進路選択理由や背景に意識されていたもの、離脱の後の就業状況等を見ていった。ここから、中等教育で中退した者や卒業の見込みが立たなかった者では基本的なレベルの就労準備ができていないという問題があること、地方の高卒者では就労準備が出来ている者でも求人が決定的に少ないため就職できないでいること、また、高等教育進学者では

進路選択の失敗や不適応から中途退学していたり、自由応募の市場で応募先選択の基本的な方向付けに迷っていたために、一斉に進む新卒就職のプロセスに乗りそこなっていたこと、進学浪人や留年期間が長くなった者では、新卒就職のプロセスに乗ることそのものをあきらめる傾向があることなどが明らかになった。

これを就労のディメンジョンにおける移行の阻害要因という見方で整理すると、①労働需要の質が変化し高校生への求人は大幅に減っている。②それは特に地方で著しく、成績も出席状況も良好な高校生が就職できないでいる。一方で、③新規学卒採用が基本であるという採用姿勢は変わらず、新規学卒時をはずしてしまった無技能の若者の正社員就職は難しい。④非典型雇用での需要が拡大して正社員の口はなくともアルバイトの口はある。⑤非典型雇用からの正社員登用は、限定的である。⑥過年度卒業や留年等での年齢オーバーは新卒採用でハンディになる。いったん就職した者では、⑦少ない新入社員に過重な負荷がかかっている。⑧職場に仲間集団が形成されない、などの要因が挙げられる。図終－１の左上には、これらの要因を就労のディメンジョンから見える阻害要因として配した。

職業へのスムーズな移行を支援してきたのはまず学校である。学校の次元では、まず第２章でそれが持っていた包括的移行支援機関としての役割に注目した。移行がうまく進んでいないということはそうした支援が有効に機能していなということであるが、移行に困難をかかえる若者たちのなかでも、高校選択に真剣に取り組んだ者は高校を離れるときの進路選択にも真剣に取り組む姿勢があり、さらに、こうしたケースでは移行の危機にある現状においても将来への希望や展望を持っている傾向がみいだされた。大学進学時の選択姿勢とその後の就職活動、将来展望の間にも同様な関係がみられ、「就職」という形に結びつかなくとも、進路選択にまじめに取り組む姿勢は移行の危機が重大なものになるのを防ぐという意味で、有効であることが指摘される。学校の移行支援機関としての役割は改めて評価されなければならない。

他方、進路選択という課題に真剣に向きあっていないケースも多い。第３章はむしろこうしたケースを中心に高校が果たす役割を検討した。ここで明らかになったのは、学校に行く理由もないがやめる理由もない、友達と過ごすことで時間をつぶすという消極的な「居場所」としての学校であった。かつて学校が持っていた社会化機能はすでに大きく低下している。そこで、アルバイトなどの就労場所や公共職業訓練機関などの学校以外の機関での訓練や体験によって学校の機能を補完する必要が指摘される。

第２章と第３章からは、学校というディメンジョンにおける移行阻害要因が抽出される。これは高等学校段階と高等教育段階で大きく異なる。高校段階では、①受験する高校を選択する段階からの進路選択に真剣に関与させる進路指導･キャリア教育が十分展開されていないことがある。②とりわけ、入学難易度の低い高校では、進路選択の関与ばかりでなく、学校を消極的な居場所としか意識していない高校生が少なからずいて、基本的な社会化もすすんでいないし、学業達成の意欲も形成されていないという問題がある。基本的なエンプロイ

アビリティが未形成の若者たちを生んでいる。高等教育では、③やはり、大学進学段階での進路選択に問題があり、中途退学などにつながっている。また、卒業をひかえての就職活動にわずかに参加しただけで降りてしまう早期就職活動断念者の問題がある。こうした進路選択の課題を乗り越える支援となるキャリア教育が、今、大学段階でも必要になっている。ところが、こうした支援を提供している大学の支援機関は意欲の強い者にしか利用されていない。④学生たちが就職活動の途上で立ちすくんでしまうのは、キャリアの方向付けが出来ずにいるからに他ならない。大学教育の専門性が一定のキャリアの方向との関連(レリバンス)を有していれば、職業選択の課題への立ち向かい方も異なろう。我が国の大卒者の場合、技術系職種での採用は工学教育等と結びついていることが多いが、事務・営業系職種では専攻を問わない採用が多く、大学教育の内容と就業先とは非常に緩やかな関連性しかないケースが多かったと言える。そうした結びつきのあり方にも変化が生じてきていると思われるが、改めて、そのレリバンスについて吟味すべき段階だと思われる。

さて、高等教育進学者と高卒以下の学歴の者では移行の実態が大きく異なるが、高等教育への進学を規定するのはまず親の家計であり、また、家族・階層は就労への意識や態度を規定する大きな要因である。第４章では家族の影響を分析した。都市部の高卒以下の学歴者では、フリーターでも収入の一部を親に渡していた。親はお金さえ入れれば就業形態は何でも良いとみており、子供に対する態度は無関心と放任で、子どもは特にやりたいことはないがそのことを悩んでもいない。これに対して高等教育卒業者では親は子どもの進路に関心が高く、教育成果に強い期待を持っていた。このプレッシャーに耐えられずに挫折するのがこの層のひとつの典型である。また、「やりたいこと重視」の子育てが、結果として、子供の全能感を高め夢と現実のキャップを拡大してなかなか仕事に就く決心のできない若者を生み出す面もあった。さらに地方では、地域経済の衰退が家計を直撃し、就職できない場合に進学の選択をすることもできない状況があった。若者は職歴、経験を積むべき年代に、社会的文化的に貧困な環境に閉じ込められる危機に瀕していた。

家族という次元での移行の阻害要因としてとらえなおすと、まず、①都市部の家計状態が厳しい家庭が挙げられる。そこにしばしば見られる子どもへの低い関心、低い期待水準が子どもたちに与える影響は大きいだろう。高校入学と同時にアルバイトをすることが支持され、子どもたちは親から小遣いをもらう段階を終了して、自分のアルバイト収入でまかなう者が少なくない。ひとたびアルバイトが始まると、親からの経済的自立の一歩が始まり、後戻りすることはなくなる。自立への開始が早いが、不安定な雇用、少ない収入などに規定されて、親からの完全な自立を達成するのは困難になっている。欧米諸国で指摘されている、もっとも社会的排除に陥りやすい典型に近い。これにたいして、②高学歴家庭では、違う形での阻害要因が生じていた。教育に関心の強い高学歴家庭の子どもたちは、ひとたび学校で失敗すると、職業選択の過程にも負の影響がみられがちであった。また、しばしば「やりたいこと」をさせてやりたいという親の想いやパラサイトを許す家計状況が、仕事選びの段階で立ちす

くむ若者たちを生み出す要因にもなっていると思われる。他方、③地方の高卒者の場合は、就業機会が非常に限定されている中で、仕事は中途半端であり、家庭と地域の限定された生活空間で暮していた。大都市ほど小遣いを稼ぐ機会がないため自由になるお金も少ない。このことも行動範囲を制約することになっている。若者たちは、社会的文化的に貧弱な環境に閉じ込められた状態に置かれていた。

最後の第５章では、友人関係や周囲の大人や支援組織など社会的なネットワークと移行との関係をとりあげた。ソーシャル・ネットワークは若者に具体的なサポートを提供すると同時に、判断や決定を行う際の準拠枠を提供する。学校を離れてどこにも所属しない状態になると、このソーシャル・ネットワークは縮小する。この縮小化は、社会的発達の機会を減少させ、自信を失わせたり現在の状況に対するやる気を失わせ、不活性化に結びつく。これは求職活動をさらに困難にする要素となる。他方、早く学校を離れる層では、閉じたソーシャル・ネットワークの中で求職活動と短期就労を繰り返す傾向があった。こうした層では、早い段階で学校からの離脱ではないもう一つの選択ができる準拠枠を提示することが必要である。

社会という次元での移行阻害要因としては、ソーシャル・ネットワークの視点から、①それが小さい仲間集団で閉じて、発展性を失っている状態、また、②縮小していき孤立化していく状態にあることが挙げられる。こうした状態におちいるのは、これまで我が国では職場に(正社員として)所属することが、安定し、また発展していくソーシャル･ネットワークを得る重要な契機であったことと関連が強い。「就職」によって得られる新たなソーシャル・ネットワークが個人のなかで大きな役割を果し、学校時代のネットワークは弱まっていくし、また、いったん職場を離れればこのネットワークは消えていく。正社員になっていないことから、こうした職場を契機としたネットワークが得られない。また、地域社会におけるソーシャル・ネットワークは、沖縄県に残る「ユイマール」のような形で若者を地域社会の一員として取り込む役割を果してきたと考えられるが、地域社会の変化とともに多くの地域で弱体化している。こうした職場や地域のネットワークが弱い中で、学校時代からの仲間集団のネットワークのなかで小さく固まったり、また、それからも離れることで孤立化していく状況を生んでいる。

また、社会と言う次元では、ジェンターの要因もあり、女性のなかに「専業主婦」志向を理由に職業的自立への道を放棄する傾向があったりすることが挙げられる。

３．移行が困難な若者の状況のパターン化

各ディメンジョンごとに移行を阻害する要因を整理してみたが、この要因を組み合わせ、移行が困難な若者の状況についてパターン化を試みる。

表終－1 は暫定的なものであるが、現段階での移行困難な状況を大きく５つに分けてみたものである。それぞれの状況ごとにどのような各ディメンジョンの背景要因があるかを整理

した。

まず、最下段の「機会を待つ」タイプは、労働力需要が著しく落ち込んでいる地域状況が生んだ移行困難者だといえる。この調査では地方の高卒者たちに多い。フリーターを３類型(やむを得ず型、モラトリアム型、夢追い型)に分ける議論に副えば、＜やむを得ず型＞に当たるもので、景気回復がみられ地域経済の改善がすすめば、解消される可能性が高い。

このほかの類型は、先の３類型で言えば、ほとんど＜モラトリアム型＞にあたるものだろう。学校を離れる時点で、先の見通しを持たない、選択の先送りをしているというのが、＜モラトリアム型＞の特徴であるが、ここには多様な若者たちが含まれており、移行支援の対応策を考えるうえでは、さらにその実態を整理する必要がある。

「刹那を生きる」タイプは、都市の高卒者で多く見られた。表に示すように、学校を消極的な居場所とし、学業不振や遅刻・欠席の多い学校生活をしてきた。家庭背景も厳しいものをもち、欧米社会で言われてきた社会的排除層と共通の側面をもつ。こうした層では、欧米での若年失業問題と同じように、景気回復により求人が増えたとしても、就業への移行に困難を抱え続けることが考えられる。

我が国の特徴としては、高等教育卒業者で多くみられた「立ちすくむ」若者の問題が大きいのではないかと思われる。わが国の産業界の要請する職業能力と大学の専門教育の関係はこれまで、非常に緩やかなものだっただけに、大卒者のキャリアが多様化し選択の幅が広がる中で大きくなった問題だと思われる。キャリア教育の側面を強めると共に、職業能力と教育との関係を改めて捉えなおしていくことが必要になっている。

「つながりを失う」タイプは就業以前の社会関係の構築から支援を要する。支援の体系化が必要なタイプだろう。

「自信を失う」タイプは、心身ともに疲れた状態であった。時間の経過と共に、意欲も高まる傾向があり、当初は短時間の就業を望んだりしているが、徐々にフルタイムの就業への意欲も回復してくると考えられる。

４．有効な支援策を考える

以上の検討から、若者就業支援策として、次のような対策が有効ではないかと考えられる。

第１に、地域主導のワンストップ、またはネットワーク型のシステムにより、多様なニーズに合わせた幅広い就業支援サービスを体系的に提供できる体制を作ることである。

安定的な雇用を得て、継続的に就業することは、若者が大人になり社会の一人前の社会の構成員になる過程の一つである。大人になるための他の課題（親の家計からの独立や自分の家庭をもつこと、納税や社会保険への加入、社会参加、政治参加など）と密接に絡んでいる。特に移行が困難な若者の場合は、学校を中途退学していたり、引きこもりの経験をもっていたり、所属集団がないことから孤立し不安を抱えている場合もある。「つながりを失った」タイプでは、就業の前段階で学校への復学や社会参加をサポートすることからはじめることが

必要な場合もある。時には、医療機関との連携が必要なこともあろう。

これらの問題から就業の問題だけを取り出して対応することは有効ではないし、また、サービスを利用する側にとってみればひとつながりの問題である。社会知識も経験も少ない若者にとって、サービス機関を使い分けることは難しく、また、わかりにくい。利用する側のニーズに立てば、ひとつの組織で広く対応できるか、あるいは、連携して問題解決にあたる対応が必要である。

これは同時に、幅広い対象へのサービスの提供ということでもある。すなわち、特に就業への移行が困難な者に対象を絞ると、対象者にとってはスティグマに感じられるかもしれない。多様な層に多様なサービスを一つながりで提供することの効果はこの面でも期待できる。

また、労働と教育、家庭、社会にかかわる問題を解くには、その連携をとりやすい地域行政が主導的役割を果たすことが望ましい。

そこで若者に対して提供するサービスとしては、就職斡旋や教育訓練機会への接続、さらに、キャリア形成をサポートするガイダンス・カウンセリング、情報提供や就業体験等の機会の提供が考えられるが、このほか、ソーシャル・ネットワークを拡大する契機を提供するために、職業・労働の範囲を超えた文化活動などの経験と交流の機会を提供するプログラムや、雇用機会の限定された地域では、雇用に代わるオールタナティブとしての社会参加のプログラムも考えられる。その際には、若者のイニシアティブを重視する施策が有効だろう。

第２に、学校教育の充実と同時に学校以外の社会化装置による補完的支援の提供である。

本調査から、初期の学校への適応の失敗（不登校、逸脱、中途退学）が、あとあとまで個人のキャリア展開の障壁となっていることが明らかになった。また、学校の社会化機能は低下し、他方、早く学校から離脱する層では、家庭環境の面でも、親自体も不安定就労で、お金さえ入れれば子供の就労形態や仕事内容に関心はなく、子供への態度は無関心と放任という、子どもに職業への準備をさせる条件を備えていないことも少なくなかった。こうした「刹那を生きる」タイプの家庭環境は欧米諸国で指摘されている最も社会的排除に陥りやすい典型と一致するところがある。その家庭の機能を補完し、同時に、低下した学校の機能をどう回復するかは、難しく、また、大きな課題である。

学校の機能の強化は、現在進められている日本版デュアルシステムのような産業界との連携の下で、職業訓練の要素を強めることで図られる部分があると考えられる。学校的価値になじまない生徒もアルバイトに熱心なのは、お金がほしいという動機だけでなく、産業界の教育力の賜物という面もあろう。学校教育に産業社会の教育力を取り入れる様々な工夫が期待される。

また、学校以外の組織が、学校生活への適応をサポートしたり、ソーシャル・ネットワークを広げる機会を提供して、逸脱を引き止め、職業準備をすすめる援助したりすることは、有効だろう。その際、アウトリーチ的なアプローチを取り入れることが有効性を増すための課題となるだろう。

第３には、高等教育におけるキャリア教育と職業的な専門教育の展開である。高等教育での中途退学や低調な就職活動の結果の無業・フリーターになる若者は多い。この背景に、中等教育段階でのキャリア教育が不十分であることもあるが、高等教育機関自体としての問題もあろう。「立ちすくむ」タイプの高等教育卒業者への対応のためには、高等教育と職業の関係のあり方(レリバンス)を改めて検討する必要があるし、キャリア形成支援(インターンシップなどのキャリア教育のほか、転科・転部・転学等のキャリア形成のための進路変更の支援を含む)のための体制を整備することも重要だろう。

最後に、本報告書は、調査としてもいまだ中途段階での取りまとめであり、対象サンプルの構成についても偏りがあることは否めない。今後、地方部を中心にサンプル増やして考察を深める必要があろう。また、日本の本格的な若年者就業支援策が動き出す前夜での調査であるため、今後の施策展開をフォローしつつ、若者の実態と実施段階に移された施策との対応を考えていく必要があるのではないかと思われる。

引用・参考文献

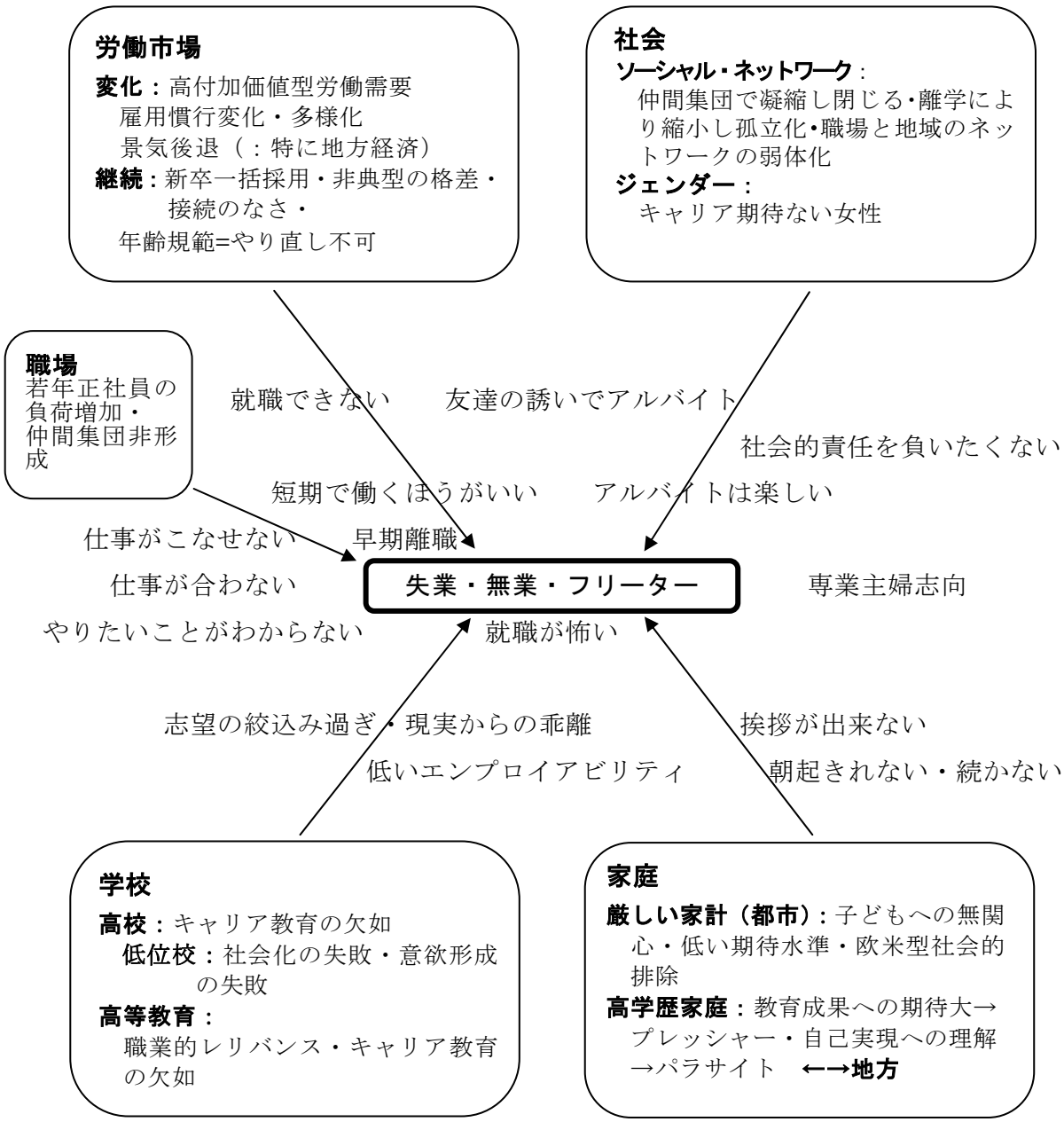
小杉礼子・堀有喜衣(2003)『学校から職業への移行を支援する諸機関へのヒアリング調査結果－日本におけるＮＥＥＴ問題の所在と対応－』JIL ディスカッションペーパー

日本労働研究機構編(2000)『フリーターの意識と実態―97 人へのヒアリング調査結果より』調査研究報告書 No.136 日本労働研究機構

―(2003)『諸外国の若者就業支援政策の展開―イギリスとスウェーデンを中心に』資料シリーズ No.131 日本労働研究機構

労働政策研究・研修機構(2004)『諸外国の若者就業支援政策の展開―ドイツとアメリカを中心に』労働政策研究報告書 No.1 労働政策研究・研修機構

図終－１　若者就業問題の構造



表終－１　移行が困難な若者たち状況のパターン化(暫定)

困難状況のキーワード	労働市場	学校	家庭	社会等
刹那を生きる	高校への求人が少ない／友達の誘いでアルバイト･アルバイトはお金のため／労働力需要に対して低いエンプロイアビリティ	学校は消極的な居場所／高校中退／遅刻欠席･学業不振／学校の就職斡旋に乗れない	厳しい家計状況／親の子どもへの関心が低い／朝起きれない、基本的生活習慣の未確立	地域の友達との関係が密だが閉じている。他の地域にはでていかない／やりたいことは特にない／友達もみな同じような進路／遊ぶ金のためにアルバイト
つながりを失う	学卒就職のプロセスに乗れない／正社員就業の経験がなく履歴書が書きにくい／就労への希望はあるが、社会的関係の構築に課題	友人関係など、人間関係の形成に失敗／学校の就職斡旋に乗れない	親の転勤が多い家庭であったケースも	学校契機の友人関係は殆どない／就職後に何らかのトラブルで離職して、そのまま社会との関係が縮小してしまうケースも／人と話さない生活がさらに対人能力を低下させ就職できない悪循環も
立ちすくむ	大卒時点で就職活動はするものの、キャリアの方向付けができず限定的な活動／志望の絞り込みすぎ	キャリア志向なく高等教育に進学／専門教育の職業的レリバンスなし／大学の就職支援活用も限定的	大学が当然という家計／親は教育達成に関心**が強**い／自己実現志向にも理解を持つことが多い	皆がするから就職活動というのでなく、自分の課題として取り組んだ。／親には申し訳ないという気持ちが強い
自信を失う	就職するが要求される水準の仕事がこなせず早期離職／迷惑をかけないために短期のアルバイト／２浪２留などで年齢が高いため就職をあきらめるケースも	専門教育の職業的レリバンスなし／大学の就職支援を活用	大学が当然という家計／親は教育達成に関心**が強**い	心身ともに疲れた状態、次の仕事はゆっくり探したい
機会を待つ	高校への求人が少ない／地域経済の衰退		就職のため親元を離れることは希望しない	地元志向が強い

参考：対象者の概要

ＩＤ	年齢(歳)	学歴	性別	地域	現状	経　　歴
1am	24	中卒	男	関西	アルバイト	中学卒業後、ガソリンスタンドの正社員になる。半年で辞めアルバイトを転々とする。卒業後バンド活動を続け21歳で音楽の専門学校に通う。現在はアルバイト。現実的に音楽は趣味でやりカフェを開きたい。30歳くらいまでに正社員になれればいい。
2am	22	中卒	男	首都圏	アルバイト	中学校のとき不登校になり中３から高校卒業の歳まで３年半フリースクールに通う。そのときからアルバイトをいろいろしており、現在に至る。自分の能力に自信がなく就職活動に踏み切れないでいる。
3bm	17	高校中退	男	関西	アルバイト	高校を1年で中退し、アルバイト。現在のアルバイトは正社員になると拘束時間が長くなるのでアルバイトでいることを希望している。
4bf	20	高校中退	女	関西	パート	友達との喧嘩が原因で高校を中退し、現在は小学校低学年の面倒を見るパートをしている。シングルマザー。正規職員になりたいと考えている。
5bm	20	定時制高中退	男	首都圏	ＮＰＯ非常勤	高校を中退し音楽をやるために上京。現在は音楽活動を辞めＮＰＯ活動に参加。人間関係が広く出会った人に仕事を紹介してもらう。将来的に大学へ行くことも考え大検は受験。就職活動はしたことがない。
6bf	20	定時制高中退	女	関西	無業	定時制高校を中退。高校在学中から短期のアルバイトを転々とする。働いてよかったという経験がない。現在はバイトを探しつつ、頻繁に遊んでいる。
7cm	24	中退後定時制高卒	男	首都圏	アルバイト	中学までは勉強に打ち込んだが私立高校受験ごろから息切れし定時制高校へ編入。卒業後アルバイト。在日朝鮮人というマイノリティーとしての感覚を仕事に活かしたいと考えている。
8dm	24	大学中退	男	首都圏	無業	授業についていけず大学を2年半で中退し、編集の専門学校へ。現在は時々日払いのアルバイトをしている。編集の仕事に就職を希望。
9dm	22	短大中退	男	首都圏	無業	自衛隊に入隊するため短大を中退するがすぐに辞め、アルバイトを転々とする。その傍ら俳優をめざし事務所にも所属している。現在は華道家をめざしているが他の職の訓練もしようと考えている。
10df	28	大学中退	女	首都圏	無業	大学に足が遠のき1年の前期で中退。その後アルバイトをしつつ劇団や英語教室にも参加。現在は趣味やボランティア活動をしている。
11dm	32	大学中退	男	首都圏	アルバイト	大学生のときに家にこもるようになり2回留年して大学を中退。その後アルバイトを転々とするが人付き合いが苦手なため長くは続かない。現在、放送大学に在籍し、引きこもりの自助会にも1年程度参加している。
12df	20	専門中退	女	関西	無業	看護の専門学校中退後、現在は短大の通信課程の保育の結果待ち。専門学校のときからアルバイトをしている。
13dm	28	大学中退	男	首都圏	アルバイト	専門学校、短大を経て大学を病気で中退。アルバイトを転々をし、その後就職支援のセンターへも出向いている。現在はアルバイトをしつつ体の調子を整えている。将来的に正社員になることを希望。
14cm	19	高卒	男	東北	無業	卒業後5月に父親の紹介で就職するが12月に辞める。現在は午前に職安へ行き午後は遊ぶ生活を送る。月に1度程度のアルバイトをしている。就きたい職業はないが正社員になることを希望。一人暮らしをしたいと考えている。
15cf	18	高卒	女	関西	アルバイト	高卒後、車を買うためにアルバイトを３つ掛け持ったこともある。現在は一人暮らしと美容師の専門学校に行くための費用をアルバイトをして稼いでいる。

16cf	24	高卒	女	首都圏	アルバイト	高卒後、アルバイトを5年間転々とする。2年前から正社員になることを希望しているが、やりたいことが分からず就職活動は雑誌やインターネットで調べる程度。現在は事務のアルバイトで居心地がよい。
17cm	19	定時制高卒	男	関西	アルバイト	定時制高校を卒業後アルバイト。正社員は退職まで働き続けるというイメージがあり、やりたいことがなければあまり考えられない。
18cf	20	高卒	女	関西	アルバイト	高校には希望していた服の販売の求人がないと聞き学校から就職する気は全くなかった。卒業後２年ほどで結婚し専業主婦になると考え、卒業後はアルバイトを転々とする。
19cf	18	高卒	女	東北	アルバイト	高校時代は就職活動はせず、コンビニでアルバイトをしていたがシフトを減らされたので辞めようと考えている。現在は免許をとりに行っている。販売の仕事をしたい。将来は専業主婦を希望。
20cf	18	高卒	女	関西	アルバイト	高卒後、大学進学を希望し自分でお金をためるために、学校の支援制度を利用して高校でアルバイトをしている。
21cm	31	高卒	男	首都圏	無業	高卒後アルバイトを転々とする。途中、病気やけがを経て、現在は就職支援のためのセミナーを受講している。
22cf	19	高卒	女	関西	無業	高卒後専門学校の試験に落ち予備校にも通うが、アルバイトが忙しくなり予備校を辞める。現在は怪我のため無職。祭りが好きなので祭り関係の仕事にも就きたい。
23cm	21	高卒	男	関西	アルバイト	高卒後、学校の支援制度を利用して高校でアルバイトをしながら１年間公務員試験をめざす。その後、販売・接客のアルバイトに就く。アパレル系の販売の仕事で正社員になることを希望し就職活動中。
24cf	19	高卒	女	東北	無業	現在はハローワークでアルバイトを含め仕事を探している。20歳くらいまでに正社員で医療事務に就くことを希望。
25cf	18	高卒	女	東北	アルバイト	高卒後ハローワークへも行ったが広告で見つけたホテルの宴会サービスでアルバイトをしている。正社員で事務かサービス業に就くことを希望。家を出て一人暮らしをしてみたいとも考えている。
26cf	20	高卒	女	東北	アルバイト	高卒後にインターンシップを経験し、そこで紹介してもらった店で現在はアルバイトで事務をしている。将来は事務系の仕事で安定したいと考えている。
27cf	18	高卒	女	東北	無業	高校時代飲食関係の正社員の仕事を希望するが決まらず。卒業後パン屋でアルバイトするが体調の悪化で６月には辞める。現在は求人誌を見てアルバイトを探している。
28cf	19	高卒	女	関西	無業	専門学校進学を希望するが親に反対され、高校卒業後は高校生時代からの接客と賄い作りのアルバイトを継続。現在は親の看病のため仕事をしていない。将来は接客か料理関係の仕事を希望。
29ef	24	短大卒	女	関西	アルバイト	短大卒業後、就職先が決まっておらず半年間は何もせず。その後アルバイト。正社員になるのはもはや無理だと感じている。本当は何がやりたいかのかよく分からない。
30ef	24	専門卒	女	首都圏	アルバイト	専門学校在学中は卒業制作と怪我のためほとんど就職活動ができず、卒業後はアルバイト。2年後親の病気の看病で1年間仕事を辞める。現在はアルバイト。映像・音響関係の職を希望し就職活動中。

31ef	24	短大卒	女	首都圏	無業	短大在学中就職活動を少しするが決まらず事務職のアルバイトを続ける。現在は求職中で就職支援のセンターなどに出向いている。保険などがあれば正社員でなくても構わないと考えている。
32em	28	大卒	男	首都圏	アルバイト	大学を６年で卒業後、いったん地方の実家に戻り社労士の資格をとる。現在は首都圏に戻りアルバイトをしながら就職活動をしている。職業能力開発総合大学校かロースクールに入ろうと考えている。
33em	27	大卒	男	首都圏	アルバイト	大学在学中は就職が決まらず、卒業後公務員試験をめざす。1年後に就職するが4ヶ月で辞職。現在は公務員を目指しつつ、小売業でアルバイトをし、そこで正社員になることも考えている。
34ef	24	大卒	女	首都圏	アルバイト	出版社をめざし就職活動をするが決まらず、大卒後アルバイトをしている。現在は簿記1級の試験の結果を待ち。しかし本当にやりたい仕事は何かということを悩んでいる。
35em	25	大卒	男	首都圏	アルバイト	大卒後1年間海外にワーキング研修に行く。現在はアルバイトをし、じっくり考えてやりがいのある仕事に就職したいと考えている。
36em	25	大卒	男	首都圏	無業	在学中就職活動を少しするが、すぐに就職する気になれず卒業後もアルバイトを続ける。現在はハローワークに通いコンピュータ関係の職をめざし就職活動を始めている。
37cm	19	高卒	男	関西	アルバイト	高校の案内で就職が決まるが入社式の日程を知らずに行かず、そのまま辞職。高卒後はアルバイトをし、正社員になるつもりはない。バンドで生活できるようになりたいと考えている。
38cf	18	高卒	女	関西	無業	高校在学中は就職が決まらず、卒業後にハローワークで見つけた職の正社員となるが体調を崩し４日で辞める。現在はチラシなどを見て職を探している。正社員なることにこだわっていない。
39cf	19	高卒	女	関西	無業	高卒後、学校の紹介で事務の正社員となるが事務仕事が好きでなかったので辞める。現在は仕事を探しているが、正社員になりたいという希望はない。
40cm	19	高卒	男	関西	アルバイト	高卒後学校の紹介の料理屋に就職するが2ヶ月で辞める。現在は調理関係のアルバイト。まだ遊びたいので就職をためらっている。調理師免許をとるつもりでいる。
41cm	22	高卒	男	関西	アルバイト	高卒後学校の紹介で調理師見習いになるが一生の仕事かどうかを悩み１年半で辞める。その後はアルバイトを転々とする。現在はアルバイト。
42cm	24	高卒	男	首都圏	無業	高卒後、土木の見習いとなるが5ヶ月で辞める。その後はアルバイトをしている。現在は何をやろうか悩みつつ仕事を探している。
43cm	20	高卒	男	東北	無業	高卒後学校の紹介で運送業に正社員として就職するが、きつかったので１月に退職。その後はたまにハローワークへ行くが貯金もあり本気で探してはいない。１年以内に再就職を考えている。
44ef	27	大卒	女	首都圏	アルバイト	大学生のときに海外でボランティアを経験する。その影響で卒業後カウンセラーの勉強をし、初級の資格を取る。同時に卒業後はアルバイトを続け、現在就職活動中。

45cm	24	高卒	男	関西	アルバイト	建築関係の専門学校に進学を希望するが経済的理由により諦め、高卒後正社員となるが大卒との給料の差に納得がいかず３年で辞める。現在はアルバイト。正社員をめざし就職活動中。
46cf	19	高卒	女	関西	アルバイト	高卒後、学校の紹介で美容院に就職し、同時に美容の職業訓練校に行く。１年後に美容院を辞め、現在は訓練校に通いつつアルバイトをしている。
47em	26	大卒	男	首都圏	無業	卒業後アパレルに就職するが1年半で辞職。半年後から時々アルバイトをしながら大学の就職課も利用しハローワークへも通って就職活動をしている。正社員をめざしている。
48em	24	大卒	男	首都圏	職業訓練	大学卒業後いったん就職するが仕事が合わず９月に辞める。現在は造園のアルバイトをしている。造園での就職を考えているが需要がないのでほかの職も考えつつある。
49em	26	大卒	男	首都圏	無業	大学卒業後、レンタル会社に就職しするが、「アルバイトを使えない」など評価されずに、２年８ヶ月で辞める。現在は、福祉施設で週１回ボランティア。やりがいのある仕事をゆっくり探したい。
50em	25	専門卒	男	首都圏	無業	専門学校を卒業後、就職するが5ヶ月で辞める。その後、ホームヘルパーの資格をとるが、親の看病に徹し、現在も家事従事。来年度から幼稚園教諭の資格をとる学校へ行くことになっている。
51em	22	専門卒	男	関西	アルバイト	専門学校卒業後就職するがバンドを本格的にやりたいという理由で３ヶ月で辞める。現在はアルバイトだが健康保険、厚生年金、雇用保険がある。しかしバンドで成功することを希望し優先している。

労働政策研究報告書　No. 6
移行の危機にある若者の実像
－無業・フリーターの若者へのインタビュー調査（中間報告）－
発行年月日　２００４年５月３１日
発　　行　独立行政法人　労働政策研究・研修機構
URL　http://www.jil.go.jp/
編　　集　研究調整部　研究調整課　　TEL　03-5991-5104
印刷・製本　有限会社　太平印刷

＊労働政策研究報告書全文はホームページで提供しております。
刊行される報告書（有料）を希望する方は書店又は下記にご連絡下さい。

連絡先：独立行政法人　労働政策研究・研修機構　広報部成果普及課
〒177-8502　東京都練馬区上石神井 4丁目 8番23号
TEL　03-5903-6263　　FAX　03-5903-6115